

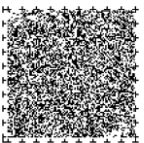
同和問題（部落差別）に関する 県民意識調査

報 告 書

令和5年3月

和歌山県



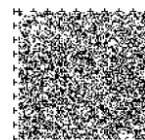


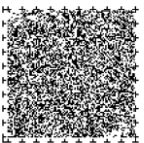
目 次

I 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査概要	1
3. 報告書の見方	1
II 調査結果の概要	3
1. 回答者の属性	3
2. 伝統や慣習、人権侵害に関わる事柄に対する考え	3
3. 法律や条例の認知状況	4
4. 同和問題の認知状況	4
5. 部落差別の現状に対する認識	4
6. 部落差別に関する相談窓口の認知状況	4
7. 「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ	4
8. 同和地区に住むこと	5
9. 同和地区の人との結婚について	5
10. 同和問題に関する意見や考え方	5
11. 同和問題（部落差別）に関する発言について	6
12. インターネット上の同和問題（部落差別）について	6
13. 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発について	6
14. 同和問題（部落差別）に関する教育について	7
15. 同和問題（部落差別）に関する講演会や研修会等について	7
III 調査結果の詳細	9
III-1 単純集計及び基本属性別クロス分析結果	9
1. 回答者の属性	9
（1）性別	9
（2）年齢	10
（3）職業	11
（4）居住地域	13
（5）インターネットの利用頻度	13
（6）情報の入手方法	16
2. 伝統や慣習、人権侵害に関わる事柄に対する考え	18
3. 法律や条例の認知状況	36
4. 同和問題の認知状況	45
（1）同和問題の認知度	45
（2）同和問題についての情報の入手先	48

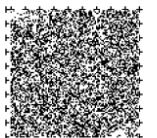
5. 部落差別の現状に対する認識	54
6. 部落差別に関する相談窓口の認知状況	57
7. 「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ	62
8. 同和地区に住むこと	69
(1) 同和地区にある物件に対する忌避意識	69
(2) 同和地区を避ける理由	72
9. 同和地区の人との結婚について	76
(1) 同和地区の人との結婚に家族から反対されている親類に相談を受けた場合の態度	76
(2) 相談に対して結婚に消極的な態度をとる理由	79
10. 同和問題に関する意見や考え方	83
11. 同和問題（部落差別）に関する発言について	108
(1) この5年間で直接聞いたことがある同和問題（部落差別）に関する発言	108
(2) 同和問題（部落差別）に関する発言で最も印象に残っているもの	113
(3) 最も印象に残っている同和問題（部落差別）に関する発言をした人	118
(4) 最も印象に残っている同和問題（部落差別）に関する発言を聞いたときに感じたこと	122
(5) 同和問題（部落差別）に関する発言に反発・疑問を感じたときの行動	125
12. インターネット上の同和問題（部落差別）について	126
(1) この5年間にインターネット上で見たことがある同和問題（部落差別）の内容	126
(2) インターネット上での同和問題（部落差別）を見たきっかけ	130
(3) インターネット上で同和問題（部落差別）を見た感想	131
13. 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発について	132
(1) この5年間に同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接した経験	132
(2) 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発に接した場面	134
(3) 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発に接したホームページ	139
(4) 県ホームページや県人権啓発センターホームページを見た感想	140
14. 同和問題（部落差別）に関する教育について	141
(1) 同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験	141
(2) 同和問題（部落差別）に関する教育の理解度	144
15. 同和問題（部落差別）に関する講演会や研修会等について	147
(1) 同和問題（部落差別）に関する講演会や研修会等を受けた経験	147
(2) 同和問題（部落差別）に関する講演会や研修会等の理解度	150
16. 自由意見	153
Ⅲ—2 質問間クロス分析結果	154
1. 「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ	154
2. 同和地区にある物件に対する忌避意識	158
3. 同和地区の人との結婚に家族から反対されている親類に相談を受けた場合の態度	162

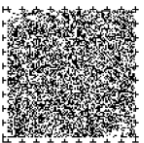
4. 同和問題に関する意見や考え方	165
5. 同和問題（部落差別）に関する発言を聞いたときに感じたこと	183
6. インターネット上で同和問題（部落差別）を見た感想	184
IV 考察と今後の課題.....	187
1. 伝統や慣習、人権侵害に関わる事柄に対する考え	187
2. 「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ.....	187
3. 同和地区に対する忌避意識	188
4. 同和地区の人との結婚について.....	188
5. 同和問題に関する意見や考え方.....	189
6. 同和問題（部落差別）に関する発言について.....	190
7. 同和問題（部落差別）に関する教育について.....	191
8. 考察結果の総括.....	191
V 資料（調査票）	195





I 調査概要





I 調査概要

1. 調査の目的

県民の同和問題（部落差別）に関する意識等の実態を把握し、これまで実施してきた施策の効果検証と今後の施策の方向性を導き出すための基礎資料とするために実施した。

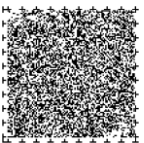
2. 調査概要

対 象	県内に在住の18歳以上の県民（令和4年4月1日現在）
調査実施時期	令和4年6月1日（水）～6月30日（木）
調査方法	郵送による調査票の配付・回収 ※WEBでの回答も可能とした。 ※調査実施期間中に、全ての調査対象者に対し、礼状を兼ねた督促の書面を送付した。
実発送数	2,911人
有効回答数	1,408件（48.4%）[うちWEB回答291件（10.0%）]

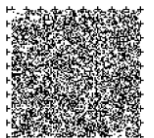
3. 報告書の見方

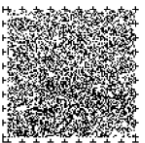
- ① 回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示し、小数点第2位を四捨五入した。（比率の合計が100.0%にならない場合がある。）
- ② 図表上の「MA%」という表記は複数回答（Multiple Answer の略）の意味である。
- ③ コンピュータ入力の都合上、図表において、回答選択肢の見出しを簡略化している場合がある。
- ④ 性別の「その他」（n=5）は母数が少ないことから、性別のクロス集計では当該カテゴリーの表示は省略している。
- ⑤ 職業別の「会社や団体の役員・管理職」（n=28）は母数が少ないことから、職業別のクロス集計では「会社員・団体職員」と「会社や団体の役員・管理職」を合算したn数を基数に百分率（%）を算出している。
- ⑥ クロス集計において、比率算出の基数となるサンプル数が少ない層は、回答結果の比率に偏りが生じている可能性があるため、結果の読み取りには注意を要す。





Ⅱ 調査結果の概要





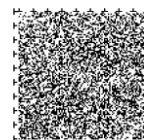
Ⅱ 調査結果の概要

1. 回答者の属性

- ・ 回答者の年齢は、「60歳～69歳」が21.6%で最も多く、次いで「70歳以上」が18.4%で、60歳以上の高年代層が40.0%を占める。一方、10～30歳代の若年層は24.3%となっている。
- ・ 回答者の職業は、「会社員・団体職員」が29.3%で最も多く、次いで「無職」が17.6%、「家事に従事」が17.5%、「自営業者（家族従業者含む）」が11.4%となっている。
- ・ インターネットを「毎日利用」する割合は、10～30歳代では9割台、40歳代では8割台を占めている。また、10～40歳代までの各年代では情報の入手方法も「インターネット上のニュースサイト等」の割合が高いが、50歳以上の各年代では「新聞、テレビ、ラジオ」の割合の方が高くなっている。

2. 伝統や慣習、人権侵害に関わる事柄に対する考え

- ・ 【家柄や家の格】『尊重すべき』（「尊重すべきだと思う」6.0%+「どちらかということと尊重すべきだと思う」10.9%）は16.9%となっている。一方、『気にしなくてよい』（「気にしなくてもよいと思う」27.2%+「どちらかということと気にしなくてよいと思う」27.9%）が55.1%で、『尊重すべき』を38.2ポイント上回っている。
- ・ 【結婚式を仏滅の日に行くこと】『やめた方がよい』（「やめた方がよいと思う」12.6%+「どちらかということとやめた方がよいと思う」22.4%）は35.0%となっている。一方、『かまわない』（「かまわないと思う」26.2%+「どちらかということとかまわないと思う」17.5%）が43.7%と、『やめた方がよい』を8.7ポイント上回っている。
- ・ 【占いや方角】『参考にするほうだ』（「参考にするほうだ」9.1%+「どちらかということと参考にするほうだ」29.1%）は38.2%となっている。一方、『気にしない』（「気にしない」23.5%+「どちらかということと気にしない」18.3%）は41.8%であり、参考にする、気にしないで意見が分かれている。
- ・ 【会社等において、性別で昇進に差がつくこと】『問題ない』（「問題ないと思う」3.3%+「どちらかということと問題ないと思う」5.2%）は8.5%となっている。一方、『問題だと思う』（「問題だと思う」45.2%+「どちらかということと問題だと思う」29.5%）は74.7%であり、『問題ない』を66.2ポイントと大きく上回っている。
- ・ 【外国人であることを理由に、アパートへの入居を断られること】『やむを得ない』（「やむを得ないと思う」3.6%+「どちらかということとやむを得ないと思う」7.3%）は10.9%となっている。一方、『問題だと思う』（「問題だと思う」35.6%+「どちらかということと問題だと思う」28.5%）は64.1%となっており、『やむを得ない』を53.2ポイントと大きく上回っている。
- ・ 【刑を終えて出所した人の就職が容易に決まらないこと】「どちらともいえない」が31.1%で最も多い。一方、『仕方がないと思う』（「仕方がないと思う」11.2%+「どちらかということと仕方がないと思う」23.6%）が34.8%となっている。これに対し、『問題だと思う』（「問題だと思う」13.4%+「どちらかということと問題だと思う」19.0%）は32.4%となっており、仕方がない、問題だと思うで意見が分かれている。



3. 法律や条例の認知状況

- ・【人権教育及び人権啓発の推進に関する法律】「法律・条例があることは知っているが、内容は知らない」は44.0%、「内容も知っている」は4.7%で、両者をあわせた認知率は48.7%となっている。
- ・【部落差別の解消の推進に関する法律】「法律・条例があることは知っているが、内容は知らない」は40.1%、「内容も知っている」は6.3%で、両者をあわせた認知率は46.4%となっている。
- ・【和歌山県人権尊重の社会づくり条例】「法律・条例があることは知っているが、内容は知らない」は34.1%、「内容も知っている」は2.7%で、両者をあわせた認知率は36.8%となっている。
- ・【和歌山県部落差別の解消の推進に関する条例】「法律・条例があることは知っているが、内容は知らない」は30.8%、「内容も知っている」は4.3%で、両者をあわせた認知率は35.1%となっている。

4. 同和問題の認知状況

- ・【同和問題の認知度】「何となく知っている」(48.2%)と「知っている」(38.0%)をあわせた認知率は86.2%となっている。一方、「知らない」は10.1%となっている。
- ・【同和問題についての情報の入手先】は、「学校の授業」(36.6%)が最も多く、次いで「家族」(19.7%)、「職場の研修」(6.4%)となっている。

5. 部落差別の現状に対する認識

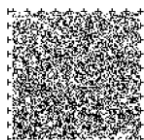
- ・「なくなりつつあると思う」が57.0%で最も多く、次いで「わからない」が19.0%となっている。一方、「以前とあまり変わらないと思う」は13.2%、「もうないと思う」は10.1%となっている。

6. 部落差別に関する相談窓口の認知状況

- ・部落差別に関する相談窓口を「知らない」が41.5%となっている。一方、何らかの窓口を知っている割合は58.3%となっている。
- ・知っている窓口で多いものは「市町村役場(支所含む)」(37.8%)で、以下、「法務局または人権擁護委員」(25.7%)、「(公財)和歌山県人権啓発センター」(24.4%)となっている。

7. 「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ

- ・【やさしいーこわい】「どちらともいえない」が57.5%で最も多い。『こわい』(「非常にこわい」7.6%と「ややこわい」24.2%の合計)は31.8%、『やさしい』(「非常にやさしい」1.9%と「やややさしい」6.0%の合計)は7.9%で、『こわい』の割合の方が高くなっている。



- ・【明るいー暗い】「どちらともいえない」が55.6%で最も多い。『暗い』（「非常に暗い」8.2%と「やや暗い」24.4%の合計）は32.6%、『明るい』（「非常に明るい」2.1%と「やや明るい」6.1%の合計）は8.2%で、『暗い』の割合の方が高くなっている。
- ・【開放的ー閉鎖的】「どちらともいえない」が49.2%で最も多い。『閉鎖的』（「非常に閉鎖的」12.8%と「やや閉鎖的」27.1%の合計）は39.9%、『開放的』（「非常に開放的」1.9%と「やや開放的」5.1%の合計）は7.0%で、『閉鎖的』の割合の方が高くなっている。

8. 同和地区に住むこと

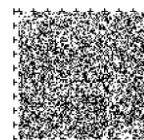
- ・【同和地区にある物件に対する忌避意識】同和地区にある物件の新居を選ぶ際、『避ける』（「避けると思う」14.4%と「どちらかといえば避けると思う」29.5%の合計）は43.9%、『避けない』（「避けないと思う」13.0%と「どちらかといえば避けないと思う」13.8%の合計）は26.8%で、『避ける』の方が17.1ポイント高くなっている。
- ・【同和地区を避ける理由】「同和地区に住むことで、自分や家族が差別されるかもしれないから」（46.5%）が最も多く、次いで「同和地区には住まない方がいいと聞いたことがあるから」（29.5%）、「同和地区の物件は価格上昇を見込めないから（転売が難しいから）」（20.3%）となっている。

9. 同和地区の人との結婚について

- ・【同和地区の人との結婚に家族から反対されている親類に相談を受けた場合の態度】「自分の意思を貫いて結婚するようと言う」（28.5%）が最も多くなっている。これに次いで結婚に積極的な態度では「反対する家族を説得するなど、力になろうと言う」（20.7%）が続いている。一方、「結婚は慎重に考えた方がいいと言う」は16.2%となっている。
- ・【相談に対して結婚に消極的な態度をとる理由】「将来、本人やその子供が差別を受けるかもしれないから」（56.9%）が最も多く、次いで「家族が反対しているなら、それに従うべきだから」（33.6%）、「自分や自分の家族が差別されるかもしれないから」（22.3%）となっている。

10. 同和問題に関する意見や考え方

- ・同和問題に関する意見や考え方について、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）の割合が高い意見等は、“差別される人の気持ちを聞くことが大事だ（と思う）”（72.6%）で、次いで“結婚に際して、相手の出身地が同和地区かどうかを調べることは、差別である（と思う）”（69.2%），“子供時代に学校で正しく教育を行うべきだ（と思う）”（63.8%）となっている。
- ・『そう思わない』（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計）の割合が高い意見等は、“差別の原因は、差別される側にもある（とは思わない）”（46.8%）で、次いで“自然となくなるから、教育や啓発はしない方がいい（とは思わない）”（43.2%），“差別されたくないなら同和地区外に引っ越せばよい（とは思わない）”（39.0%）となっている。



11. 同和問題（部落差別）に関する発言について

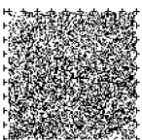
- ・【この5年間で直接聞いたことがある同和問題（部落差別）に関する発言】「聞いたことがない」が70.5%で最も多い。一方、聞いたことがある人は27.4%で、その内容は「同和地区の人は、優遇されている」（16.2%）が最も多く、次いで「同和地区は治安が悪い」（9.6%）、「住宅の購入や引越しの際は、同和地区内の物件を避けた方がいい」（7.2%）などである。
- ・【最も印象に残っている発言】「同和地区の人は、優遇されている」（46.8%）で最も多く、次いで「同和地区は治安が悪い」（16.5%）、「住宅の購入や引越しの際は、同和地区内の物件を避けた方がいい」（13.8%）である。
- ・【同和問題（部落差別）に関する発言をした人】「友人」（20.3%）が最も多く、「覚えていない」（19.1%）を除けば、これに次いで「家族」（17.5%）、「職場の人」（16.3%）が続いている。
- ・【発言を聞いたときに感じたこと】「そういう考え方もあるのかと思った」（46.2%）が最も多く、これに次いで「そのとおりと思った」（22.8%）となっている。一方、「反発・疑問を感じた」は16.3%である。
- ・【発言に反発・疑問を感じたときの行動】「特に何もしなかった」（62.3%）で最も多くなっている。何らかの行動を起こした人は35.8%で、その内容は「相手にその気持ちを伝えた」（24.5%）、「友人・知人に相談した」（9.4%）などである。

12. インターネット上の同和問題（部落差別）について

- ・【この5年間にインターネット上で見たことがある同和問題（部落差別）の書き込み】「見たことがない」（88.6%）が最も多くなっている。一方、見たことがある人は8.1%で、その内容は「同和地区を撮影した動画や写真」（4.2%）が最も多く、次いで「同和地区の地名や所在地の書き込み」（3.4%）となっている。
- ・【インターネット上の同和問題（部落差別）についての書き込みを見たきっかけ】「同和問題（部落差別）と関係のないSNS等の閲覧で、辿り着いた」（54.1%）が最も多い。これに次いで「同和地区がどこにあるのか、調べていた」（14.3%）、「同和問題（部落差別）について理解を深めようと、調べていた」と「同和地区がどんなところか知りたくて、調べていた」がそれぞれ13.3%となっている。
- ・【インターネット上の同和問題（部落差別）についての書き込みを見た感想】「人権の観点から問題があると思った（人権侵害にあたると思った）」（44.9%）が最も多く、次いで「同和問題には、関わりたくないと思った」（16.3%）、「何も思わなかった」（13.3%）となっている。

13. 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発について

- ・【同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接した経験】この5年間に同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことは、「ない」が72.2%で、「ある」は25.6%となっている。



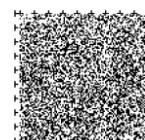
- ・【同和問題(部落差別)に関する教育や啓発の情報に接した場面】「職場の研修で」(41.5%)が最も多く、次いで「市町村の広報誌で」(33.1%)、「県の広報誌で」(31.2%)となっている。
- ・【見たことがあるホームページ、感想】見たことがあるホームページは、「(公財)和歌山県人権啓発センターホームページ」(41.2%、7人)、「和歌山県ホームページ」(35.3%、6人)で、見ての感想は「同和問題(部落問題)への関心が高まった」(40.0%、4人)や「ほしい情報が得られた」(30.0%、3人)となっている。

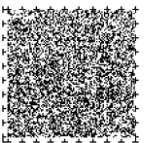
14. 同和問題(部落差別)に関する教育について

- ・【同和問題(部落差別)に関する教育を受けた経験】同和教育を「受けたことがある」が58.6%、「受けたことがない」が13.7%となっている。また、「よくおぼえていない」が25.8%となっている。
- ・【同和問題(部落差別)に関する教育の理解度】『理解できた』(「よく理解できた」23.5%と「少し理解できた」55.3%の合計)は78.8%となっている。一方、『理解できなかった』(「理解できなかった」2.3%と「あまり理解できなかった」17.4%の合計)は19.7%となっている。

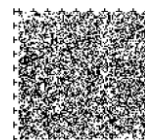
15. 同和問題(部落差別)に関する講演会や研修会等について

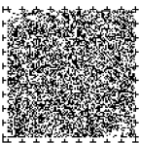
- ・【同和問題(部落差別)に関する講演会や研修会等を受けた経験】「講演会や研修会に参加したことがある」が19.6%、「職場で研修を受けたことがある」が19.1%となっている。一方、「どちらもない(参加・受講した経験がない)」が63.0%を占めている。
- ・【同和問題(部落差別)に関する講演会や研修会等の理解度】『理解できた』(「よく理解できた」44.4%と「少し理解できた」43.2%の合計)は87.6%となっている。一方、『理解できなかった』(「理解できなかった」1.0%と「あまり理解できなかった」9.1%の合計)は10.1%となっている。





Ⅲ 調査結果の詳細





Ⅲ 調査結果の詳細

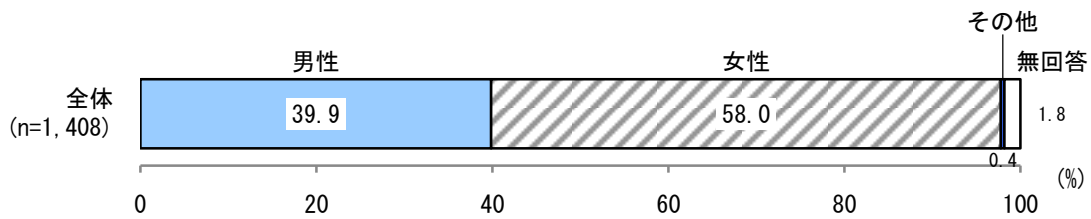
Ⅲ-1 単純集計及び基本属性別クロス分析結果

1. 回答者の属性

(1) 性別

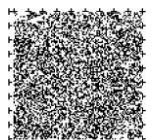
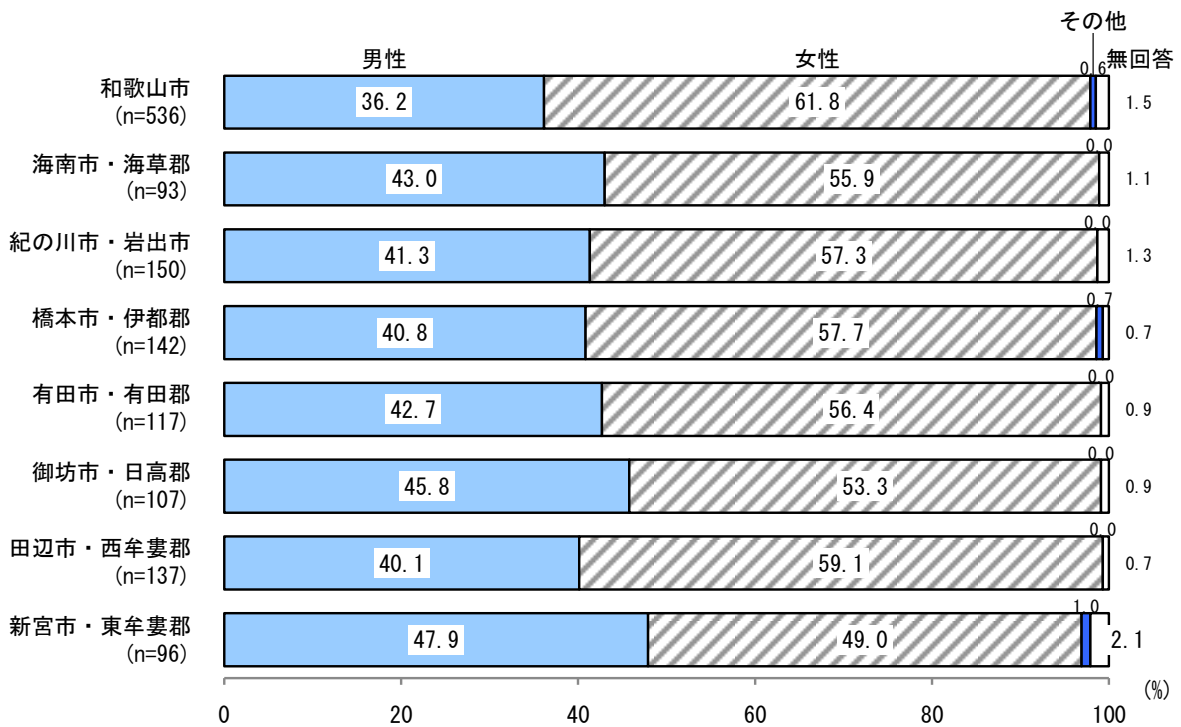
回答者の性別は、「男性」が39.9%に対し、「女性」が58.0%と、女性の方が18.1ポイント高くなっている。(図1-1)

【図1-1 性別】



居住地域別では、いずれの地域も「男性」より「女性」の割合が高くなっている。(図1-1-1)

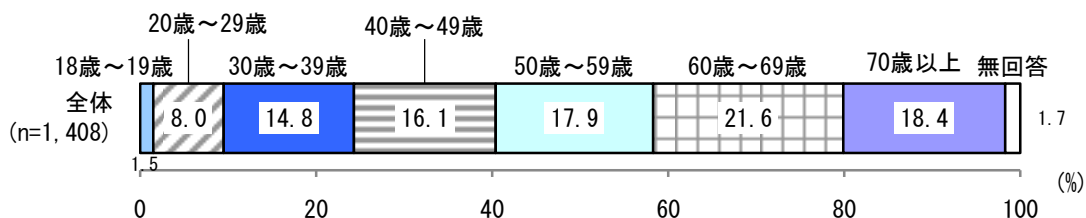
【図1-1-1 居住地域別 性別】



(2) 年齢

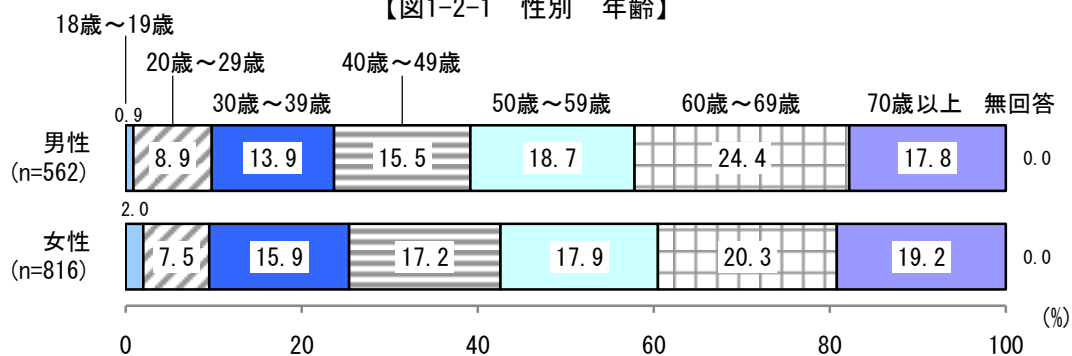
回答者の年齢は、「60歳～69歳」が21.6%で最も多く、次いで「70歳以上」が18.4%、「50歳～59歳」が17.9%となっている。60歳以上の高年代層が40.0%を占めるのに対し、10～30歳代の若年層は24.3%となっている。(図1-2)

【図1-2 年齢】



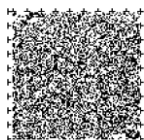
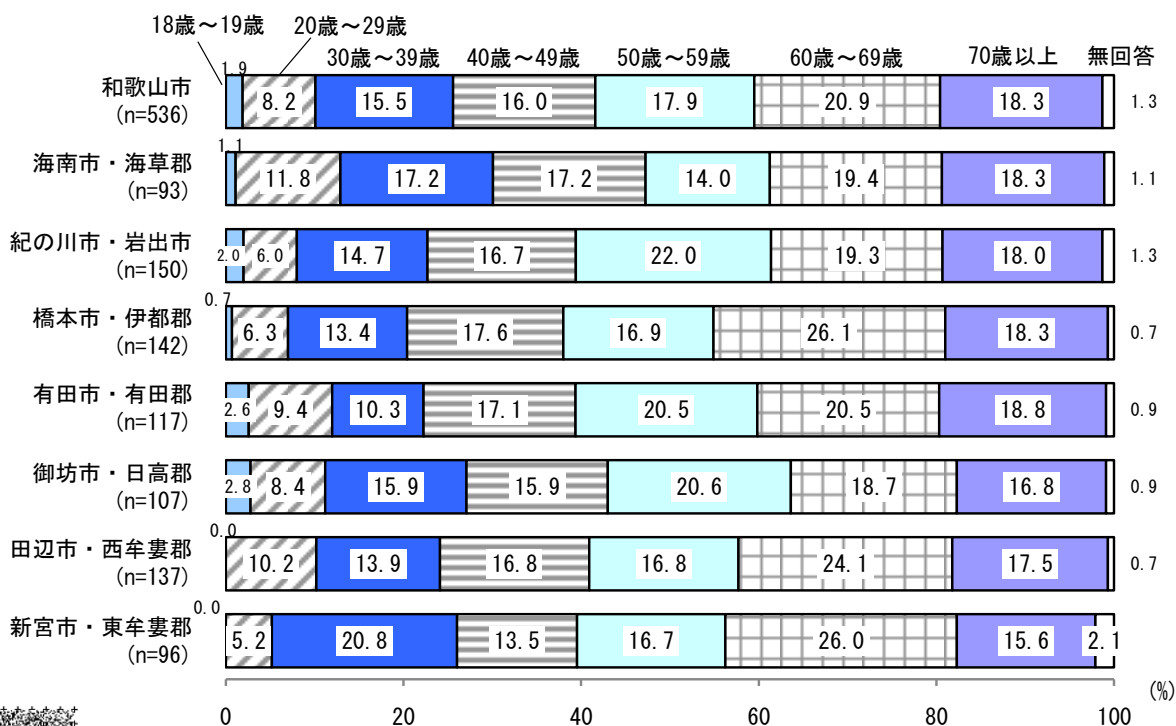
性別では、男女とも「60歳～69歳」(男性24.4%、女性20.3%)が最も多い。次いで男性は「50歳～59歳」が18.7%、女性は「70歳以上」が19.2%となっている。(図1-2-1)

【図1-2-1 性別 年齢】



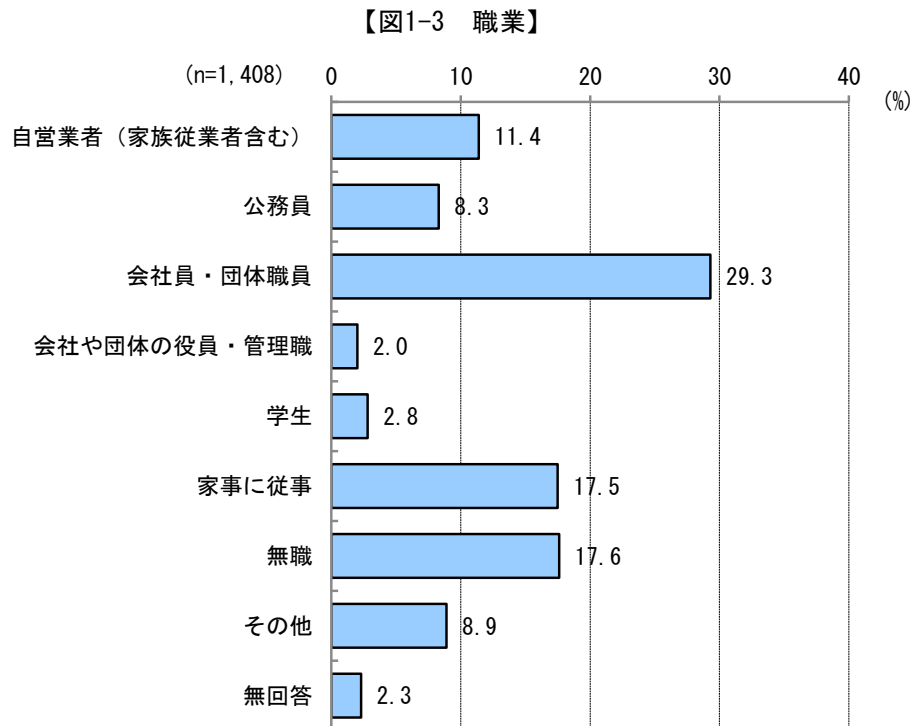
居住地域別では、いずれの地域も60歳以上の高年代が4割前後を占めている。39歳までの若年層の割合は海南市・海草郡が30.1%で最も高くなっている。(図1-2-2)

【図1-2-2 居住地域別 年齢】

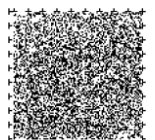
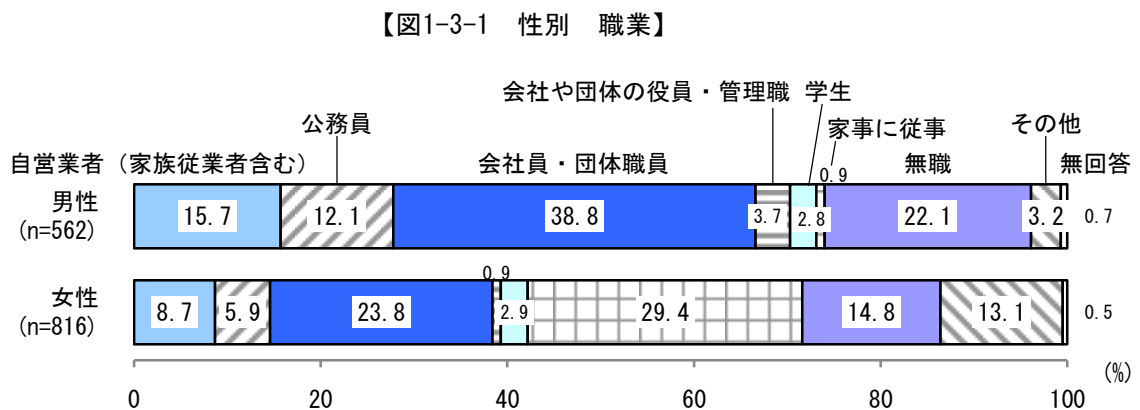


(3) 職業

回答者の職業は、「会社員・団体職員」が29.3%で最も多く、次いで「無職」が17.6%、「家事に従事」が17.5%、「自営業者（家族従業者含む）」が11.4%となっている。（図1-3）

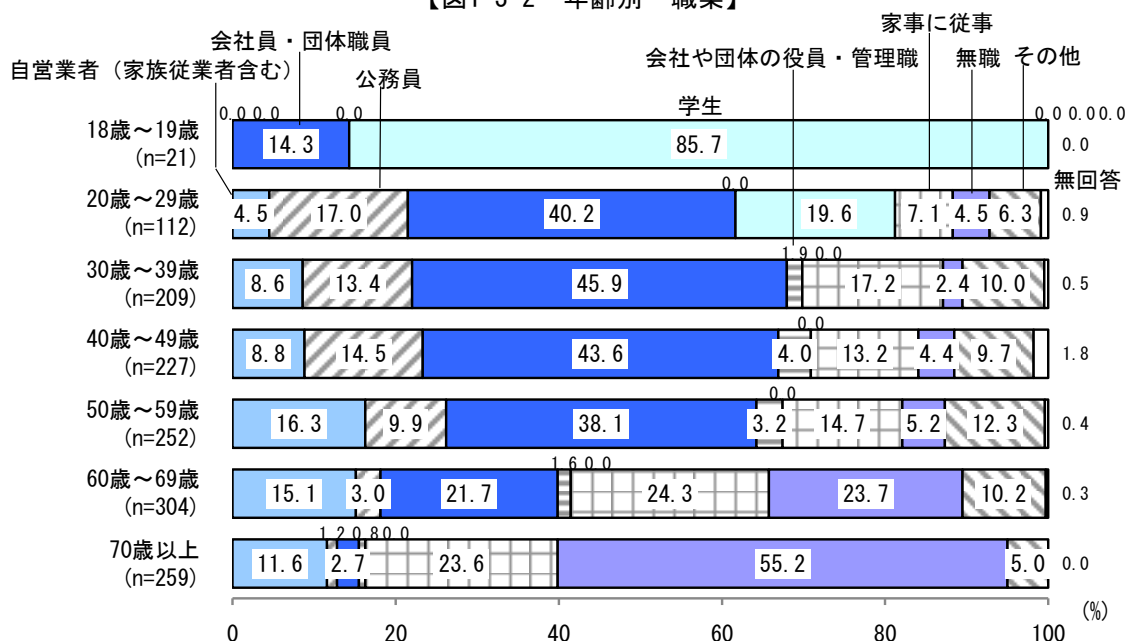


性別では、「会社員・団体職員」の割合は、女性が23.8%、男性が38.8%で、男性の方が15.0ポイント高くなっている。「家事に従事」の割合は男性が0.9%、女性が29.4%で、女性の方が28.5ポイント高い。「自営業者（家族従業者含む）」及び「無職」の各割合は男性の方が高くなっている。（図1-3-1）



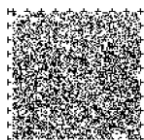
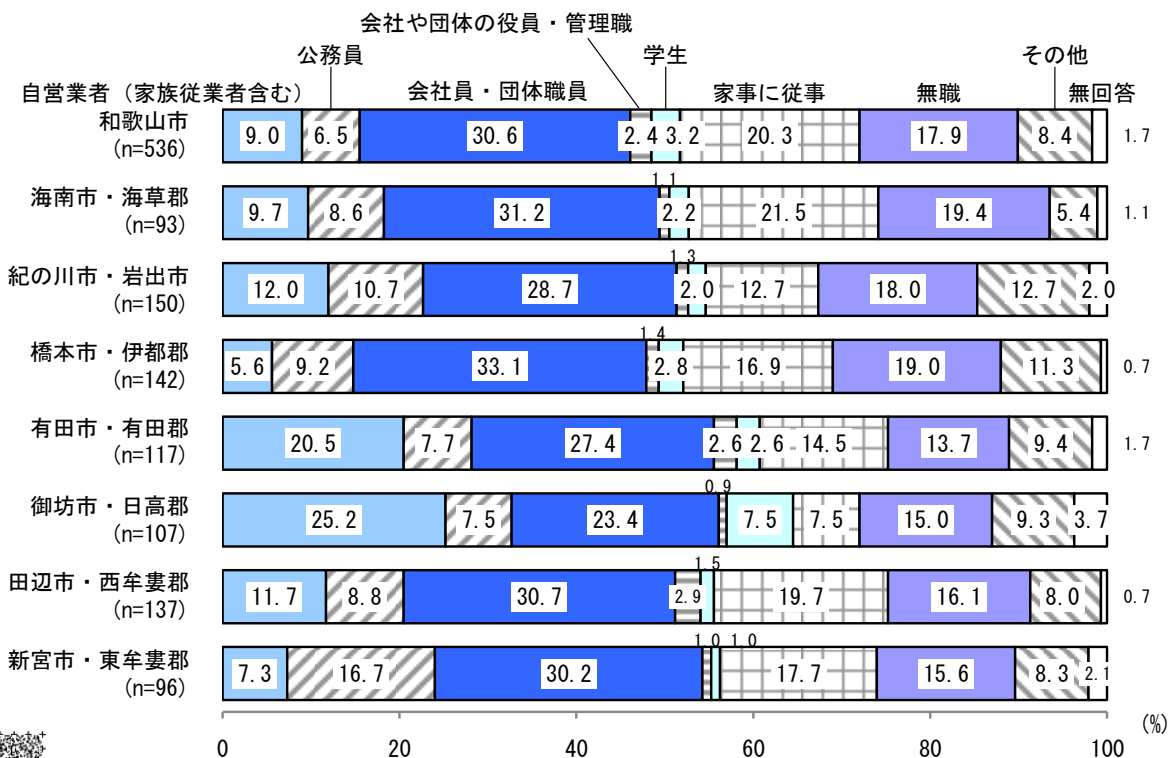
年齢別では、18歳～19歳は「学生」が85.7%が多く、20歳～59歳までの年代は「会社員・団体職員」が多い。「自営業者（家族従事者含む）」の割合は50～69歳までの年代で高く、70歳以上では「無職」が55.2%と半数を占めている。（図1-3-2）

【図1-3-2 年齢別 職業】



居住地域では、「会社員・団体職員」の割合は、橋本市・伊都郡が33.1%で最も高い。御坊市・日高郡は、他の地域に比べ「家事に従事」の割合は低く、「自営業者（家族従事者含む）」の割合が高くなっている。新宮市・東牟婁郡は「公務員」の割合が他の地域に比べ高くなっている。（図1-3-3）

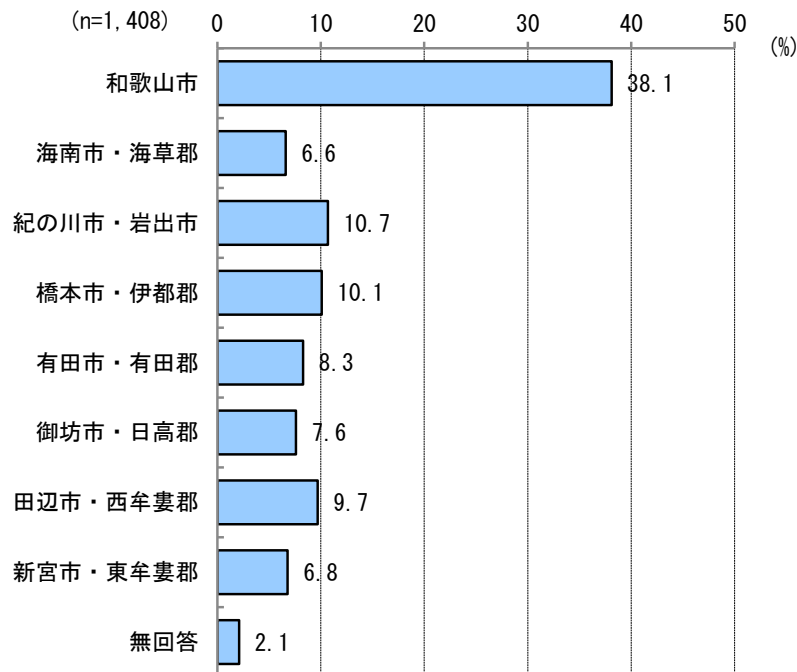
【図1-3-3 居住地域別 職業】



(4) 居住地域

回答者の居住地域は、「和歌山市」が38.1%で最も多く、次いで「紀の川市・岩出市」が10.7%、「橋本市・伊都郡」が10.1%となっている。(図1-4)

【図1-4 居住地域】



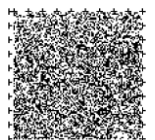
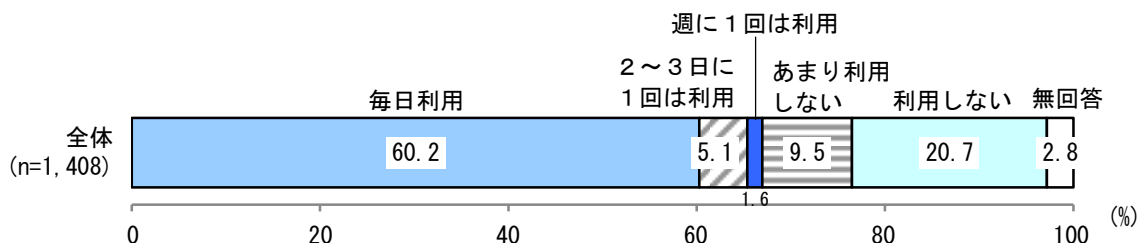
(5) インターネットの利用頻度

5 あなたのインターネット（SNSやブログ等を含む）利用頻度について教えてください。

◇全体

インターネットの利用頻度は、「毎日利用」が60.2%で最も多く、週1回以上利用する割合は66.9%となっている。一方、「利用しない」は20.7%で、「あまり利用しない」の9.5%をあわせると週1回未満の利用割合は30.2%となっている。(図1-5)

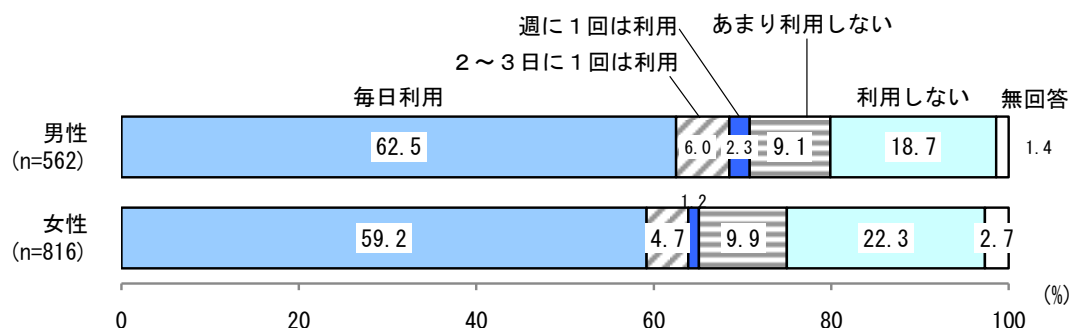
【図1-5 インターネットの利用頻度】



◇回答者の属性別

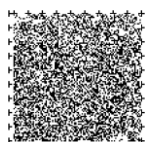
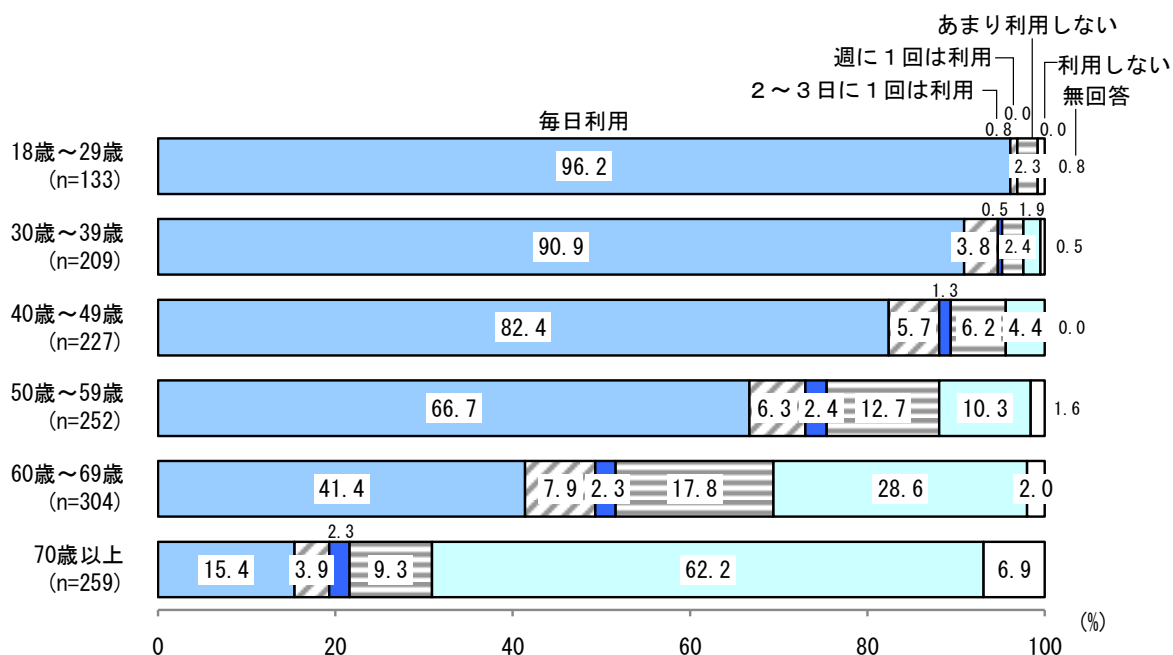
性別では、男女とも「毎日利用」が6割前後を占め最も多くなっている。一方、「利用しない」の割合は男性が18.7%、女性が22.3%となっている。(図1-5-1)

【図1-5-1 性別 インターネットの利用頻度】



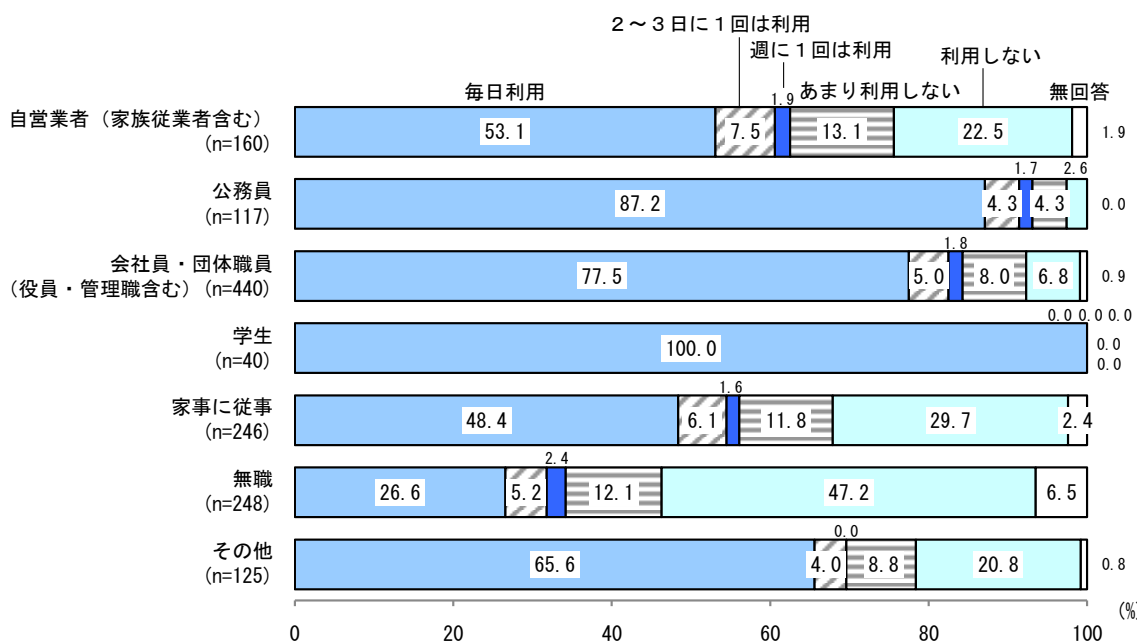
年齢別では、「毎日利用」の割合は若い年代ほど高く、39歳までの年代では9割以上を占めている。一方、「利用しない」の割合は高齢になるほど高く、70歳以上では62.2%を占めている。(図1-5-2)

【図1-5-2 年齢別 インターネットの利用頻度】



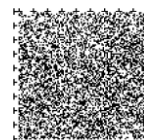
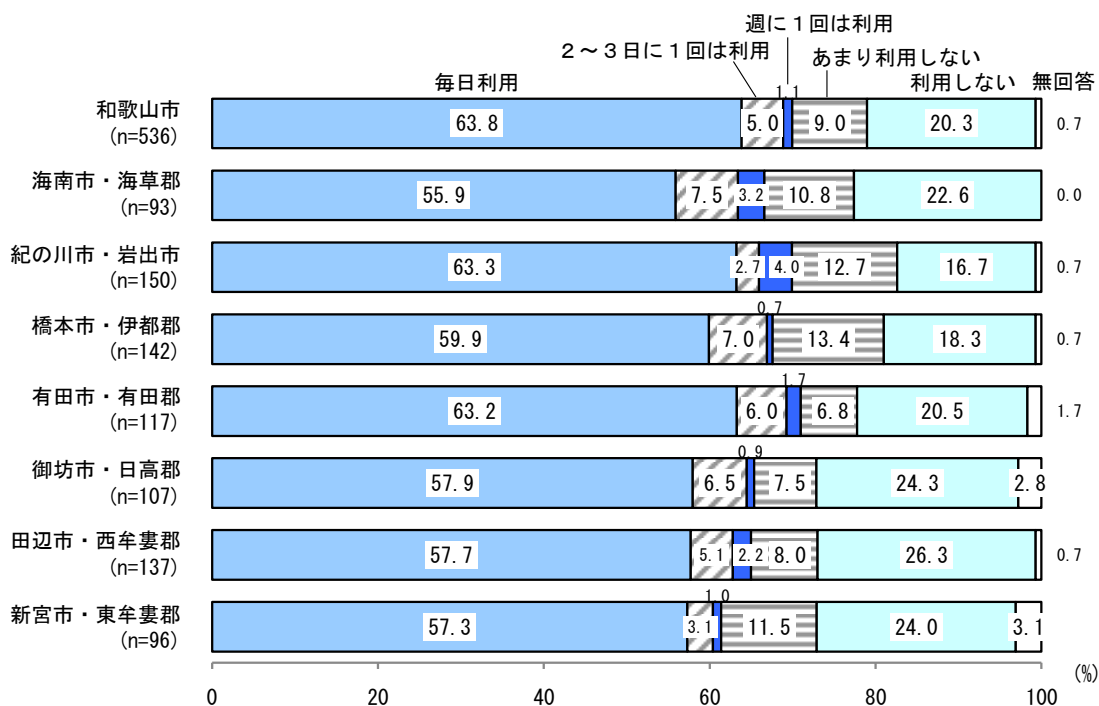
職業別では、「毎日利用」の割合は、自営業者(家族従業者含む)が53.1%、公務員が87.2%、会社員・団体職員(役員・管理職含む)が77.5%、学生が100.0%で過半数を占めている。一方、「利用しない」の割合は、無職が47.2%で最も高くなっている。(図1-5-3)

【図1-5-3 職業別 インターネットの利用頻度】



居住地域別では、いずれの地域も「毎日利用」の割合が5割を超え、和歌山市が63.8%で最も高くなっている。一方、「利用しない」の割合は、田辺市・西牟婁郡が26.3%で最も高く、次いで御坊市・日高郡の24.3%、新宮市・東牟婁郡の24.0%となっている。(図1-5-4)

【図1-5-4 居住地域別 インターネットの利用頻度】



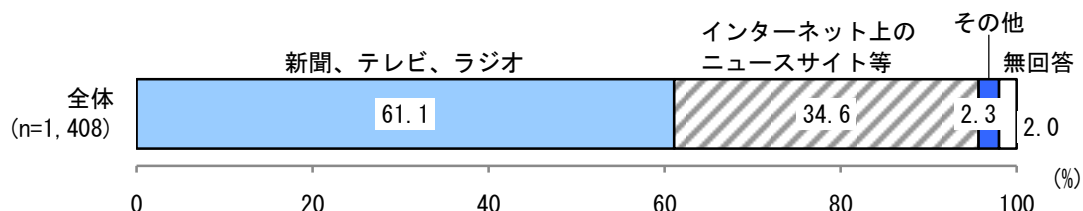
(6) 情報の入手方法

6 あなたは、日ごろ、ニュースなどの情報を何から入手することが多いですか。(〇はひとつ)

◇全体

情報の入手方法は、「新聞、テレビ、ラジオ」が61.1%で最も多く、次いで「インターネット上のニュースサイト等」が34.6%となっている。(図1-6)

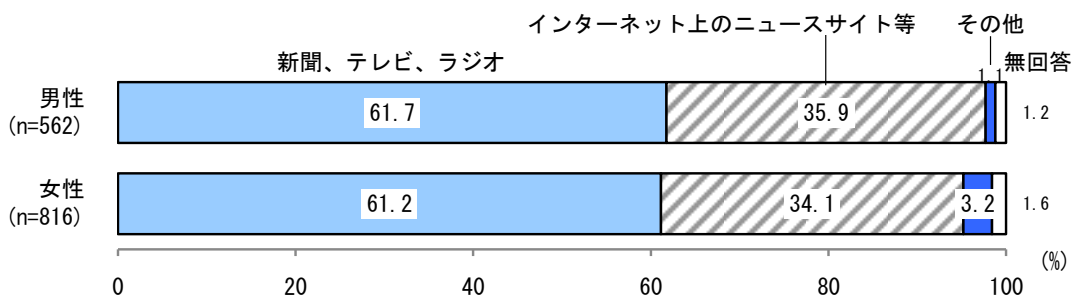
【図1-6 情報の入手方法】



◇回答者の属性別

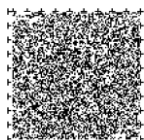
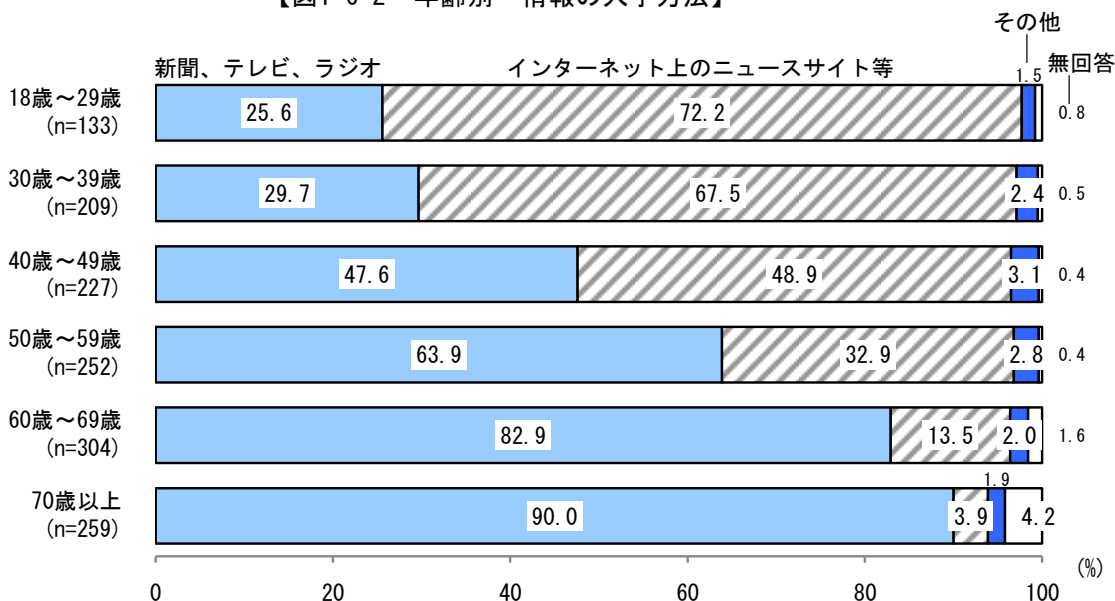
性別では、男女とも「新聞、テレビ、ラジオ」が多く、次いで「インターネット上のニュースサイト等」となっている。(図1-6-1)

【図1-6-1 性別 情報の入手方法】

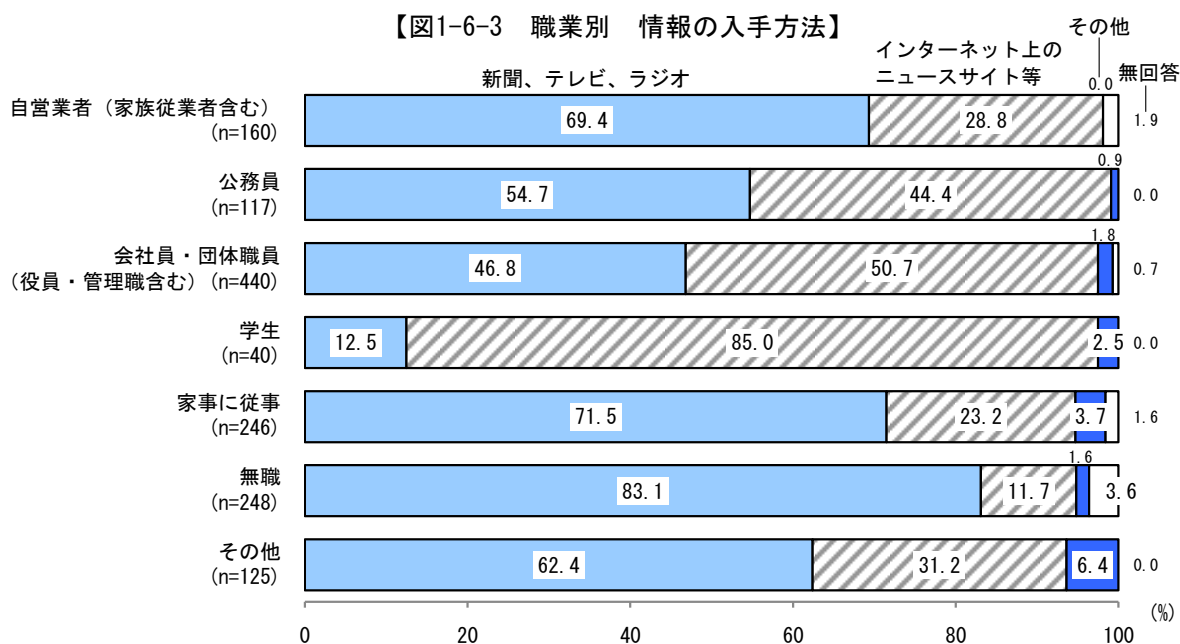


年齢別では、「新聞、テレビ、ラジオ」の割合は高齢になるほど高く、「インターネット上のニュースサイト等」の割合は若い年代ほど高くなっている。(図1-6-2)

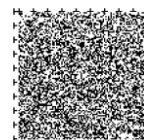
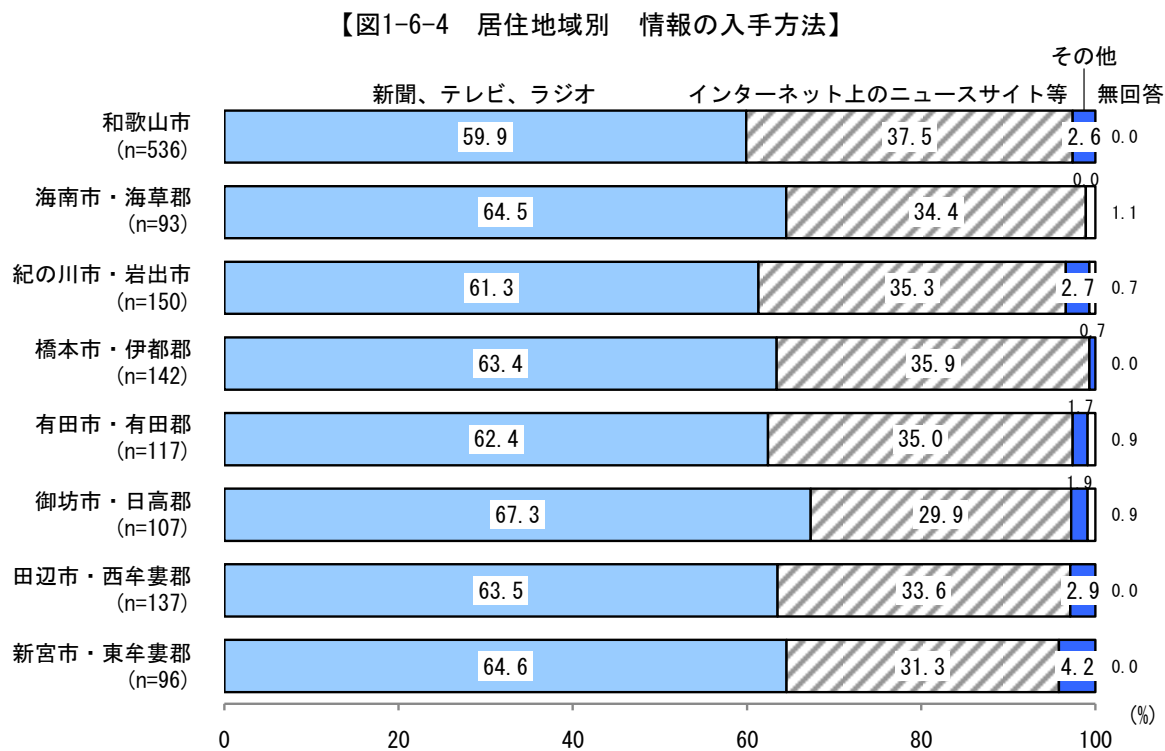
【図1-6-2 年齢別 情報の入手方法】



職業別では、「新聞、テレビ、ラジオ」の割合は無職が83.1%で最も高く、次いで家事に従事が71.5%となっている。「インターネット上のニュースサイト等」の割合は学生が85.0%で最も高く、次いで会社員・団体職員（役員・管理職含む）が50.7%となっている。（図1-6-3）



居住地域別では、いずれの地域も「新聞、テレビ、ラジオ」が多く、御坊市・日高郡が67.3%で最も高くなっている。（図1-6-4）



2. 伝統や慣習、人権侵害に関わる事柄に対する考え

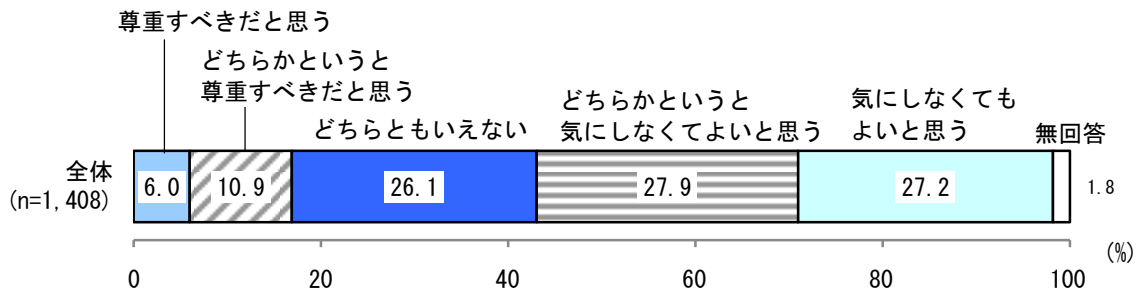
問1 次のア～カの各設問について、あなたはどのようにお考えですか。(〇はそれぞれひとつ)

ア 家柄や家の格について

◇全体

家柄や家の格について、「尊重すべきだと思う」は6.0%、「どちらかという尊重すべきだと思う」は10.9%で、両者をあわせた『尊重すべき』は16.9%となっている。「気にしなくてもよいと思う」は27.2%、「どちらかという気にしなくてよいと思う」は27.9%で、両者をあわせた『気にしなくてよい』が55.1%と、『尊重すべき』を38.2ポイント上回っている。(図2-1)

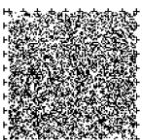
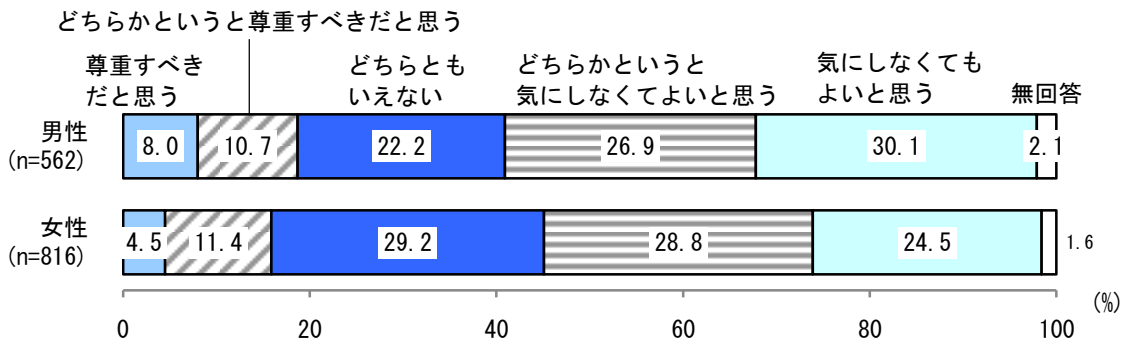
【図2-1 家柄や家の格について】



◇回答者の属性別

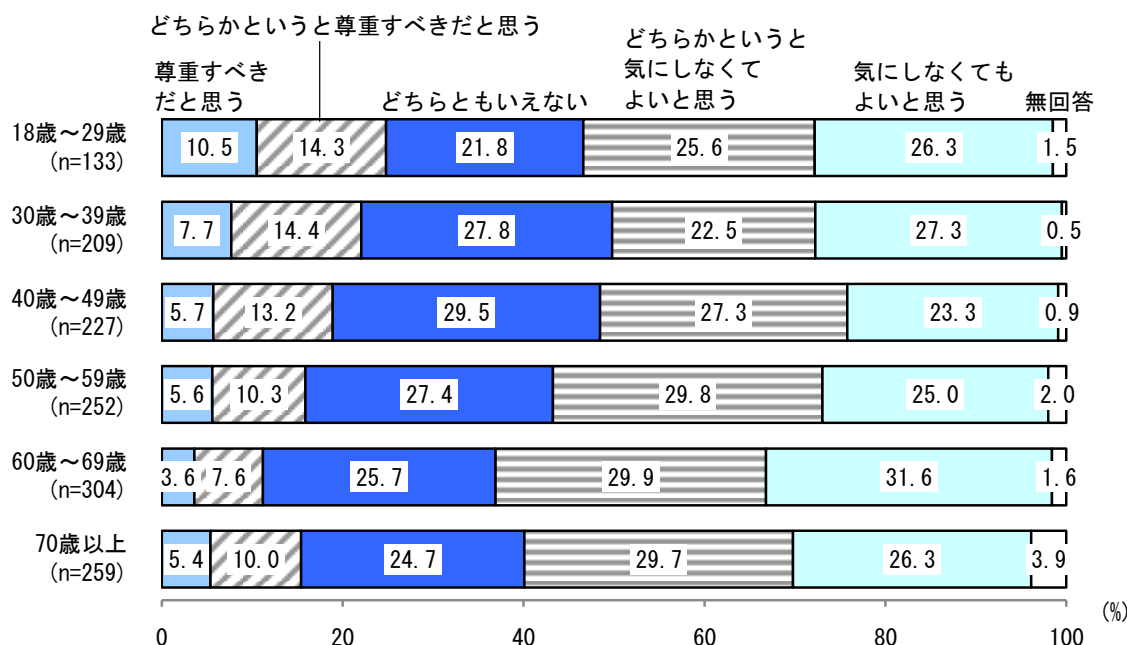
性別では、『尊重すべき』の割合は女性が15.9%、男性が18.7%で、男性の方が2.8ポイント高い。『気にしなくてよい』の割合は女性が53.3%、男性が57.0%で、男性の方が3.7ポイント高くなっている。「どちらともいえない」の割合は男性が22.2%、女性が29.2%で、女性の方が7.0ポイント高い。(図2-1-1)

【図2-1-1 性別 家柄や家の格について】



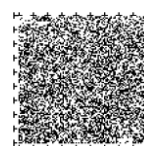
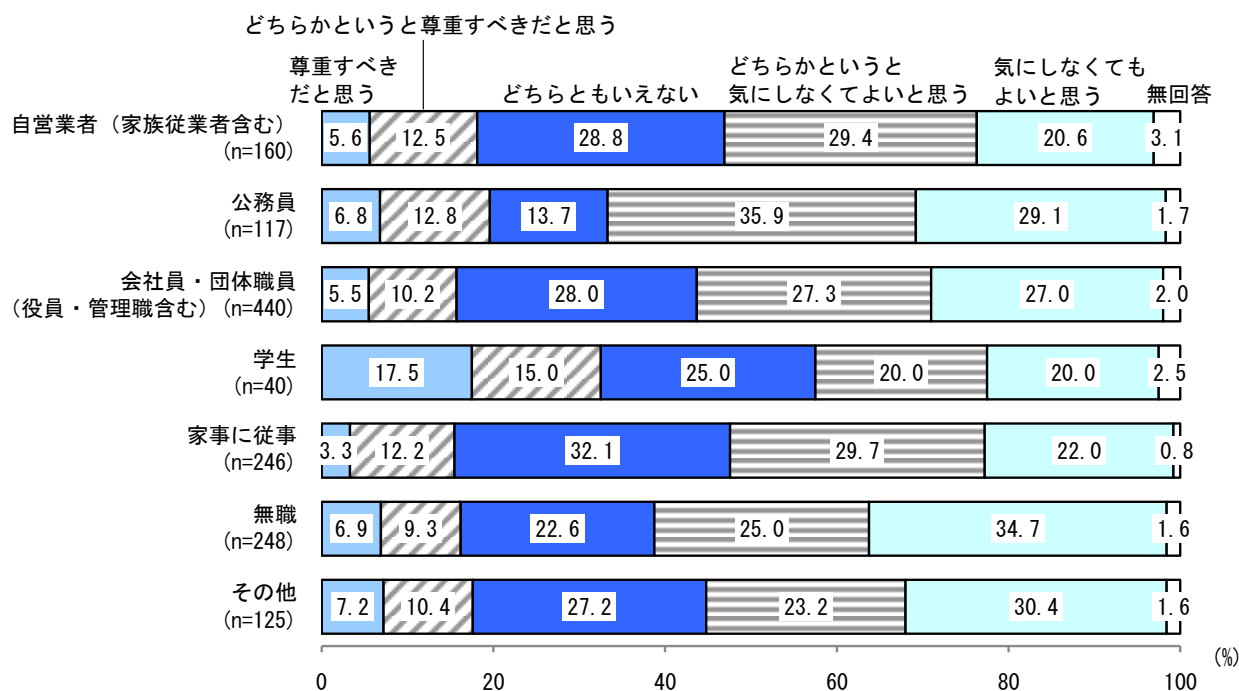
年齢別では、『尊重すべき』の割合は18歳～29歳が24.8%で最も高く、次いで30歳～39歳が22.1%となっており、若い年代で高い。『気にしなくてよい』の割合は60歳～69歳が61.5%で最も高くなっている。(図2-1-2)

【図2-1-2 年齢別 家柄や家の格について】



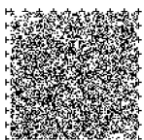
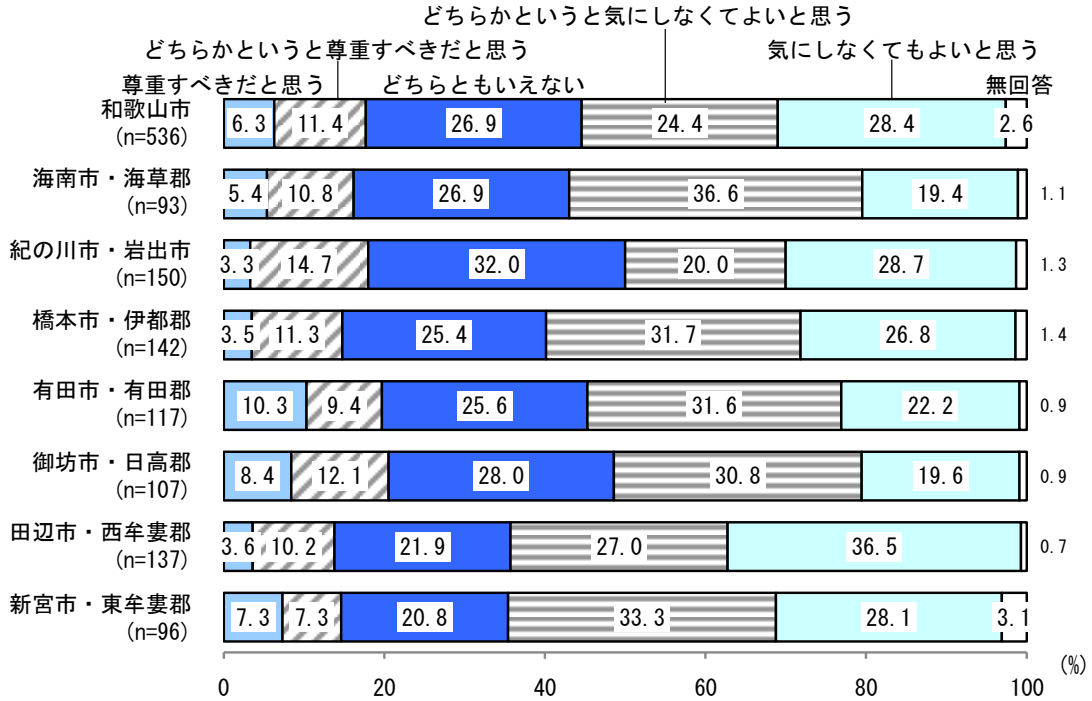
職業別では、『尊重すべき』の割合は学生が32.5%で最も高くなっている。『気にしなくてよい』の割合は公務員が65.0%で最も高い。(図2-1-3)

【図2-1-3 職業別 家柄や家の格について】



居住地域別では、いずれの地域も『気にしなくてよい』の割合が『尊重すべき』を大きく上回っている。その中で、『尊重すべき』の割合は御坊市・日高郡が20.5%で最も高くなっている。『気にしなくてよい』の割合は田辺市・西牟婁郡が63.5%で最も高い。(図2-1-4)

【図2-1-4 居住地域別 家柄や家の格について】

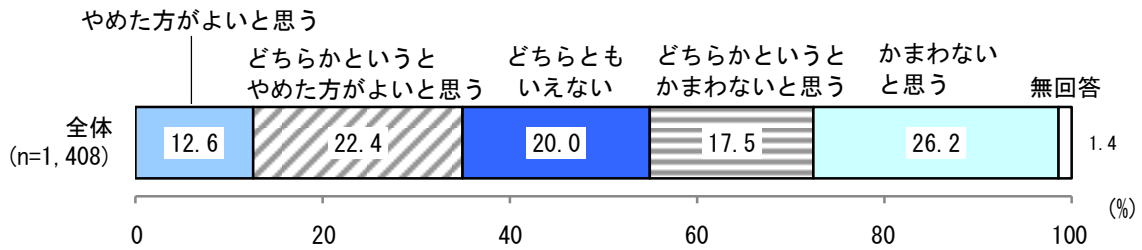


イ 結婚式を仏滅の日に行うことについて

◇全体

結婚式を仏滅の日に行うことについて、「やめた方がよいと思う」は12.6%、「どちらかというをやめた方がよいと思う」は22.4%で、両者をあわせた『やめた方がよい』は35.0%となっている。「かまわないと思う」は26.2%、「どちらかというとかまわないと思う」は17.5%で、両者をあわせた『かまわない』が43.7%と、『やめた方がよい』を8.7ポイント上回っている。(図2-2)

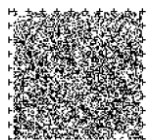
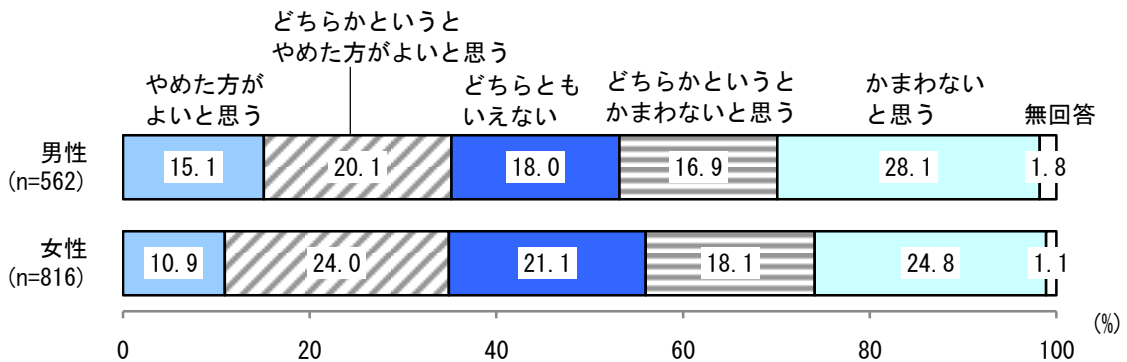
【図2-2 結婚式を仏滅の日に行うことについて】



◇回答者の属性別

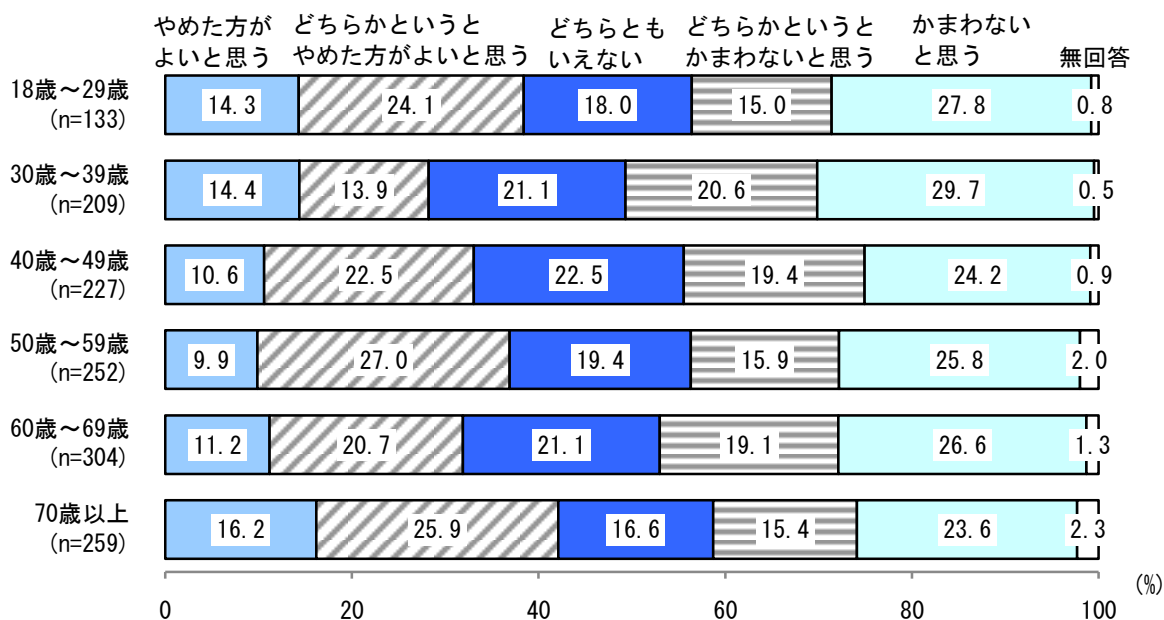
性別では、『やめた方がよい』の割合は男性が35.2%、女性が34.9%で同程度となっている。『かまわない』の割合は男性が45.0%、女性が42.9%で、男性の方が2.1ポイント高くなっている。(図2-2-1)

【図2-2-1 性別 結婚式を仏滅の日に行うことについて】



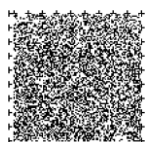
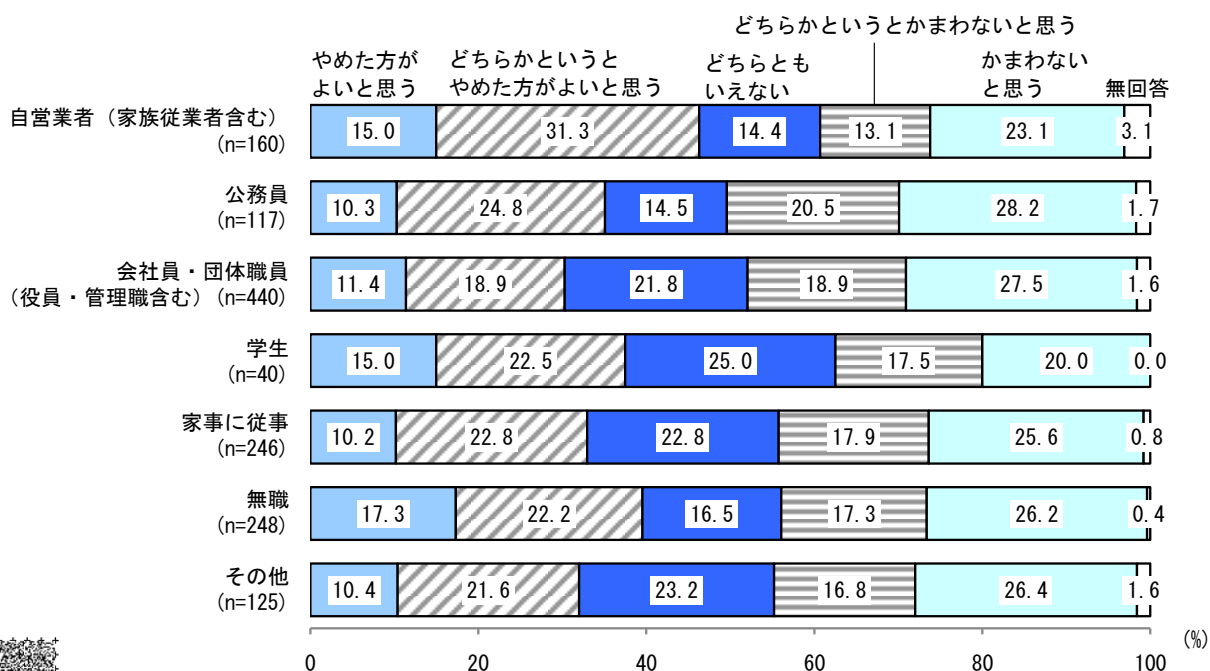
年齢別では、『やめた方がよい』の割合は70歳以上が42.1%で最も高く、次いで18歳～29歳が38.4%となっている。『かまわない』の割合は30歳～39歳が50.3%で最も高く、次いで60歳～69歳が45.7%となっている。(図2-2-2)

【図2-2-2 年齢別 結婚式を仏滅の日に行うことについて】



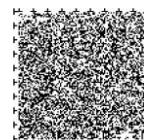
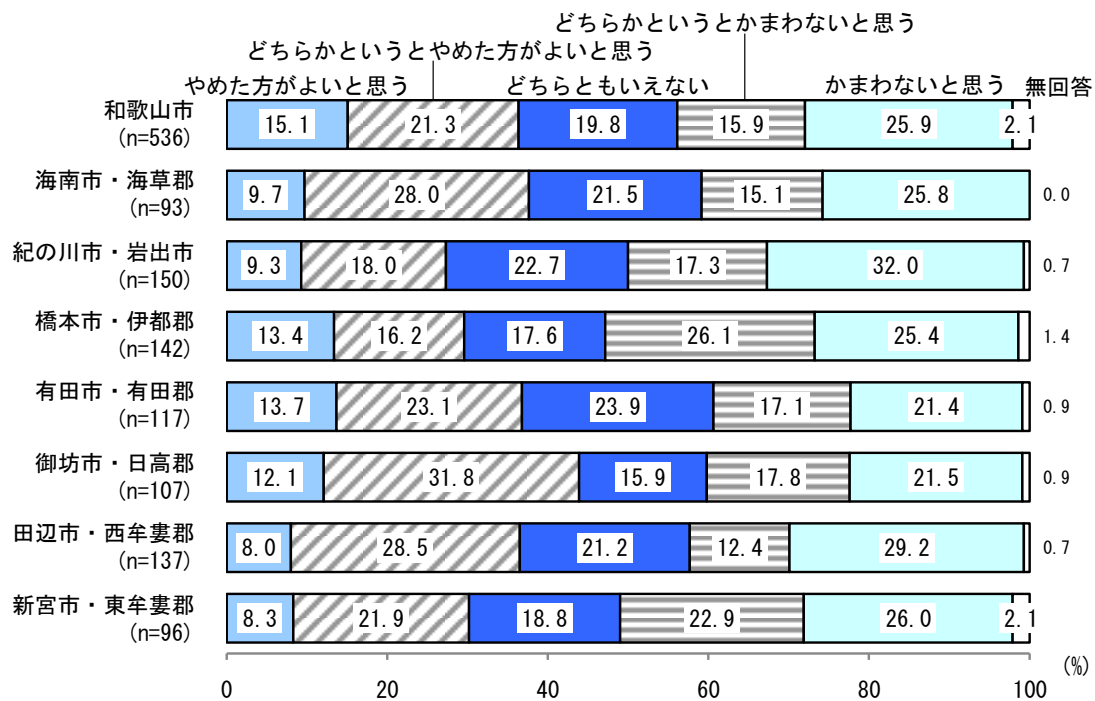
職業別では、『やめた方がよい』の割合は自営業者(家族従業者含む)が46.3%で最も高く、次いで無職が39.5%となっている。『かまわない』の割合は公務員が48.7%で最も高く、次いで会社員・団体職員が46.4%となっている。(図2-2-3)

【図2-2-3 職業別 結婚式を仏滅の日に行うことについて】



居住地域別では、御坊市・日高郡を除く地域で、『かまわない』の割合が『やめた方がよい』の割合を上回っている。『やめた方がよい』の割合は御坊市・日高郡が43.9%で最も高くなっている。『かまわない』の割合は橋本市・伊都郡が51.5%で最も高くなっている。(図2-2-4)

【図2-2-4 居住地域別 結婚式を仏滅の日に行うことについて】

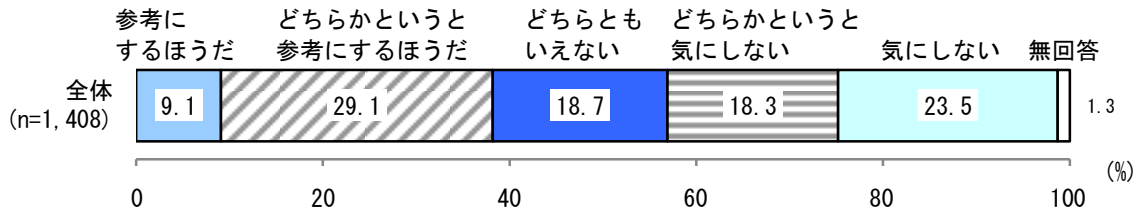


ウ 占いや方角について

◇全体

占いや方角について、「参考にするほうだ」が9.1%、「どちらかという参考にするほうだ」が29.1%で、両者をあわせた『参考にするほうだ』は38.2%となっている。「気にしない」は23.5%、「どちらかという気にしない」は18.3%で、両者をあわせた『気にしない』は41.8%となっている。(図2-3)

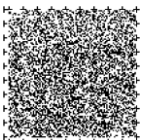
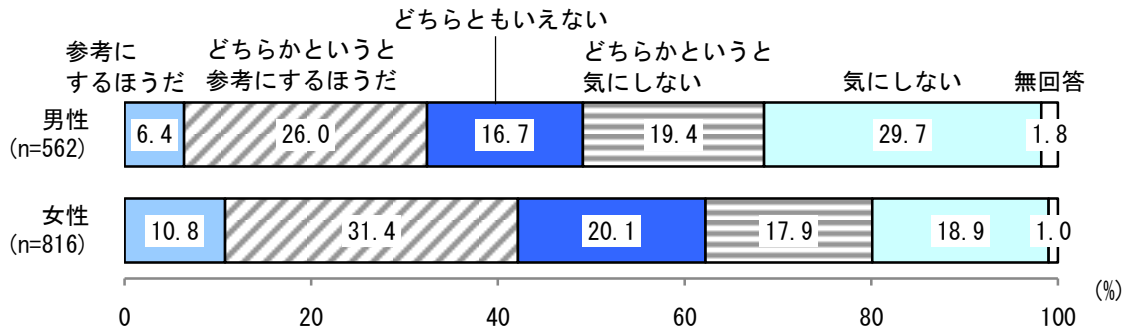
【図2-3 占いや方角について】



◇回答者の属性別

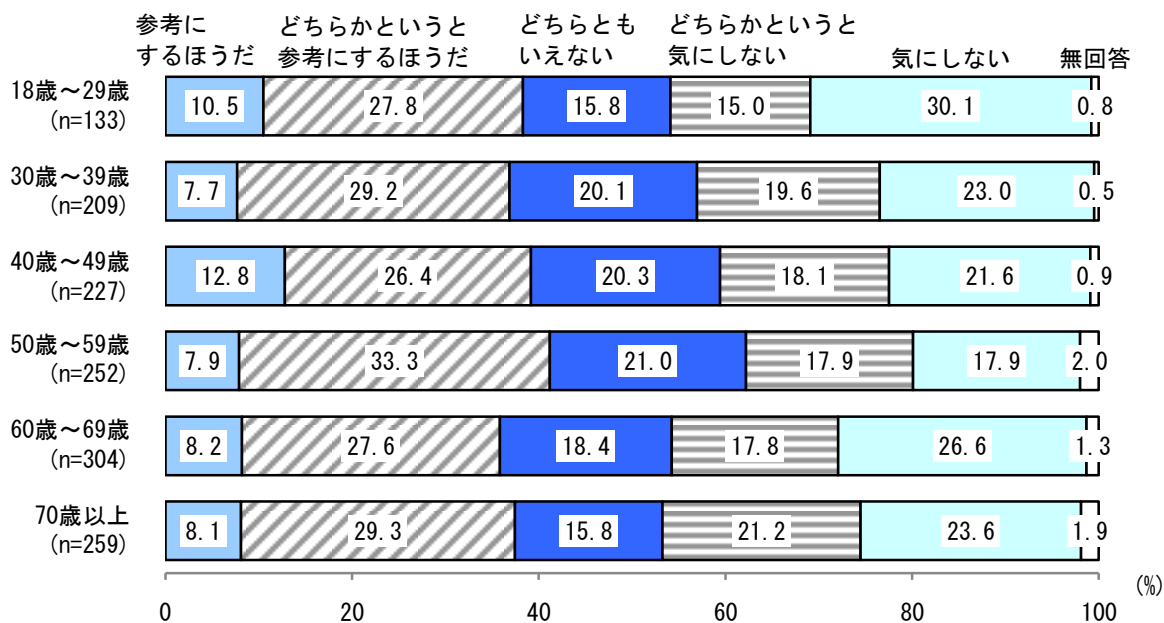
性別でみると、『参考にするほうだ』の割合は男性が32.4%、女性が42.2%で、女性の方が9.8ポイント高くなっている。『気にしない』の割合は女性が36.8%、男性が49.1%で、男性の方が12.3ポイント高くなっている。(図2-3-1)

【図2-3-1 性別 占いや方角について】



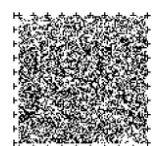
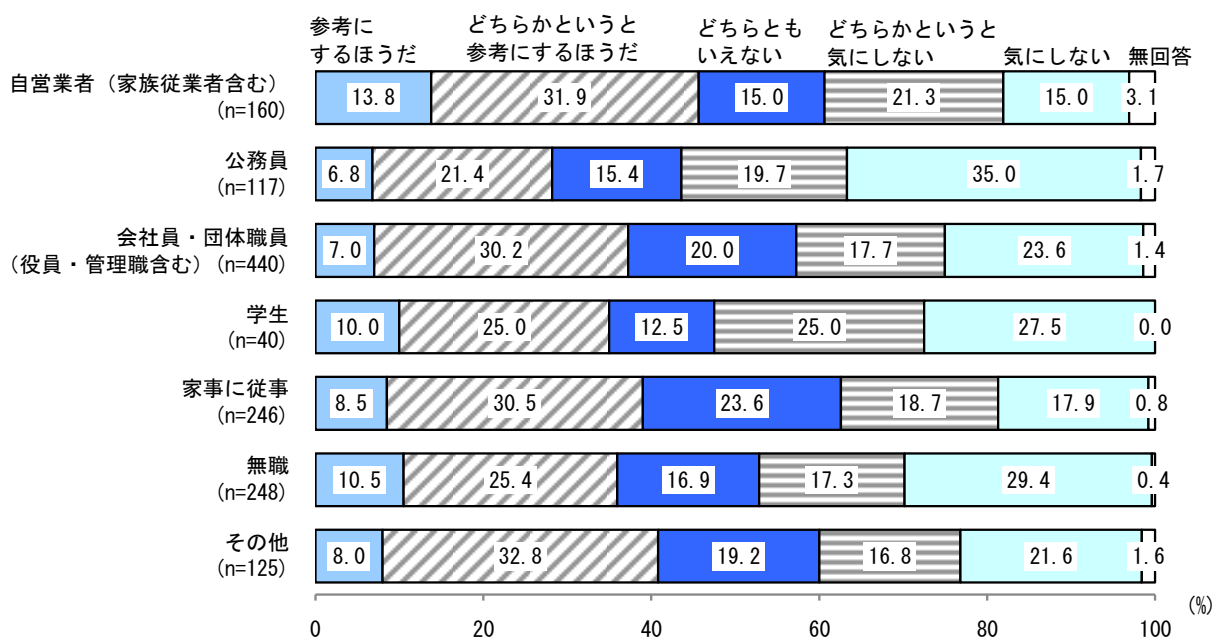
年齢別では、『参考にするほうだ』の割合は50歳～59歳が41.2%で最も高く、次いで40歳～49歳が39.2%となっている。『気にしない』の割合は18歳～29歳が45.1%で最も高く、次いで70歳以上が44.8%、60歳～69歳が44.4%となっている。(図2-3-2)

【図2-3-2 年齢別 占いや方角について】



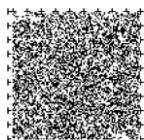
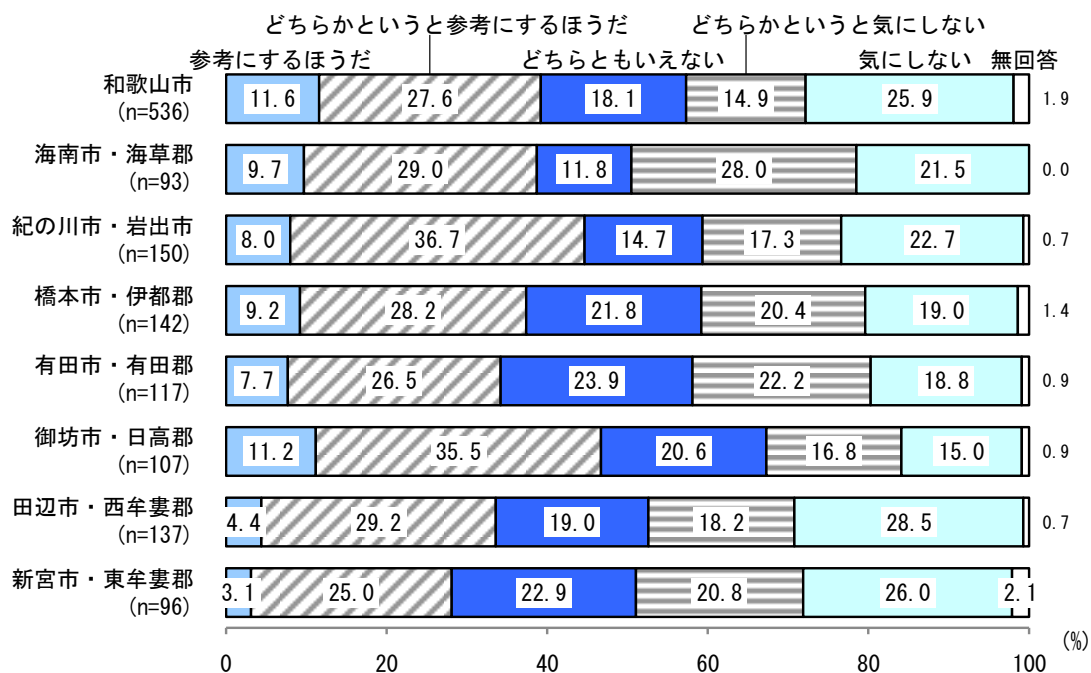
職業別では、『参考にするほうだ』の割合は自営業者（家族従業者含む）が45.7%で最も高く、次いで家事に従事が39.0%となっている。『気にしない』の割合は公務員が54.7%で最も高くなっている。(図2-3-3)

【図2-3-3 職業別 占いや方角について】



居住地域別では、紀の川市・岩出市及び御坊市・日高郡を除く地域で、『気にしない』の割合が『参考にするほうだ』の割合を上回っている。『参考にするほうだ』の割合は御坊市・日高郡が46.7%で最も高く、次いで紀の川市・岩出市（44.7%）となっている。『気にしない』の割合は海南市・海草郡が49.5%で最も高くなっている。（図2-3-4）

【図2-3-4 居住地域別 占いや方角について】



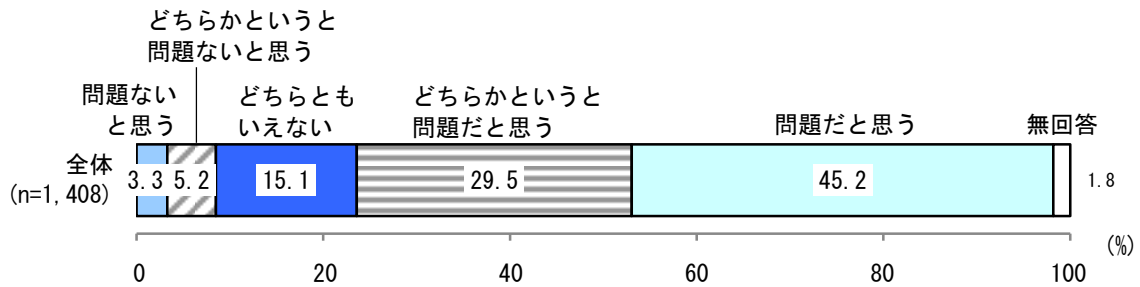
エ 会社等において、性別で昇進に差がつくことについて

◇全体

会社等において、性別で昇進に差がつくことについて、「問題ないと思う」が3.3%、「どちらかという問題ないと思う」が5.2%で、両者をあわせた『問題ない』は8.5%となっている。「問題だと思う」が45.2%、「どちらかという問題だと思う」が29.5%で、両者をあわせた『問題だと思う』は74.7%であり、『問題ない』を66.2ポイントと大きく上回っている。

(図2-4)

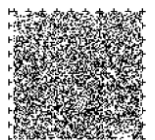
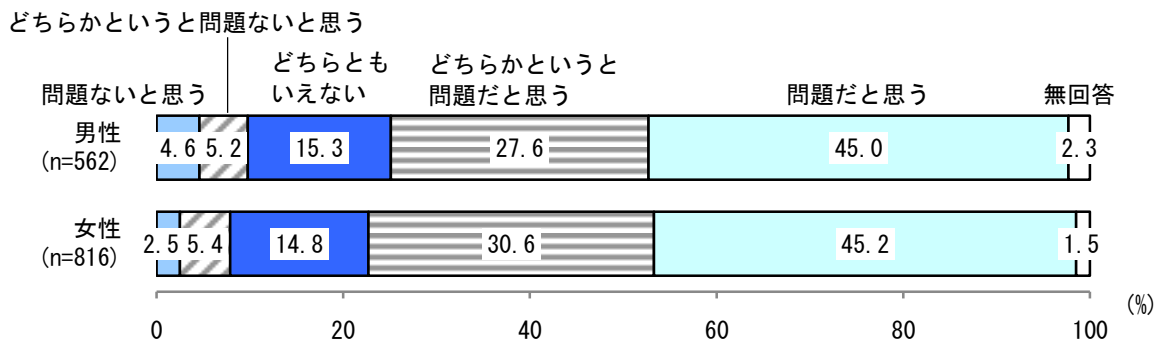
【図2-4 会社等において、性別で昇進に差がつくことについて】



◇回答者の属性別

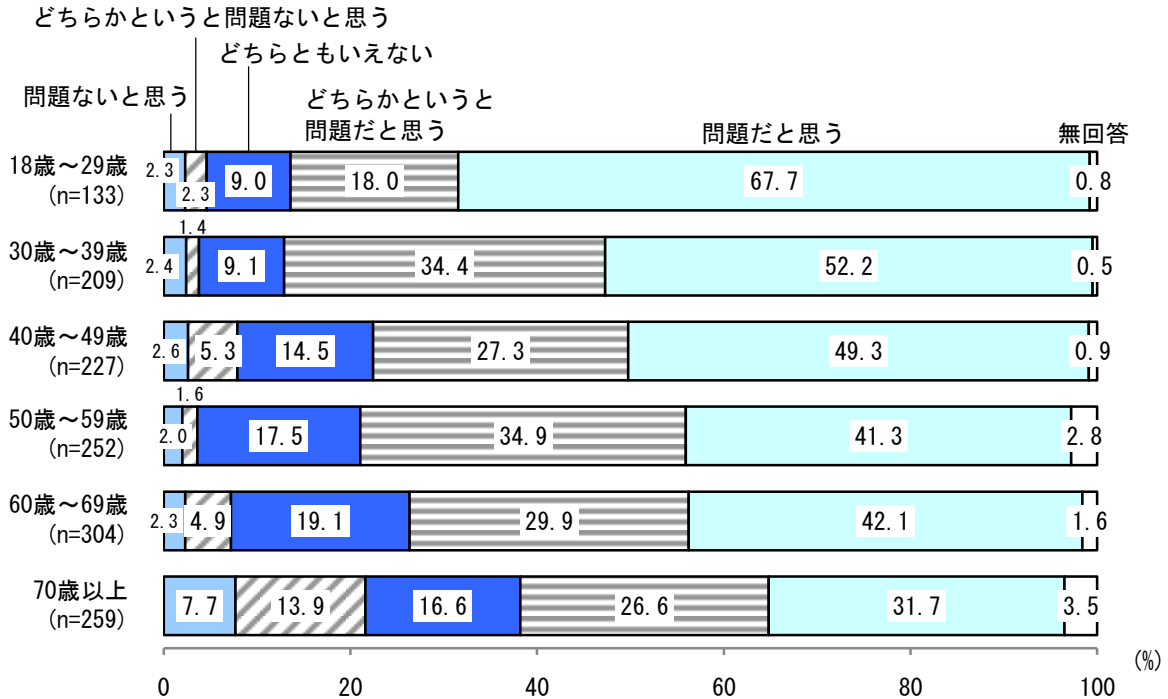
性別では、男女とも『問題だと思う』が多く、その割合は男性が72.6%、女性が75.8%で、女性の方が3.2ポイント高くなっている。(図2-4-1)

【図2-4-1 性別 会社等において、性別で昇進に差がつくことについて】



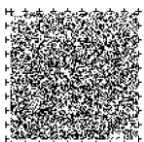
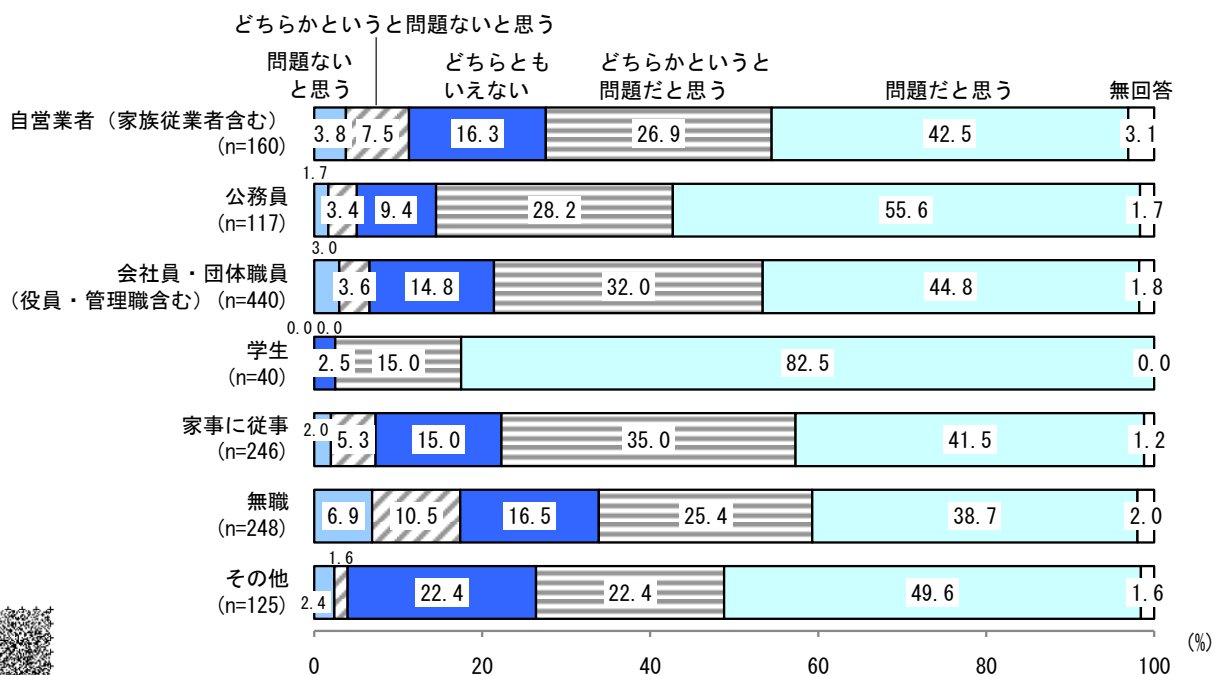
年齢別では、『問題ない』の割合は70歳以上が21.6%で最も高くなっているが、69歳以下の年代ではいずれも10%未満と低くなっている。『問題だと思う』の割合は、18歳～39歳までの若年層が高く、年齢の上昇とともに低下傾向にある。(図2-4-2)

【図2-4-2 年齢別 会社等において、性別で昇進に差がつくことについて】



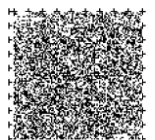
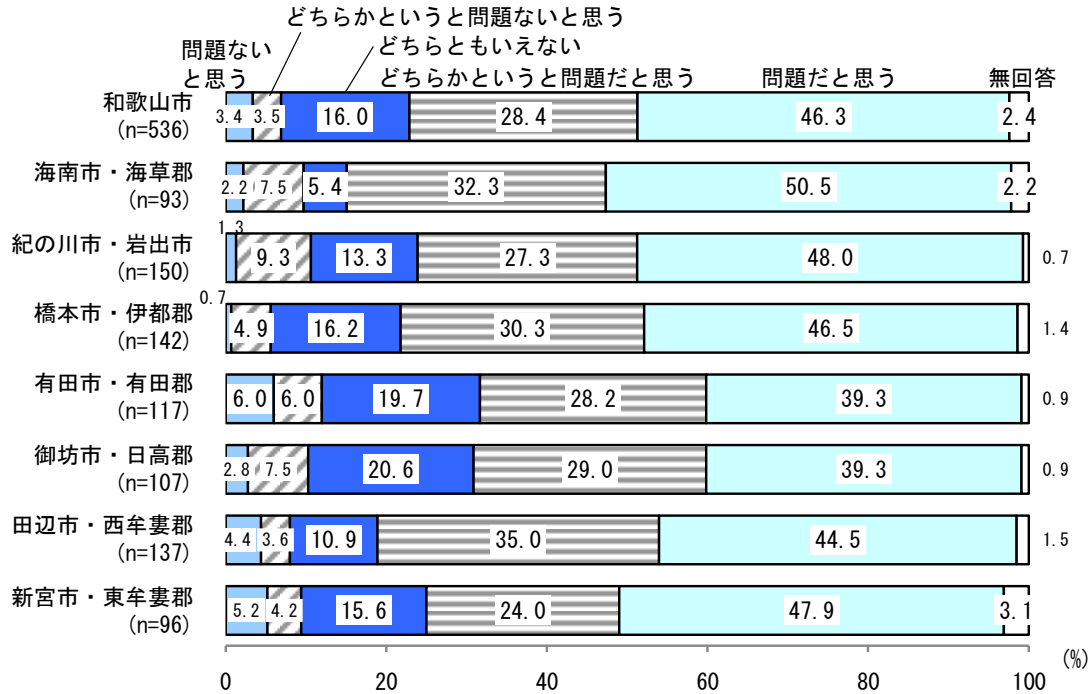
職業別では、『問題ない』の割合は無職が17.4%で最も高く、次いで自営業者（家族従業者含む）（11.3%）となっている。『問題だと思う』の割合は学生が97.5%で最も高く、次いで公務員（83.8%）となっている。(図2-4-3)

【図2-4-3 職業別 会社等において、性別で昇進に差がつくことについて】



居住地域別では、いずれの地域も、『問題だと思う』の割合が『問題ない』の割合を大きく上回っている。その中で、『問題ない』の割合は有田市・有田郡が12.0%で最も高くなっている。『問題だと思う』の割合は海南市・海草郡が82.8%で最も高くなっている。(図2-4-4)

【図2-4-4 居住地域別 会社等において、性別で昇進に差がつくことについて】

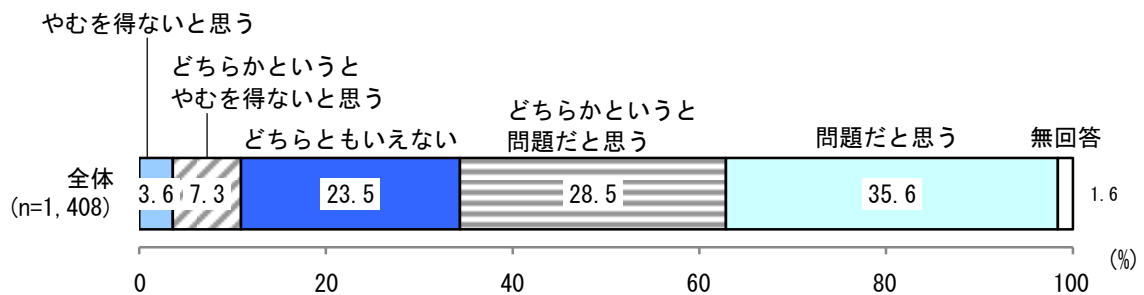


オ 外国人であることを理由に、アパートへの入居を断られることについて

◇全体

外国人であることを理由に、アパートへの入居を断られることについて、「やむを得ないと思う」が3.6%、「どちらかというはやむを得ないと思う」が7.3%で、両者をあわせた『やむを得ない』は10.9%となっている。「問題だと思う」が35.6%、「どちらかという問題だと思う」が28.5%で、両者をあわせた『問題だと思う』は64.1%となっており、『やむを得ない』を53.2ポイントと大きく上回っている。(図2-5)

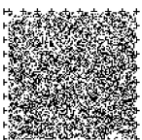
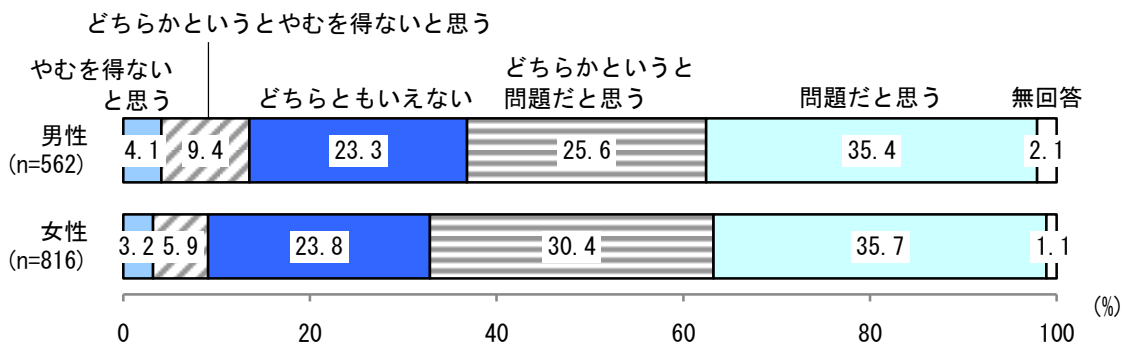
【図2-5 外国人であることを理由に、アパートへの入居を断られることについて】



◇回答者の属性別

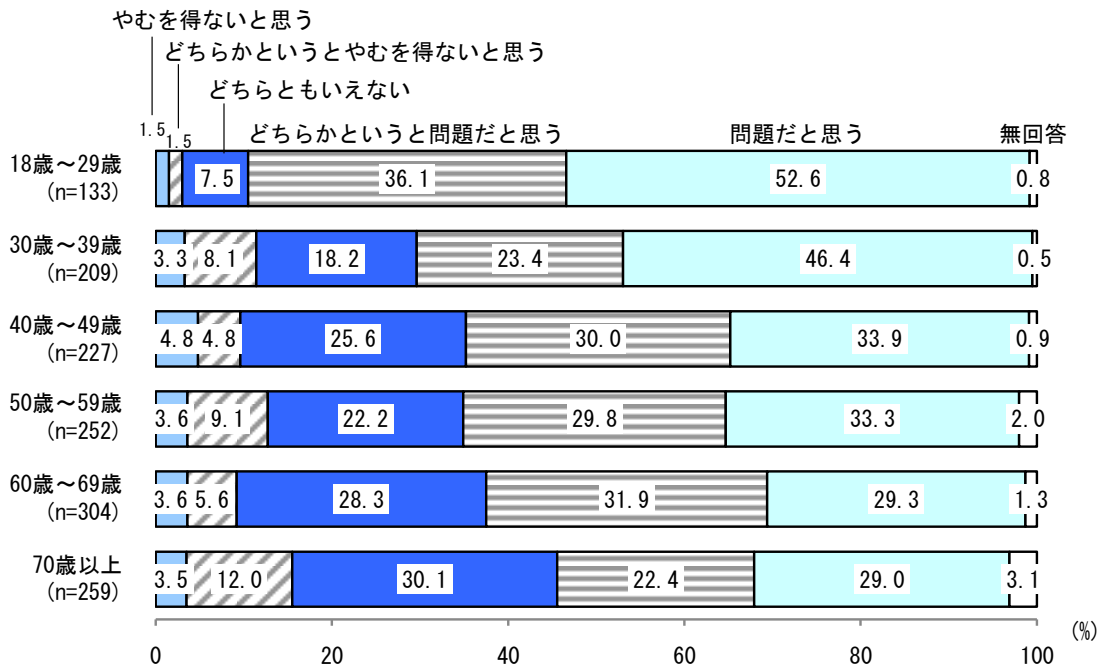
性別では、男女とも『問題だと思う』が多く、その割合は男性が61.0%、女性が66.1%で、女性の方が5.1ポイント高くなっている。(図2-5-1)

【図2-5-1 性別 外国人であることを理由に、アパートへの入居を断られることについて】



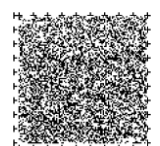
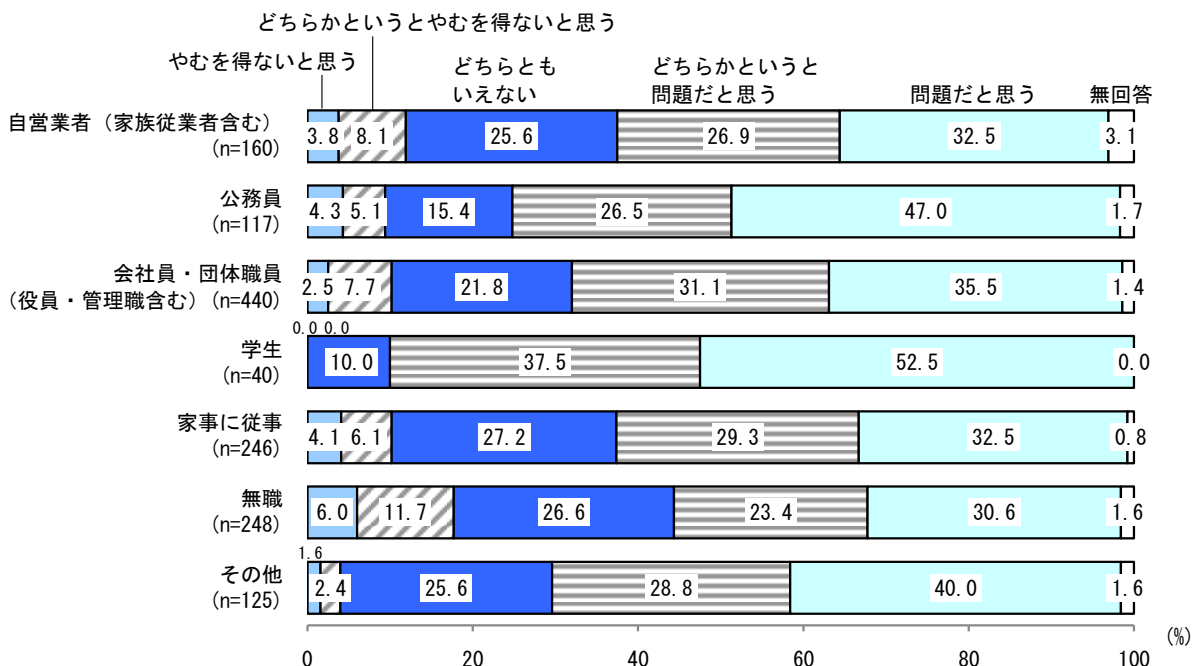
年齢別では、『問題だと思う』の割合は18歳～29歳が88.7%で最も高く、年代が上がるともにその割合は低下している。一方、『やむを得ない』の割合は70歳以上が15.5%で最も高く、次いで50歳～59歳が12.7%となっている。(図2-5-2)

【図2-5-2 年齢別 外国人であることを理由に、アパートへの入居を断られることについて】



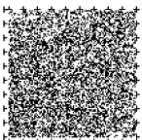
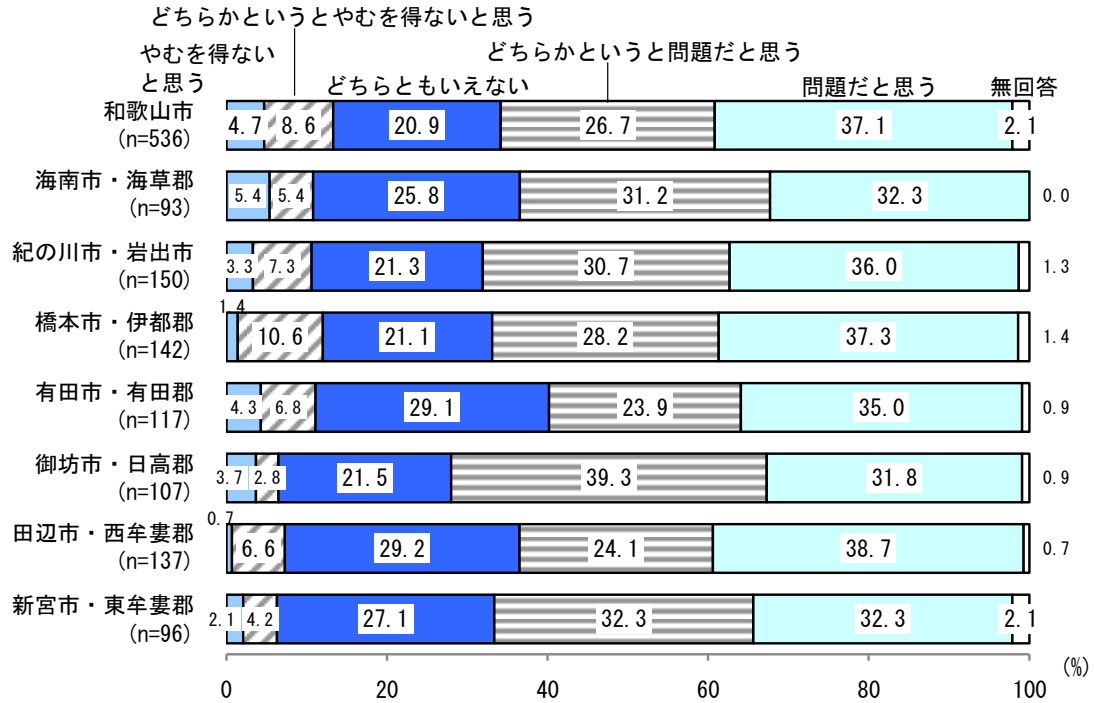
職業別では、『問題だと思う』の割合は学生が90.0%で最も高く、次いで公務員が73.5%、会社員・団体職員（役員・管理職含む）が66.6%となっている。『やむを得ない』の割合は無職が17.7%で最も高い。(図2-5-3)

【図2-5-3 職業別 外国人であることを理由に、アパートへの入居を断られることについて】



居住地域別では、いずれの地域も『問題だと思う』の割合が『やむを得ない』の割合を大きく上回っている。『問題だと思う』の割合は御坊市・日高郡が71.1%で最も高くなっている。『やむを得ない』の割合は和歌山市が13.3%で最も高い。(図2-5-4)

【図2-5-4 居住地域別 外国人であることを理由に、アパートへの入居を断られることについて】

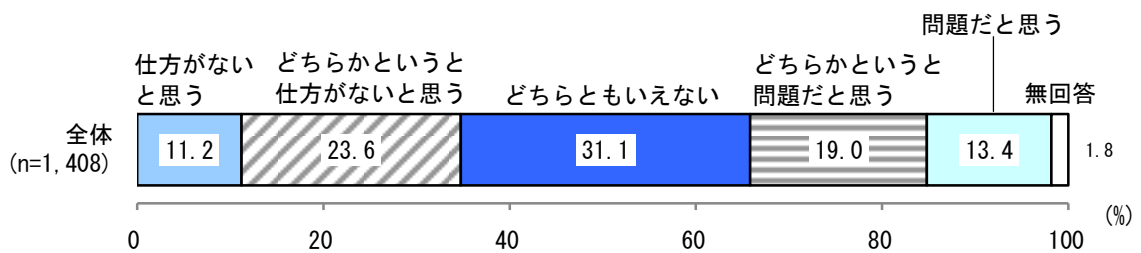


カ 刑を終えて出所した人の就職が容易に決まらないことについて

◇全体

刑を終えて出所した人の就職が容易に決まらないことについて、「どちらともいえない」が31.1%で最も多い。「仕方がないと思う」は11.2%、「どちらかというと思わないと思う」は23.6%で、両者をあわせた『仕方がないと思う』は34.8%となっている。「問題だと思う」は13.4%、「どちらかというと思わないと思う」は19.0%で、両者をあわせた『問題だと思う』は32.4%となっている。(図2-6)

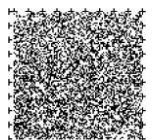
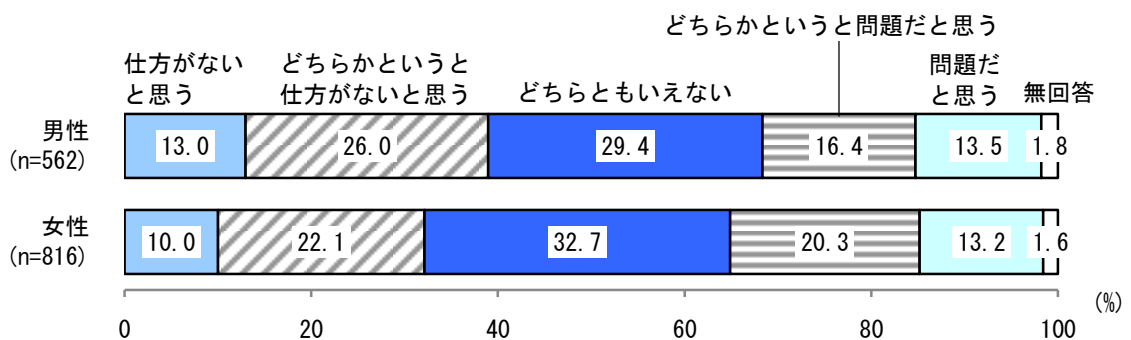
【図2-6 刑を終えて出所した人の就職が容易に決まらないことについて】



◇回答者の属性別

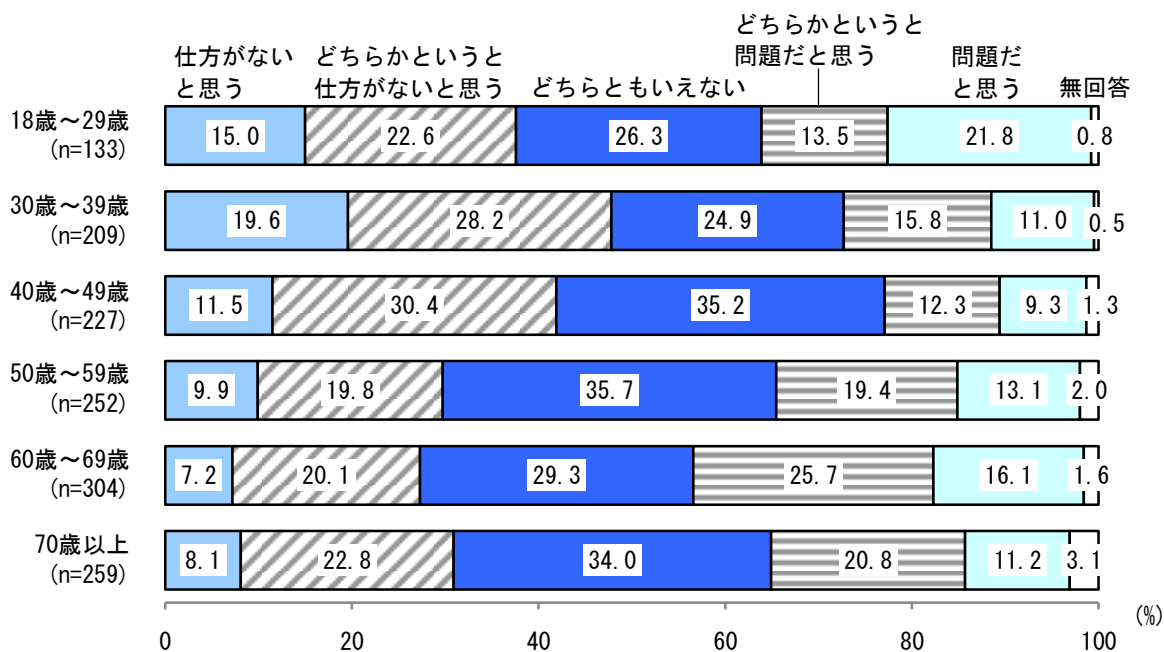
性別では、『仕方がないと思う』の割合は女性が32.1%、男性が39.0%で、男性の方が6.9ポイント高くなっている。一方、『問題だと思う』の割合は男性が29.9%、女性が33.5%で、女性の方が3.6ポイント高くなっている。(図2-6-1)

【図2-6-1 性別 刑を終えて出所した人の就職が容易に決まらないことについて】



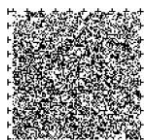
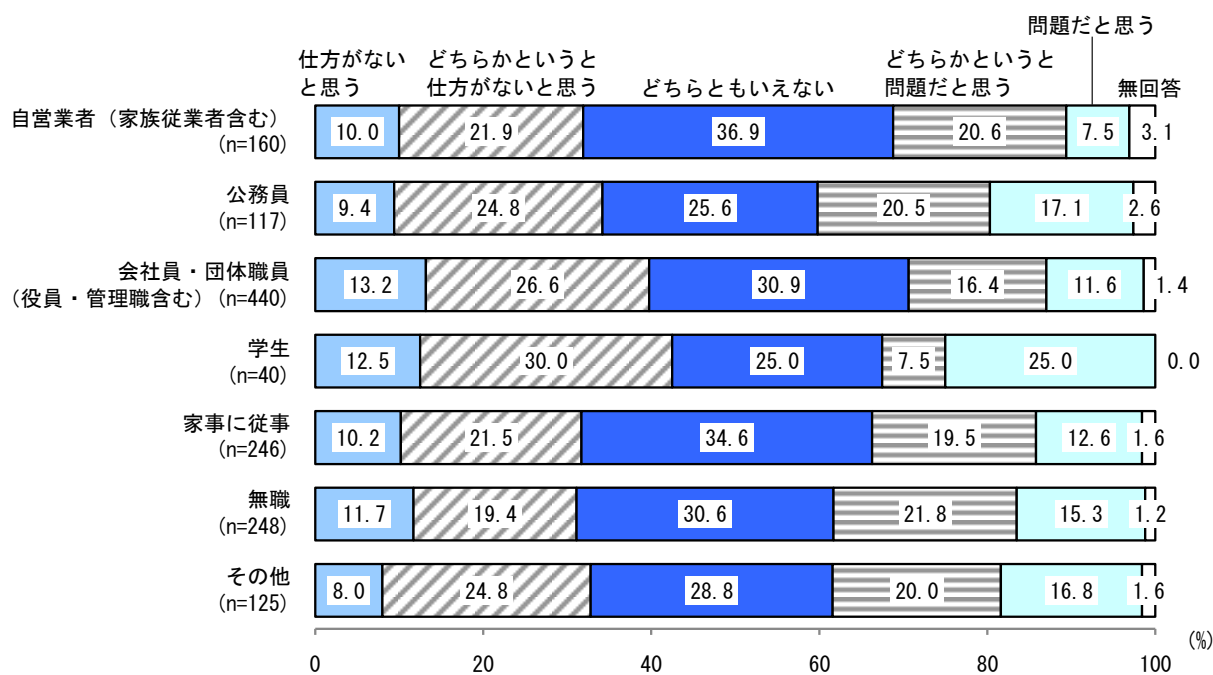
年齢別では、『仕方がないと思う』の割合は30歳～39歳が47.8%で最も高く、次いで40歳～49歳が41.9%、18歳～29歳が37.6%となっており、若い年代の割合が高い。一方、『問題だと思う』の割合は60歳～69歳が41.8%で最も高くなっている。(図2-6-2)

【図2-6-2 年齢別 刑を終えて出所した人の就職が容易に決まらないことについて】



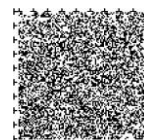
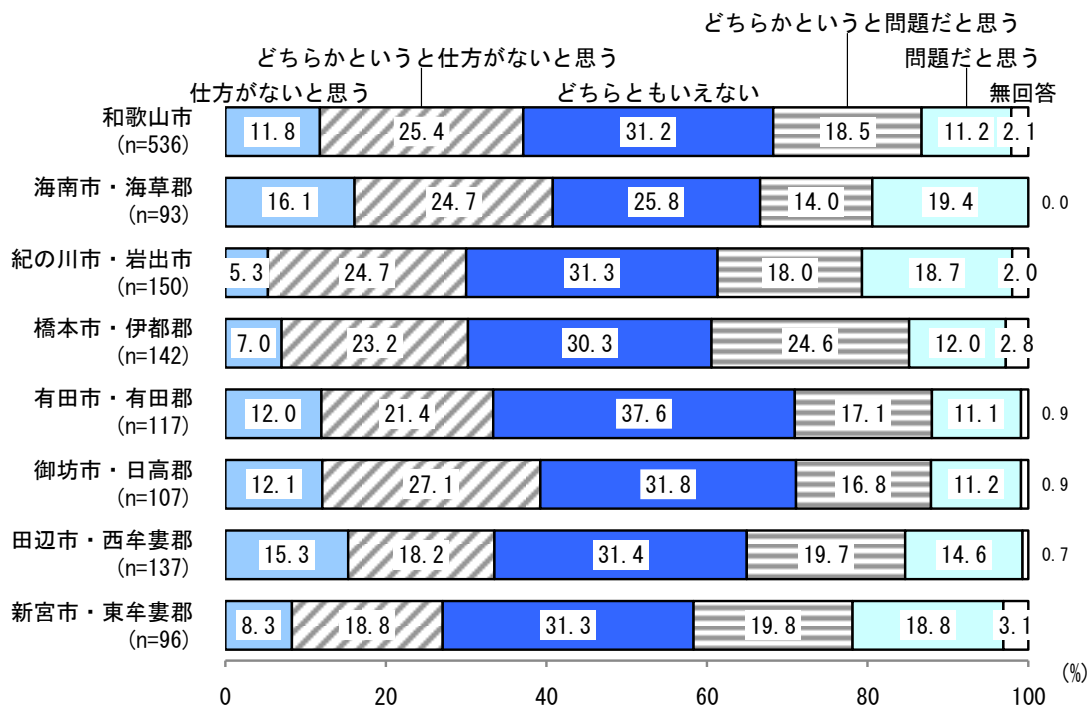
職業別では、『仕方がないと思う』の割合は学生が42.5%で最も高く、次いで会社員・団体職員（役員・管理職含む）が39.8%となっている。一方、『問題だと思ふ』の割合は公務員が37.6%で最も高い。(図2-6-3)

【図2-6-3 職業別 刑を終えて出所した人の就職が容易に決まらないことについて】



居住地域別では、『仕方がないと思う』の割合は海南市・海草郡が40.8%で最も高く、次いで御坊市・日高郡が39.2%となっている。一方、『問題だと思う』の割合は新宮市・東牟婁郡が38.6%で最も高い。(図2-6-4)

【図2-6-4 居住地域別 刑を終えて出所した人の就職が容易に決まらないことについて】



3. 法律や条例の認知状況

問2 あなたは、次の法律や条例を知っていますか。ア～エすべてについてお答えください。
(○はそれぞれひとつ)

◇全体

法律や条例の認知状況は次のとおりとなっている。

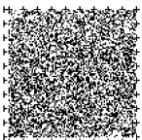
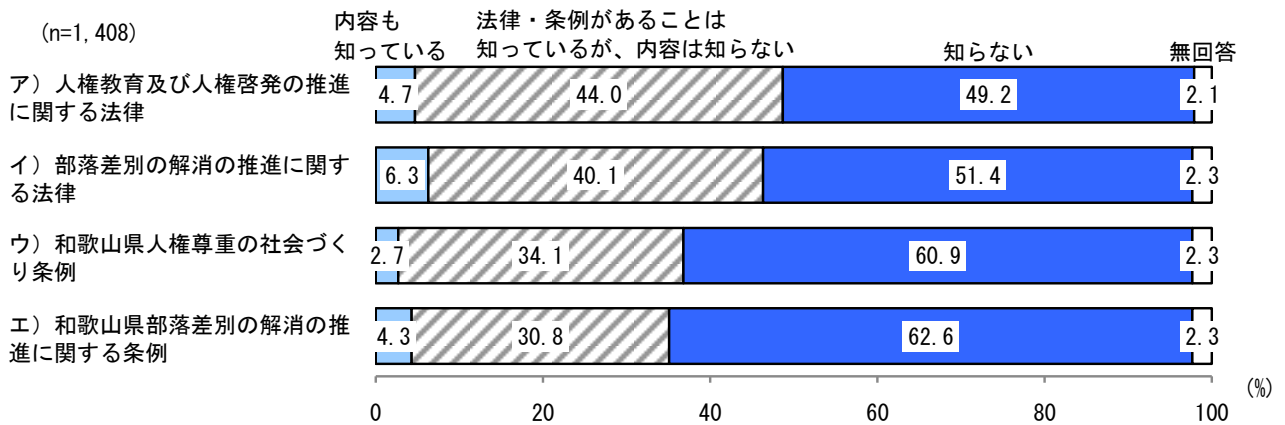
“ア) 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律”は、「知らない」が49.2%で最も多い。「法律・条例があることは知っているが、内容は知らない」は44.0%、「内容も知っている」は4.7%で、両者をあわせた認知率は48.7%となっている。

“イ) 部落差別の解消の推進に関する法律”は、「知らない」が51.4%で最も多い。「法律・条例があることは知っているが、内容は知らない」は40.1%、「内容も知っている」は6.3%で、両者をあわせた認知率は46.4%となっている。

“ウ) 和歌山県人権尊重の社会づくり条例”は、「知らない」が60.9%で最も多い。「法律・条例があることは知っているが、内容は知らない」は34.1%、「内容も知っている」は2.7%で、両者をあわせた認知率は36.8%となっている。

“エ) 和歌山県部落差別の解消の推進に関する条例”は、「知らない」が62.6%で最も多い。「法律・条例があることは知っているが、内容は知らない」は30.8%、「内容も知っている」は4.3%で、両者をあわせた認知率は35.1%となっている。(図3)

【図3 法律や条例の認知状況】

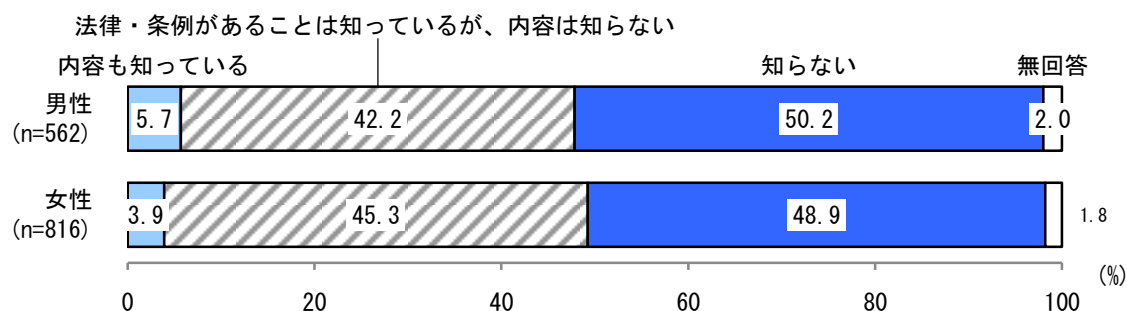


◇回答者の属性別

ア) 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律

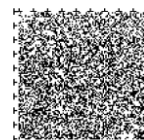
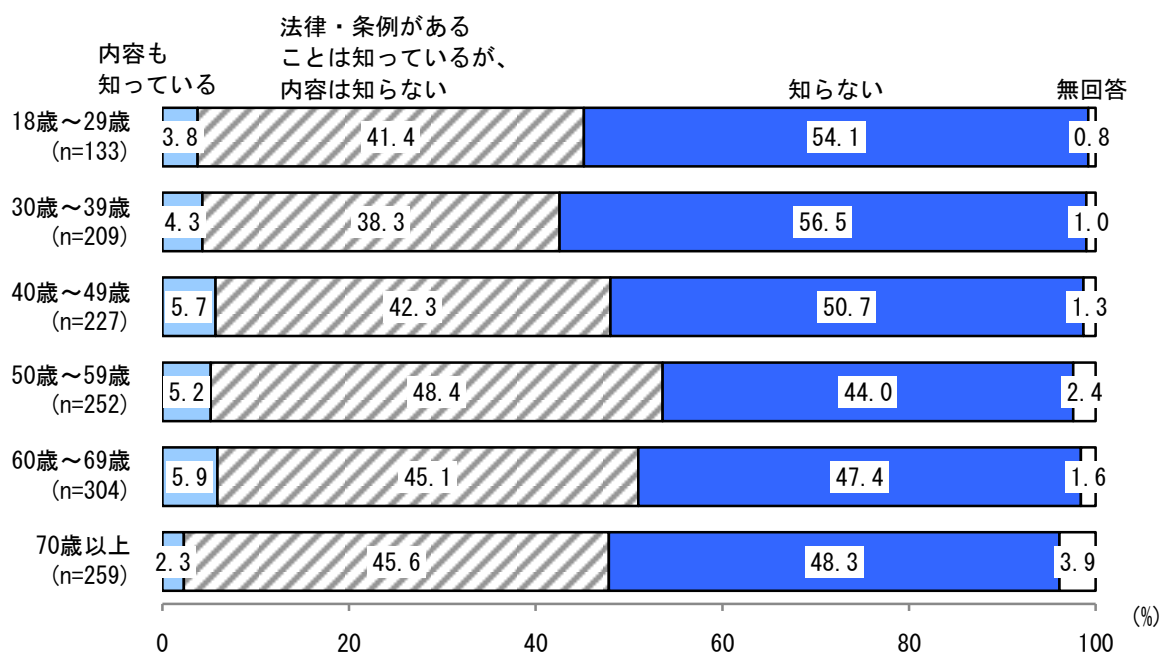
性別では、男女とも「知らない」の割合が5割前後で、認知率も5割程度となっている。
(図3-1-1)

【図3-1-1 性別 法律や条例の認知状況 ア) 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律】



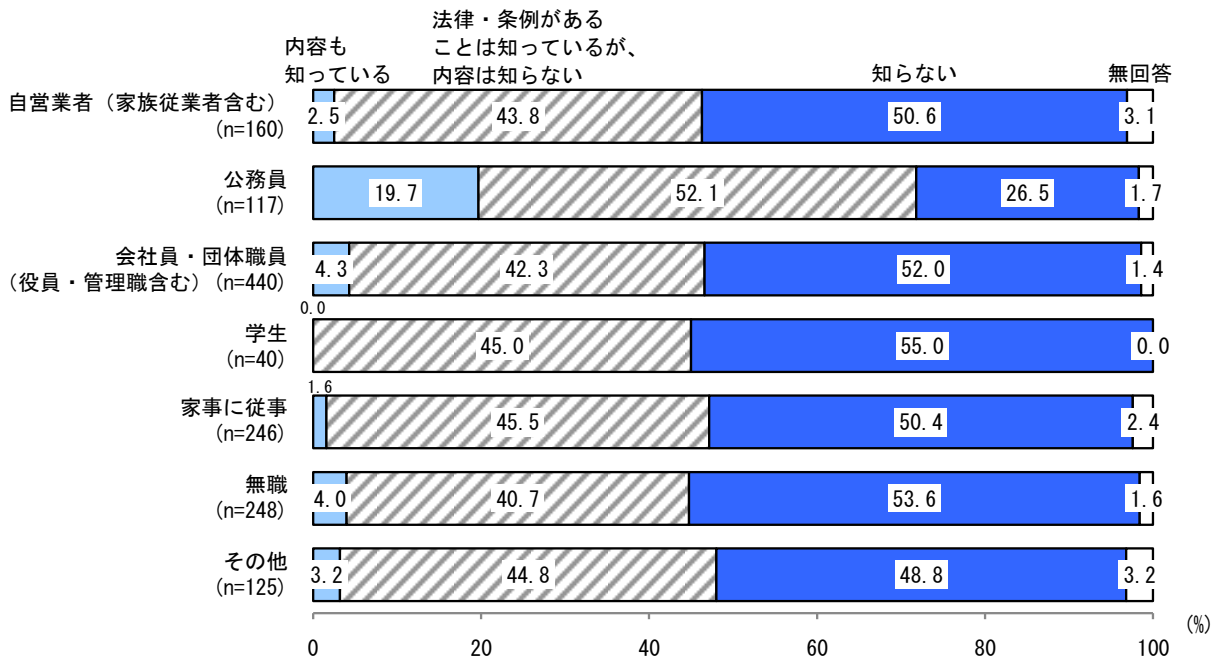
年齢別では、「知らない」の割合は30歳～39歳が56.5%で最も高く、次いで18歳～29歳が54.1%、40歳～49歳が50.7%となっており、若い年代では過半数を占めている。一方、認知率は、50歳～59歳が53.6%で最も高くなっている。(図3-1-2)

【図3-1-2 年齢別 法律や条例の認知状況 ア) 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律】



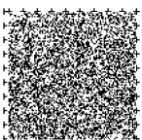
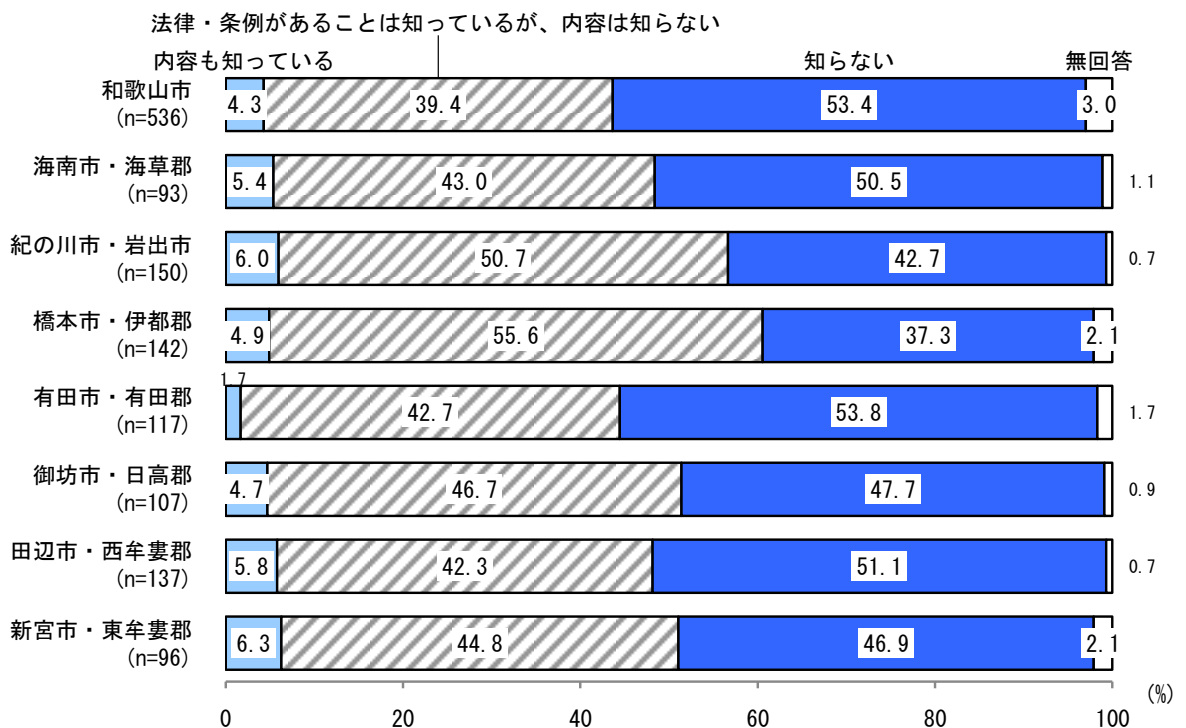
職業別では、「内容も知っている」の割合は公務員が19.7%で最も高い。「法律・条例があることは知っているが、内容は知らない」も公務員が52.1%で最も高くなっており、認知率は71.8%となっている。(図3-1-3)

【図3-1-3 職業別 法律や条例の認知状況 ア) 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律】



居住地域別では、「内容も知っている」と「法律・条例があることは知っているが、内容は知らない」をあわせた認知率は、橋本市・伊都郡が60.5%で最も高くなっている。和歌山市の認知率は43.7%で最も低くなっている。(図3-1-4)

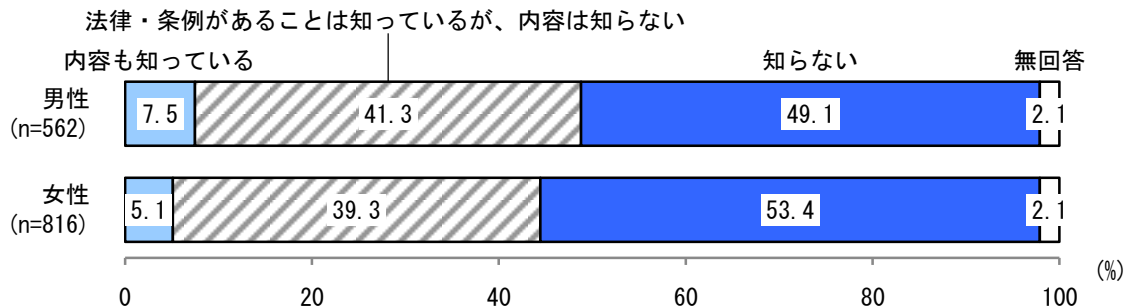
【図3-1-4 居住地域別 法律や条例の認知状況 ア) 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律】



イ) 部落差別の解消の推進に関する法律

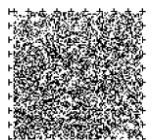
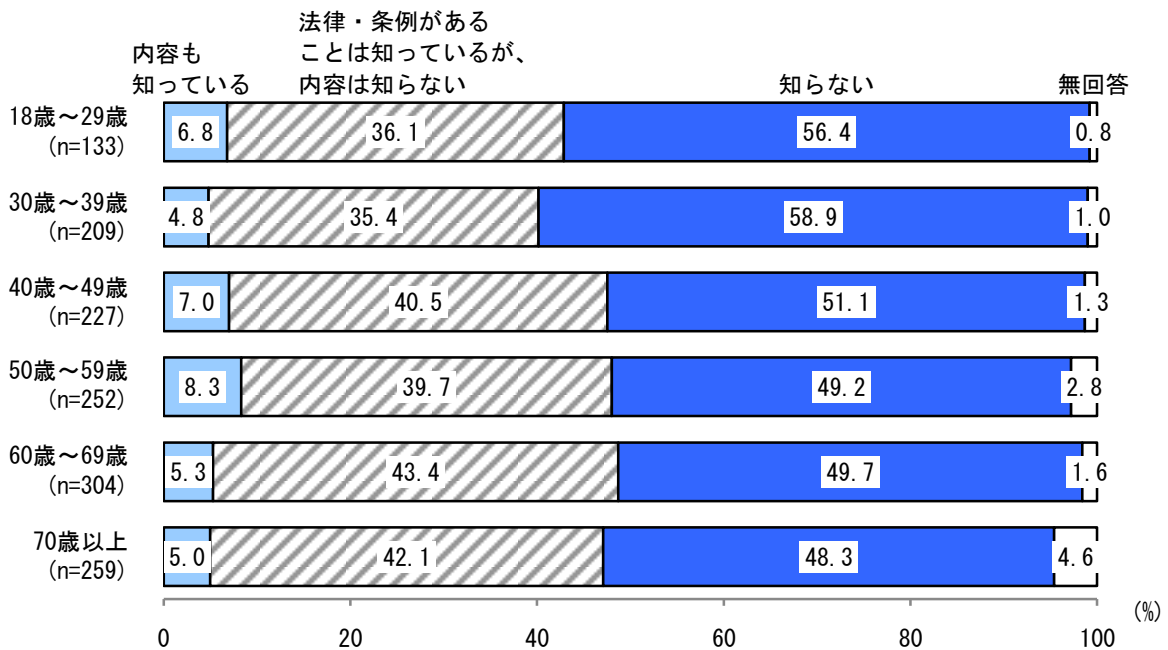
性別では、「知らない」の割合は男女とも5割前後で、女性の方が4.3ポイント高くなっている。認知率は、女性が44.4%、男性が48.8%で男性の方が4.4ポイント高い。(図3-2-1)

【図3-2-1 性別 法律や条例の認知状況 イ) 部落差別の解消の推進に関する法律】



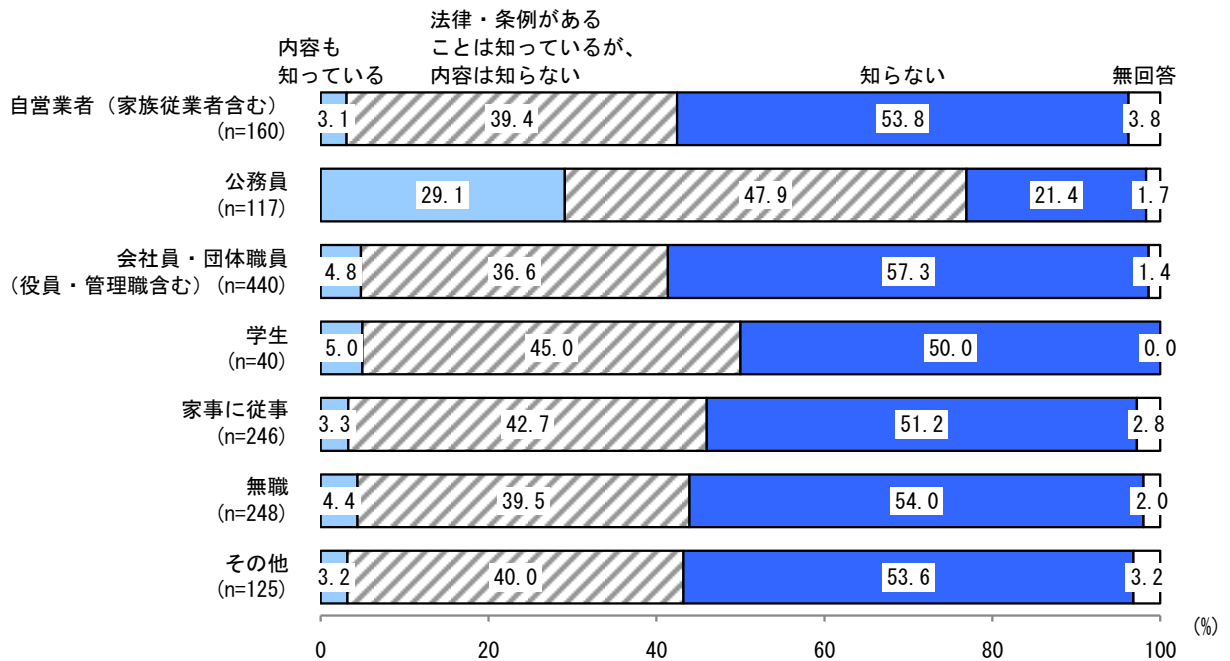
年齢別では、「知らない」の割合は30歳～39歳が58.9%で最も高く、次いで18歳～29歳が56.4%となっている。一方、認知率は、18歳～39歳までの年代に比べ40歳以上の各年代の割合が高くなっている。(図3-2-2)

【図3-2-2 年齢別 法律や条例の認知状況 イ) 部落差別の解消の推進に関する法律】



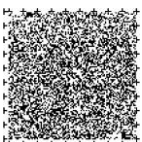
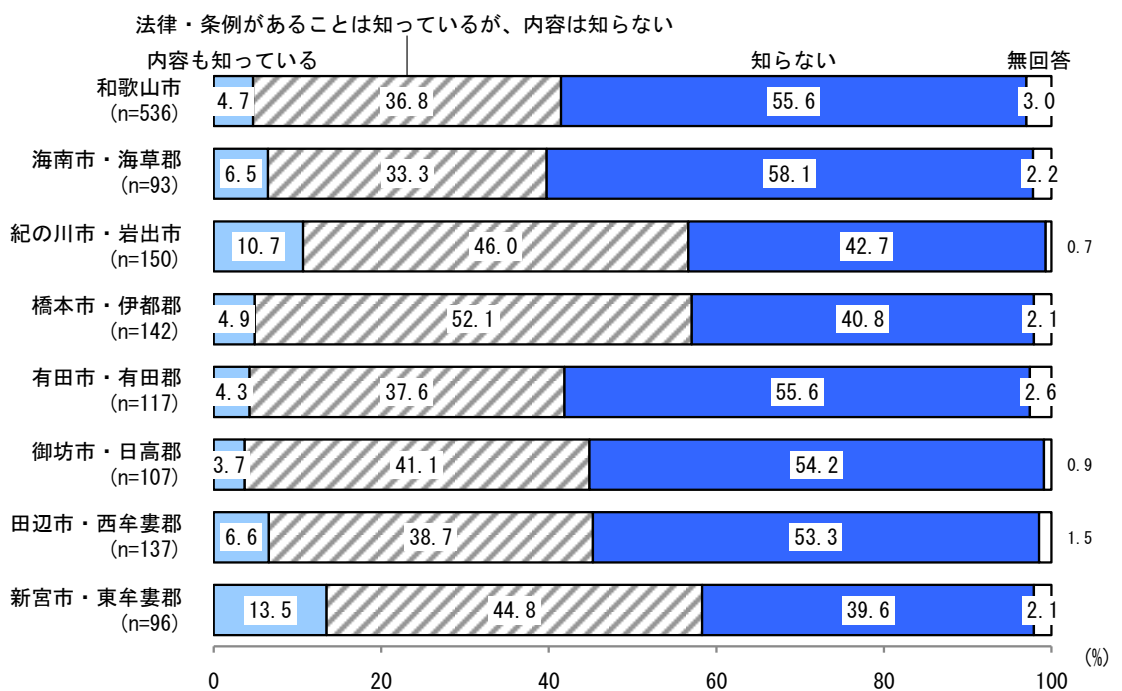
職業別では、公務員は「内容も知っている」が29.1%、「法律・条例があることは知っているが、内容は知らない」が47.9%で、いずれも最も高く、認知率も最も高くなっている。(図3-2-3)

【図3-2-3 職業別 法律や条例の認知状況 イ) 部落差別の解消の推進に関する法律】



居住地域別では、「内容も知っている」の割合は新宮市・東牟婁郡が13.5%で最も高く、次いで紀の川市・岩出市の10.7%となっている。「内容も知っている」と「法律・条例があることは知っているが、内容は知らない」をあわせた認知率は、橋本市・伊都郡が57.0%で最も高く、次いで紀の川市・岩出市の56.7%となっている。海南市・海草郡の認知率は39.8%で最も低くなっている。(図3-2-4)

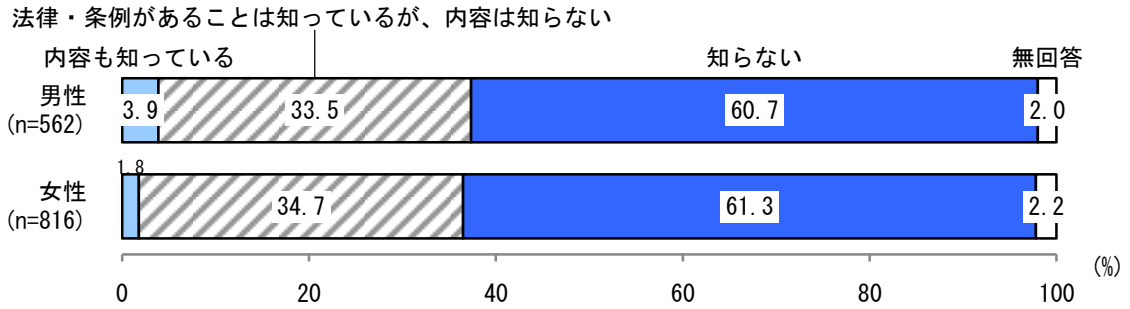
【図3-2-4 居住地域別 法律や条例の認知状況 イ) 部落差別の解消の推進に関する法律】



ウ) 和歌山県人権尊重の社会づくり条例

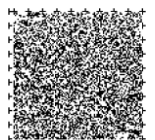
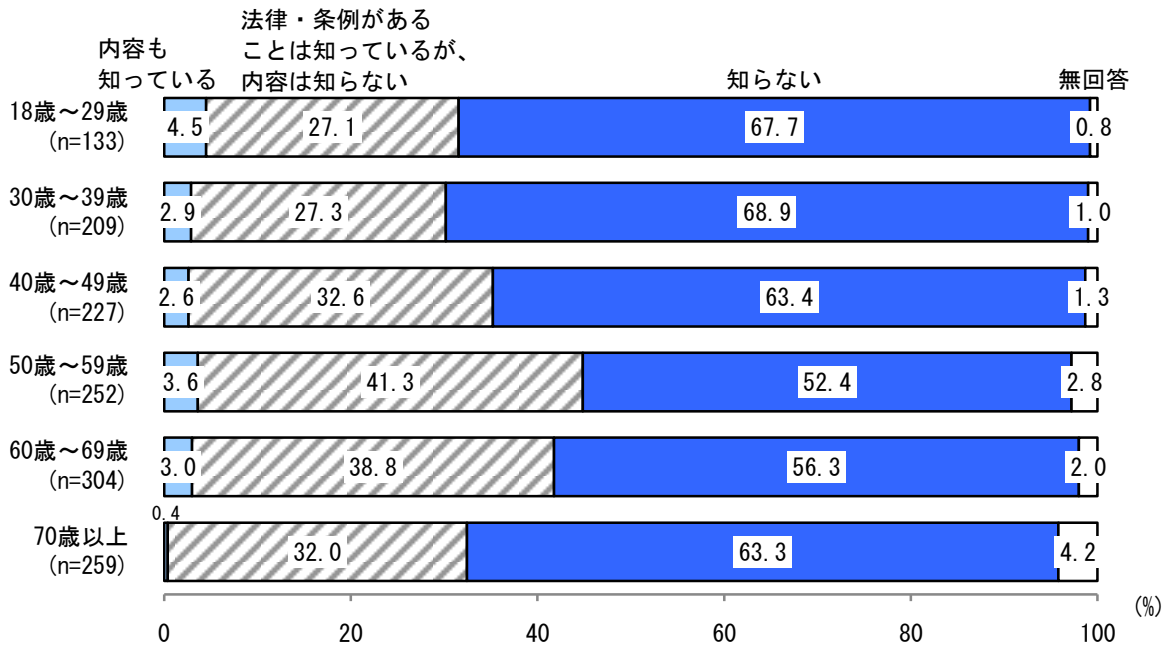
性別では、男女とも「知らない」の割合が6割となっている。一方、認知率は男性が37.4%、女性が36.5%で同程度となっている。(図3-3-1)

【図3-3-1 性別 法律や条例の認知状況 ウ) 和歌山県人権尊重の社会づくり条例】



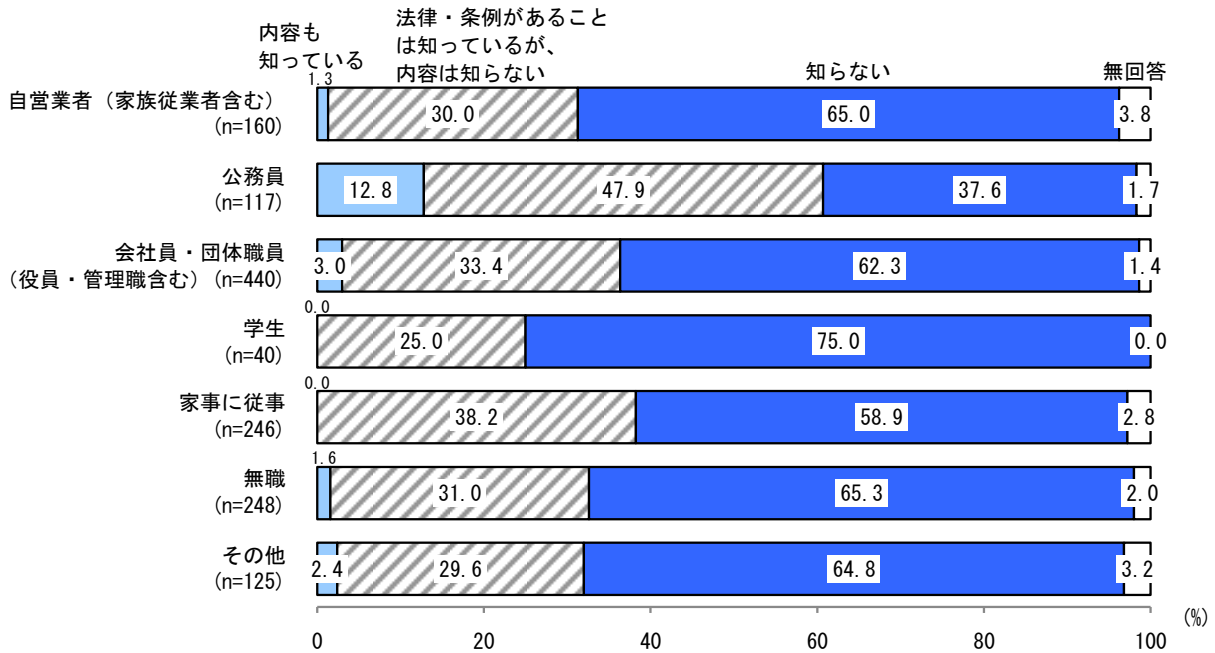
年齢別では、「知らない」の割合は30歳～39歳が68.9%で最も高く、次いで18歳～29歳が67.7%、40歳～49歳が63.4%となっている。一方、認知率は50歳～59歳が44.9%で最も高くなっている。(図3-3-2)

【図3-3-2 年齢別 法律や条例の認知状況 ウ) 和歌山県人権尊重の社会づくり条例】



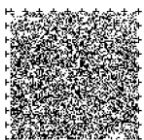
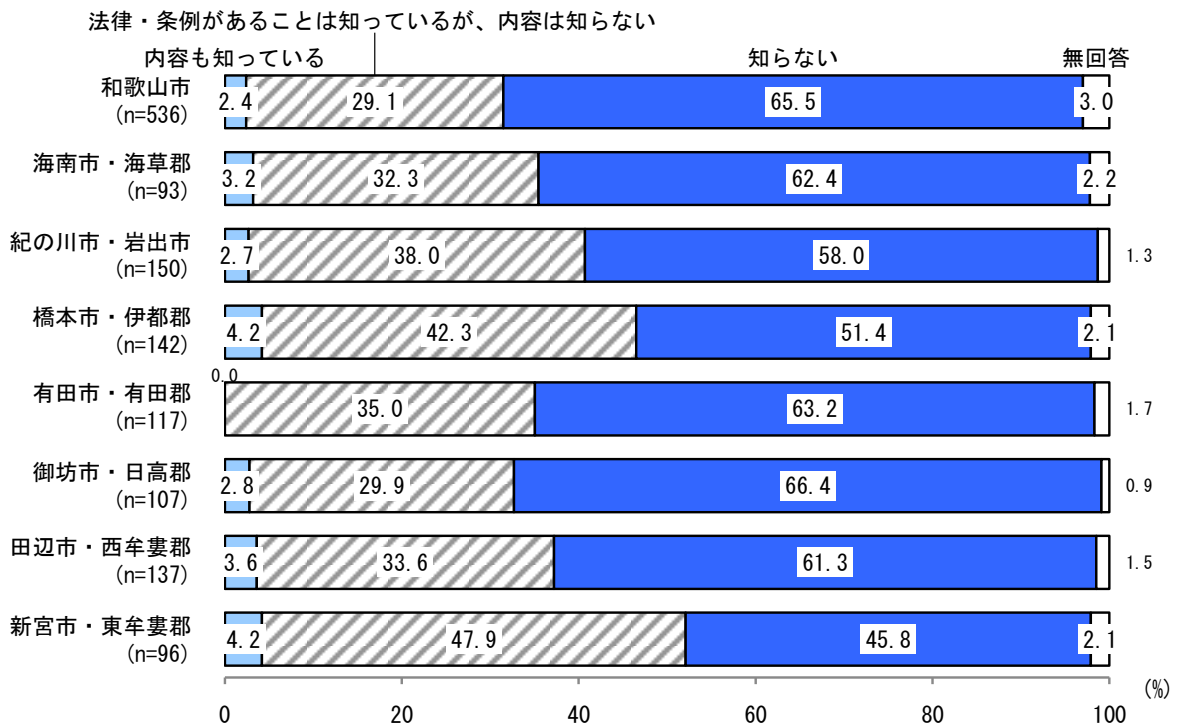
職業別では、公務員は「内容も知っている」が12.8%、「法律・条例があることは知っているが、内容は知らない」が47.9%で、いずれも最も高く、認知率も最も高くなっている。(図3-3-3)

【図3-3-3 職業別 法律や条例の認知状況 ウ)和歌山県人権尊重の社会づくり条例】



居住地域別では、「内容も知っている」と「法律・条例があることは知っているが、内容は知らない」をあわせた認知率は、新宮市・東牟婁郡が52.1%で最も高く、次いで橋本市・伊都郡が46.5%となっている。和歌山市の認知率は31.5%で最も低くなっている。(図3-3-4)

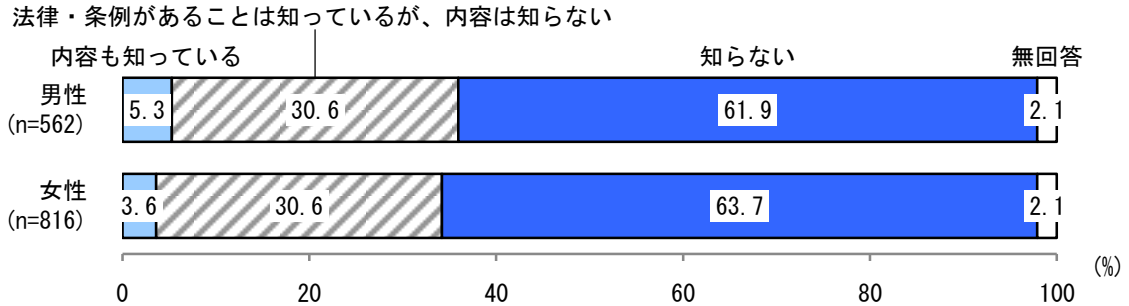
【図3-3-4 居住地域別 法律や条例の認知状況 ウ)和歌山県人権尊重の社会づくり条例】



工) 和歌山県部落差別の解消の推進に関する条例

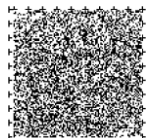
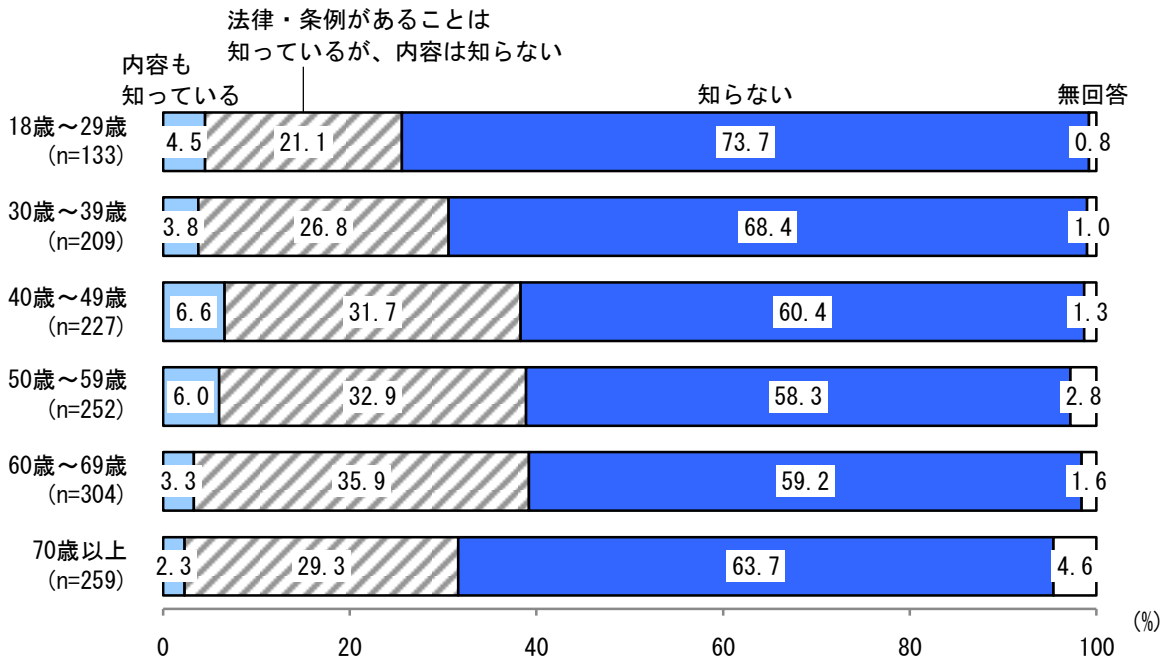
性別では、男女とも「知らない」の割合が6割となっている。一方、認知率は男性が35.9%、女性が34.2%で男性の方が1.7ポイント高い。(図3-4-1)

【図3-4-1 性別 法律や条例の認知状況 工) 和歌山県部落差別の解消の推進に関する条例】



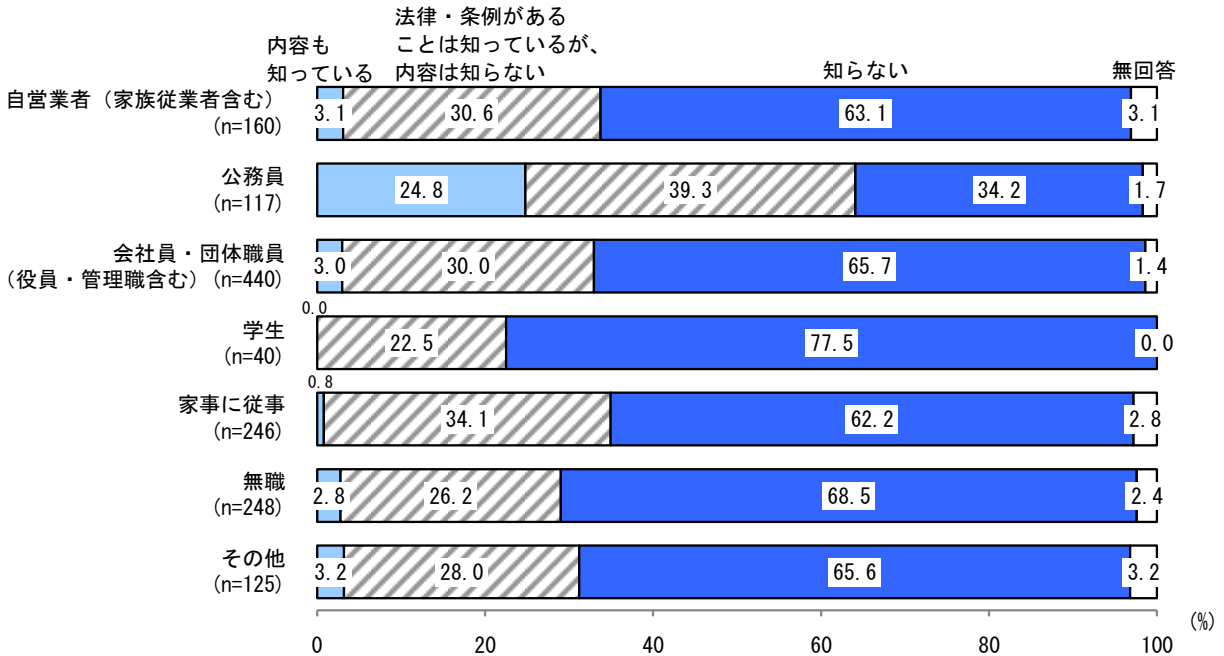
年齢別では、「知らない」の割合は18歳～29歳が73.7%で最も高く、次いで30歳～39歳が68.4%、70歳以上が63.7%となっている。これに対し、認知率は40歳～69歳までの各年代で高くなっている。(図3-4-2)

【図3-4-2 年齢別 法律や条例の認知状況 工) 和歌山県部落差別の解消の推進に関する条例】



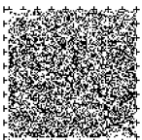
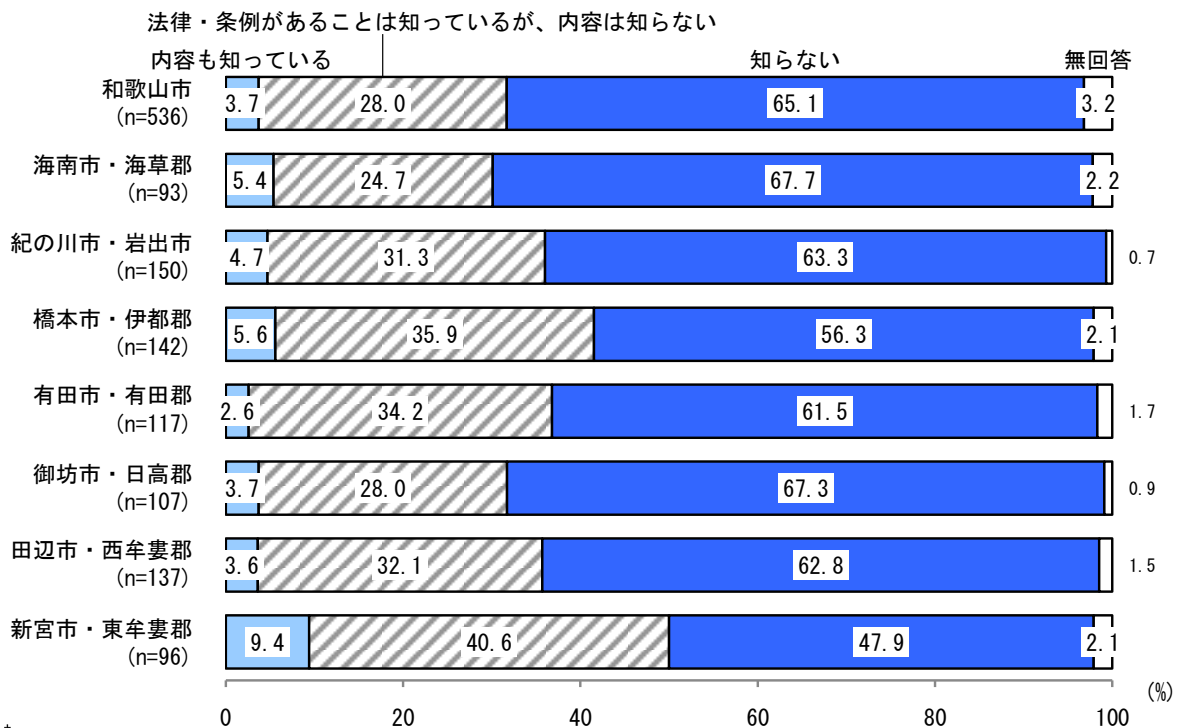
職業別では、公務員は「内容も知っている」が24.8%、「法律・条例があることは知っているが、内容は知らない」が39.3%で、いずれも最も高く、それに伴って認知率も最も高くなっている。(図3-4-3)

【図3-4-3 職業別 法律や条例の認知状況 エ) 和歌山県部落差別の解消の推進に関する条例】



居住地域別では、「内容も知っている」と「法律・条例があることは知っているが、内容は知らない」をあわせた認知率は、新宮市・東牟婁郡が50.0%で最も高くなっている。これに対し、海南市・海草郡の認知率が30.1%で最も低くなっている。(図3-4-4)

【図3-4-4 居住地域別 法律や条例の認知状況 エ) 和歌山県部落差別の解消の推進に関する条例】



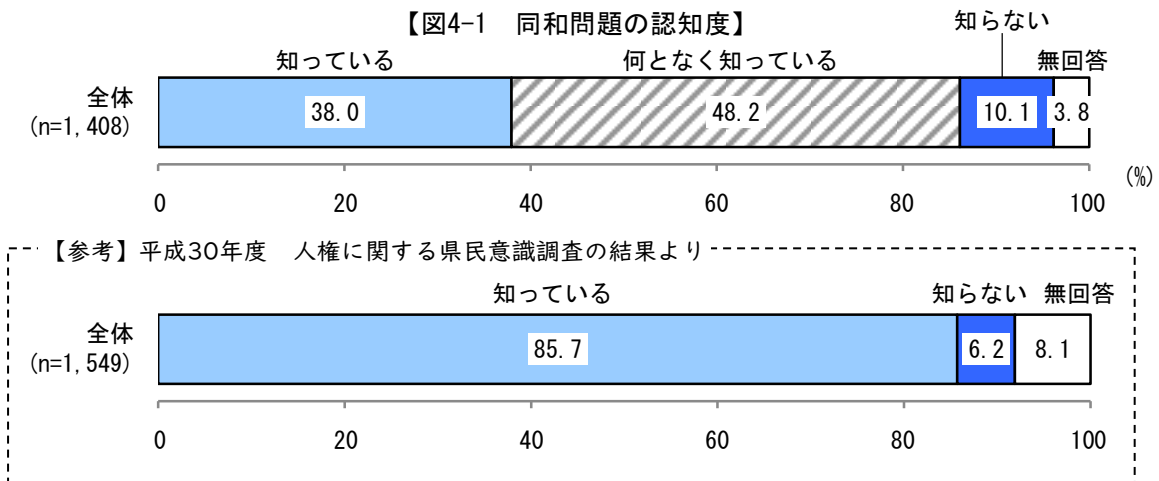
4. 同和問題の認知状況

(1) 同和問題の認知度

問3 あなたは、同和問題（部落差別）といわれるものがどういうものか知っていますか。
 (○はひとつ)

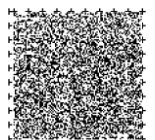
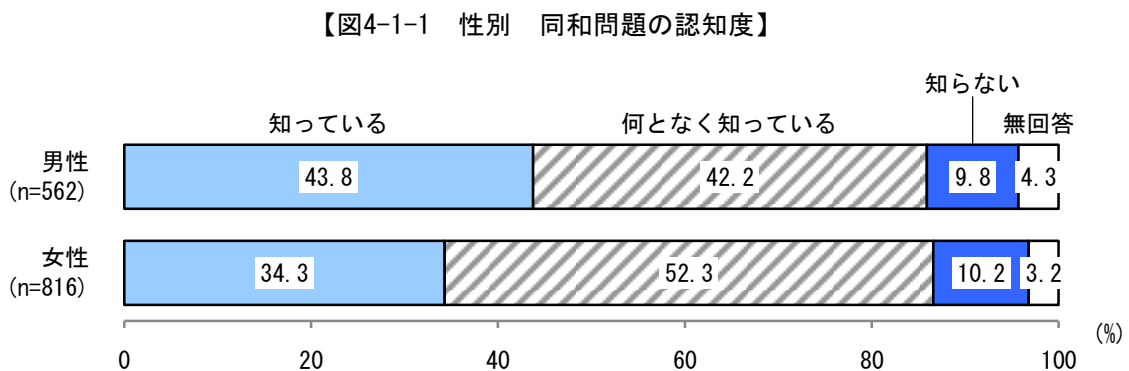
◇全体

同和問題について、「何となく知っている」が48.2%で最も多く、次いで「知っている」が38.0%で、両者をあわせた認知率は86.2%となっている。一方、「知らない」は10.1%となっている。(図4-1)



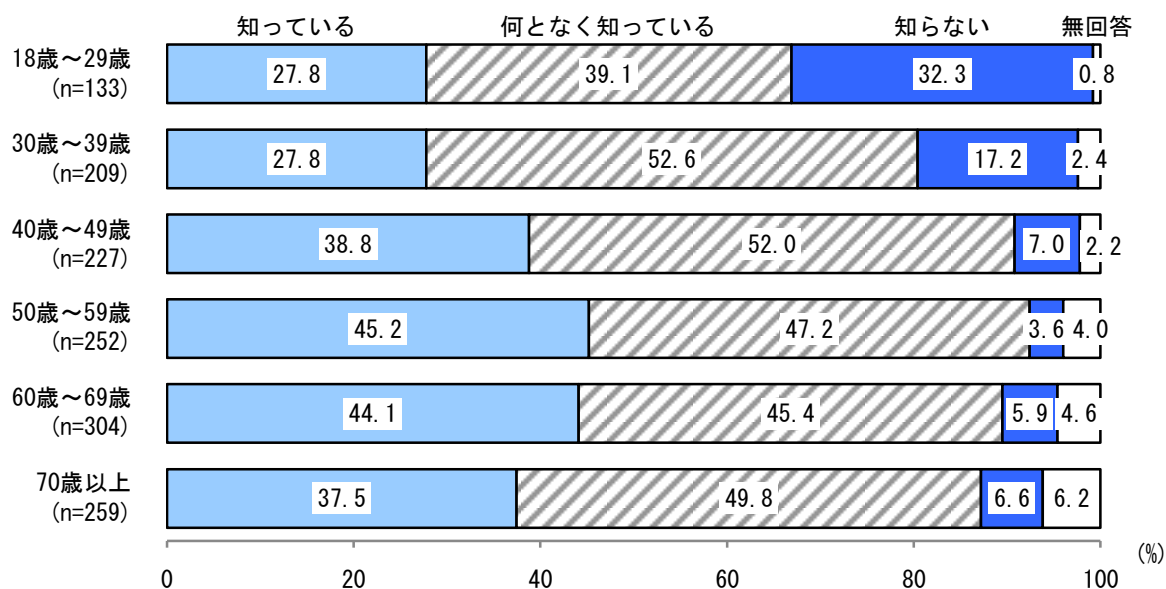
◇回答者の属性別

性別では、「知っている」の割合は男性が43.8%、女性が34.3%で男性の方が9.5ポイント高くなっている。認知率は男性が86.0%、女性が86.6%で同程度となっている。(図4-1-1)



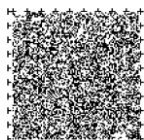
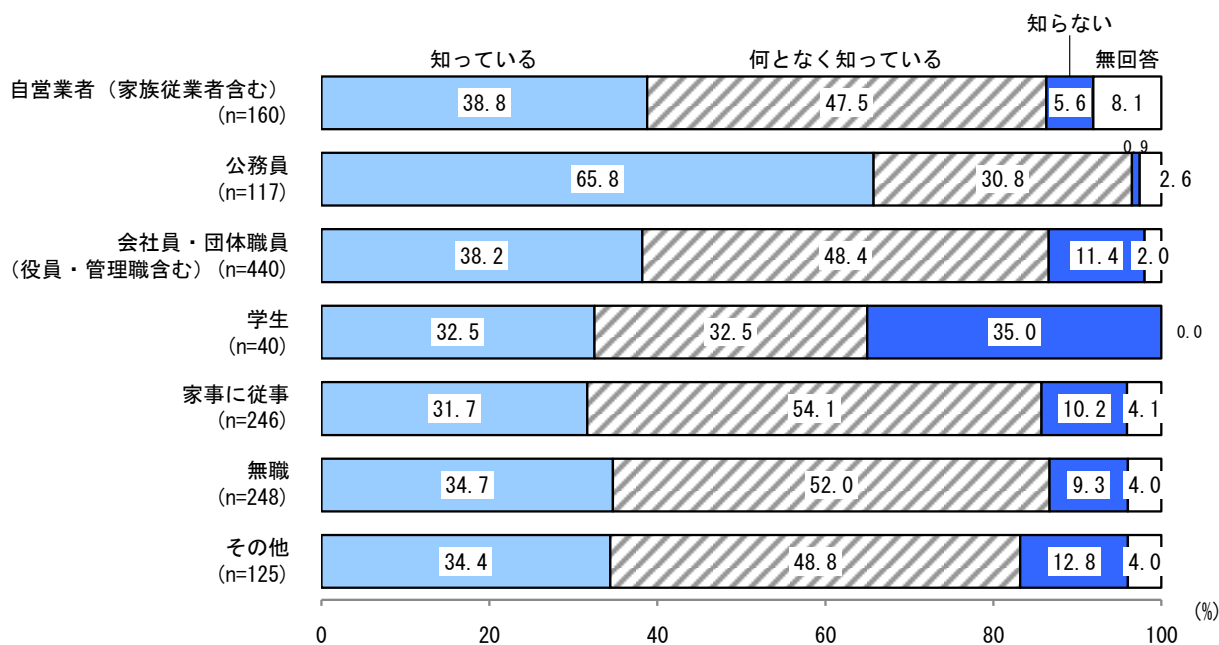
年齢別では、「知っている」の割合は50歳～59歳が45.2%で最も高く、認知率も50歳～59歳が92.4%で最も高くなっている。一方、「知らない」の割合は18歳～29歳が32.3%で最も高い。(図4-1-2)

【図4-1-2 年齢別 同和問題の認知度】



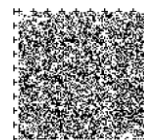
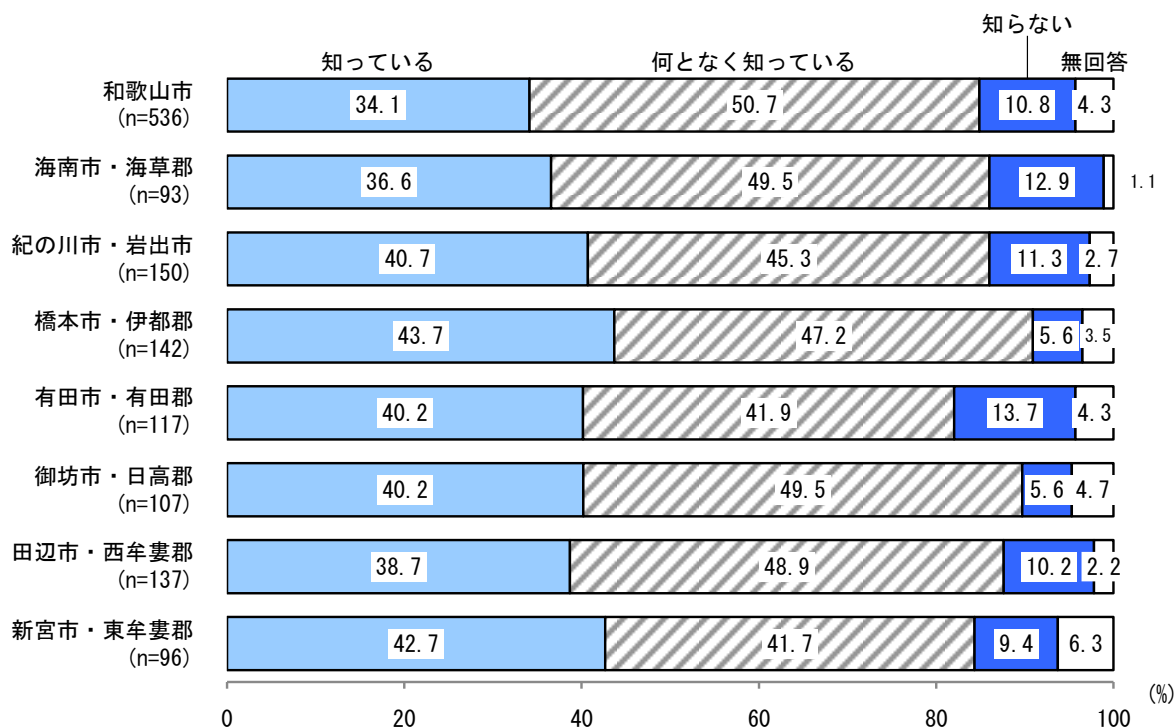
職業別では、「知っている」の割合は公務員が65.8%で最も高く、認知度も96.6%と高くなっている。一方、「知らない」の割合は学生が35.0%で最も高い。(図4-1-3)

【図4-1-3 職業別 同和問題の認知度】



居住地域別では、「知っている」の割合は橋本市・伊都郡が43.7%で最も高く、認知度も90.9%で最も高くなっている。一方、「知らない」の割合は有田市・有田郡が13.7%で最も高い。(図4-1-4)

【図4-1-4 居住地域別 同和問題の認知度】



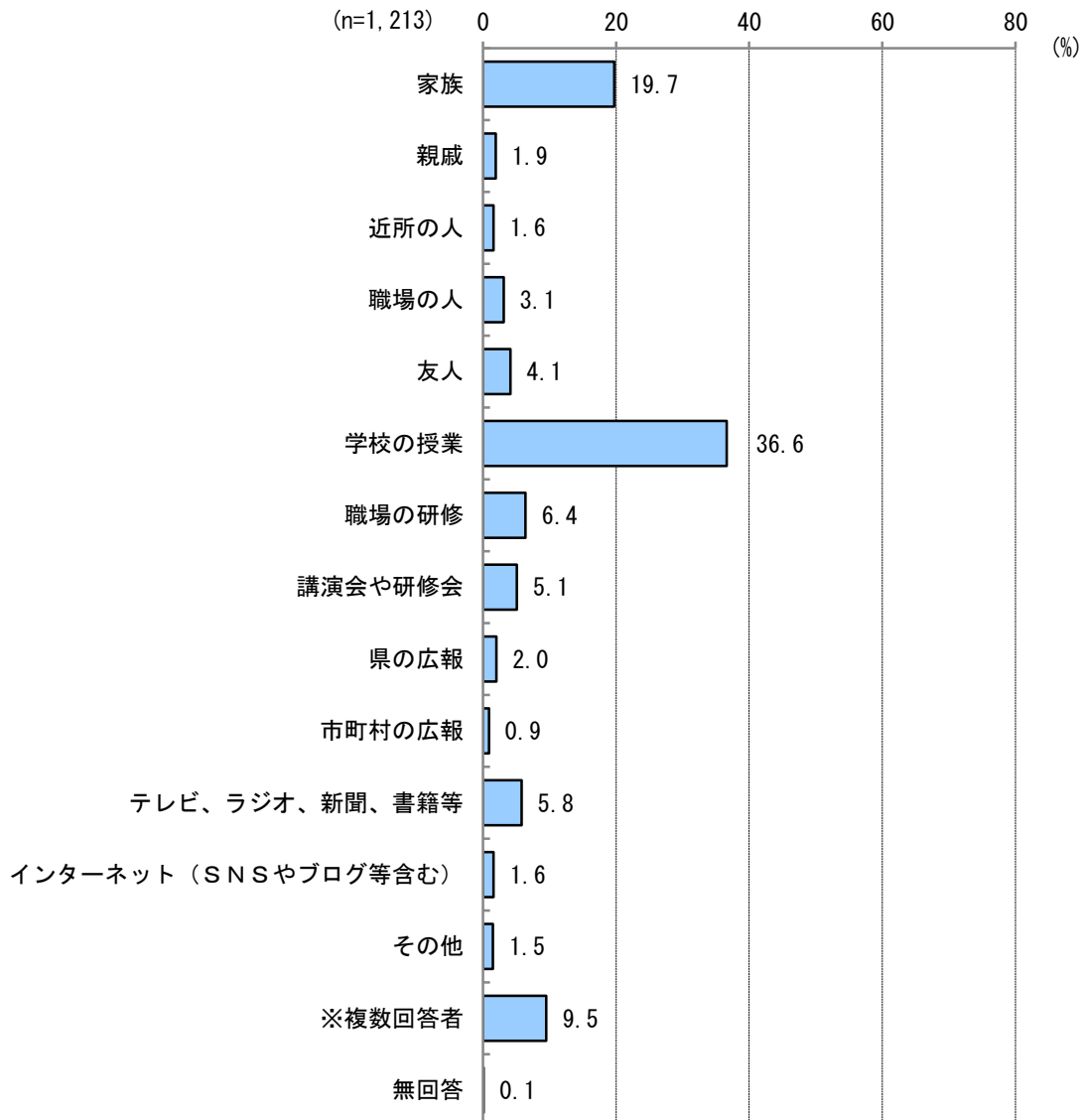
(2) 同和問題についての情報の入手先

問4 同和問題（部落差別）について、誰からもしくは何からお知りになりましたか。最も記憶に残っているものをひとつお選びください。

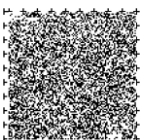
◇全体

同和問題の情報の入手先は、「学校の授業」が36.6%で最も多く、次いで「家族」が19.7%、「職場の研修」が6.4%となっている。（図4-2）

【図4-2 同和問題についての情報の入手先】



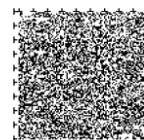
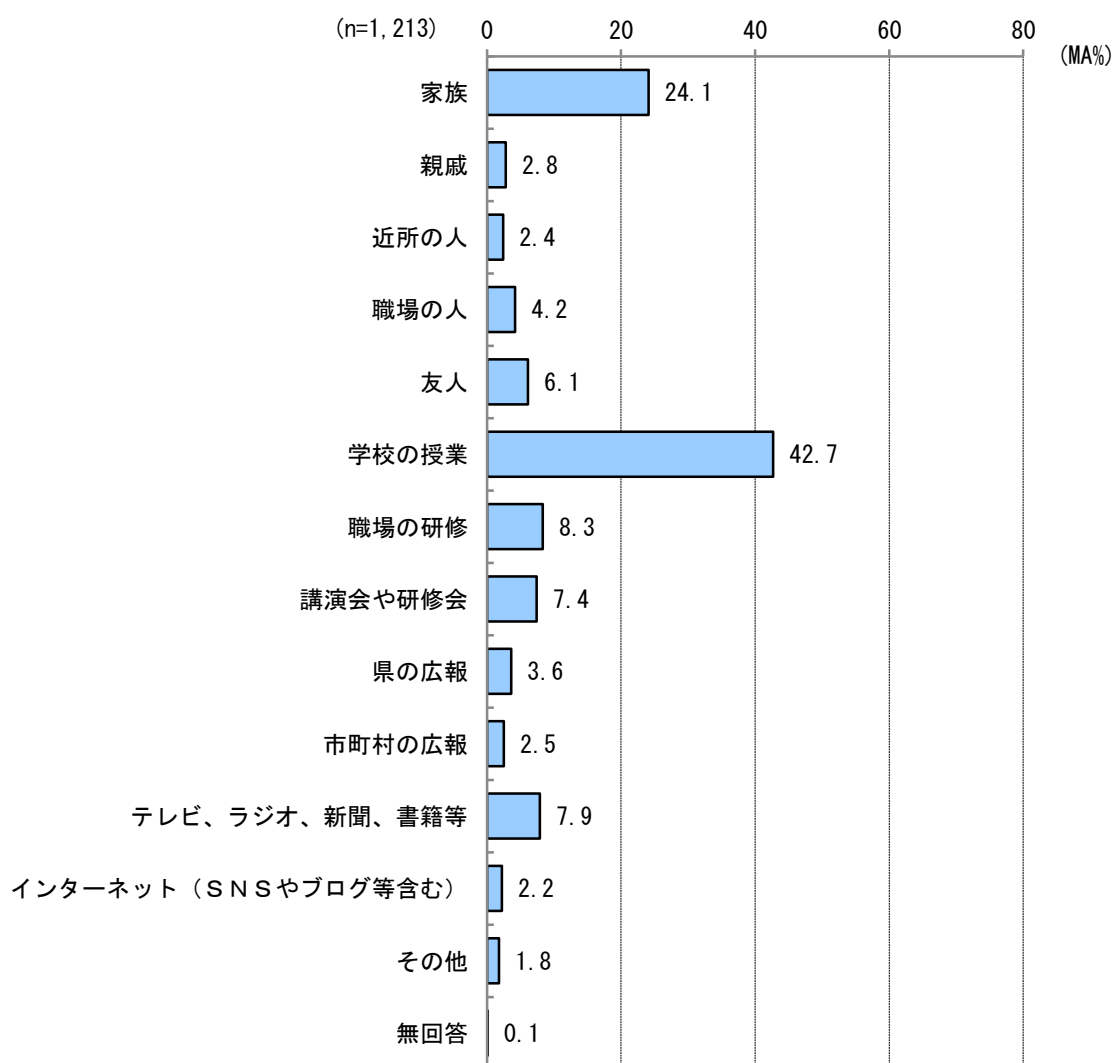
注) 本設問は単一選択を求めた問いであるが、回答項目を複数選択した方が115名おられ、その方々の回答は「※複数回答者」として集計している。なお、複数選択した回答を含めた集計結果については次のページに参考として掲載している。



《参考》

※複数回答として集計

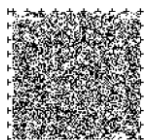
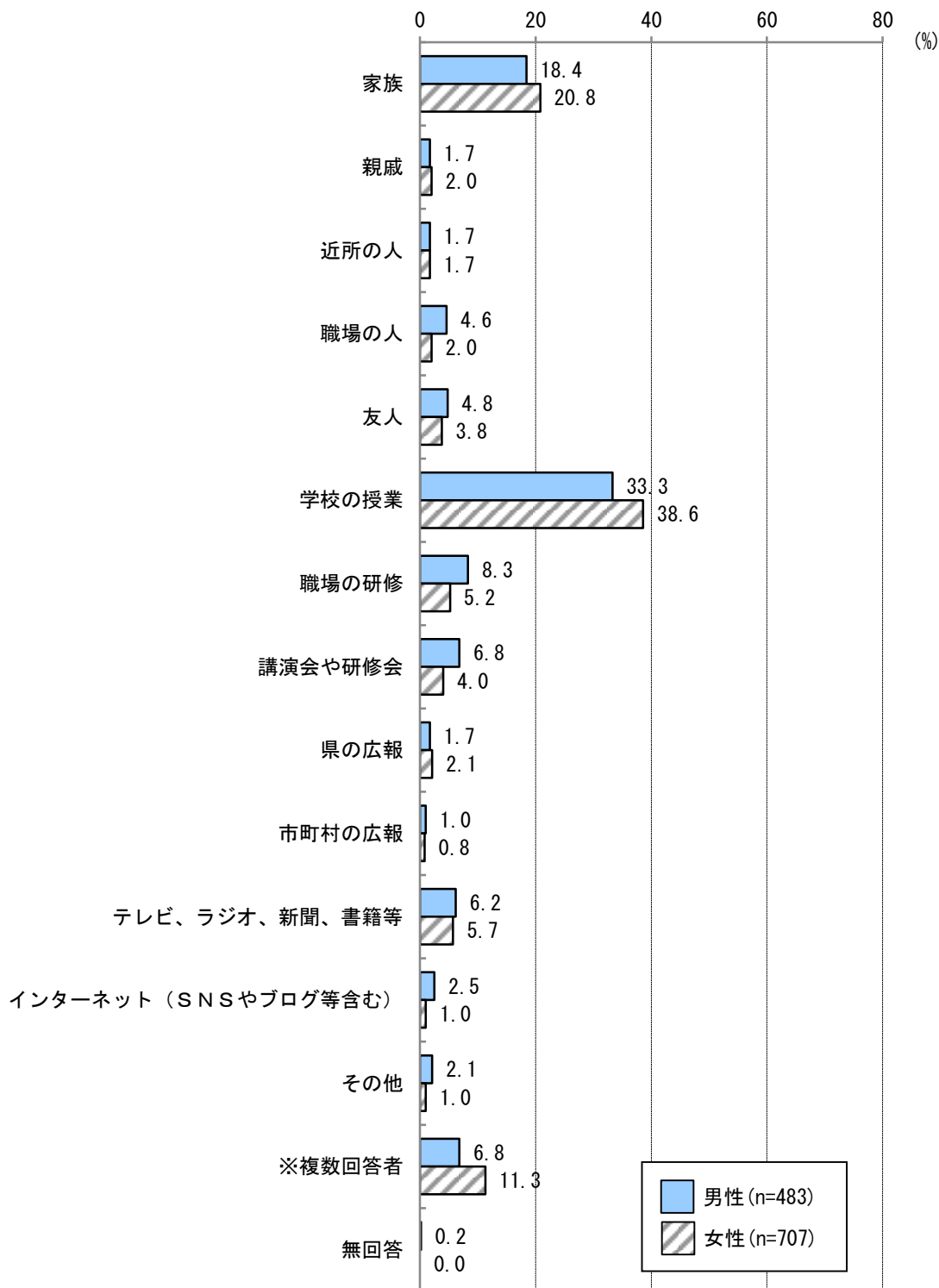
【図4-3 同和問題についての情報の入手先】



◇回答者の属性別

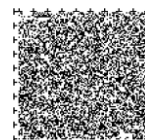
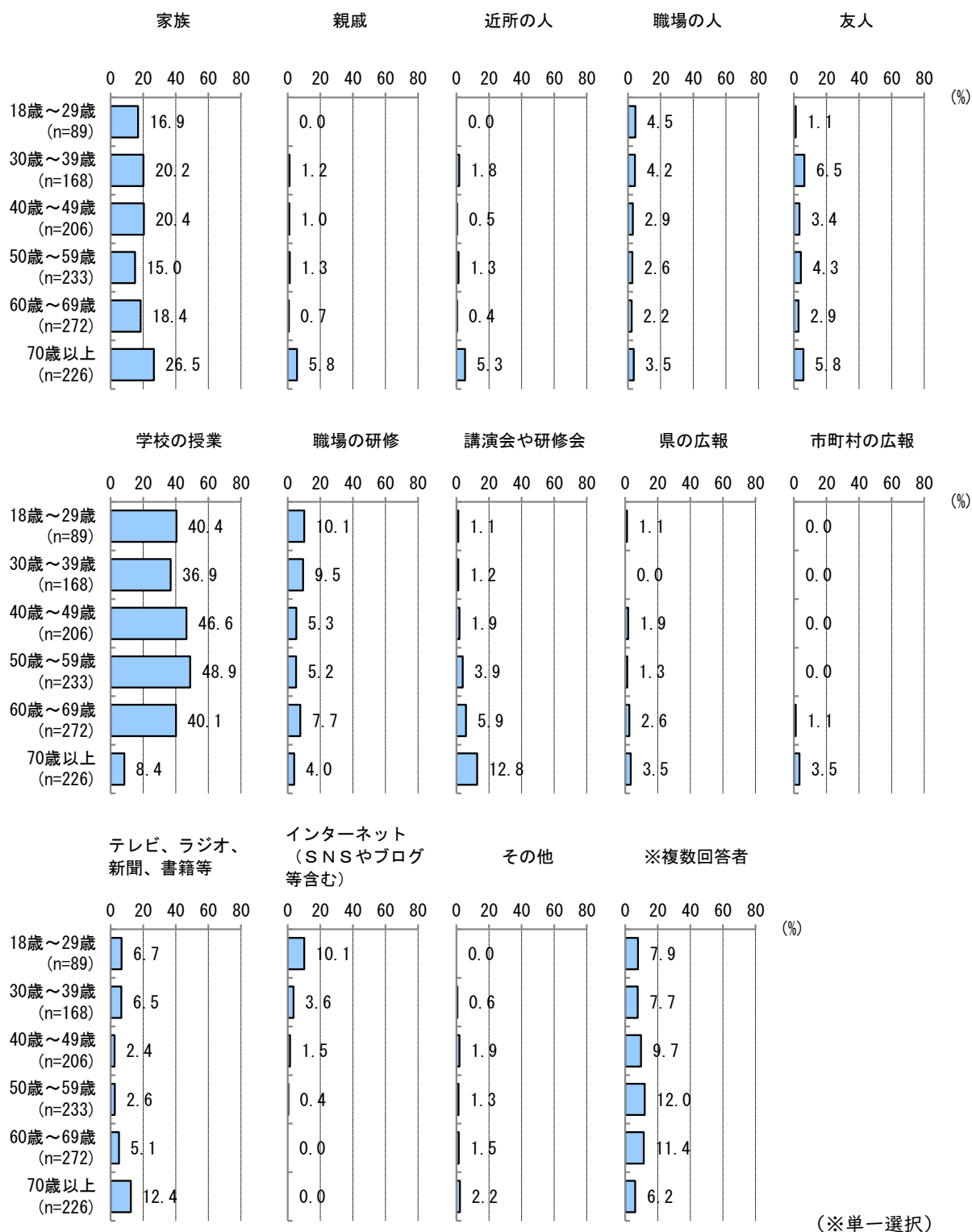
性別では、男女とも「学校の授業」が最も多く、男性が33.3%、女性が38.6%で、女性の方が5.3ポイント高くなっている。これに次いで男女とも「家族」が多くなっている。(図4-2-1)

【図4-2-1 性別 同和問題についての情報の入手先】



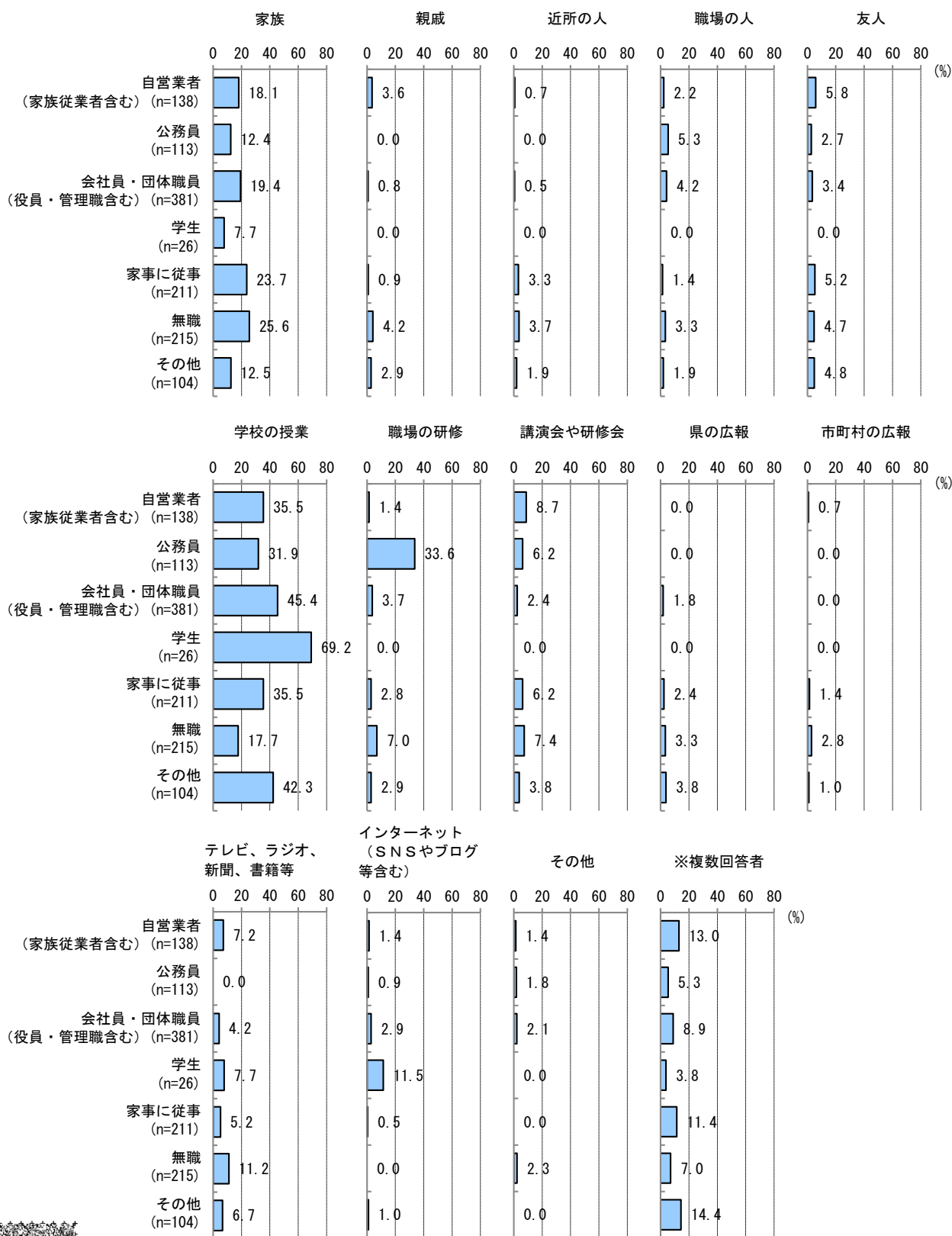
年齢別では、69歳までの年代は「学校の授業」が最も多くなっている。70歳以上は「家族」が26.5%で多く、次いで「講演会や研修会」が12.8%となっている。(図4-2-2)

【図4-2-2 年齢別 同和問題についての情報の入手先】

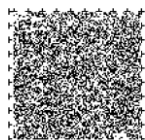


職業別では、公務員は「職場の研修」が33.6%、無職は「家族」が25.6%で最も多い。これら以外の職業では「学校の授業」が最も多くなっている。(図4-2-3)

【図4-2-3 職業別 同和問題についての情報の入手先】

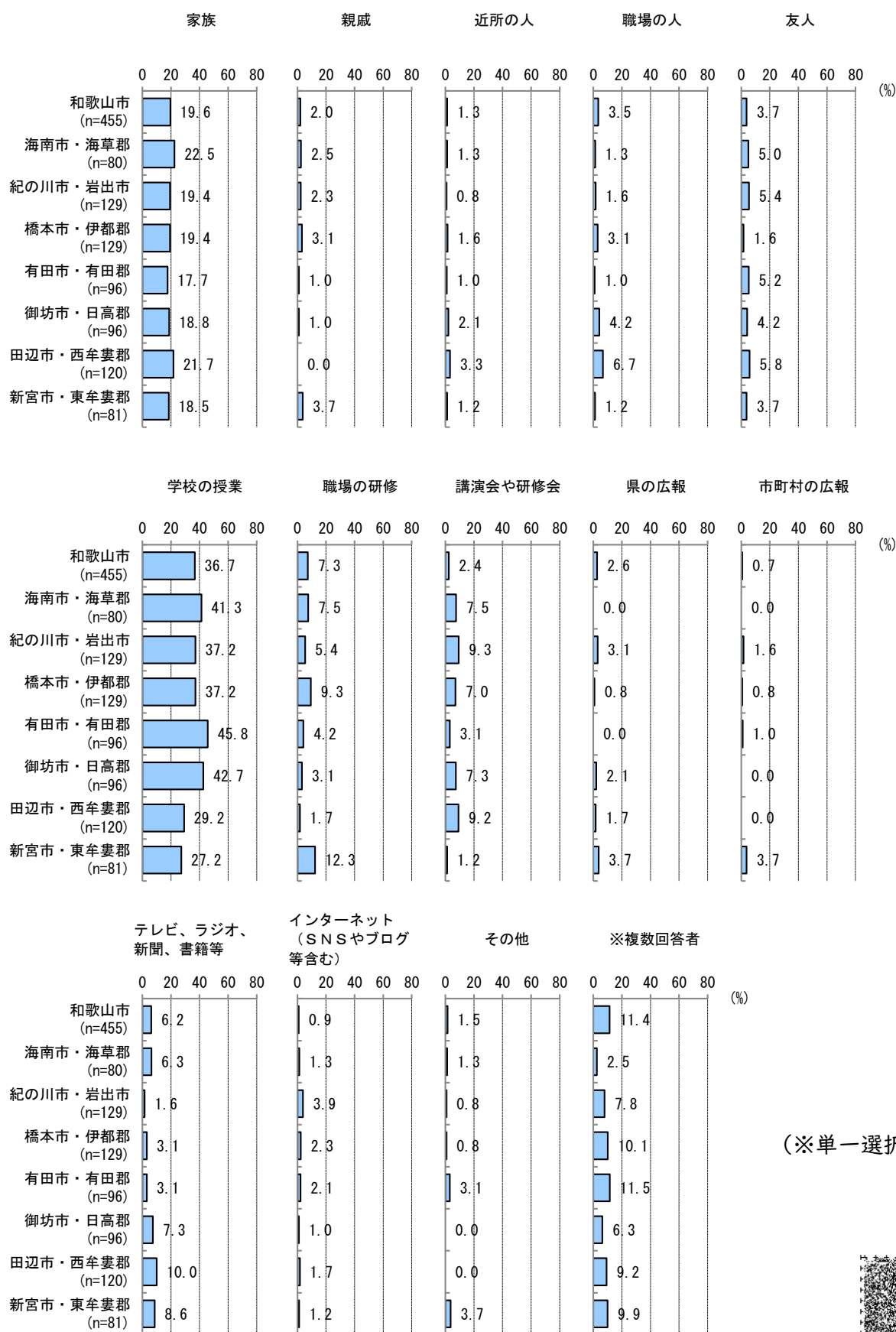


(※単一選択)

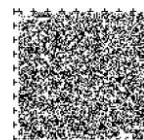


居住地域別では、いずれの地域も「学校の授業」が最も多く、有田市・有田郡が45.8%で最も高い。これに次いで御坊市・日高郡の42.7%となっている。(図4-2-4)

【図4-2-4 居住地域別 同和問題についての情報の入手先】



(※単一選択)



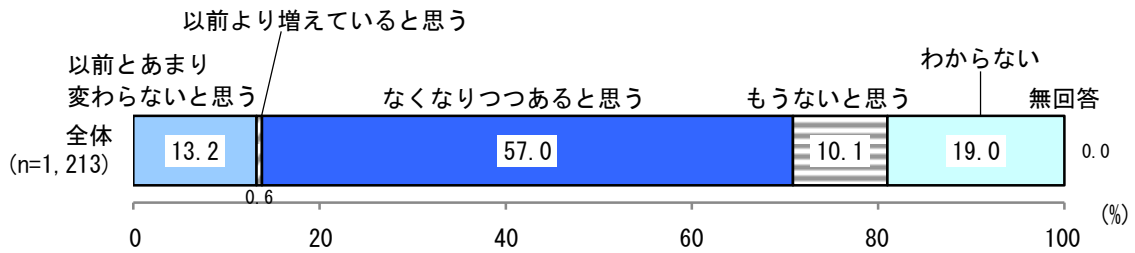
5. 部落差別の現状に対する認識

問5 あなたは、部落差別の現状についてどう思いますか。(○はひとつ)

◇全体

部落差別の現状について、「なくなりつつあると思う」が57.0%で最も多く、次いで「わからない」が19.0%となっている。一方、「以前とあまり変わらないと思う」は13.2%、「もうないと思う」は10.1%となっている。(図5)

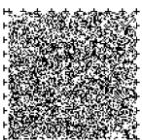
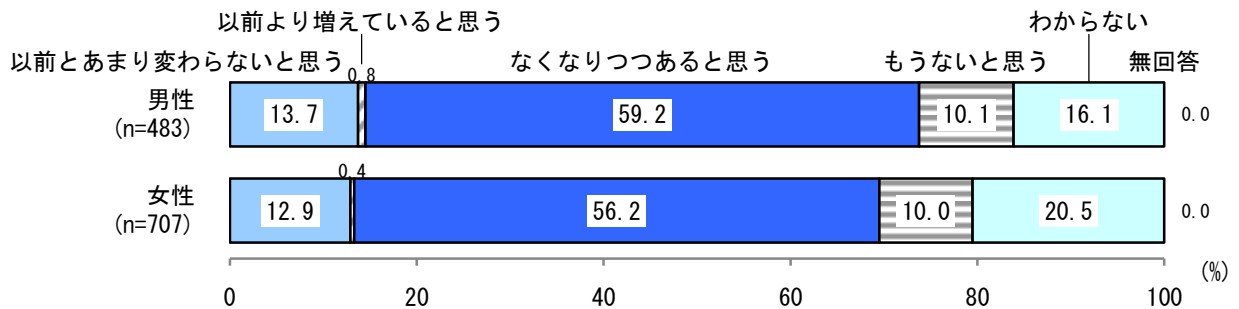
【図5 部落差別の現状に対する認識】



◇回答者の属性別

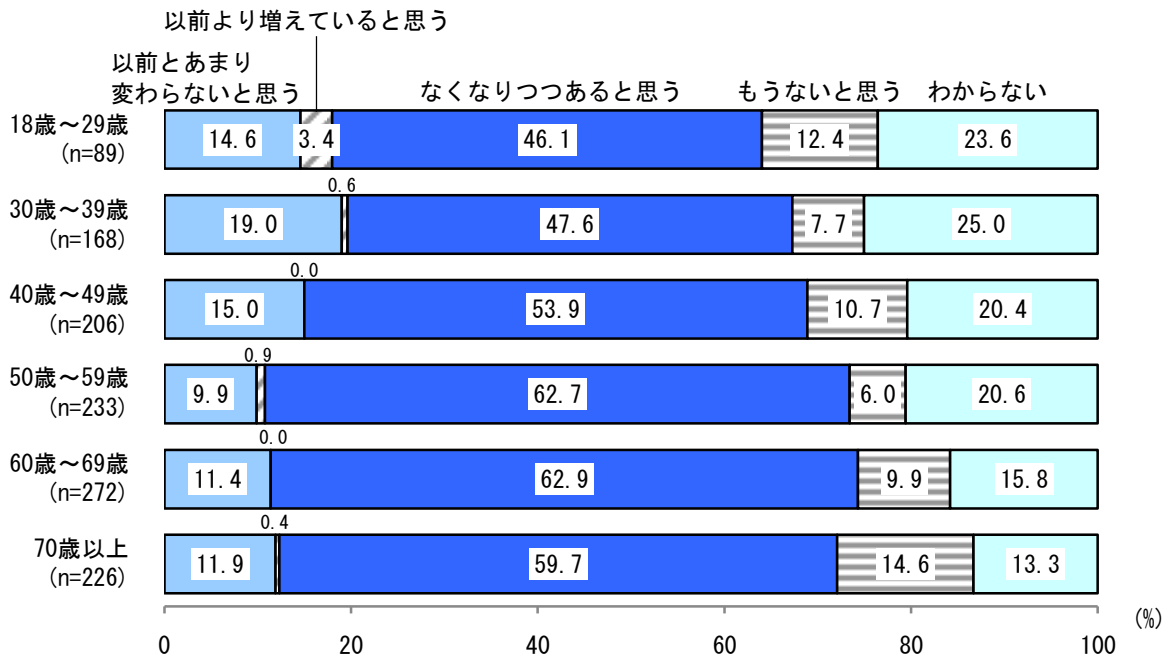
性別では、男女とも「なくなりつつあると思う」が最も多くなっている。「以前とあまり変わらないと思う」「もうないと思う」の各割合は男女同程度となっている。(図5-1)

【図5-1 性別 部落差別の現状に対する認識】



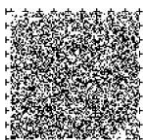
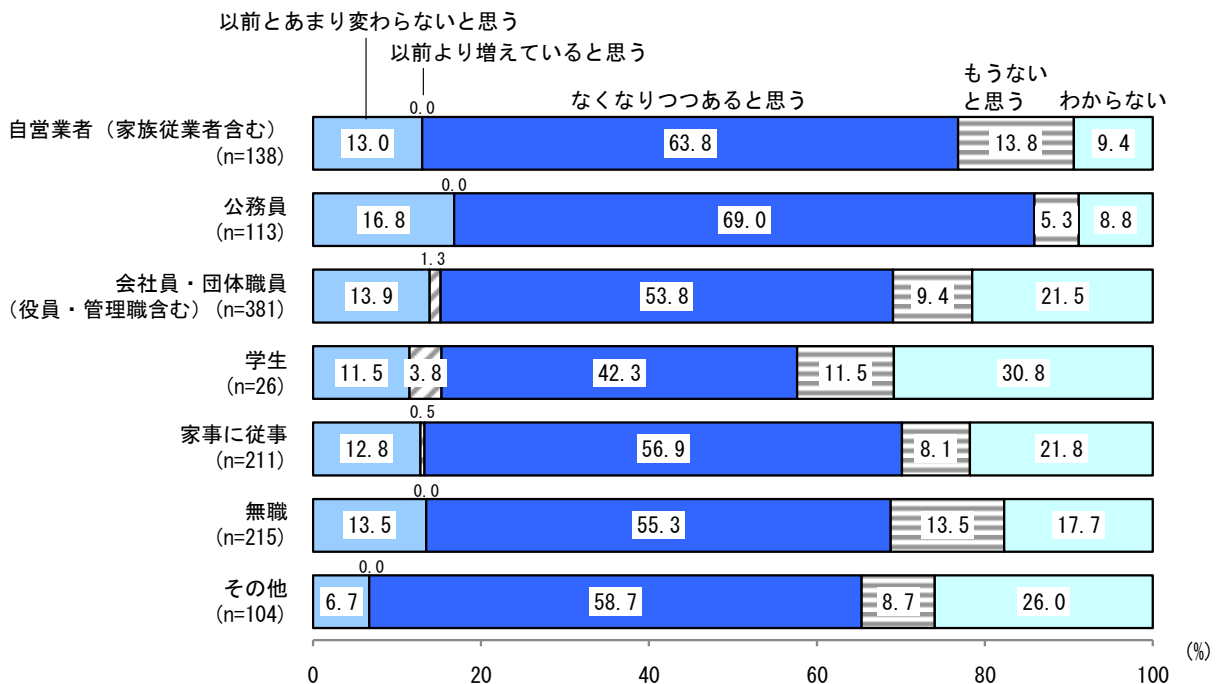
年齢別では、いずれも「なくなりつつあると思う」が最も多く、40歳以上の年代で過半数を占めている。(図5-2)

【図5-2 年齢別 部落差別の現状に対する認識】



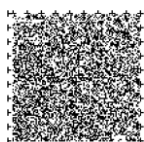
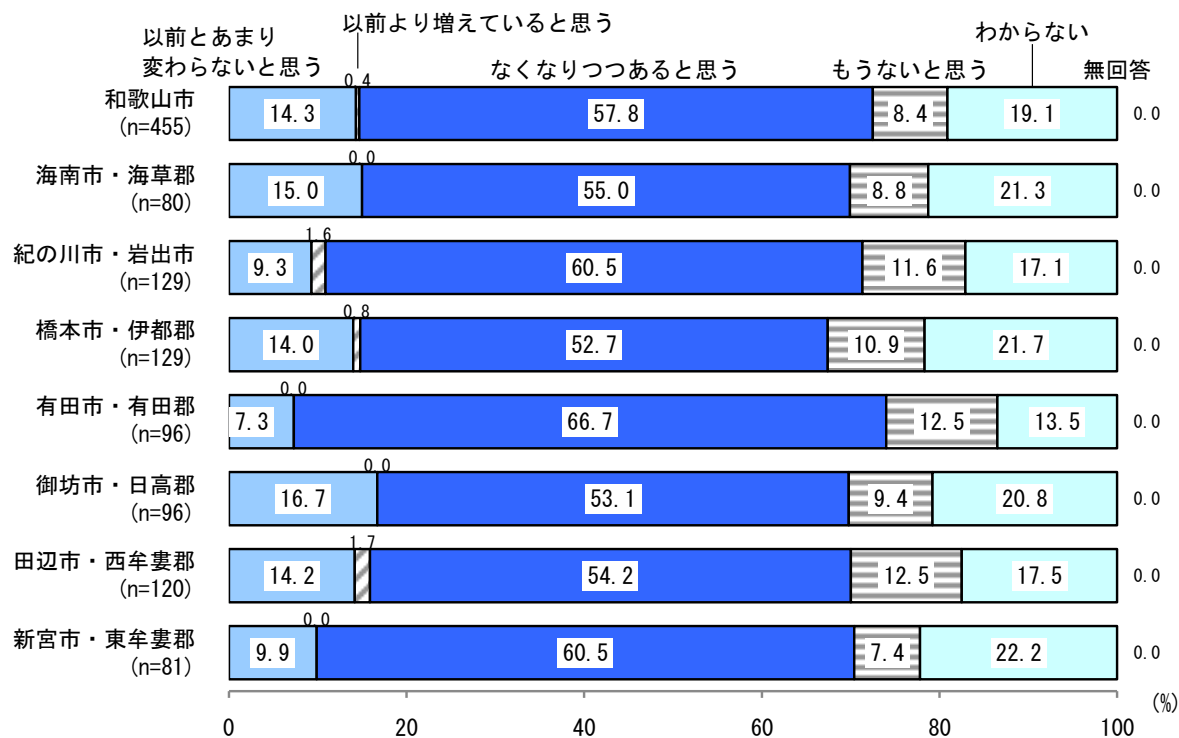
職業別では、「なくなりつつあると思う」の割合は公務員が69.0%で最も高く、「以前とあまり変わらないと思う」も公務員が16.8%で最も高くなっている。(図5-3)

【図5-3 職業別 部落差別の現状に対する認識】



居住地域別では、いずれの地域も「なくなりつつあると思う」が多く、その割合は有田市・有田郡が66.7%で最も高く、次いで紀の川市・岩出市及び新宮市・東牟婁郡の60.5%となっている。(図5-4)

【図5-4 居住地域別 部落差別の現状に対する認識】



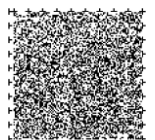
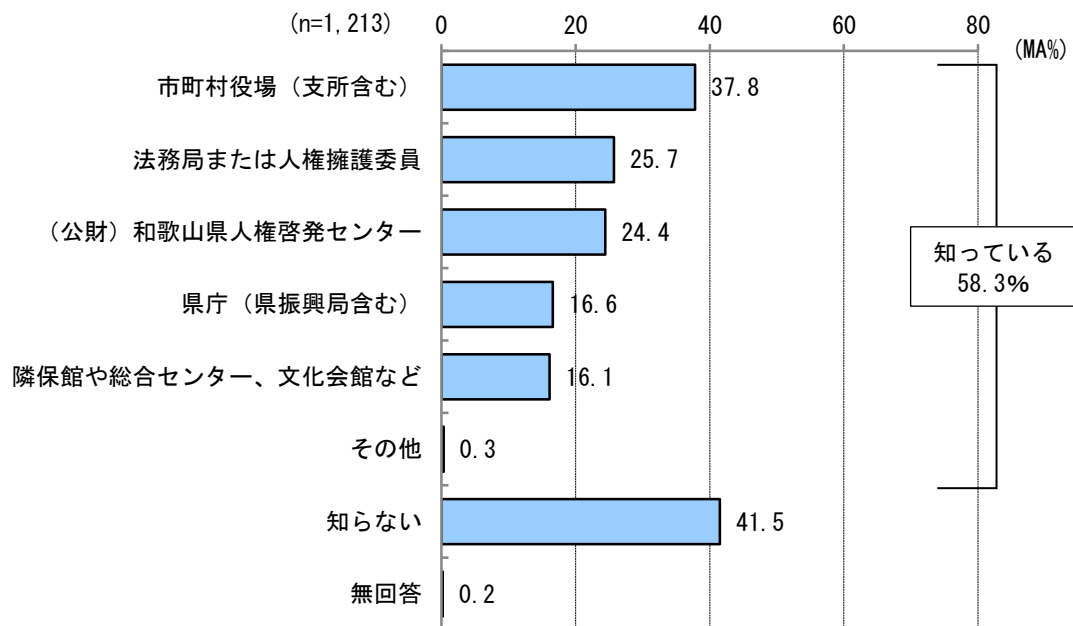
6. 部落差別に関する相談窓口の認知状況

問6 部落差別を受けた人が相談する窓口として、あなたが知っているものはどれですか。
(〇はいくつでも)

◇全体

部落差別被害の相談窓口について「知らない」が41.5%となっている。一方、何らかの窓口を知っている割合は58.3%で、知っているものでは「市町村役場（支所含む）」が37.8%で最も多く、次いで「法務局または人権擁護委員」が25.7%、「(公財)和歌山県人権啓発センター」が24.4%となっている。(図6)

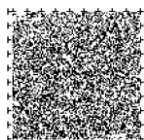
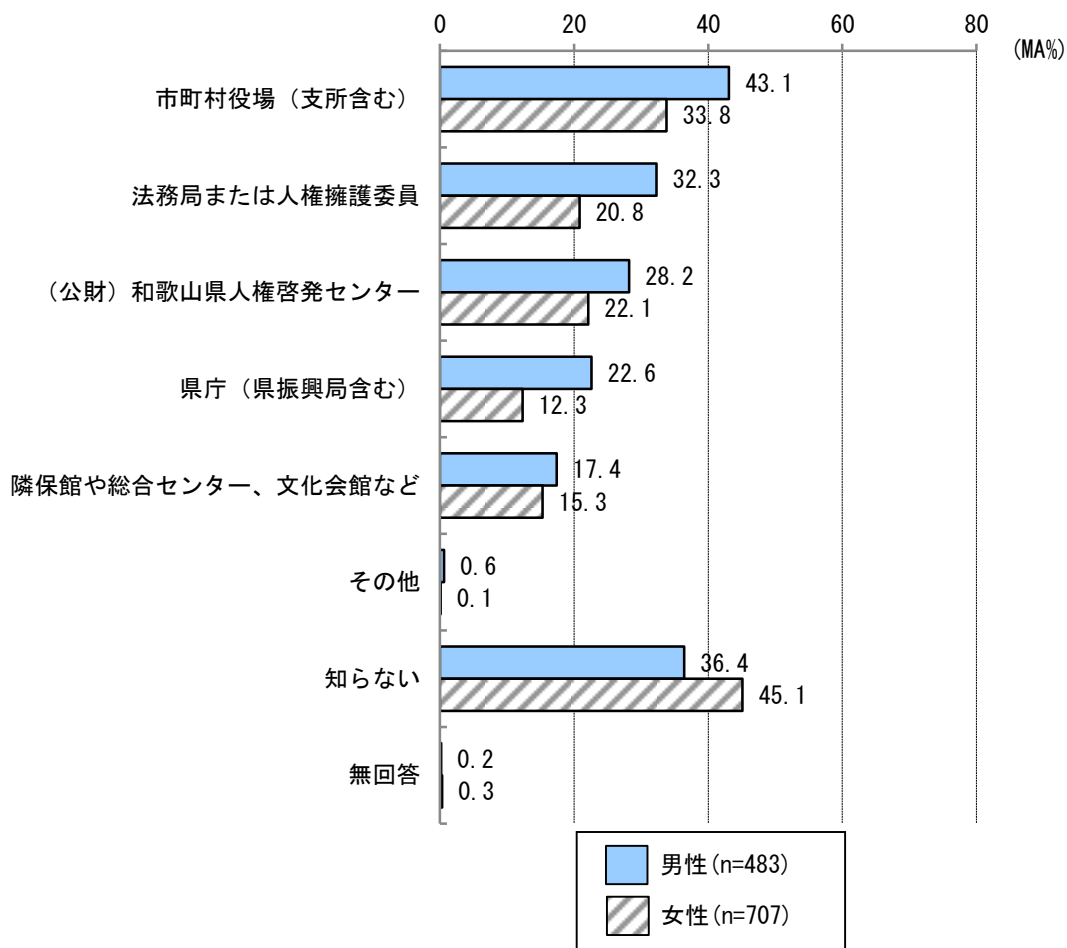
【図6 部落差別に関する相談窓口の認知状況】



◇回答者の属性別

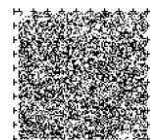
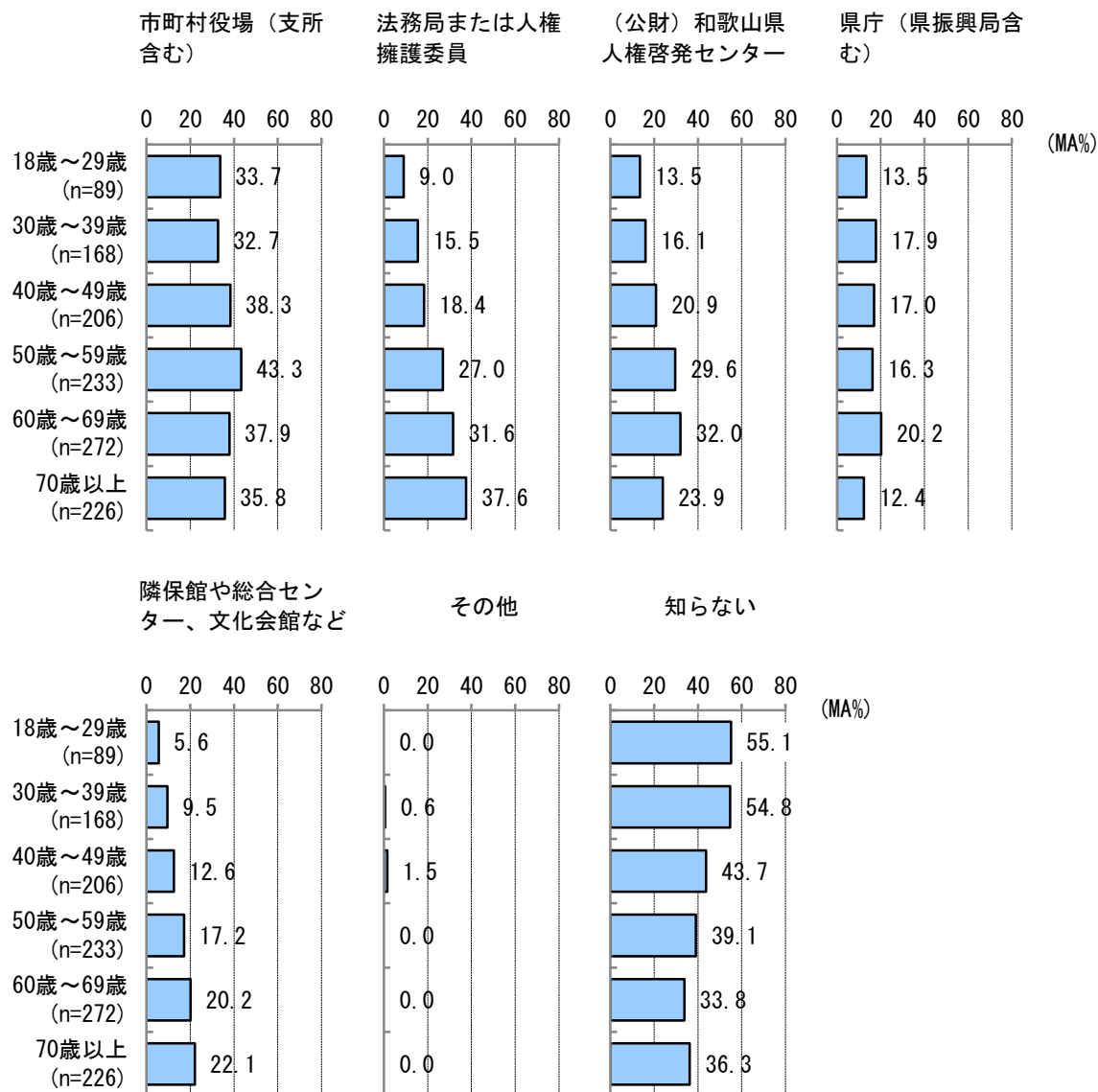
性別では、いずれの相談窓口も女性に比べ男性の割合の方が高くなっている。一方、「知らない」の割合は男性が36.4%、女性が45.1%で男性に比べ女性の方が8.7ポイント高い。(図6-1)

【図6-1 性別 部落差別に関する相談窓口の認知状況】



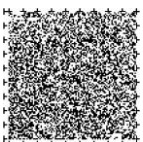
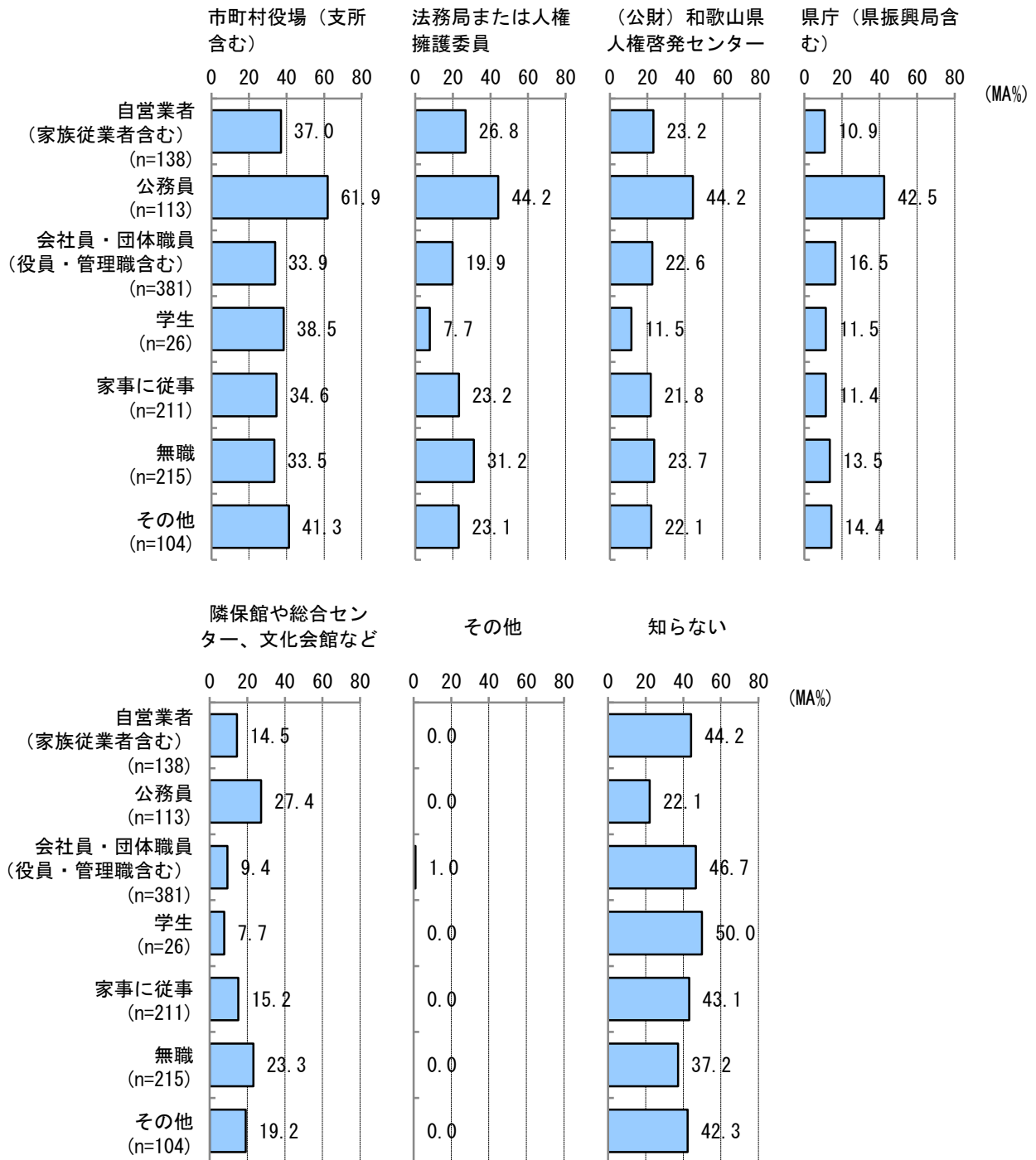
年齢別では、「法務局または人権擁護委員」や「隣保館や総合センター、文化会館など」の割合は年代が上がるとともに上昇し、いずれも70歳以上の割合が最も高くなっている。一方、「知らない」の割合は18歳～29歳が55.1%で最も高く、次いで30歳～39歳が54.8%となっている。(図6-2)

【図6-2 年齢別 部落差別に関する相談窓口の認知状況】



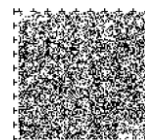
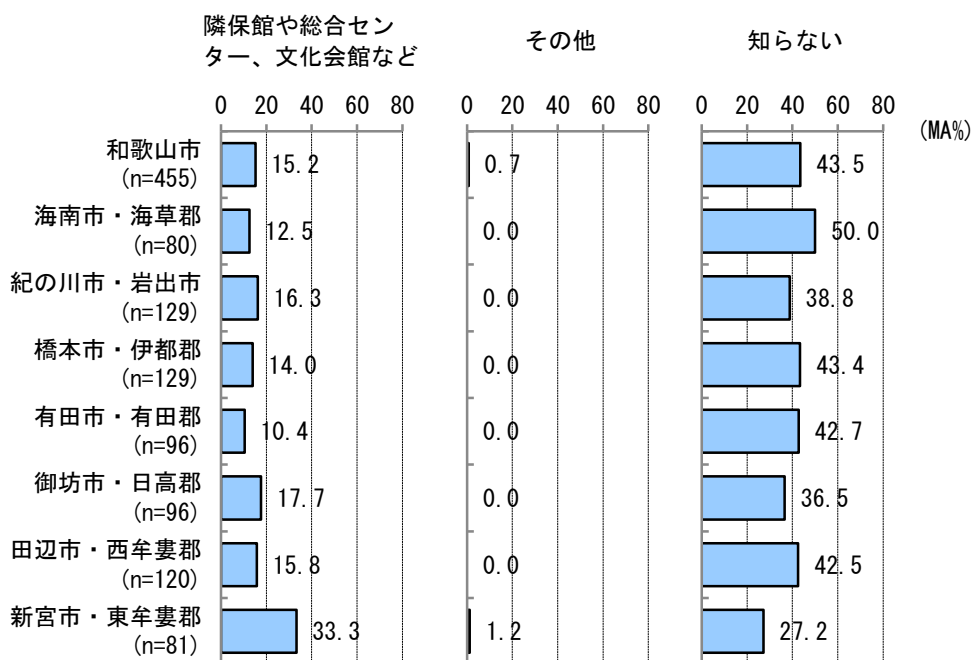
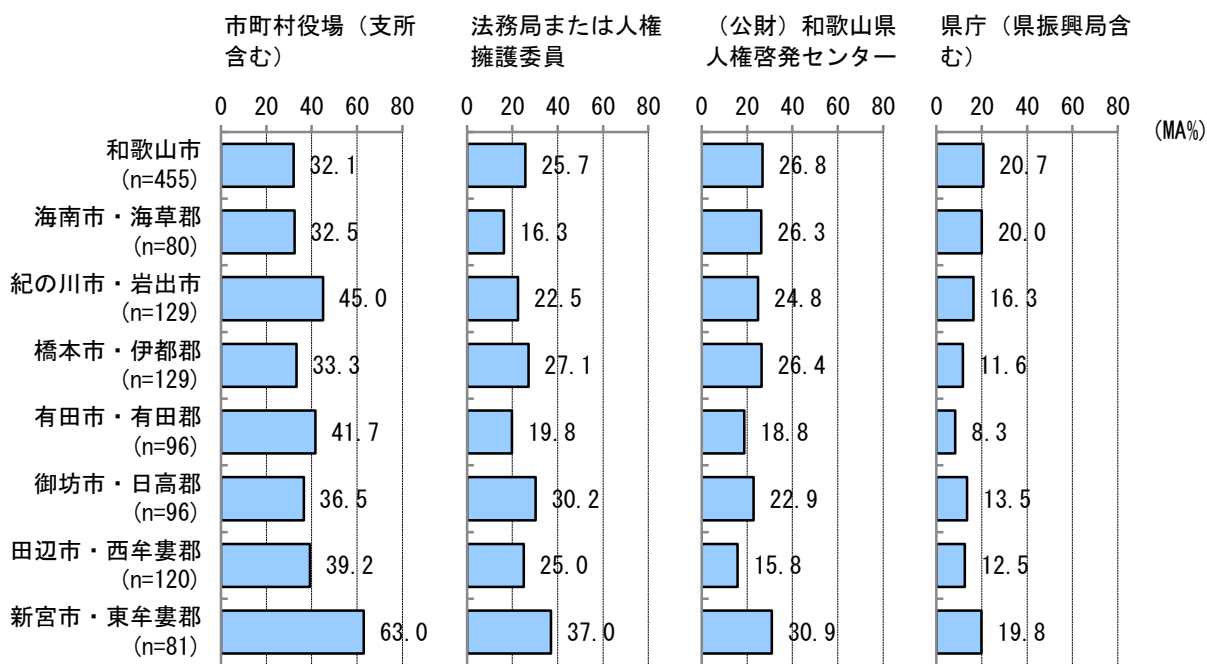
職業別では、いずれの相談窓口の割合も公務員が最も高くなっている。一方、「知らない」の割合は学生が50.0%で最も高く、次いで会社員・団体職員（役員・管理職含む）が46.7%となっている。（図6-3）

【図6-3 職業別 部落差別に関する相談窓口の認知状況】



居住地域別では、新宮市・東牟婁郡で「市町村役場（支所含む）」の割合が63.0%で最も高く、次いで紀の川市・岩出市が45.0%となっている。新宮市・東牟婁郡は、「法務局または人権擁護委員」「（公財）和歌山県人権啓発センター」の各割合も他の地域に比べ高くなっている。（図6-4）

【図6-4 居住地域別 部落差別に関する相談窓口の認知状況】



7. 「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ

問7 あなたが、「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージはどのようなものですか。
 「同和地区」には、「やさしい」「明るい」というイメージがある一方、「こわい」「暗い」といったイメージで語られることもあります。あなたの感じやイメージに近い番号をお選びください。(〇はそれぞれひとつ)

◇全体

「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージは次のとおりとなっている。

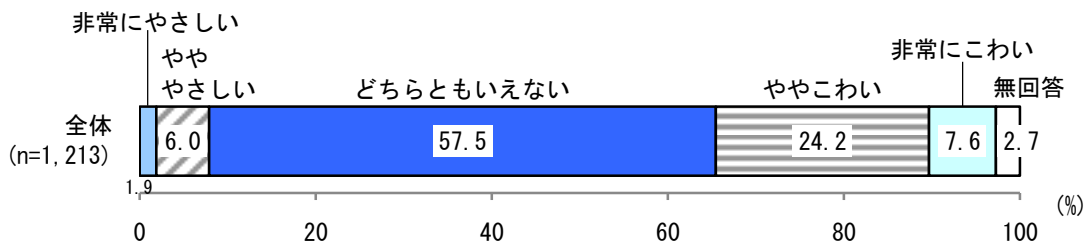
『やさしい』か『こわい』かについては、「どちらともいえない」が57.5%で最も多い。「非常にこわい」は7.6%、「ややこわい」は24.2%で、両者をあわせた『こわい』は31.8%となっている。一方、「非常にやさしい」は1.9%、「やややさしい」は6.0%で、両者をあわせた『やさしい』は7.9%となっており、『こわい』の割合が高くなっている。(図7①)

『明るい』か『暗い』かについては、「どちらともいえない」が55.6%で最も多い。「非常に暗い」は8.2%、「やや暗い」は24.4%で、両者をあわせた『暗い』は32.6%となっている。一方、「非常に明るい」は2.1%、「やや明るい」は6.1%で、両者をあわせた『明るい』は8.2%となっており、『暗い』の割合が高くなっている。(図7②)

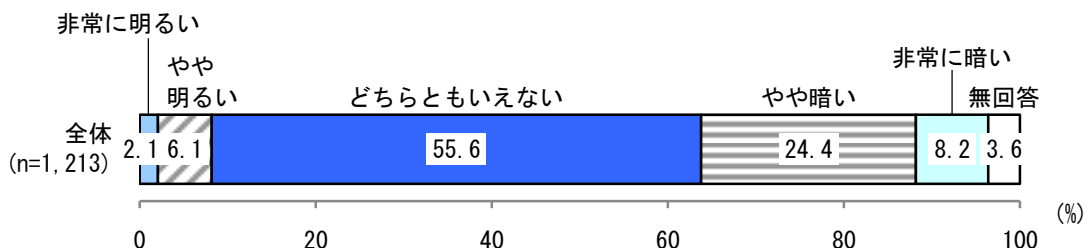
『開放的』か『閉鎖的』かについては、「どちらともいえない」が49.2%で最も多い。「非常に閉鎖的」は12.8%、「やや閉鎖的」は27.1%で、両者をあわせた『閉鎖的』は39.9%となっている。一方、「非常に開放的」は1.9%、「やや開放的」は5.1%で、両者をあわせた『開放的』は7.0%となっており、『閉鎖的』の割合が高くなっている。(図7③)

【図7 「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ】

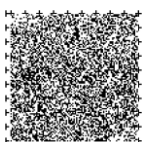
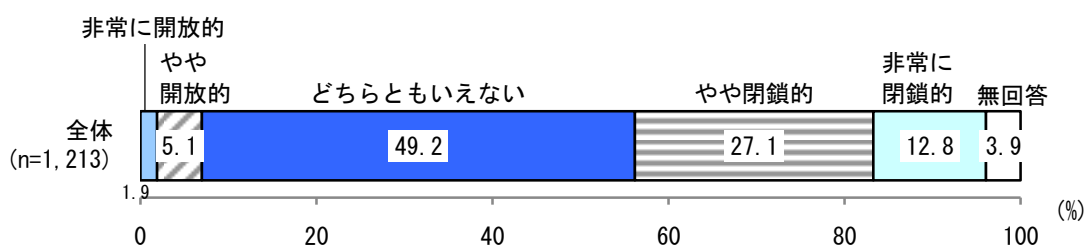
①やさしいーこわい



②明るいー暗い



③開放的ー閉鎖的

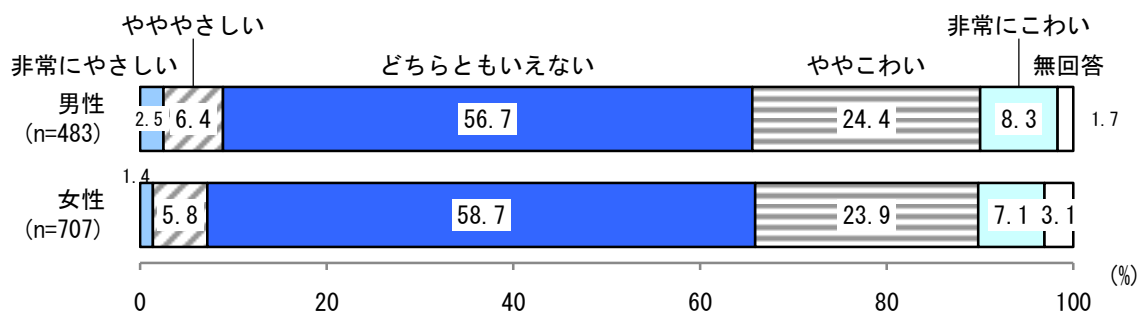


◇回答者の属性別

「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ《やさしいーこわい》

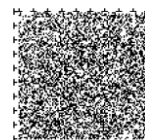
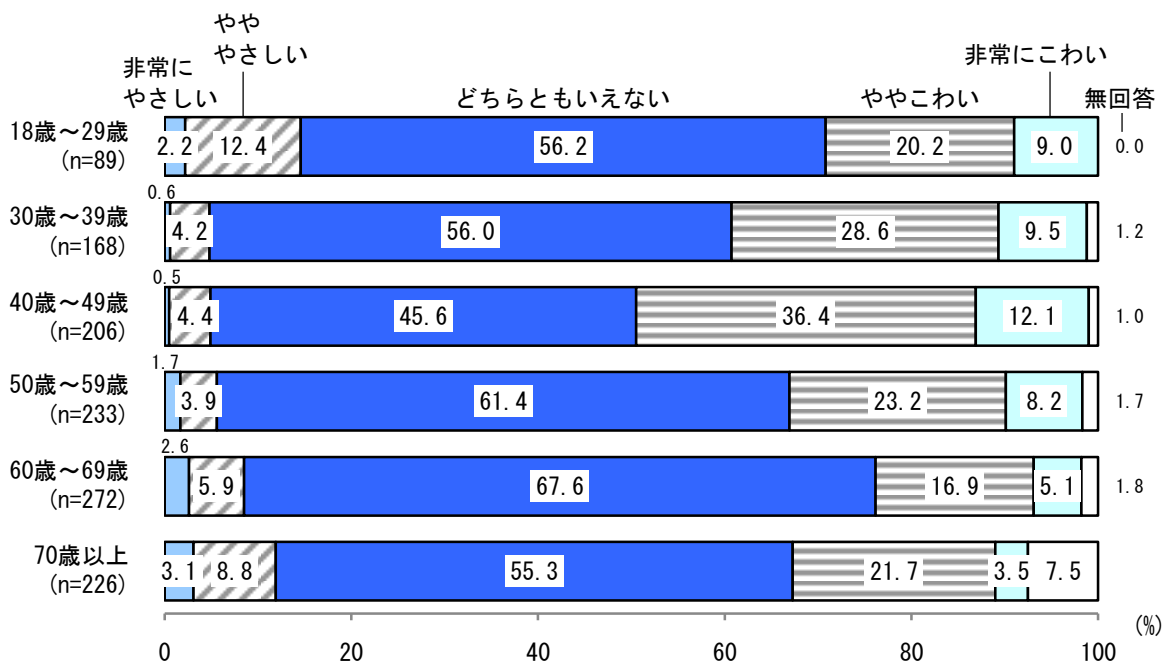
性別では、男女とも『やさしい』に比べ『こわい』の割合の方が高くなっている。『やさしい』の割合は、男性が8.9%、女性が7.2%で女性の方が1.7ポイント高く、『こわい』の割合は、男性が32.7%、女性が31.0%で、男性の方が1.7ポイント高い。(図7-1-1)

【図7-1-1 性別 「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ《やさしいーこわい》】



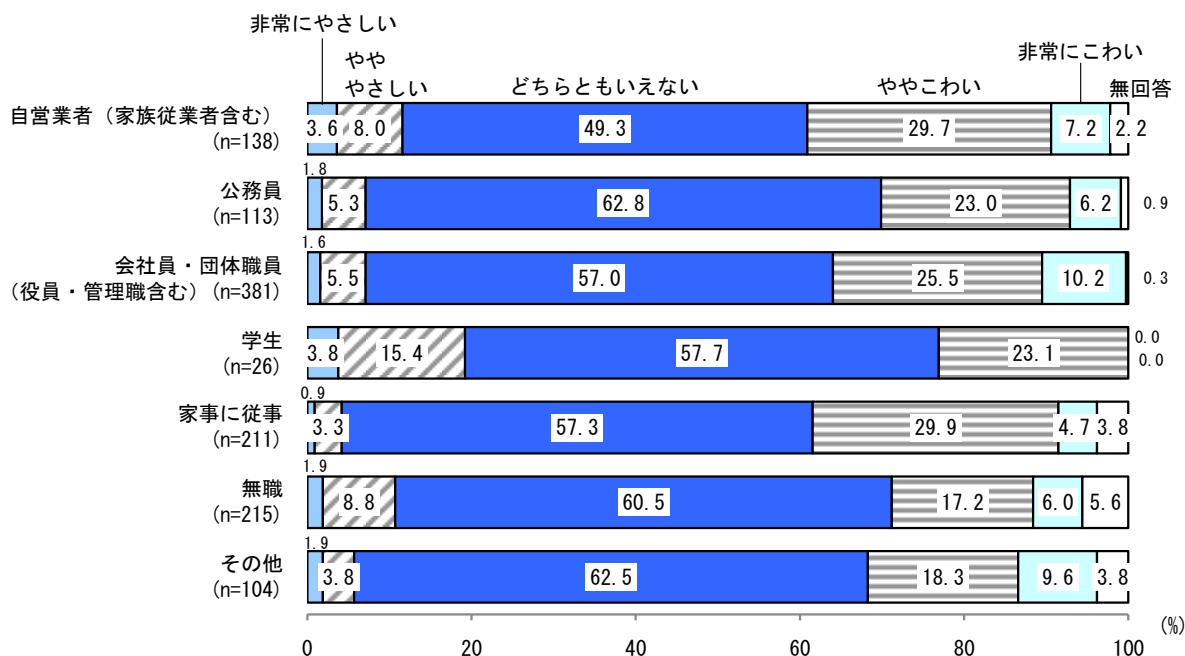
年齢別では、『やさしい』の割合は18歳～29歳が14.6%で最も高い。一方、『こわい』の割合は40歳～49歳が48.5%で最も高くなっている。(図7-1-2)

【図7-1-2 年齢別 「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ《やさしいーこわい》】



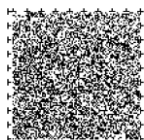
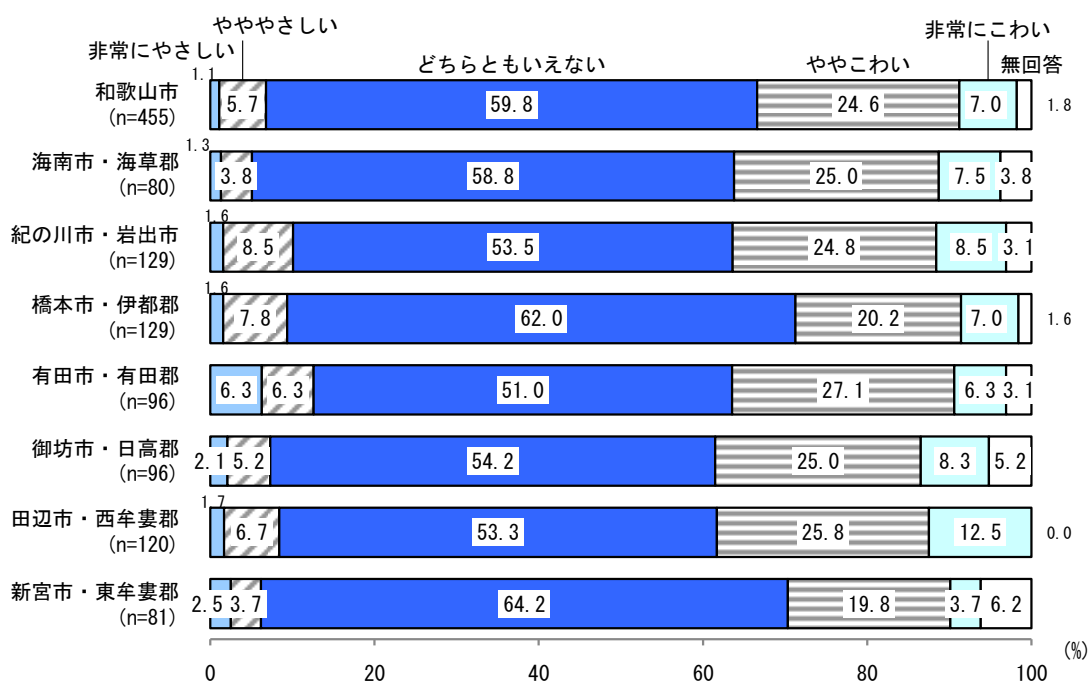
職業別では、『やさしい』の割合は学生が19.2%で最も高く、次いで自営業者（家族従業者含む）が11.6%となっている。『こわい』の割合は自営業者（家族従業者含む）が36.9%で最も高く、次いで会社員・団体職員（役員・管理職含む）が35.7%となっている。（図7-1-3）

【図7-1-3 職業別 「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ《やさしいーこわい》】



居住地域別では、『やさしい』の割合は有田市・有田郡が12.6%で最も高く、次いで紀の川市・岩出市が10.1%となっている。『こわい』の割合は田辺市・西牟婁郡が38.3%で最も高くなっている。（図7-1-4）

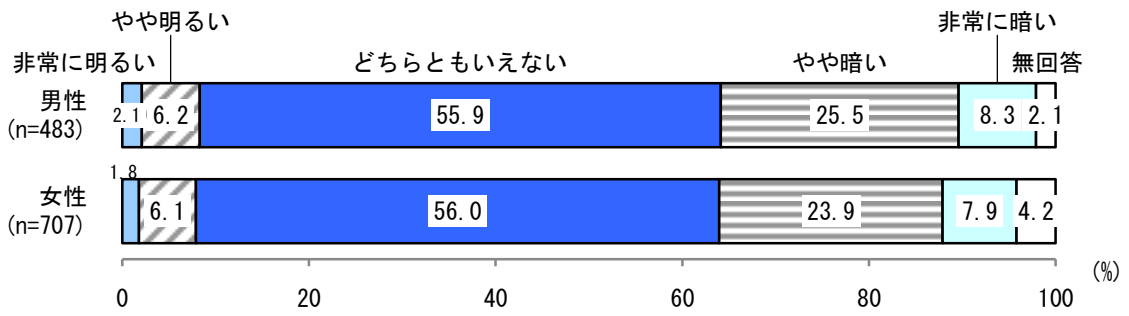
【図7-1-4 居住地域別 「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ《やさしいーこわい》】



「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ《明るいー暗い》

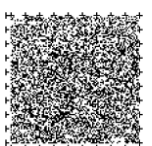
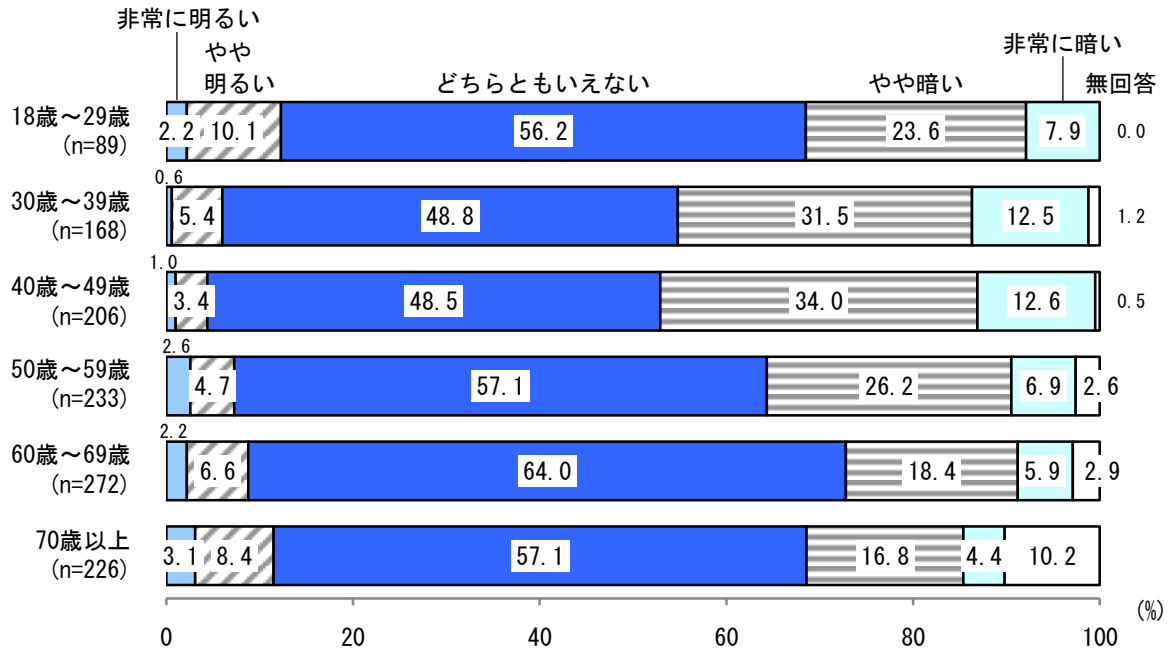
性別では、男女とも『明るい』に比べ『暗い』の割合の方が高くなっている。『明るい』の割合は男性が8.3%、女性が7.9%で同程度となっている。『暗い』の割合は、男性が33.8%、女性が31.8%で男性の方が2.0ポイント高い。(図7-2-1)

【図7-2-1 性別 「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ《明るいー暗い》】



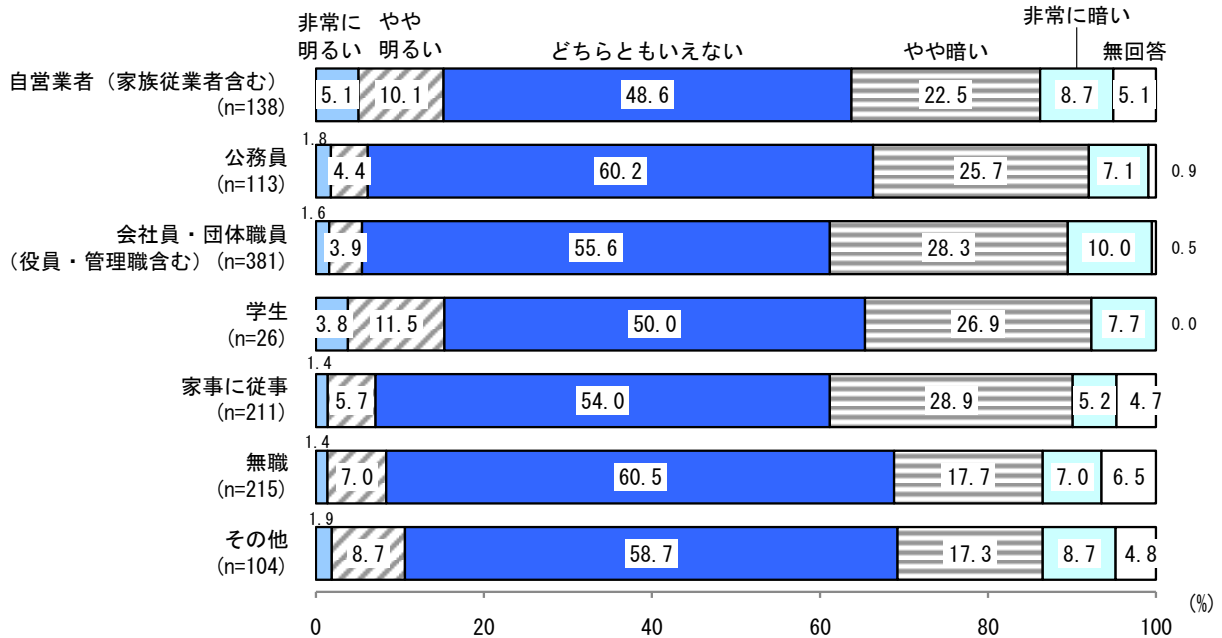
年齢別では、『明るい』の割合は18歳～29歳が12.3%で最も高い。『暗い』の割合は40歳～49歳が46.6%で最も高く、次いで30歳～39歳が44.0%となっている。(図7-2-2)

【図7-2-2 年齢別 「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ《明るいー暗い》】



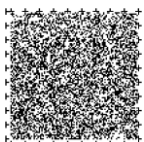
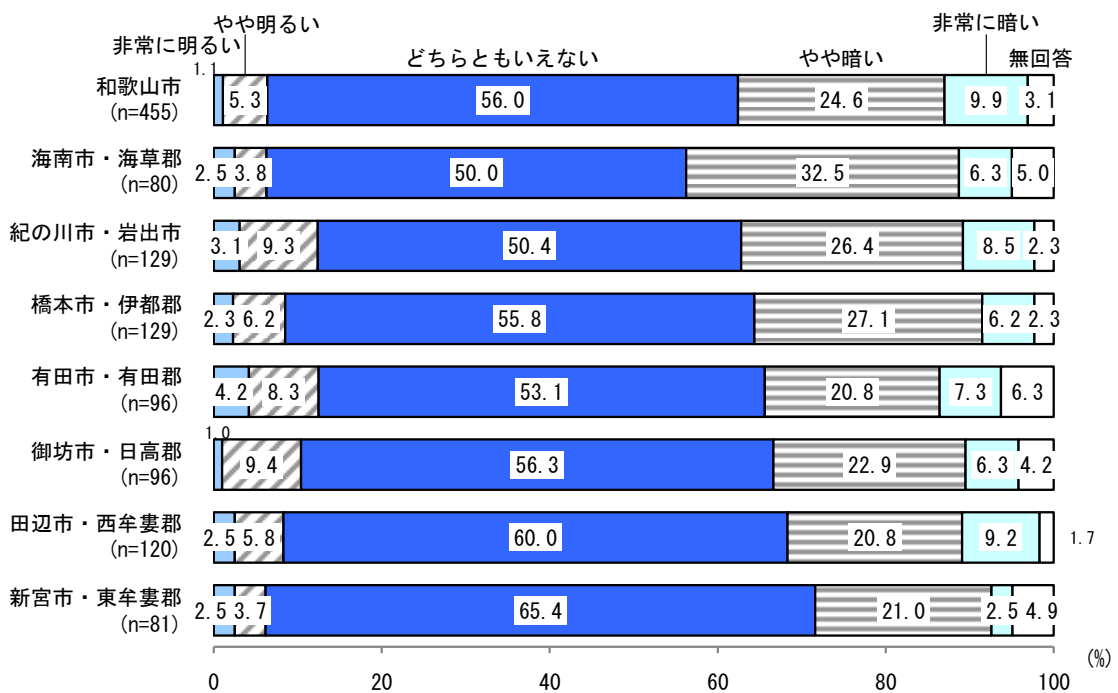
職業別では、『明るい』の割合は学生が15.3%で最も高く、次いで自営業者（家族従業者含む）が15.2%となっている。『暗い』の割合は会社員・団体職員（役員・管理職含む）が38.3%で最も高く、次いで学生が34.6%となっている。（図7-2-3）

【図7-2-3 職業別 「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ《明るいー暗い》】



居住地域別では、『明るい』の割合は有田市・有田郡が12.5%、紀の川市・岩出市が12.4%で高くなっている。『暗い』の割合は海南市・海草郡が38.8%で最も高くなっている。（図7-2-4）

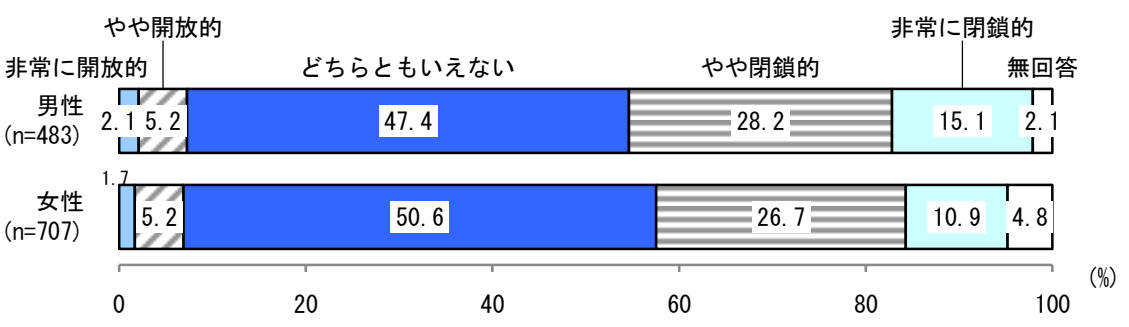
【図7-2-4 居住地域別 「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ《明るいー暗い》】



「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ《開放的－閉鎖的》

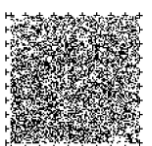
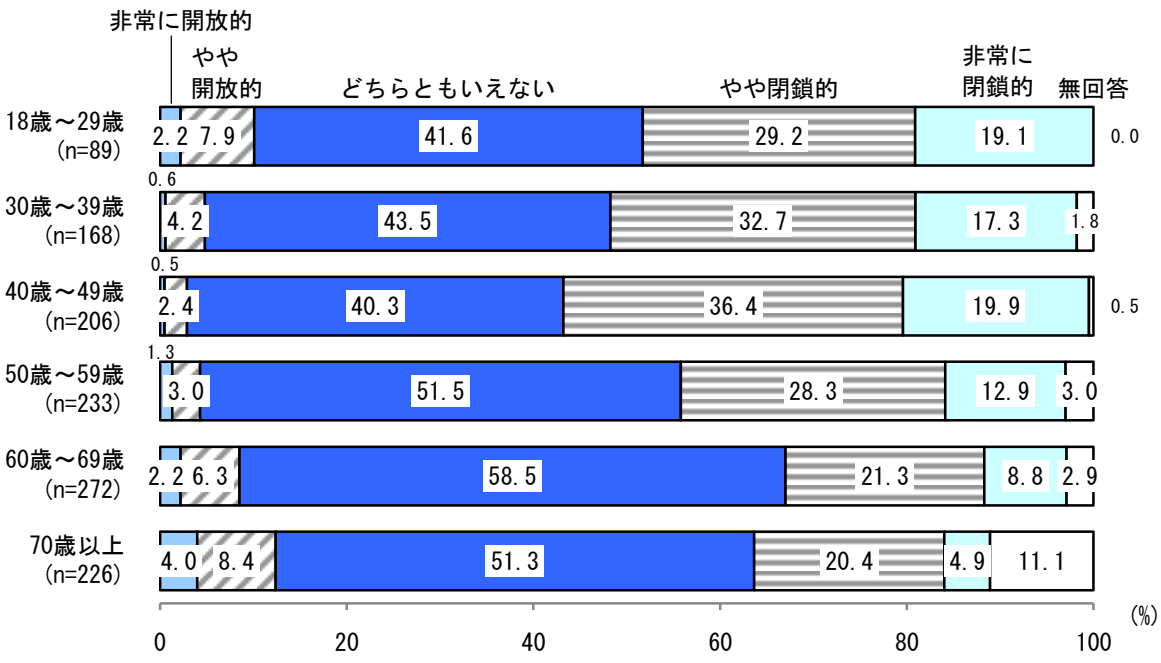
性別では、男女とも『開放的』に比べ『閉鎖的』の割合の方が高く、『閉鎖的』の割合は女性が37.6%、男性が43.3%で、男性の方が5.7ポイント高くなっている。(図7-3-1)

【図7-3-1 性別 「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ《開放的－閉鎖的》】



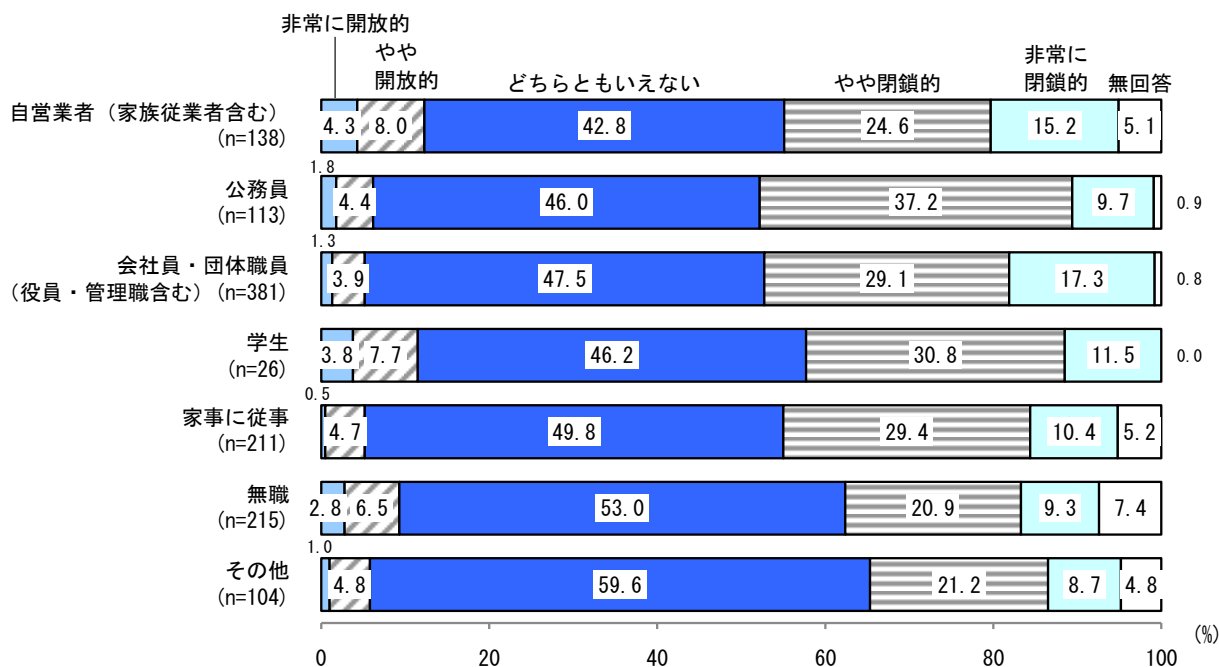
年齢別では、『開放的』の割合は70歳以上が12.4%で最も高い。『閉鎖的』の割合は40歳～49歳が56.3%で最も高く、次いで30歳～39歳が50.0%となっている。(図7-3-2)

【図7-3-2 年齢別 「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ《開放的－閉鎖的》】



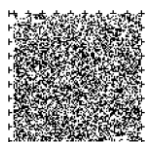
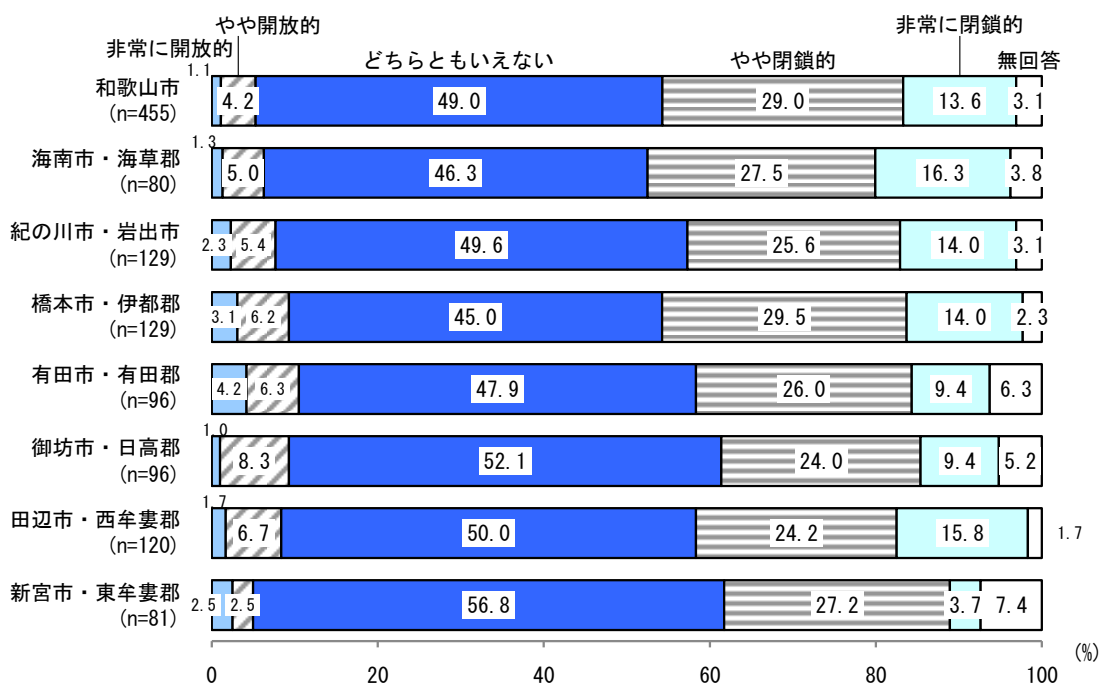
職業別では、『開放的』の割合は自営業者（家族従業者含む）が12.3%で最も高い。『閉鎖的』の割合は公務員が46.9%で最も高く、次いで会社員・団体職員（役員・管理職含む）が46.4%となっている。（図7-3-3）

【図7-3-3 職業別 「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ《開放的—閉鎖的》】



居住地域別では、『開放的』の割合は有田市・有田郡が10.5%で最も高い。『閉鎖的』の割合は、海南市・海草郡が43.8%で最も高く、次いで橋本市・伊都郡が43.5%となっている。（図7-3-4）

【図7-3-4 居住地域別 「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ《開放的—閉鎖的》】



8. 同和地区に住むこと

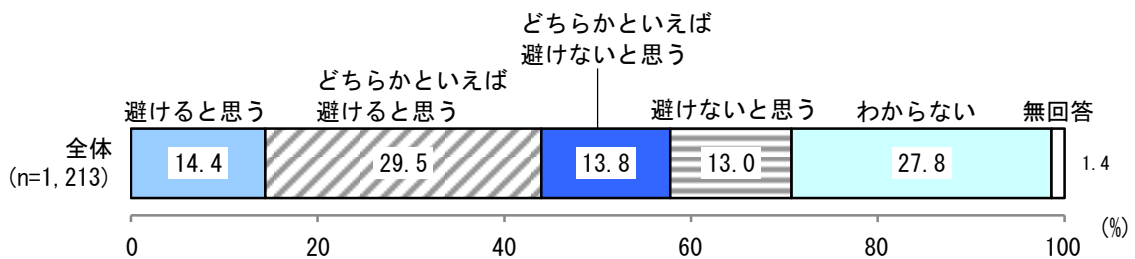
(1) 同和地区にある物件に対する忌避意識

問8 引っ越しなどにあたって、新たに住まいを選ぶ際に、物件が同和地区にある場合、あなたはどのようにされますか。(〇はひとつ)

◇全体

同和地区にある物件の新居を選ぶ際、「どちらかといえば避けると思う」が29.5%で最も多く、「避けると思う」(14.4%)をあわせた『避ける』は43.9%となっている。一方、「どちらかといえば避けないと思う」(13.8%)と「避けないと思う」(13.0%)をあわせた『避けない』は26.8%で、『避ける』の方が17.1ポイント高くなっている。(図8-1)

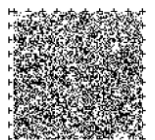
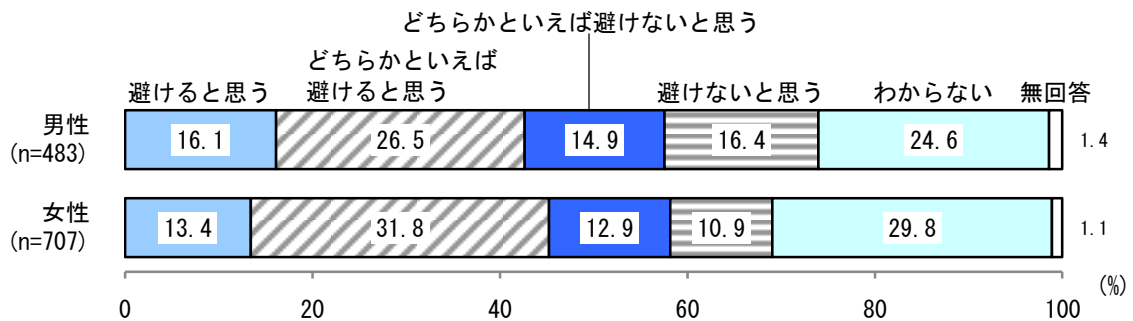
【図8-1 同和地区にある物件に対する忌避意識】



◇回答者の基本属性別

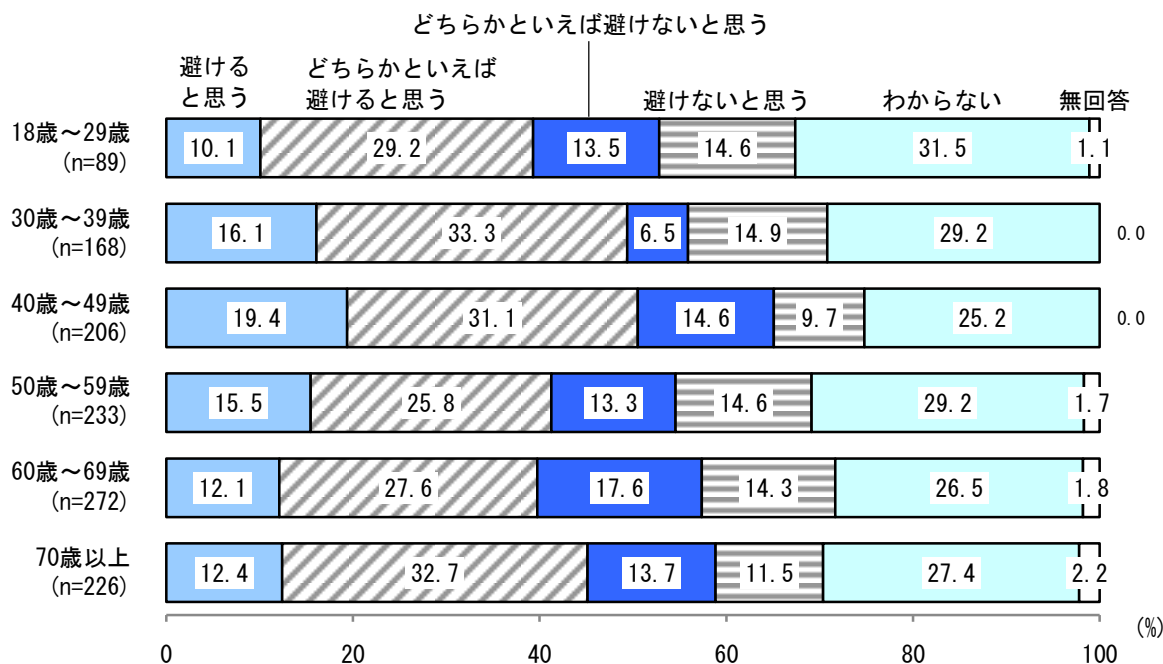
性別では、『避ける』の割合は男性が42.6%、女性が45.2%で女性の方が2.6ポイント高い。「わからない」の割合は男性が24.6%、女性が29.8%で、女性の方が5.2ポイント高くなっている。一方、『避けない』の割合は男性が31.3%、女性は23.8%で、男性の方が7.5ポイント高い。(図8-1-1)

【図8-1-1 性別 同和地区にある物件に対する忌避意識】



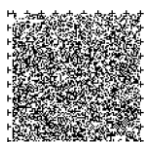
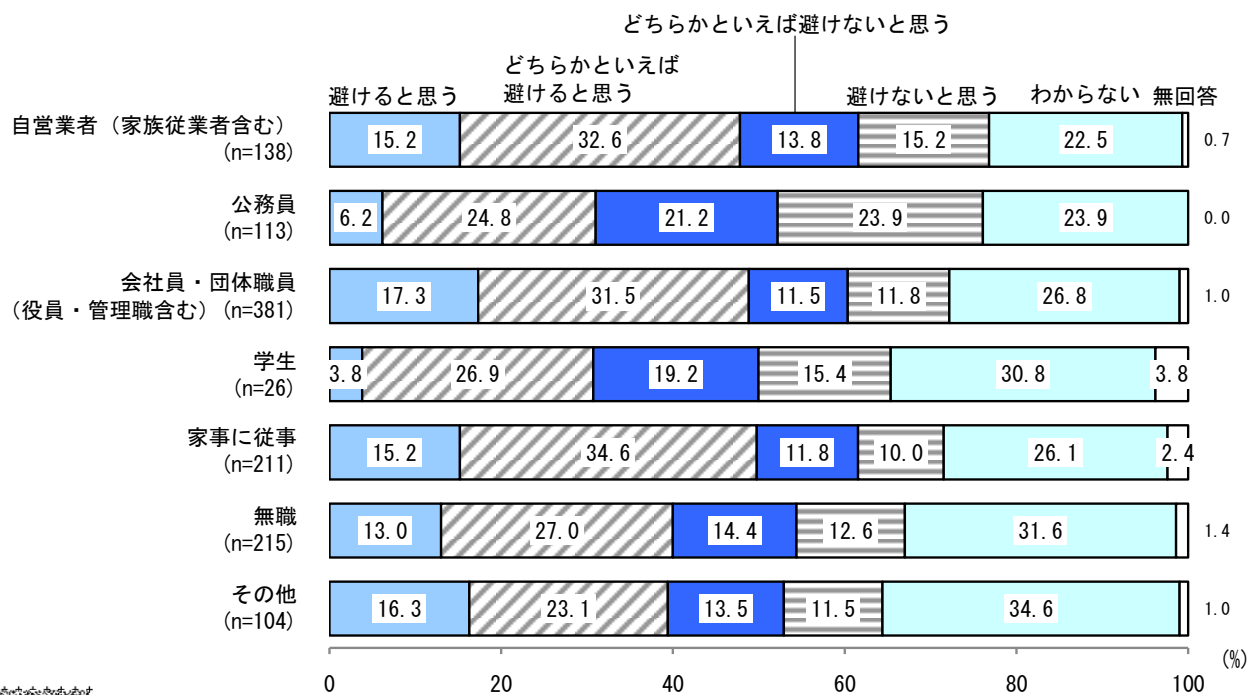
年齢別では、『避ける』の割合は40歳～49歳が50.5%で最も高く、次いで30歳～39歳が49.4%となっている。一方、『避けない』の割合は60歳～69歳が31.9%で最も高い。(図8-1-2)

【図8-1-2 年齢別 同和地区にある物件に対する忌避意識】



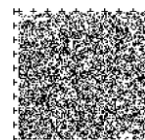
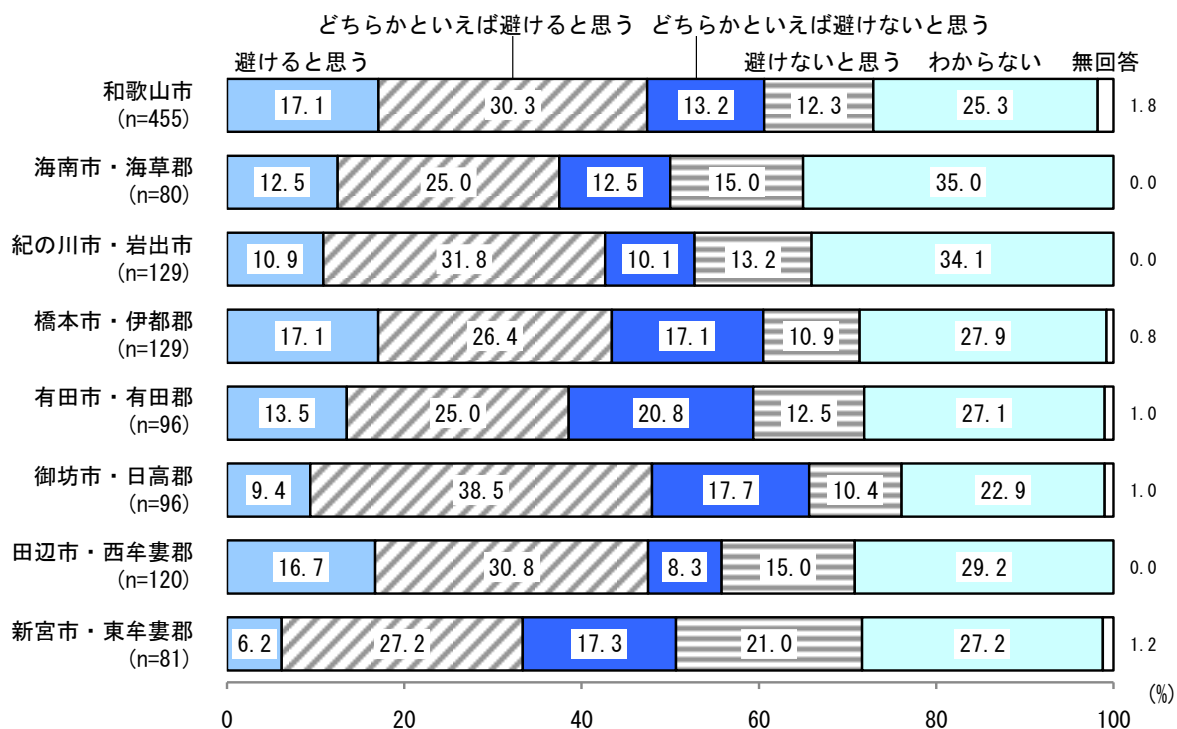
職業別では、『避ける』の割合は家事に従事が49.8%で最も高く、次いで会社員・団体職員(役員・管理職含む)が48.8%、自営業者(家族従業者含む)が47.8%となっている。一方、『避けない』の割合は公務員が45.1%で最も高い。(図8-1-3)

【図8-1-3 職業別 同和地区にある物件に対する忌避意識】



居住地域別では、『避ける』の割合が高い地域は和歌山市(47.4%)、御坊市・日高郡(47.9%)、田辺市・西牟婁郡(47.5%)となっている。一方、『避けない』の割合は新宮市・東牟婁郡が38.3%で最も高い。(図8-1-4)

【図8-1-4 居住地域別 同和地区にある物件に対する忌避意識】



(2) 同和地区を避ける理由

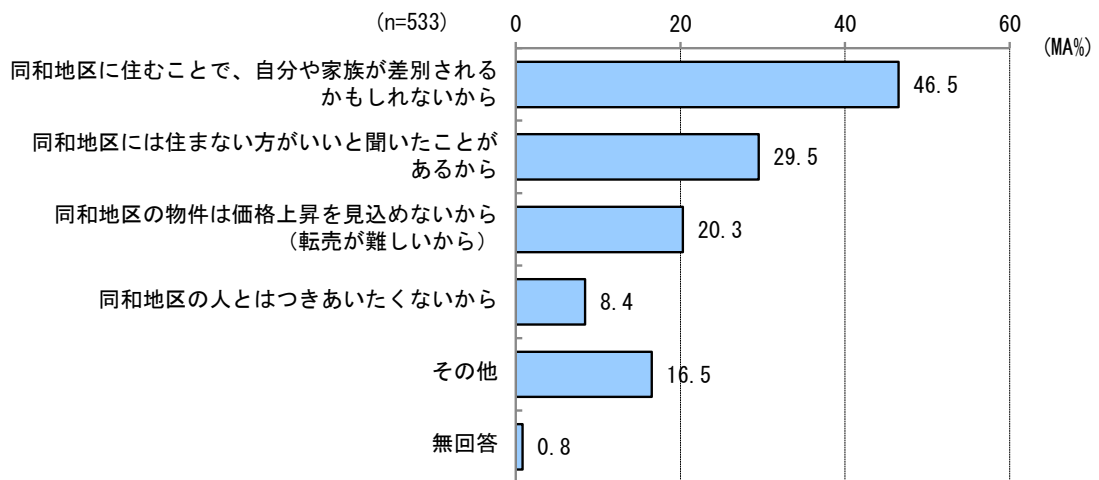
問8で、「1 避けると思う」「2 どちらかといえば避けると思う」と回答された方にお聞きします。

問8-1 それはなぜですか。(〇はいくつでも)

◇全体

同和地区を避けると思うと回答した人に、その理由をたずねると、「同和地区に住むことで、自分や家族が差別されるかもしれないから」が46.5%で最も多く、次いで「同和地区には住まない方がいいと聞いたことがあるから」が29.5%、「同和地区の物件は価格上昇を見込めないから（転売が難しいから）」が20.3%となっている。（図8-2）

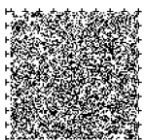
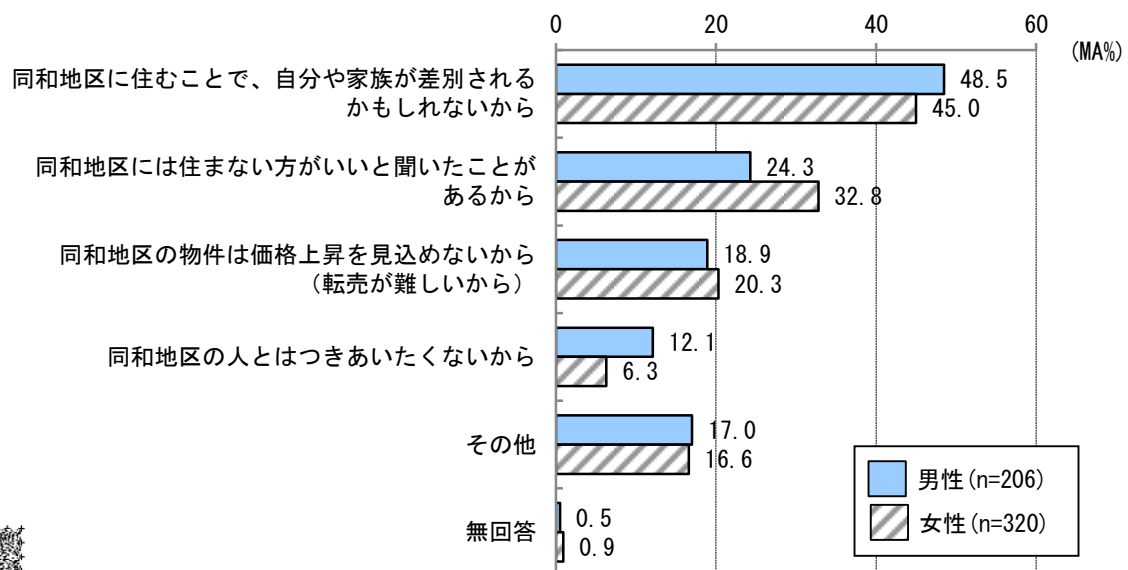
【図8-2 同和地区を避ける理由】



◇回答者の属性別

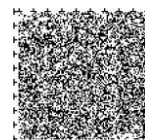
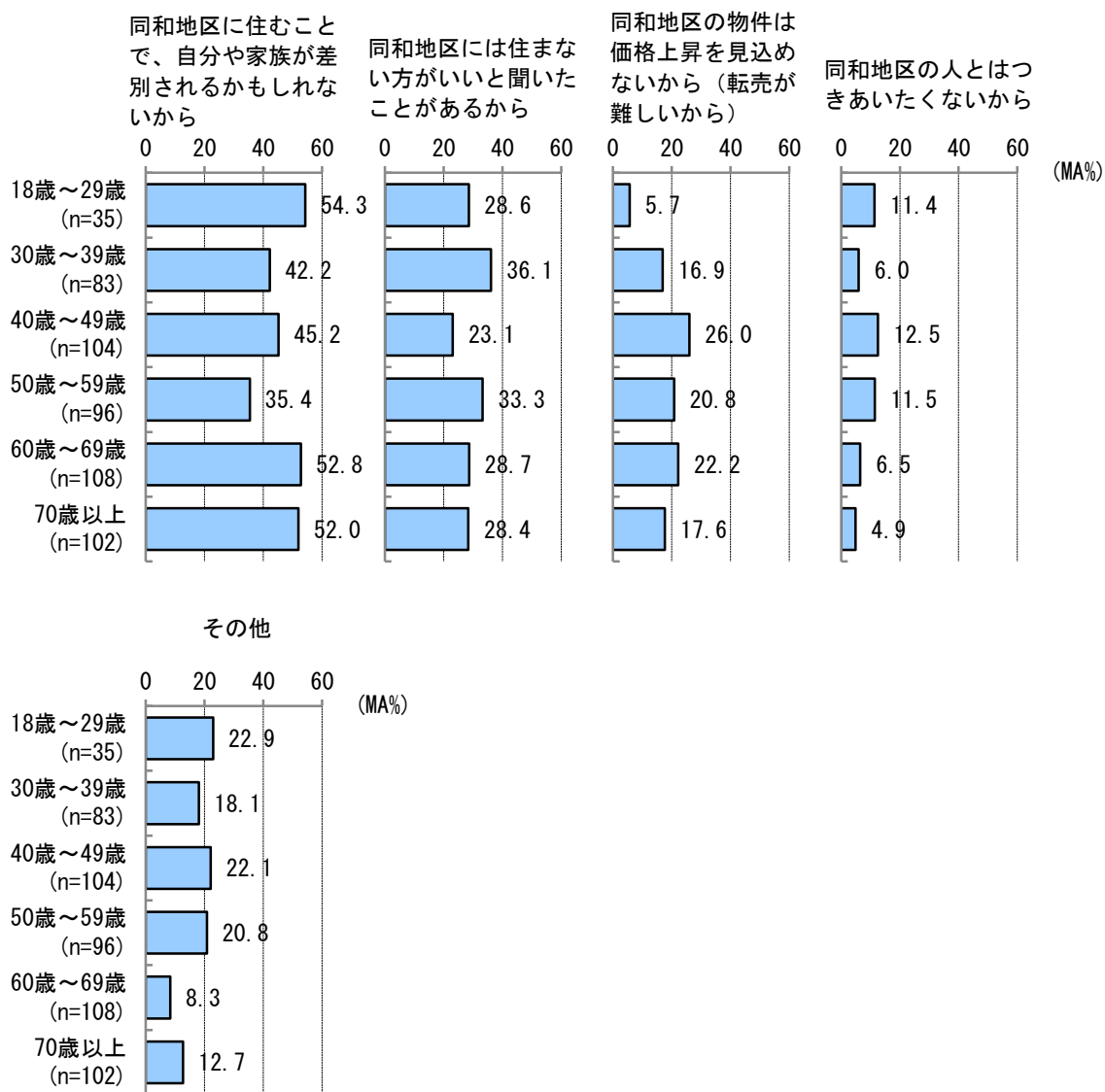
性別では、男女とも「同和地区に住むことで、自分や家族が差別されるかもしれないから」が最も多い。次いで「同和地区には住まない方がいいと聞いたことがあるから」が多く、男性が24.3%、女性が32.8%で、女性の方が8.5ポイント高くなっている。（図8-2-1）

【図8-2-1 性別 同和地区を避ける理由】



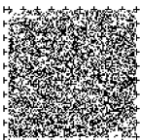
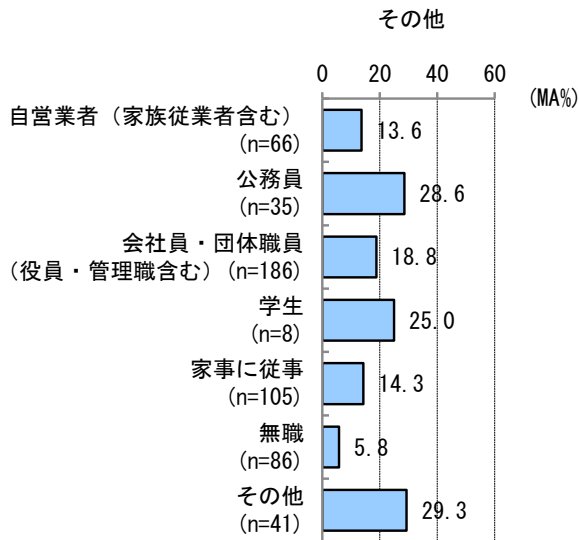
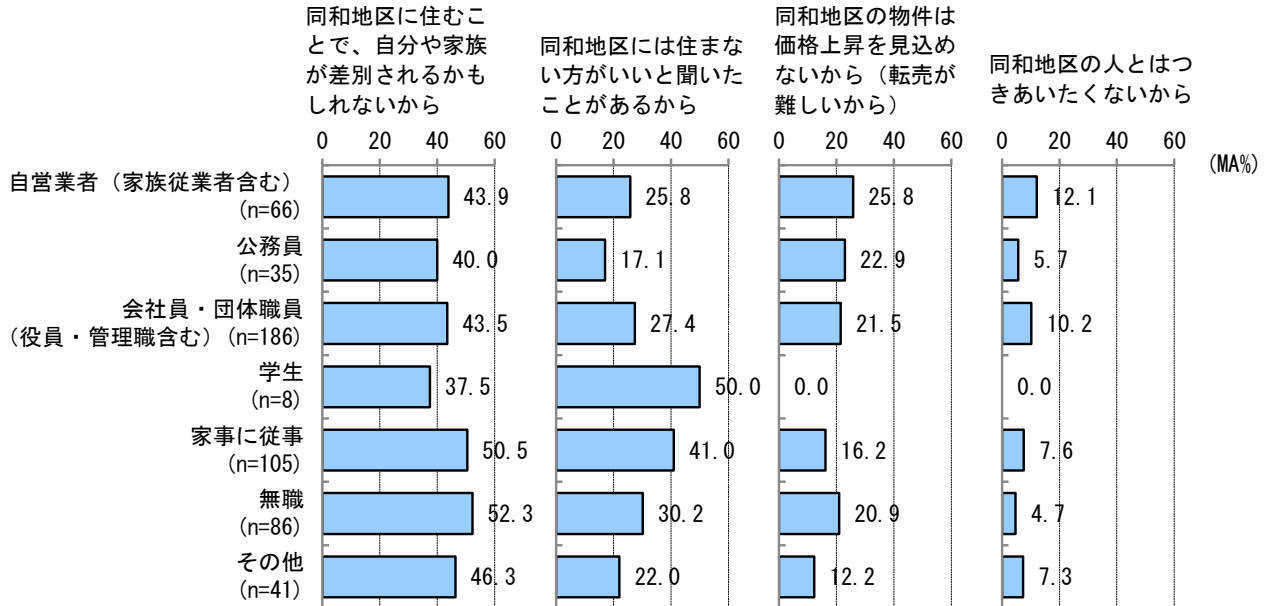
年齢別では、いずれの年代も「同和地区に住むことで、自分や家族が差別されるかもしれないから」が最も多く、18歳～29歳が54.3%で最も高くなっている。(図8-2-2)

【図8-2-2 年齢別 同和地区を避ける理由】



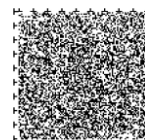
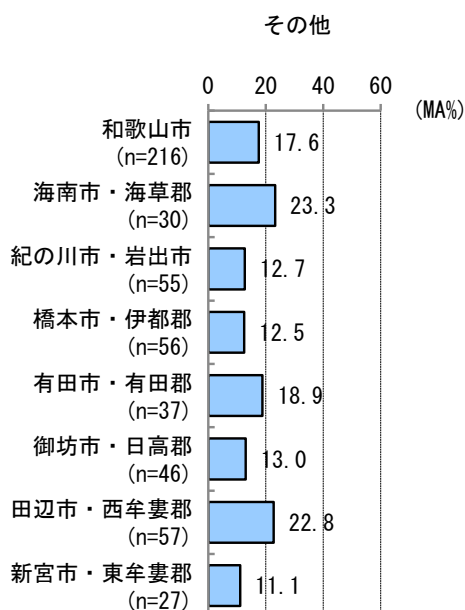
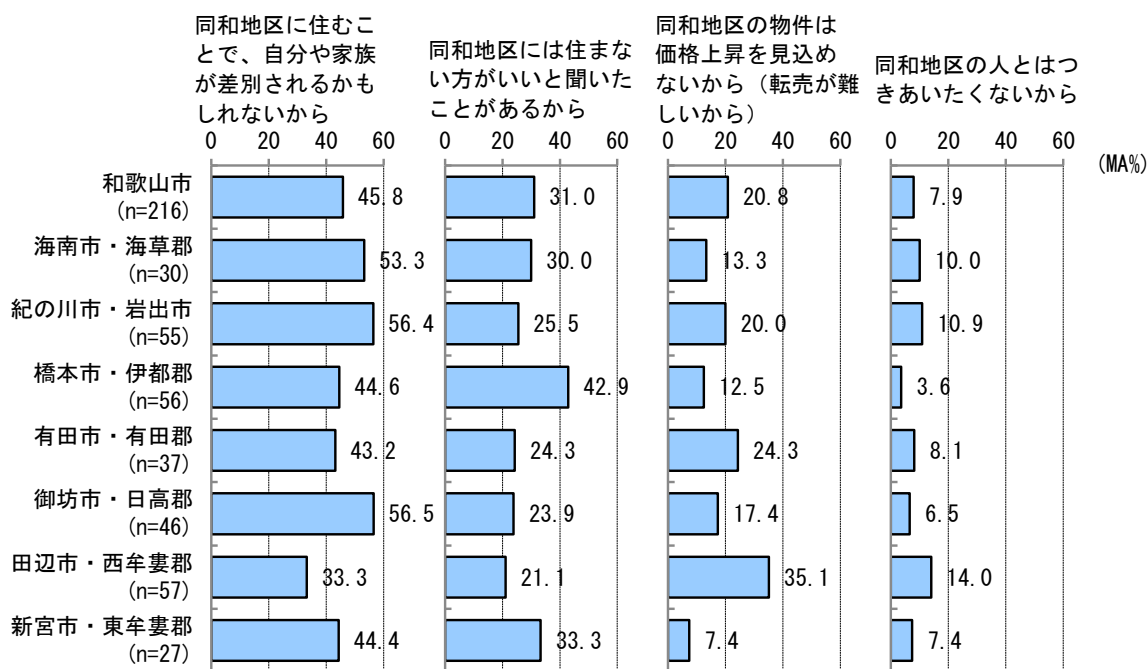
職業別では、いずれも「同和地区に住むことで、自分や家族が差別されるかもしれないから」が最も多く、無職が52.3%で最も高くなっている。(図8-2-3)

【図8-2-3 職業別 同和地区を避ける理由】



居住地域別では、田辺市・西牟婁郡を除く地域では、「同和地区に住むことで、自分や家族が差別されるかもしれないから」が最も多く、海南市・海草郡、紀の川市・岩出市、御坊市・日高郡の3地域では5割を占めている。「同和地区には住まない方がいいと聞いたことがあるから」の割合は橋本市・伊都郡が42.9%で最も高く、「同和地区の物件は価格上昇を見込めないから（転売が難しいから）」の割合は田辺市・西牟婁郡が35.1%で最も高くなっている。（図8-2-4）

【図8-2-4 居住地域別 同和地区を避ける理由】



9. 同和地区の人との結婚について

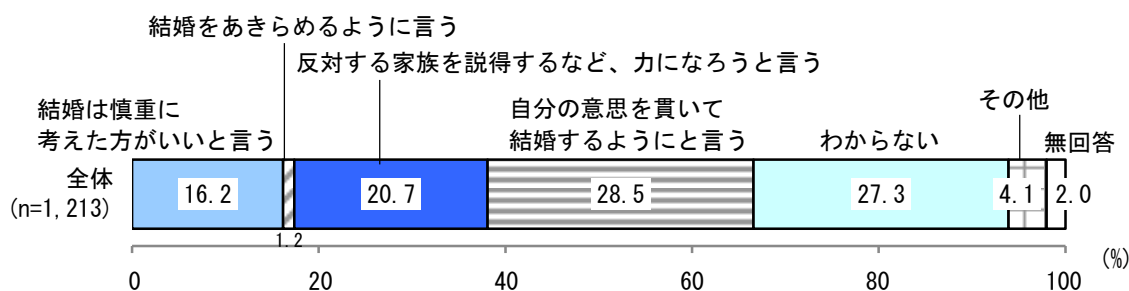
(1) 同和地区の人との結婚に家族から反対されている親類に相談を受けた場合の態度

問9 あなたの親類が結婚したいと思っている相手と同和地区の人で、そのことを理由に家族から結婚を反対されているとします。そのことについて相談を受けた場合、あなたはどのような態度をとると思いますか。(○はひとつ)

◇全体

同和地区の人との結婚に家族から反対されている親類に相談を受けた場合の態度については、「自分の意思を貫いて結婚するよう」と言うが28.5%で最も多くなっている。これに次いで「わからない」が27.3%で多くなっているが、結婚に積極的な態度では「反対する家族を説得するなど、力になろう」と言うが20.7%で続いている。一方、「結婚は慎重に考えた方がいい」と言うは16.2%となっている。(図9-1)

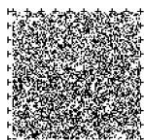
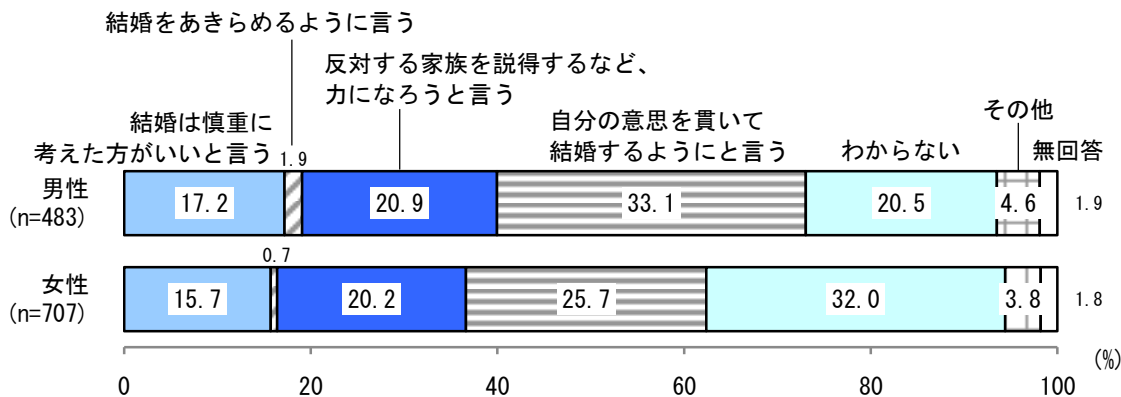
【図9-1 同和地区の人との結婚に家族から反対されている親類に相談を受けた場合の態度】



◇回答者の属性別

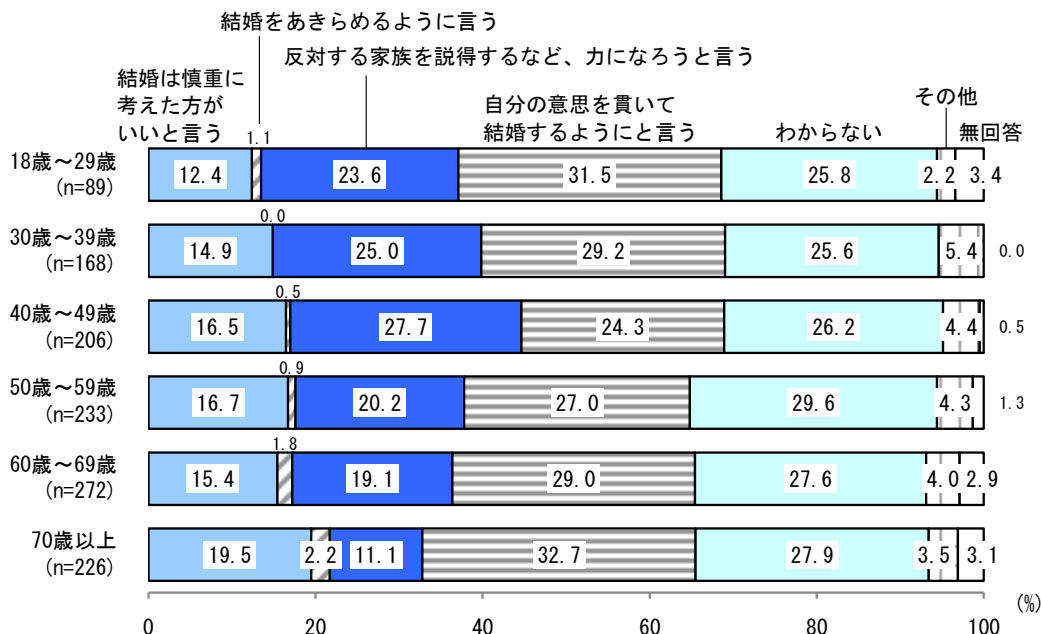
性別では、「自分の意思を貫いて結婚するよう」と言うは男性が33.1%、女性が25.7%で、男性の方が7.4ポイント高く、「わからない」は男性が20.5%、女性が32.0%で、女性の方が11.5ポイント高くなっている。(図9-1-1)

【図9-1-1 性別 同和地区の人との結婚に家族から反対されている親類に相談を受けた場合の態度】



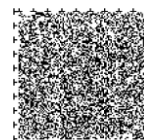
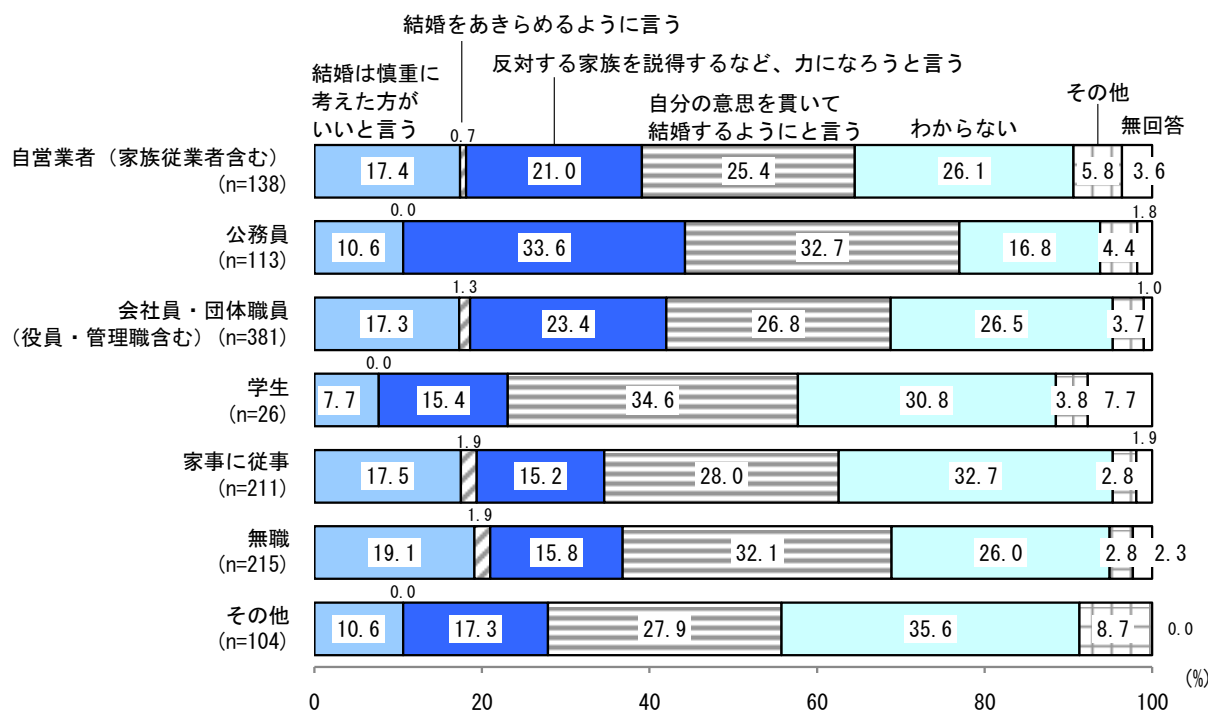
年齢別では、「結婚は慎重に考えた方がいいと言う」の割合は70歳以上が19.5%で最も高い一方で、「自分の意思を貫いて結婚するよう」と言うでも70歳以上が32.7%で最も高くなっている。「反対する家族を説得するなど、力になろうと言う」の割合は40歳～49歳が27.7%で最も高い。(図9-1-2)

【図9-1-2 年齢別 同和地区の人との結婚に家族から反対されている親類に相談を受けた場合の態度】



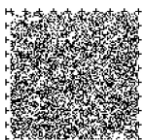
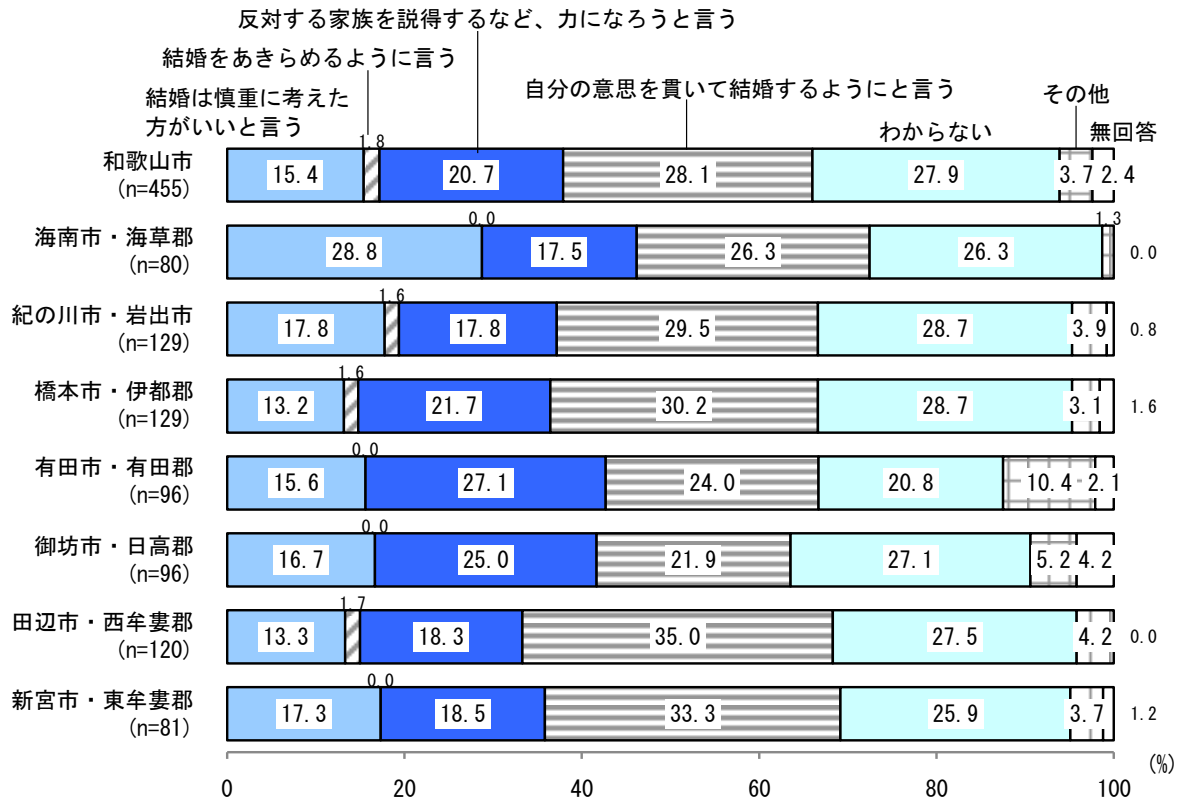
職業別では、「反対する家族を説得するなど、力になろうと言う」は公務員が33.6%で最も高く、次いで会社員・団体職員（役員・管理職含む）が23.4%となっている。「自分の意思を貫いて結婚するよう」と言うは学生が34.6%で最も高い。(図9-1-3)

【図9-1-3 職業別 同和地区の人との結婚に家族から反対されている親類に相談を受けた場合の態度】



居住地域別では、「結婚は慎重に考えた方がいいと言う」の割合は海南市・海草郡が28.8%で最も高い。「反対する家族を説得するなど、力になろうと言う」は有田市・有田郡が27.1%で最も高く、次いで御坊市・日高郡が25.0%となっている。「自分の意思を貫いて結婚するようと言う」は田辺市・西牟婁郡が35.0%で最も高い。(図9-1-4)

【図9-1-4 居住地域別 同和地区の人との結婚に家族から反対されている親類に相談を受けた場合の態度】



(2) 相談に対して結婚に消極的な態度をとる理由

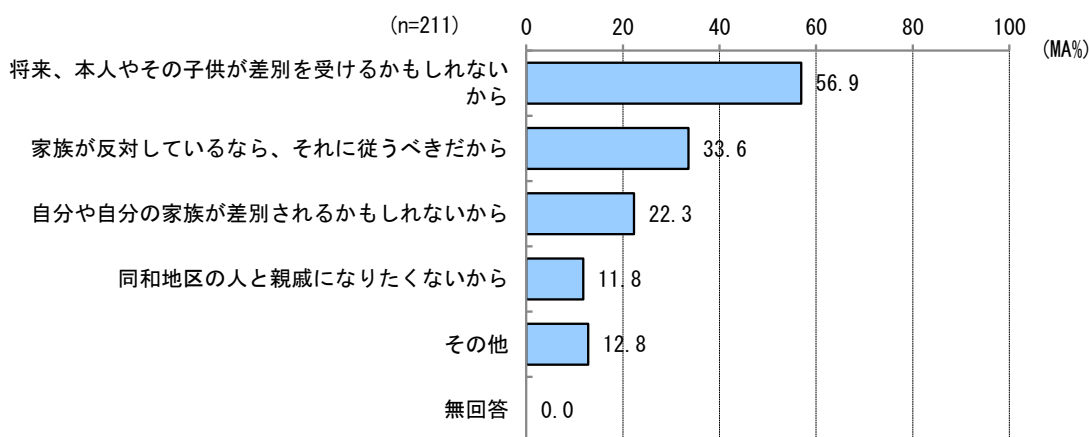
問9で、「1 結婚は慎重に考えた方がいいと言う」「2 結婚をあきらめるように言う」と回答された方にお聞きします。

問9-1 それはなぜですか。(〇はいくつでも)

◇全体

同和地区の人との結婚に家族から反対されている親類に相談を受けた場合に、「結婚は慎重に考えた方がいいと言う」「結婚をあきらめるように言う」と回答した人に、その理由をたずねると、「将来、本人やその子供が差別を受けるかもしれないから」が56.9%で最も多く、次いで「家族が反対しているなら、それに従うべきだから」が33.6%、「自分や自分の家族が差別されるかもしれないから」が22.3%となっている。(図9-2)

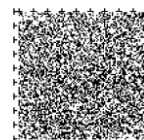
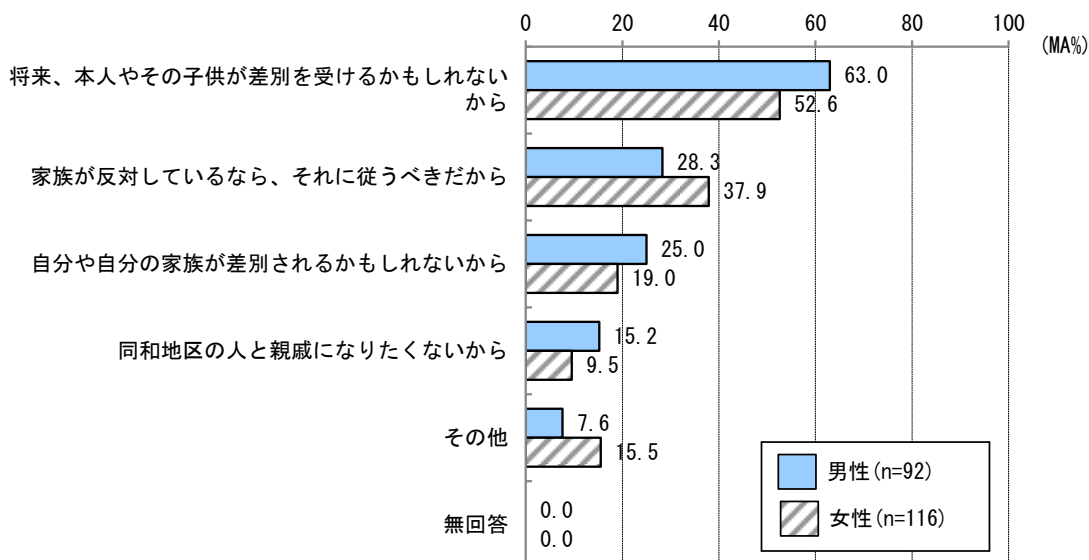
【図9-2 相談に対して結婚に消極的な態度の理由】



◇回答者の属性別

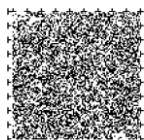
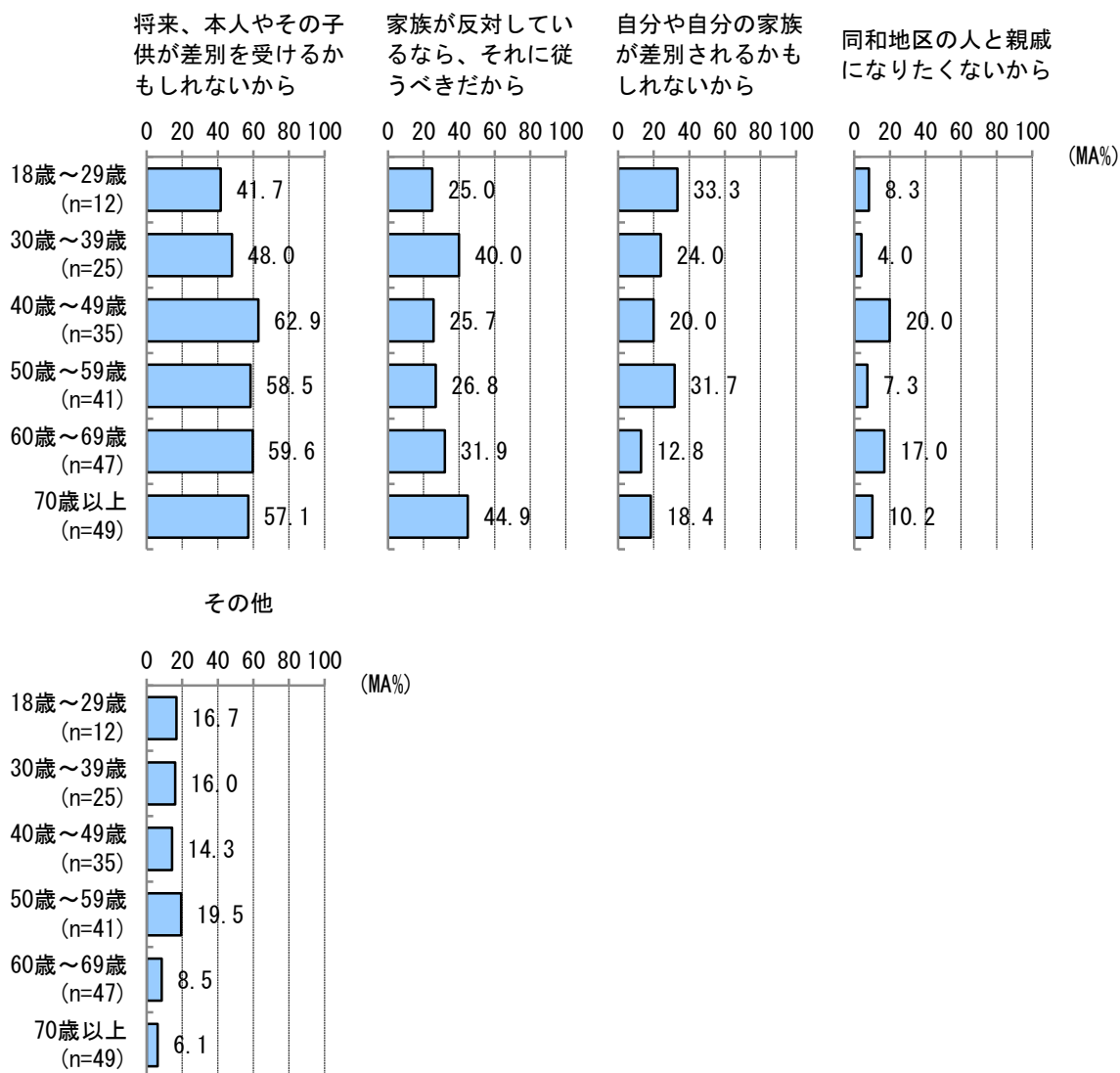
性別では、男女とも「将来、本人やその子供が差別を受けるかもしれないから」が最も多く、女性が52.6%、男性が63.0%で、男性の方が10.4ポイント高くなっている。「家族が反対しているなら、それに従うべきだから」の割合は男性が28.3%、女性が37.9%で、女性の方が9.6ポイント高い。(図9-2-1)

【図9-2-1 性別 相談に対して結婚に消極的な態度の理由】



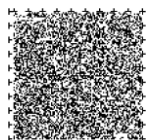
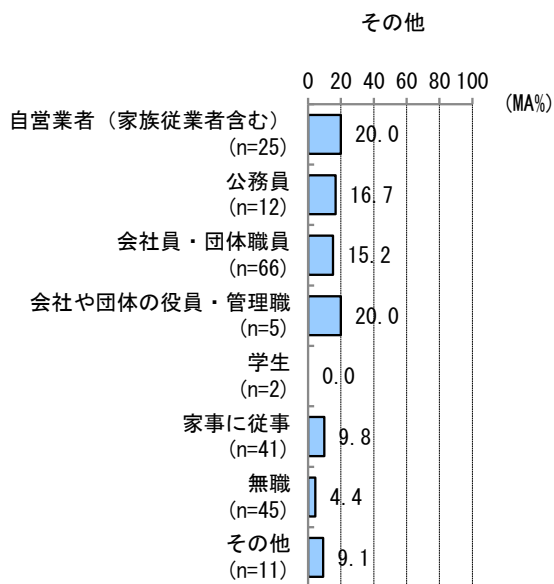
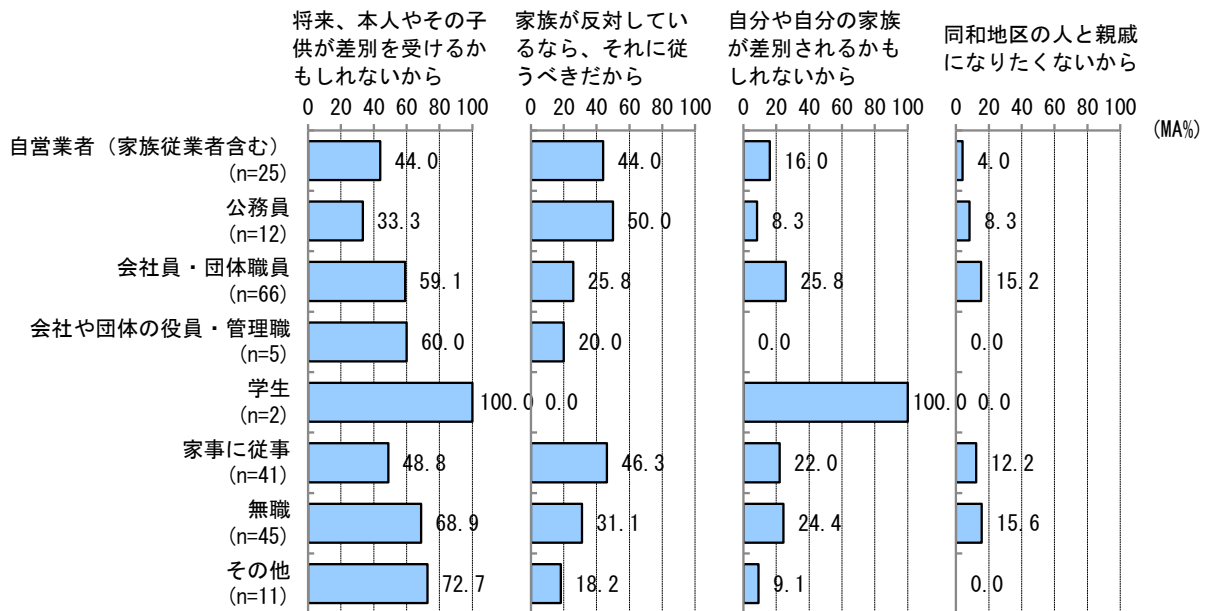
年齢別では、いずれの年代も「将来、本人やその子供が差別を受けるかもしれないから」が最も多く、40歳～49歳が62.9%で最も高くなっている。(図9-2-2)

【図9-2-2 年齢別 相談に対して結婚に消極的な態度の理由】



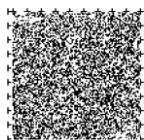
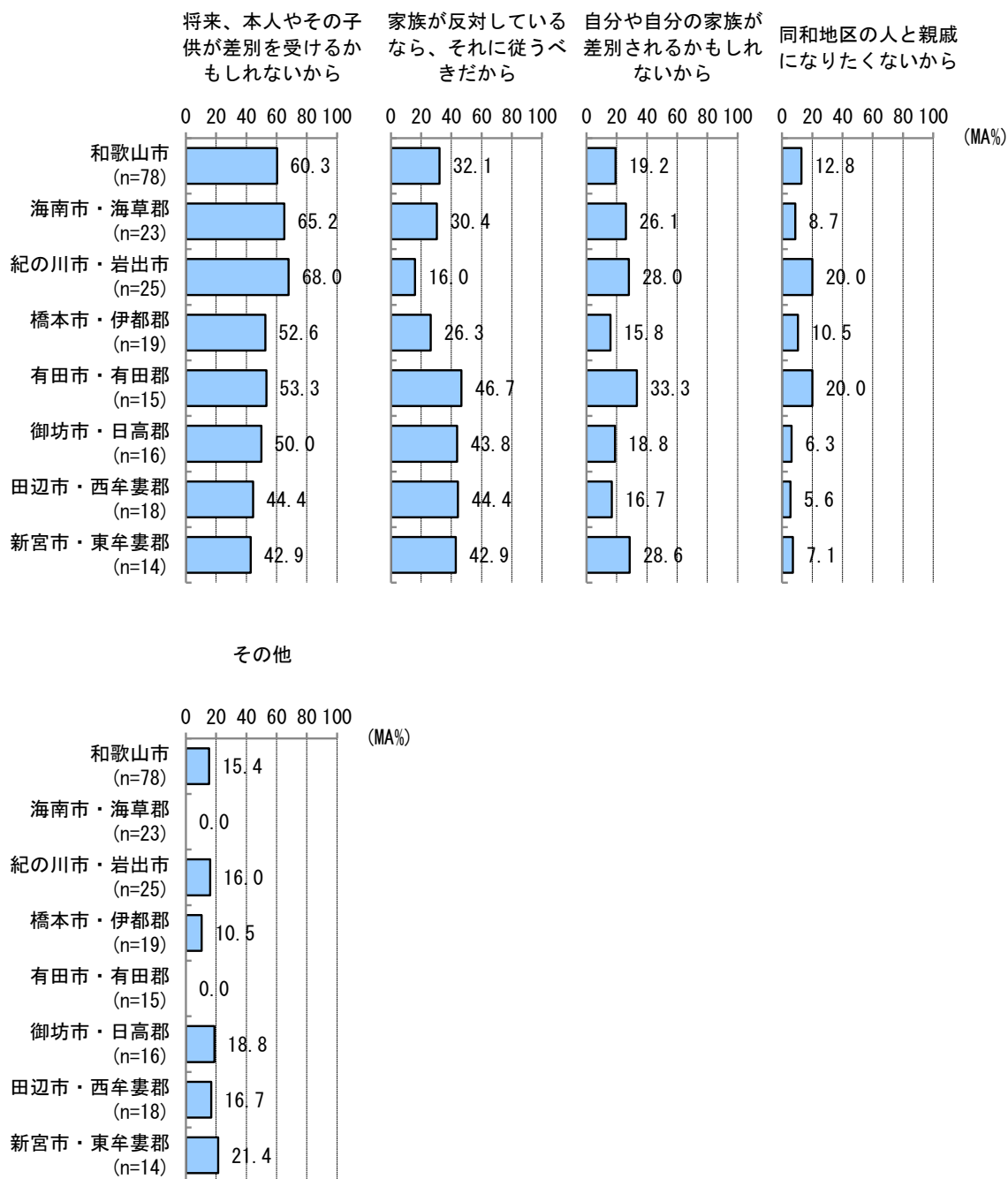
職業別では、公務員は「家族が反対しているなら、それに従うべきだから」が50.0%で最も多く、公務員を除く職業では、いずれも「将来、本人やその子供が差別を受けるかもしれないから」が多くなっている。(図9-2-3)

【図9-2-3 職業別 相談に対して結婚に消極的な態度の理由】



居住地域別では、田辺市・西牟婁郡及び新宮市・東牟婁郡を除くいずれの地域も「将来、本人やその子供が差別を受けるかもしれないから」が最も多く、紀の川市・岩出市が68.0%で最も高くなっている。これとともに、田辺市・西牟婁郡及び新宮市・東牟婁郡では「家族が反対しているなら、それに従うべきだから」も多くなっている。(図9-2-4)

【図9-2-4 居住地域別 相談に対して結婚に消極的な態度の理由】



10. 同和問題に関する意見や考え方

問10 あなたは、同和問題（部落差別）に関する次のような意見や考え方について、どう思いますか。あなたの意見に近いものを選んでください。（○はそれぞれひとつ）

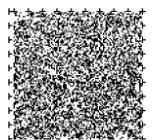
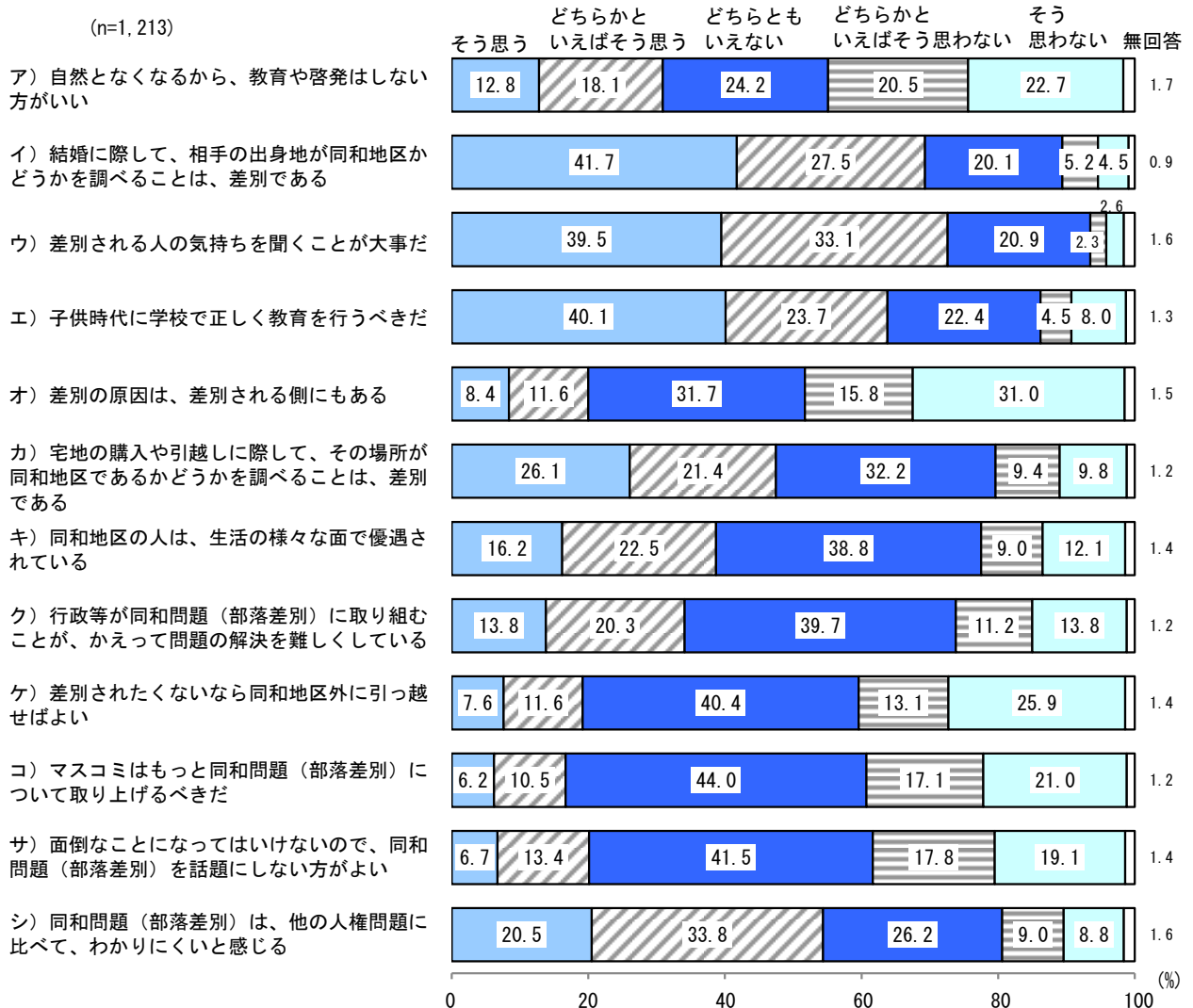
◇全体

同和問題に関する意見や考え方について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせて『そう思う』、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせて『そう思わない』として、各意見等の割合をみると以下のとおりである。

『そう思う』の割合が高い意見等は、“ウ）差別される人の気持ちを聞くことが大事だ（と思う）”で72.6%、次いで“イ）結婚に際して、相手の出身地が同和地区かどうかを調べることは、差別である（と思う）”が69.2%、“エ）子供時代に学校で正しく教育を行うべきだ（と思う）”が63.8%となっている。

一方、『そう思わない』の割合が高い意見等は、“オ）差別の原因は、差別される側にもある（とは思わない）”が46.8%で最も高く、次いで“ア）自然となくなるから、教育や啓発はしない方がいい（とは思わない）”が43.2%、“ケ）差別されたくないなら同和地区外に引っ越せばよい（とは思わない）”が39.0%となっている。（図10）

【図10 同和問題に関する意見や考え方】

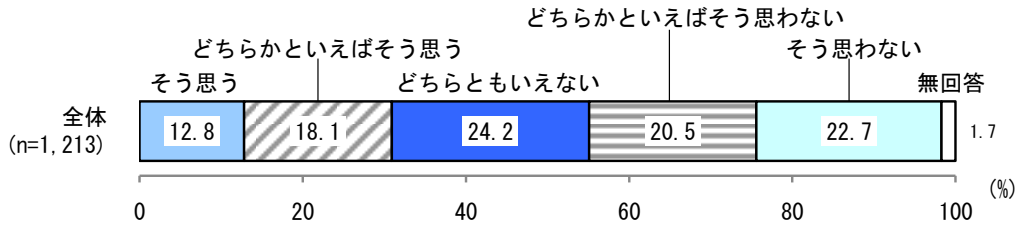


ア) 自然となくなるから、教育や啓発はしない方がいい

◇全体

自然となくなるから、教育や啓発はしない方がいいという意見に対し、『そう思わない』が43.2%で最も多くなっている。(図10-1-1)

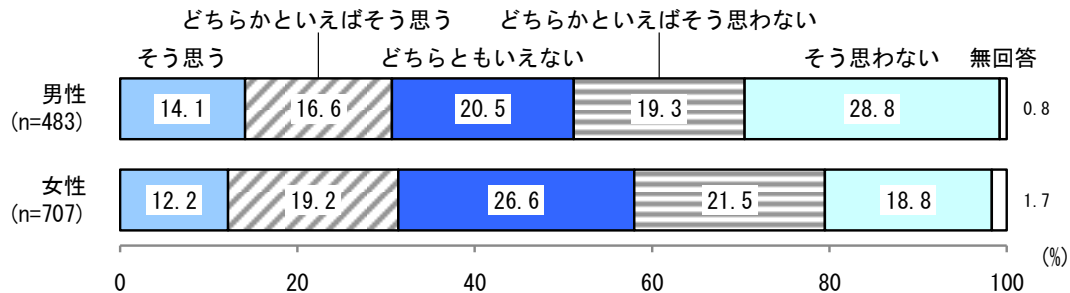
【図10-1-1 同和問題に関する意見や考え方 ア) 自然となくなるから、教育や啓発はしない方がいい】



◇回答者の属性別

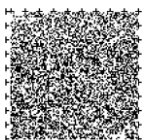
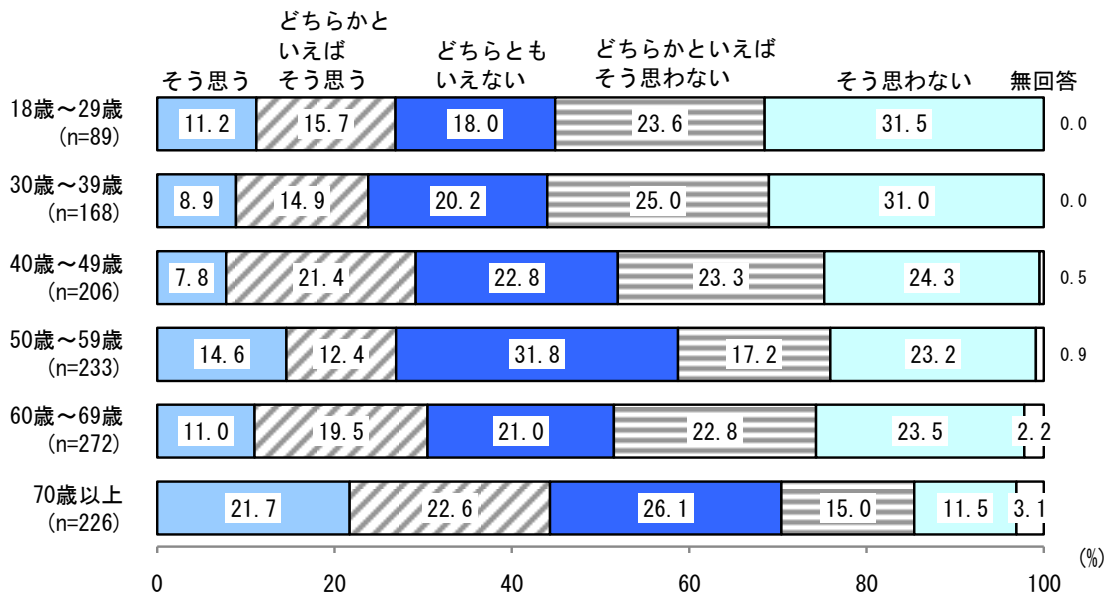
性別では、『そう思う』の割合は男性が30.7%、女性が31.4%で男女とも同程度となっている。一方、『そう思わない』の割合は女性が40.3%、男性が48.1%で、男性の方が7.8ポイント高く、「どちらともいえない」の割合は女性の方が6.1ポイント高くなっている。(図10-1-2)

【図10-1-2 性別 同和問題に関する意見や考え方 ア) 自然となくなるから、教育や啓発はしない方がいい】



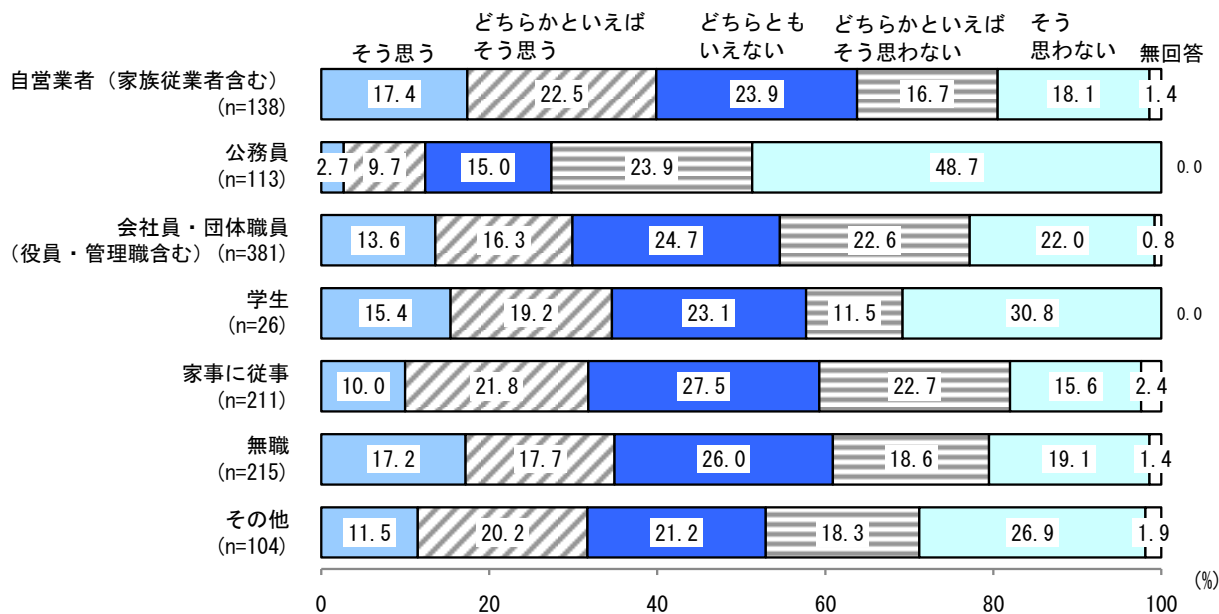
年齢別では、『そう思う』の割合は70歳以上が44.3%で最も高く、次いで60歳～69歳が30.5%となっている。一方、『そう思わない』の割合は30歳～39歳が56.0%で最も高く、次いで18歳～29歳が55.1%となっている。(図10-1-3)

【図10-1-3 年齢別 同和問題に関する意見や考え方 ア) 自然となくなるから、教育や啓発はしない方がいい】



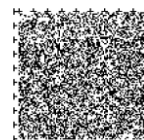
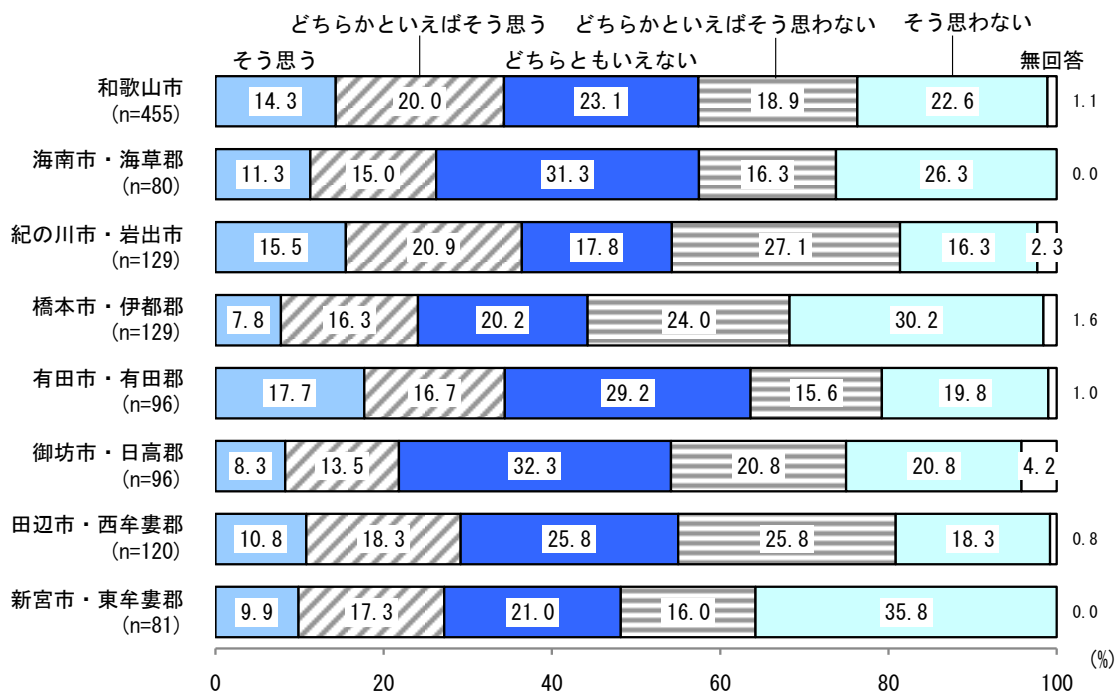
職業別では、『そう思う』の割合は自営業者（家族従業者含む）が39.9%で最も高く、次いで無職が34.9%となっている。一方、『そう思わない』の割合は公務員が72.6%で最も高く、他の職業に比べ30ポイント前後高くなっている。（図10-1-4）

【図10-1-4 職業別 同和問題に関する意見や考え方 ア) 自然となくなるから、教育や啓発はしない方がいい】



居住地域別では、『そう思う』の割合は紀の川市・岩出市が36.4%で最も高くなっている。一方、『そう思わない』の割合は橋本市・伊都郡が54.2%で最も高くなっている。（図10-1-5）

【図10-1-5 居住地域別 同和問題に関する意見や考え方 ア) 自然となくなるから、教育や啓発はしない方がいい】

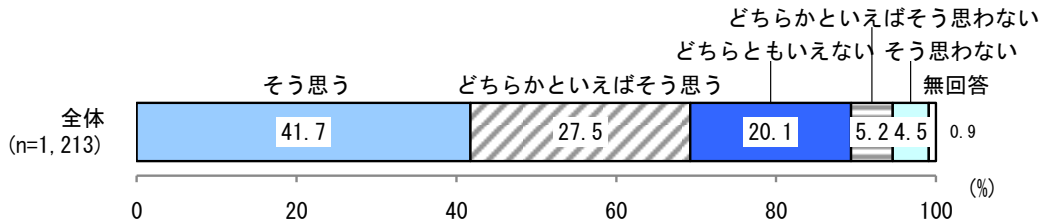


イ) 結婚に際して、相手の出身地が同和地区かどうかを調べることは、差別である

◇全体

結婚に際して相手の出身地が同和地区かどうかを調べることは差別であるという意見に対し、『そう思う』が69.2%で最も多くなっている。(図10-2-1)

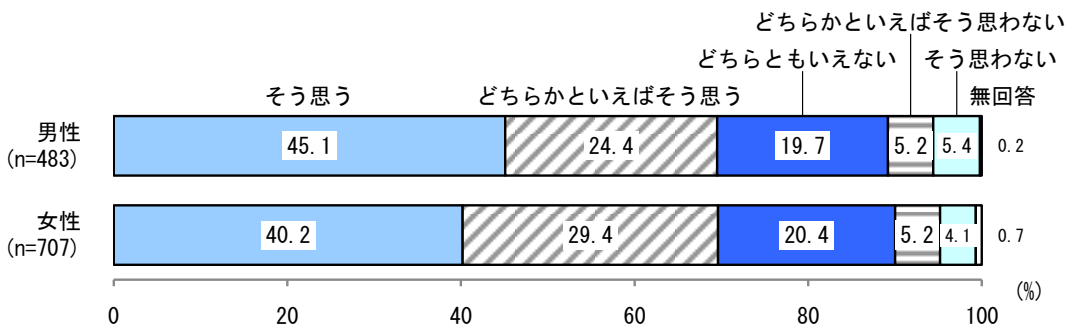
【図10-2-1 同和問題に関する意見や考え方 イ) 結婚に際して、相手の出身地が同和地区かどうかを調べることは、差別である】



◇回答者の属性別

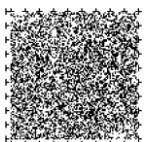
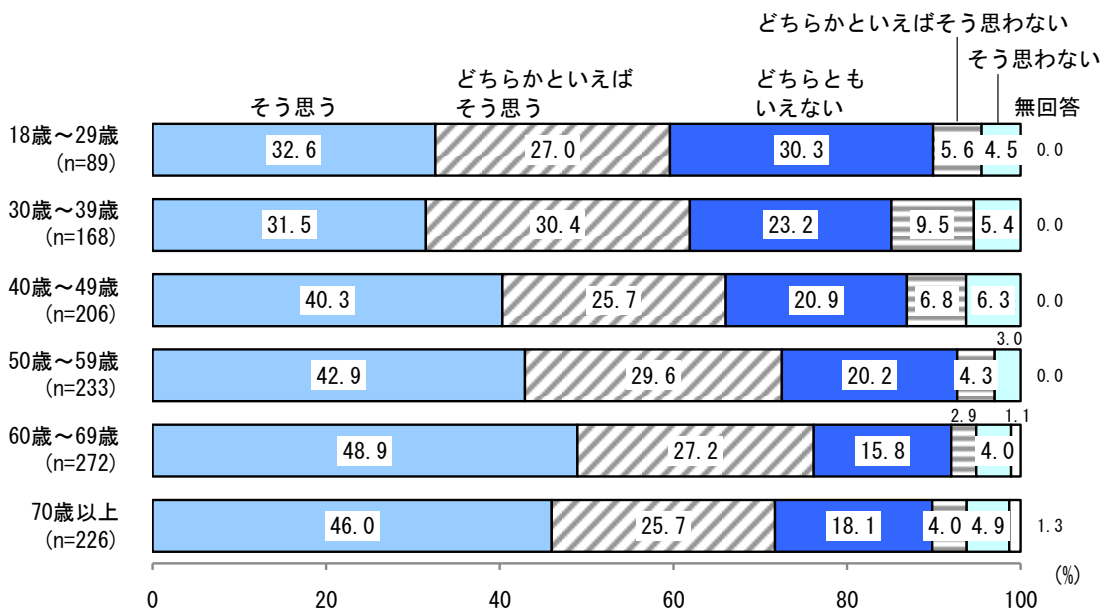
性別では、『そう思う』の割合は男性が69.5%、女性が69.6%で同程度となっている。『そう思わない』の割合は男性が10.6%、女性が9.3%で同程度となっている。(図10-2-2)

【図10-2-2 性別 同和問題に関する意見や考え方 イ) 結婚に際して、相手の出身地が同和地区かどうかを調べることは、差別である】



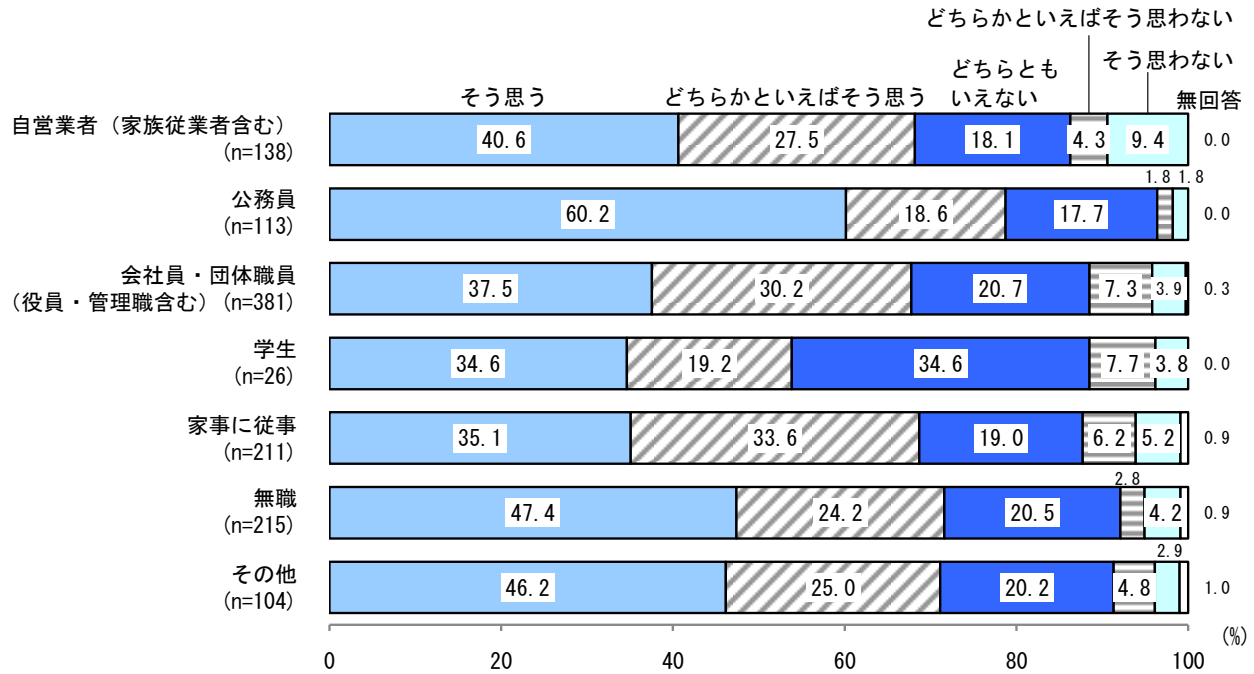
年齢別では、『そう思う』の割合は、50歳以上の年代では7割を超え、60歳～69歳が76.1%で最も高くなっている。一方、『そう思わない』の割合は18歳～39歳の若年層で高くなっている。(図10-2-3)

【図10-2-3 年齢別 同和問題に関する意見や考え方 イ) 結婚に際して、相手の出身地が同和地区かどうかを調べることは、差別である】



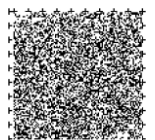
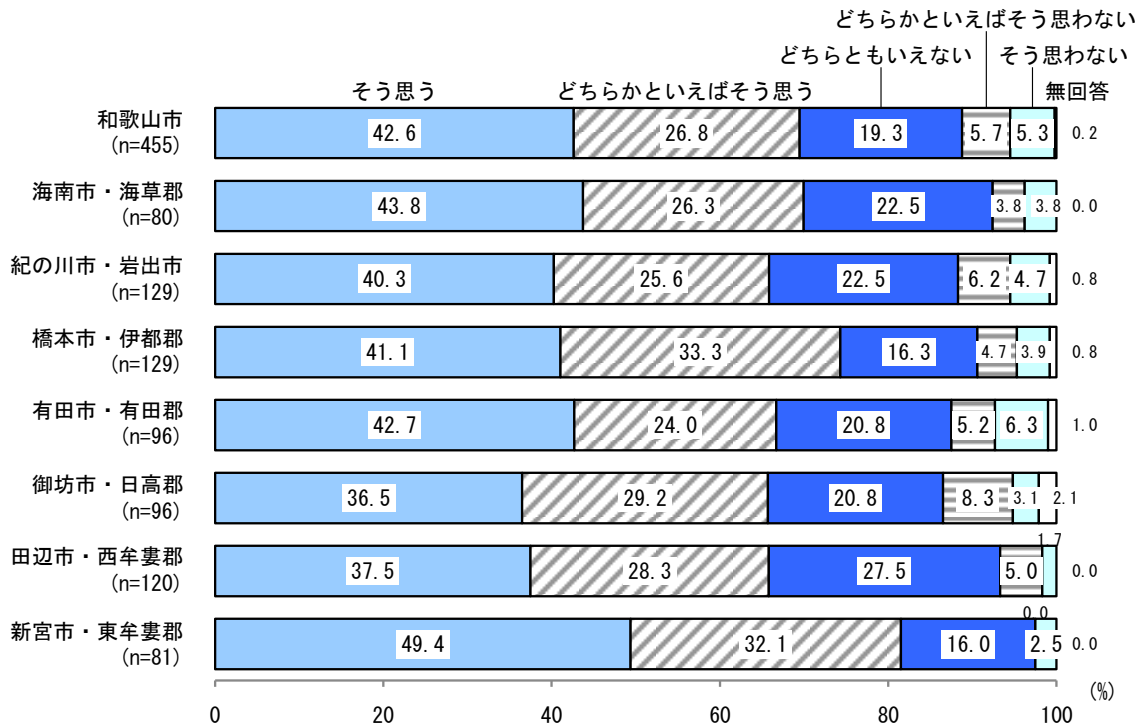
職業別では、『そう思う』の割合は公務員が78.8%で最も高く、次いで無職が71.6%となっている。一方、『そう思わない』の割合は自営業者（家族従業者含む）が13.7%で最も高くなっている。（図10-2-4）

【図10-2-4 職業別 同和問題に関する意見や考え方 イ）結婚に際して、相手の出身地が同和地区かどうかを調べることは、差別である】



居住地域では、『そう思う』の割合は新宮市・東牟婁郡が81.5%で最も高く、次いで橋本市・伊都郡が74.4%となっている。（図10-2-5）

【図10-2-5 居住地域別 同和問題に関する意見や考え方 イ）結婚に際して、相手の出身地が同和地区かどうかを調べることは、差別である】

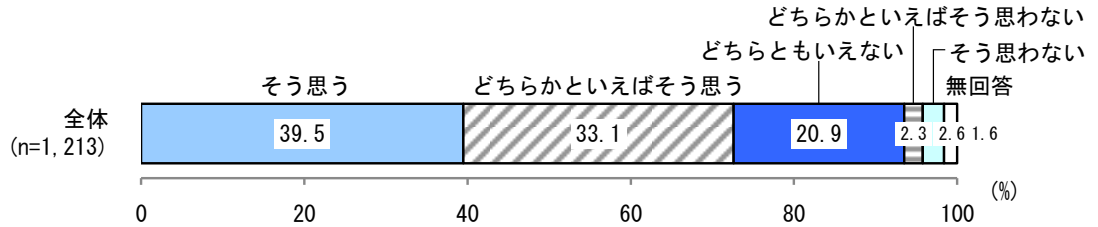


ウ) 差別される人の気持ちを聞くことが大事だ

◇全体

差別される人の気持ちを聞くことが大事だという意見に対し、『そう思う』が72.6%で最も多くなっている。(図10-3-1)

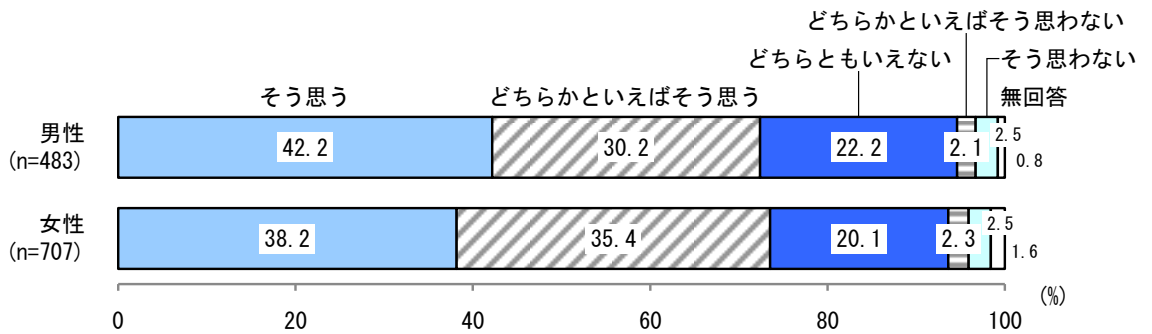
【図10-3-1 同和問題に関する意見や考え方 ウ) 差別される人の気持ちを聞くことが大事だ】



◇回答者の属性別

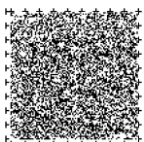
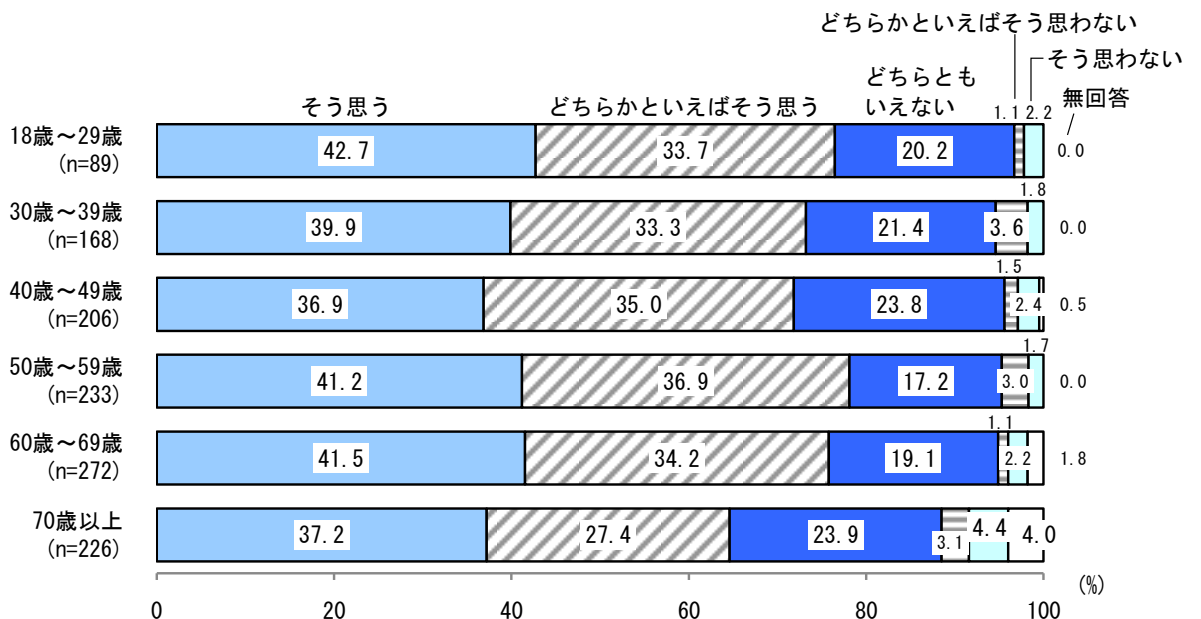
性別では、『そう思う』の割合は男性が72.4%、女性が73.6%で同程度となっている。『そう思わない』の割合は男性4.6%、女性4.8%で同程度となっている。(図10-3-2)

【図10-3-2 性別 同和問題に関する意見や考え方 ウ) 差別される人の気持ちを聞くことが大事だ】



年齢別では、『そう思う』の割合は50歳～59歳が78.1%で最も高く、次いで18歳～29歳が76.4%、60歳～69歳が75.7%となっている。(図10-3-3)

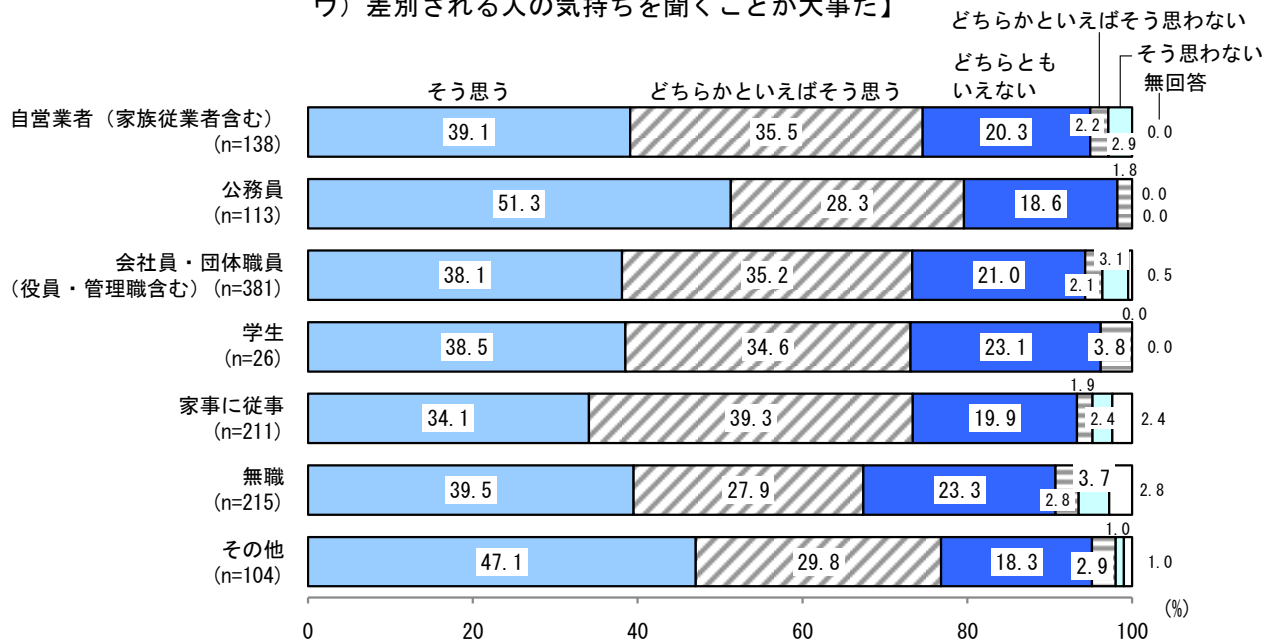
【図10-3-3 年齢別 同和問題に関する意見や考え方 ウ) 差別される人の気持ちを聞くことが大事だ】



職業別では、『そう思う』の割合は公務員が79.6%で最も高く、次いで自営業者（家族従業者含む）が74.6%、家事に従事が73.4%となっている。（図10-3-4）

【図10-3-4 職業別 同和問題に関する意見や考え方

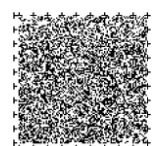
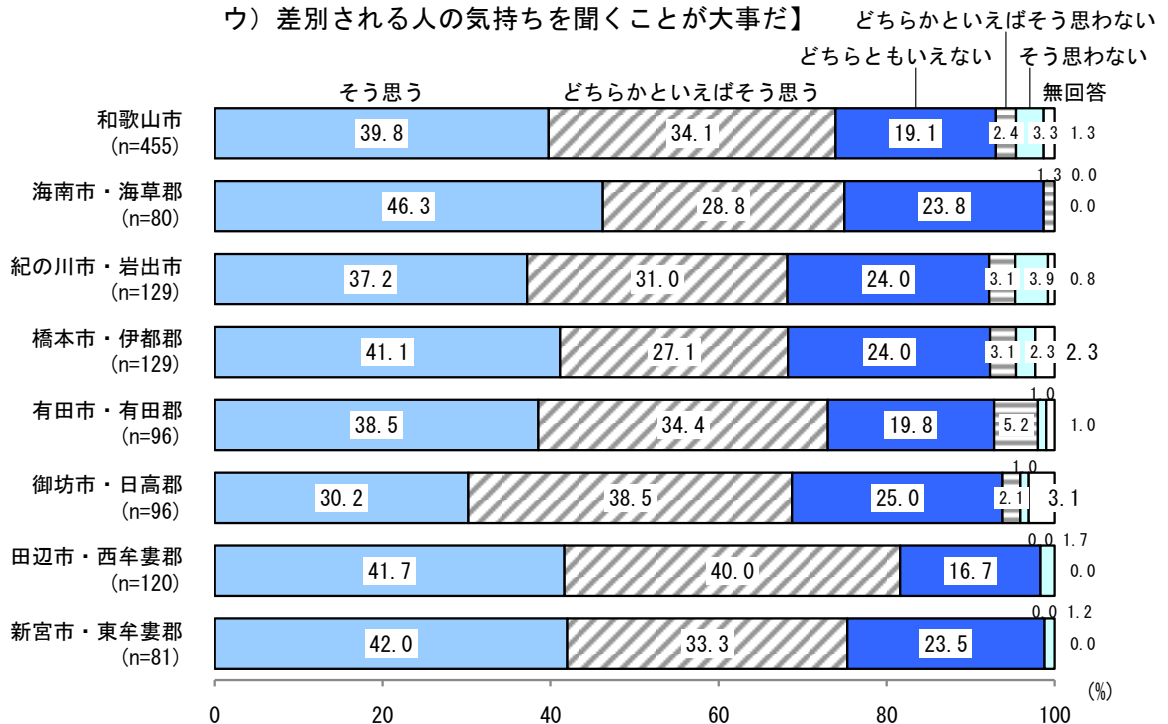
ウ) 差別される人の気持ちを聞くことが大事だ】



居住地域では、『そう思う』の割合は田辺市・西牟婁郡が81.7%で最も高く、次いで新宮市・東牟婁郡が75.3%、海南市・海草郡が75.1%となっている。（図10-3-5）

【図10-3-5 居住地域別 同和問題に関する意見や考え方

ウ) 差別される人の気持ちを聞くことが大事だ】

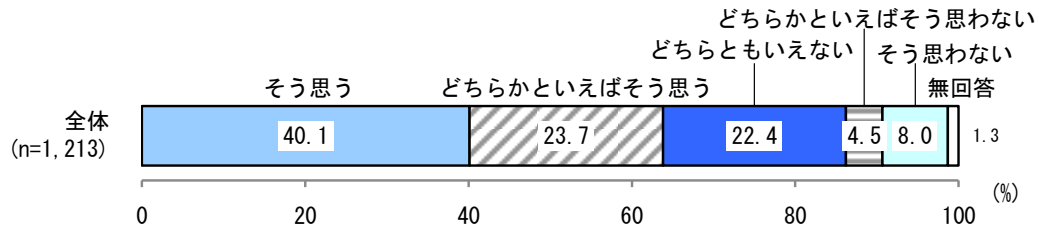


工) 子供時代に学校で正しく教育を行うべきだ

◇全体

子供時代に学校で正しく教育を行うべきだという意見に対し、『そう思う』が63.8%で最も多くなっている。(図10-4-1)

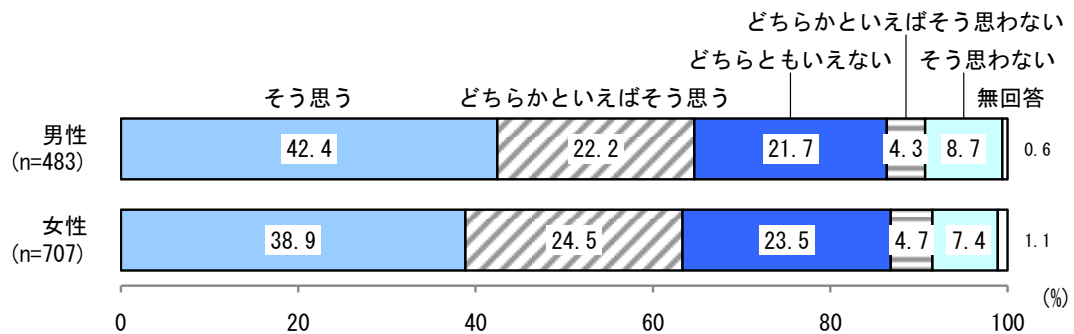
【図10-4-1 同和問題に関する意見や考え方 工) 子供時代に学校で正しく教育を行うべきだ】



◇回答者の属性別

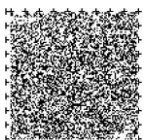
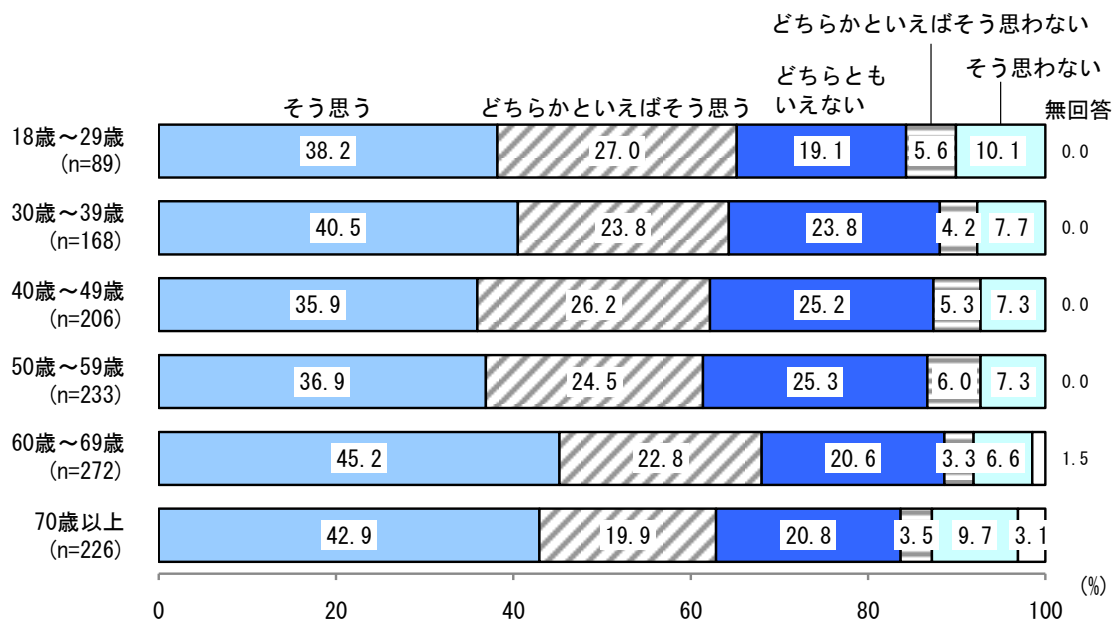
性別では、『そう思う』の割合は男性が64.6%、女性が63.4%で同程度となっている。『そう思わない』の割合は男性が13.0%、女性が12.1%で、こちらも同程度となっている。(図10-4-2)

【図10-4-2 性別 同和問題に関する意見や考え方 工) 子供時代に学校で正しく教育を行うべきだ】



年齢別では、『そう思う』の割合は60歳～69歳が68.0%で最も高く、次いで18歳～29歳が65.2%、30歳～39歳が64.3%となっている。(図10-4-3)

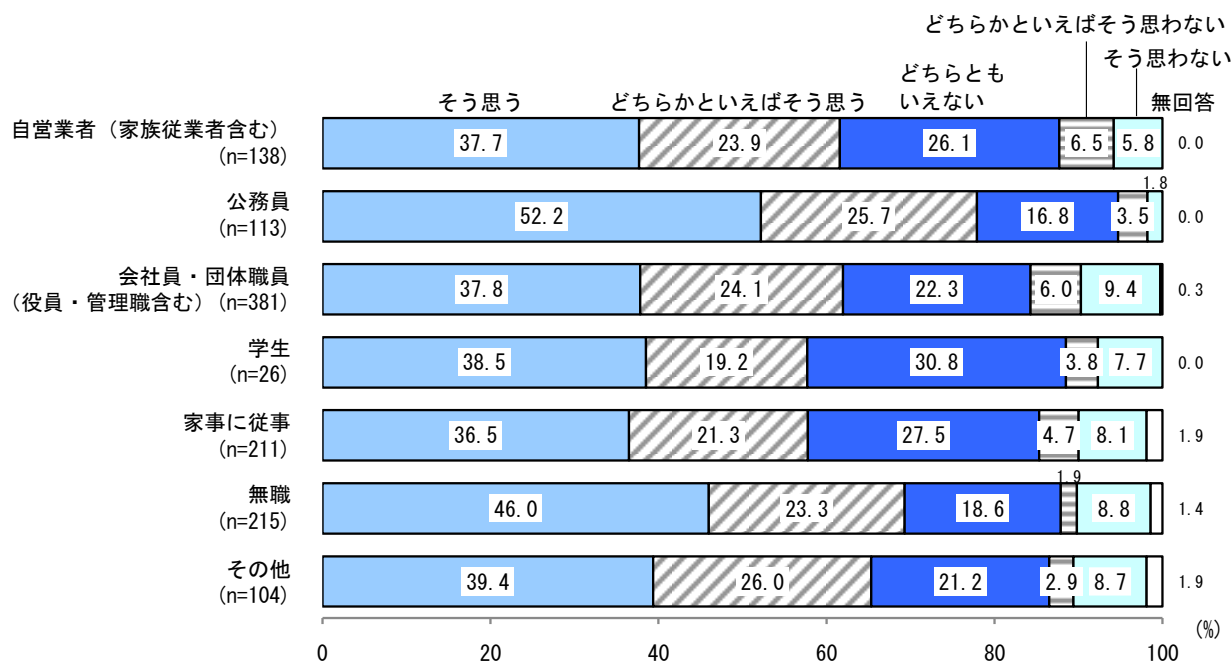
【図10-4-3 年齢別 同和問題に関する意見や考え方 工) 子供時代に学校で正しく教育を行うべきだ】



職業別では、『そう思う』の割合は公務員が77.9%で最も高く、次いで無職が69.3%、会社員・団体職員（役員・管理職含む）が61.9%となっている。（図10-4-4）

【図10-4-4 職業別 同和問題に関する意見や考え方

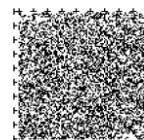
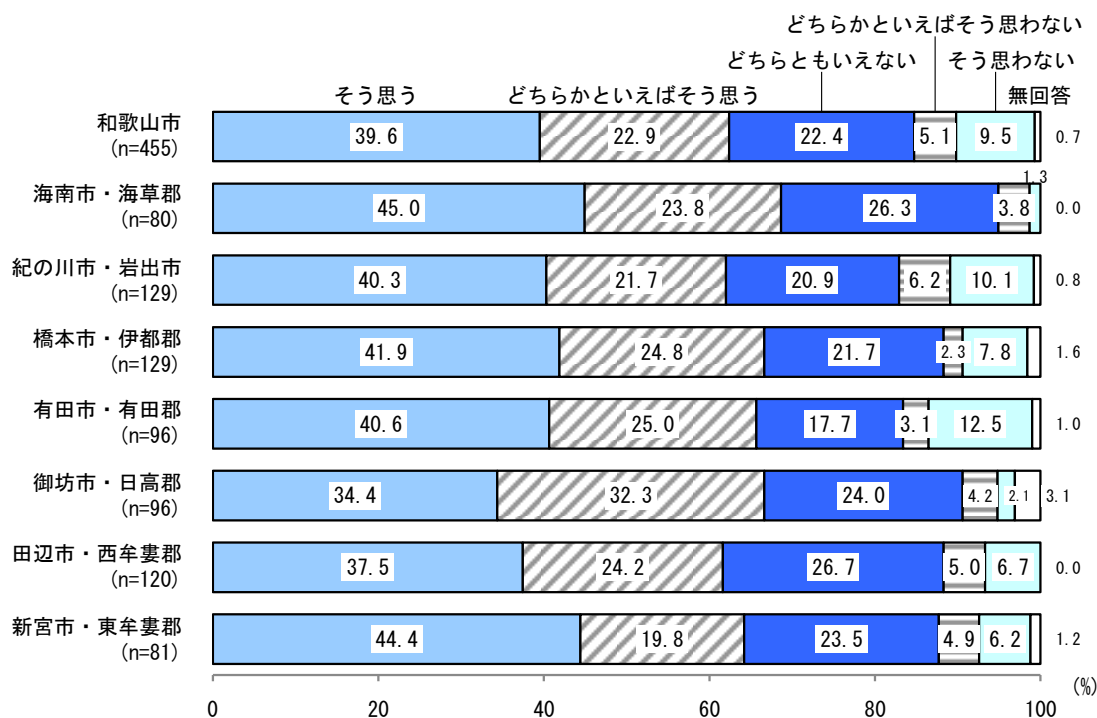
エ) 子供時代に学校で正しく教育を行うべきだ】



居住地域別では、『そう思う』の割合は海南市・海草郡が68.8%で最も高く、次いで橋本市・伊都郡及び御坊市・日高郡がともに66.7%となっている。（図10-4-5）

【図10-4-5 居住地域別 同和問題に関する意見や考え方

エ) 子供時代に学校で正しく教育を行うべきだ】

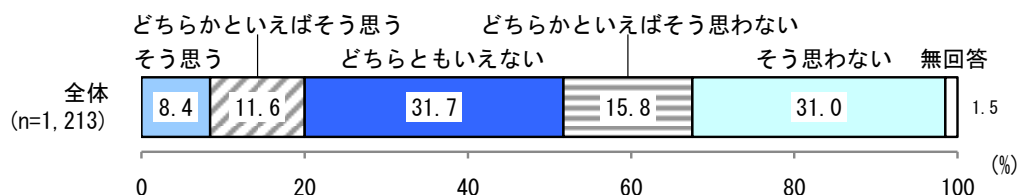


オ) 差別の原因は、差別される側にもある

◇全体

差別の原因は差別される側にもあるという意見に対し、『そう思わない』が46.8%で最も多くなっている。(図10-5-1)

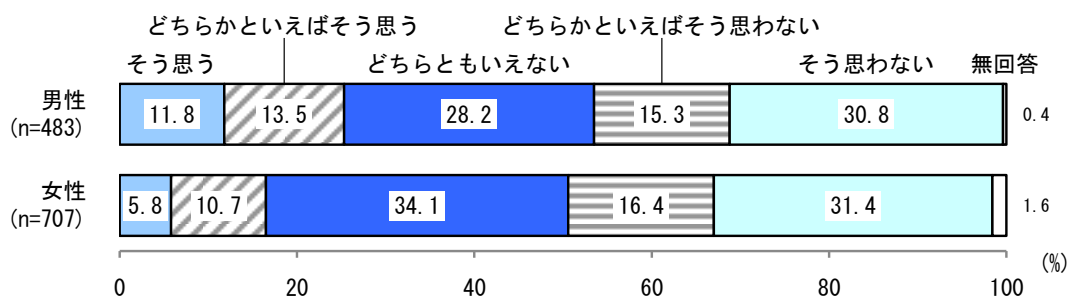
【図10-5-1 同和問題に関する意見や考え方 オ) 差別の原因は、差別される側にもある】



◇回答者の属性別

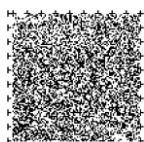
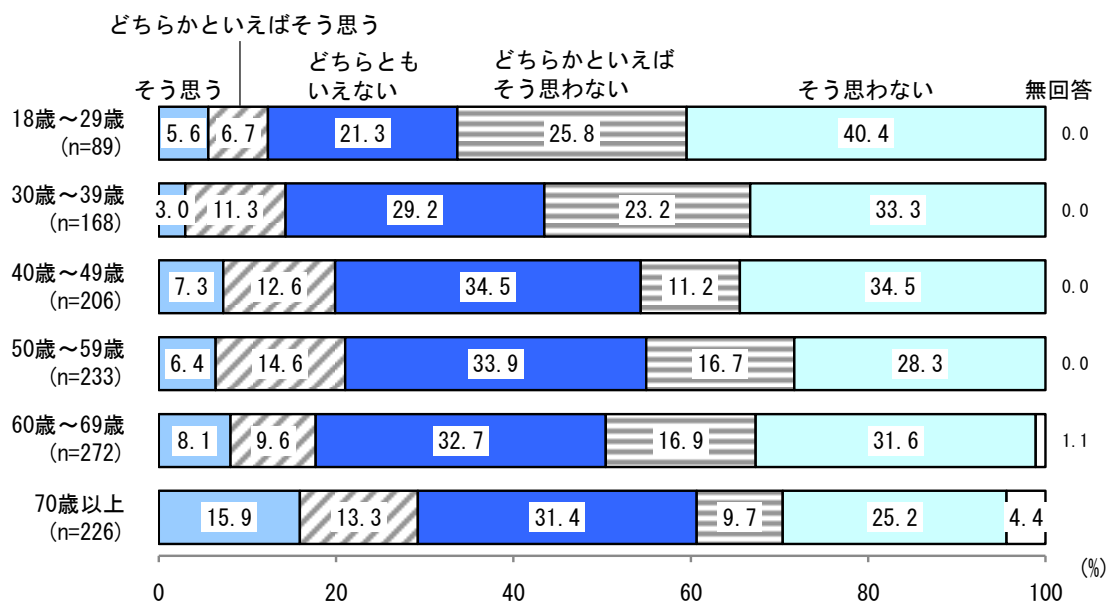
性別では、『そう思う』の割合は男性が25.3%、女性が16.5%で男性の方が8.8ポイント高くなっている。一方、『そう思わない』の割合は男性が46.1%、女性が47.8%でほぼ同程度となっており、女性は「どちらともいえない」の割合が男性より5.9ポイント高くなっている。(図10-5-2)

【図10-5-2 性別 同和問題に関する意見や考え方 オ) 差別の原因は、差別される側にもある】



年齢別では、『そう思う』の割合は70歳以上が29.2%で最も高く、次いで50歳～59歳が21.0%となっている。一方、『そう思わない』の割合は18歳～29歳が66.2%で最も高く、次いで30歳～39歳が56.5%となっている。(図10-5-3)

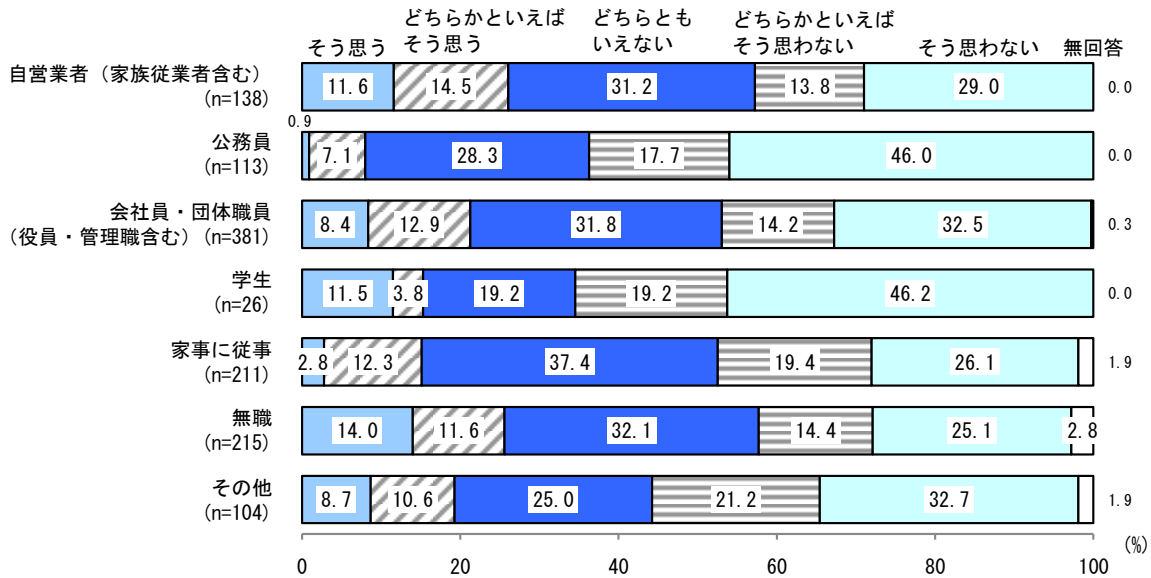
【図10-5-3 年齢別 同和問題に関する意見や考え方 オ) 差別の原因は、差別される側にもある】



職業別では、『そう思う』の割合は自営業者（家族従業者含む）が26.1%で最も高く、次いで無職が25.6%、会社員・団体職員（役員・管理職含む）が21.3%となっている。一方、『そう思わない』の割合は学生が65.4%で最も高く、次いで公務員が63.7%となっている。（図10-5-4）

【図10-5-4 職業別 同和問題に関する意見や考え方

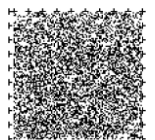
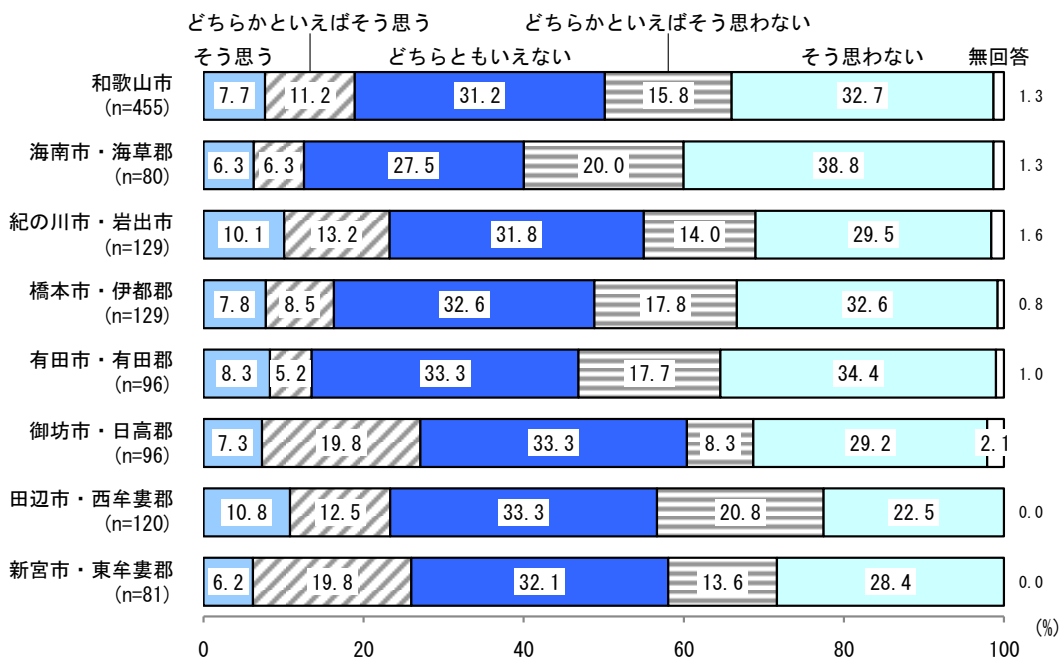
オ) 差別の原因は、差別される側にもある】



居住地域別では、『そう思う』の割合は御坊市・日高郡が27.1%で最も高く、次いで新宮市・東牟婁郡が26.0%となっている。一方、『そう思わない』の割合は海南市・海草郡が58.8%で最も高くなっている。（図10-5-5）

【図10-5-5 居住地域別 同和問題に関する意見や考え方

オ) 差別の原因は、差別される側にもある】

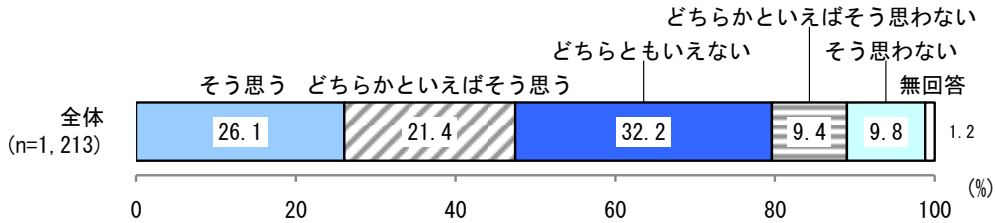


カ) 宅地の購入や引越しに際して、その場所が同和地区であるかどうかを調べることは、差別である

◇全体

宅地の購入や引越しに際して、その場所が同和地区であるかどうかを調べることは差別であるという意見に対し、『そう思う』が47.5%で最も多くなっている。(図10-6-1)

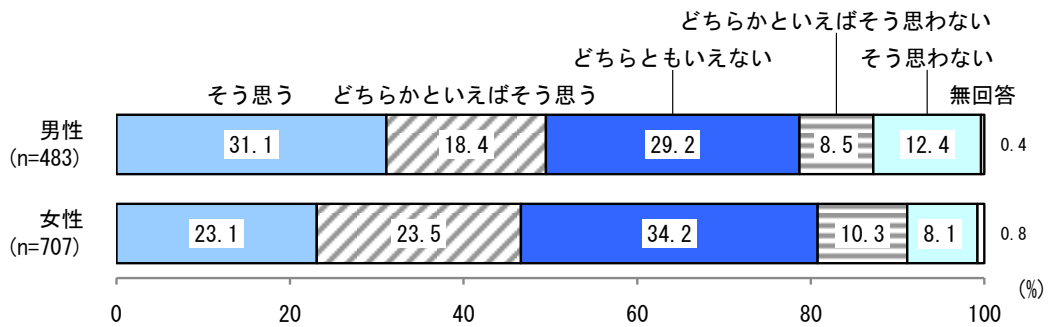
【図10-6-1 同和問題に関する意見や考え方 カ) 宅地の購入や引越しに際して、その場所が同和地区であるかどうかを調べることは、差別である】



◇回答者の属性別

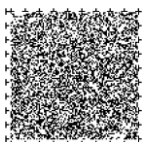
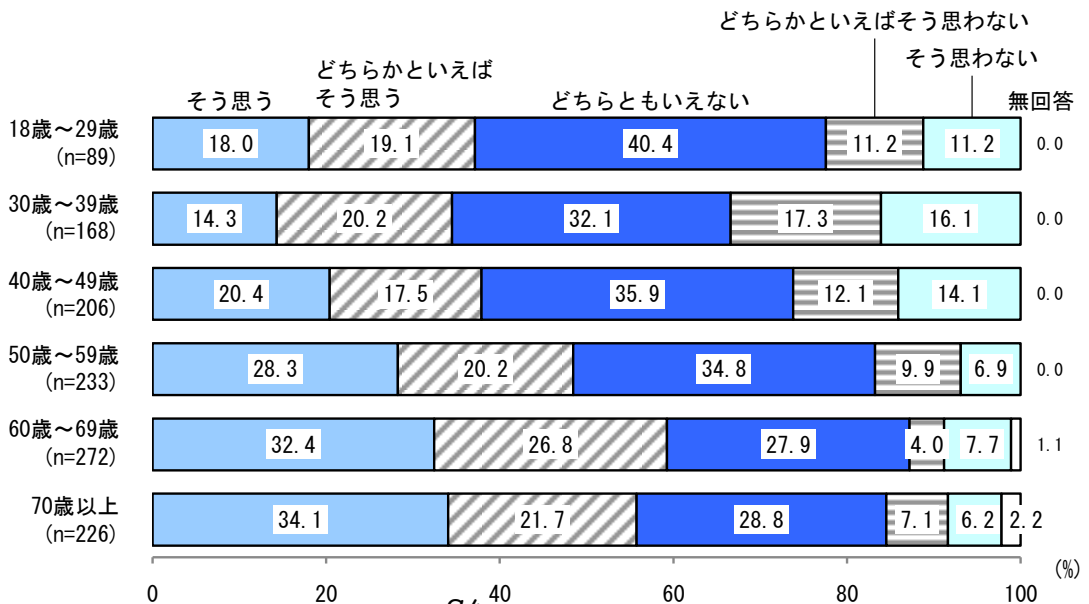
性別では、『そう思う』の割合は男性が49.5%、女性が46.6%で男性の方が2.9ポイント高くなっている。一方、『そう思わない』の割合は男性が20.9%、女性が18.4%で、こちらも男性の方が2.5ポイント高く、女性は「どちらともいえない」の割合が男性より5.0ポイント高くなっている。(図10-6-2)

【図10-6-2 性別 同和問題に関する意見や考え方 カ) 宅地の購入や引越しに際して、その場所が同和地区であるかどうかを調べることは、差別である】



年齢別では、『そう思う』の割合は60歳～69歳が59.2%で最も高く、次いで70歳以上が55.8%となっている。一方、『そう思わない』の割合は30歳～39歳が33.4%で最も高くなっている。18歳～29歳で「どちらともいえない」の割合が40.4%で高くなっている。(図10-6-3)

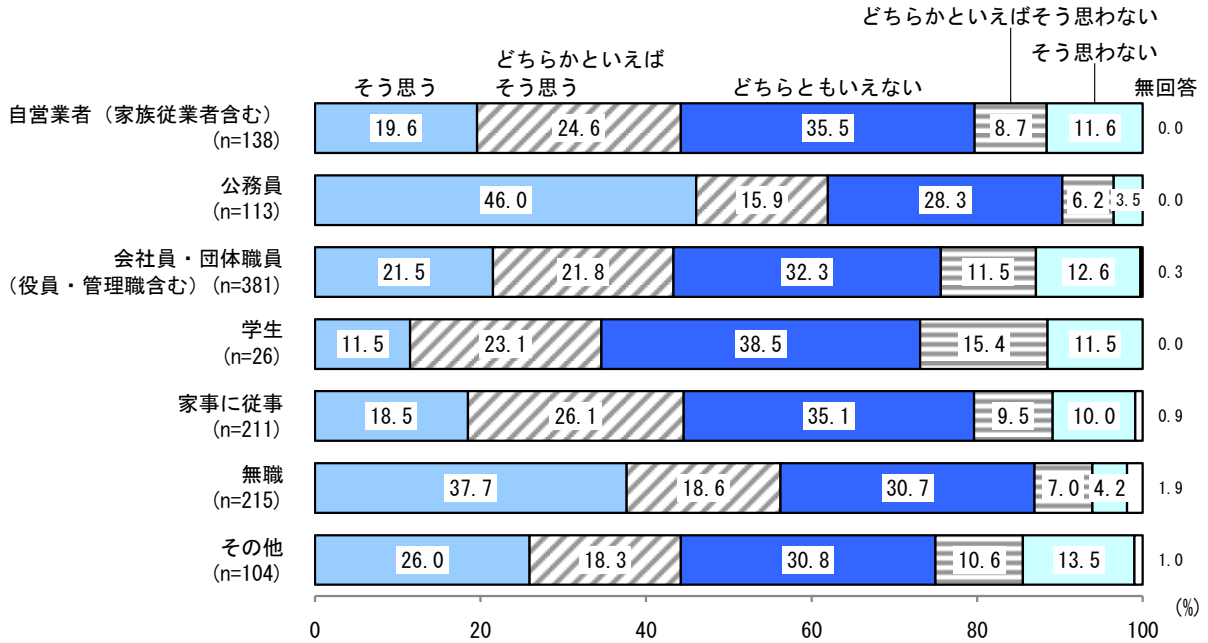
【図10-6-3 年齢別 同和問題に関する意見や考え方 カ) 宅地の購入や引越しに際して、その場所が同和地区であるかどうかを調べることは、差別である】



職業別では、『そう思う』の割合は公務員が61.9%で最も高く、次いで無職が56.3%、家事に従事が44.6%となっている。一方、『そう思わない』の割合は学生が26.9%で最も高く、「どちらともいえない」の割合も38.5%で最も高くなっている。(図10-6-4)

【図10-6-4 職業別 同和問題に関する意見や考え方

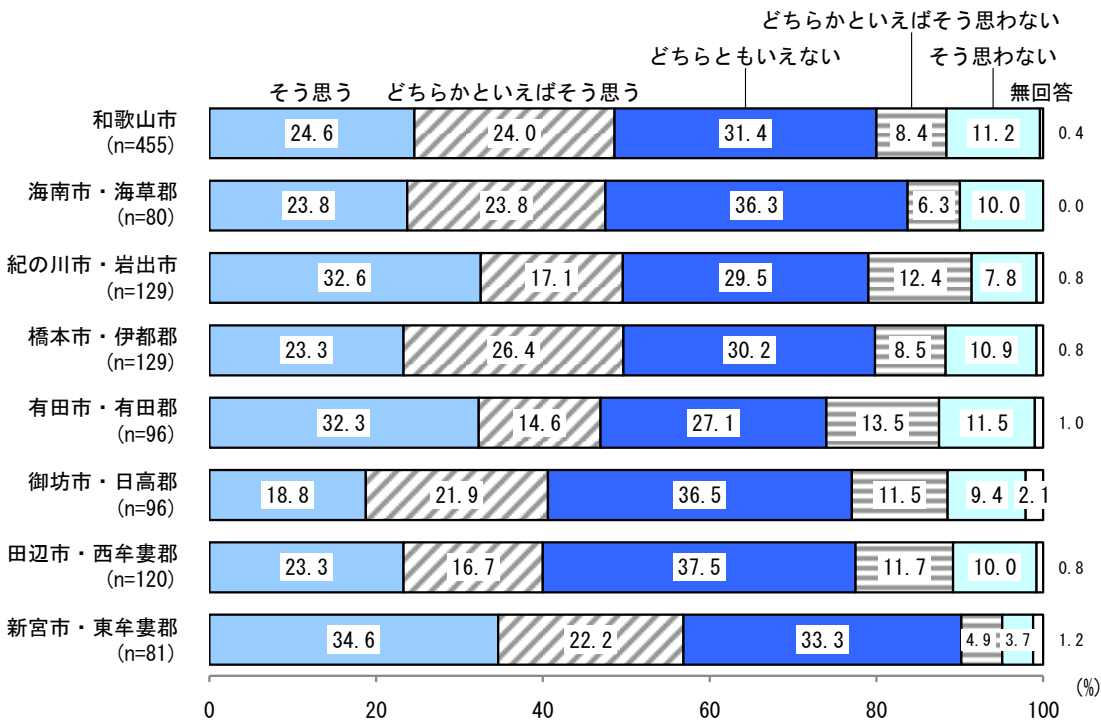
力) 宅地の購入や引越しに際して、その場所が同和地区であるかどうかを調べることは、差別である】



居住地域別では、『そう思う』の割合は新宮市・東牟婁郡が56.8%で最も高く、次いで紀の川市・岩出市及び橋本市・伊都郡がともに49.7%となっている。一方、『そう思わない』の割合は有田市・有田郡が25.0%で最も高くなっている。(図10-6-5)

【図10-6-5 居住地域別 同和問題に関する意見や考え方

力) 宅地の購入や引越しに際して、その場所が同和地区であるかどうかを調べることは、差別である】

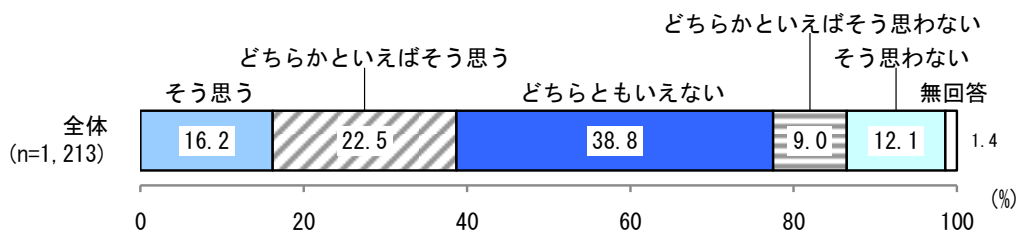


キ) 同和地区の人は、生活の様々な面で優遇されている

◇全体

同和地区の人は生活の様々な面で優遇されているという意見に対し、『そう思う』が38.7%で、「どちらともいえない」の38.8%と同程度となっている。(図10-7-1)

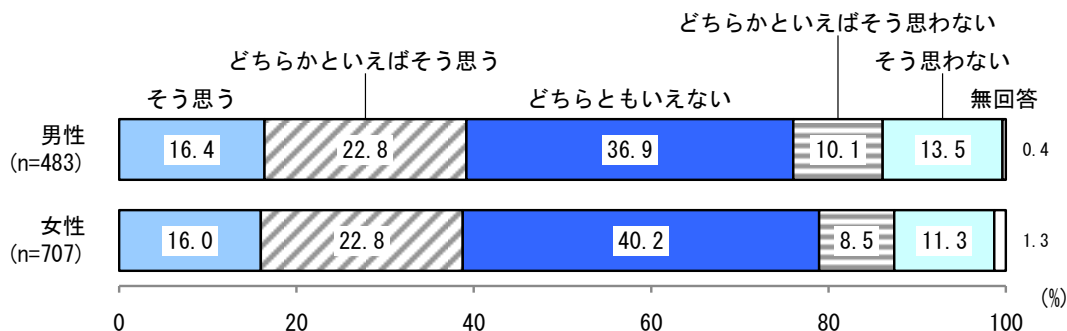
【図10-7-1 同和問題に関する意見や考え方 キ) 同和地区の人は、生活の様々な面で優遇されている】



◇回答者の属性別

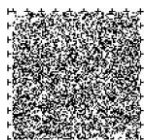
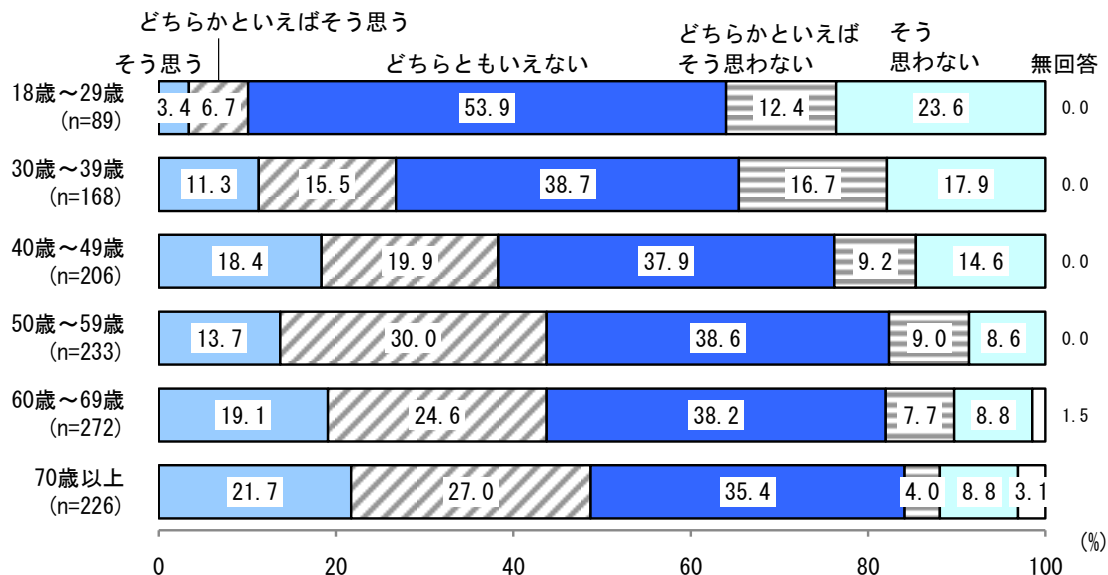
性別では、『そう思う』の割合は男性が39.2%、女性が38.8%と同程度となっている。一方、『そう思わない』の割合は男性が23.6%、女性が19.8%で男性の方が3.8ポイント高い。(図10-7-2)

【図10-7-2 性別 同和問題に関する意見や考え方 キ) 同和地区の人は、生活の様々な面で優遇されている】



年齢別では、『そう思う』の割合は70歳以上が48.7%で最も高く、次いで50歳～59歳と60歳～69歳がともに43.7%となっている。一方、『そう思わない』の割合は18歳～29歳が36.0%で最も高く、次いで30歳～39歳が34.6%となっている。(図10-7-3)

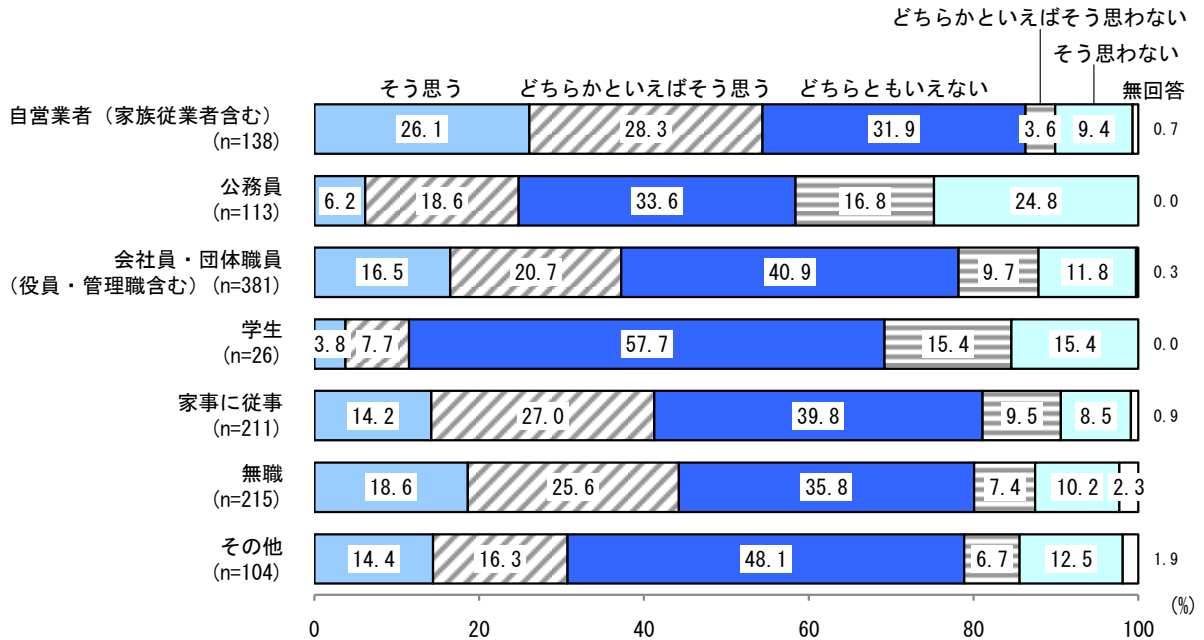
【図10-7-3 年齢別 同和問題に関する意見や考え方 キ) 同和地区の人は、生活の様々な面で優遇されている】



職業別では、『そう思う』の割合は自営業者（家族従業者含む）が54.4%で最も高く、次いで無職（44.2%）となっている。一方、『そう思わない』の割合は公務員が41.6%で最も高くなっている。（図10-7-4）

【図10-7-4 職業別 同和問題に関する意見や考え方

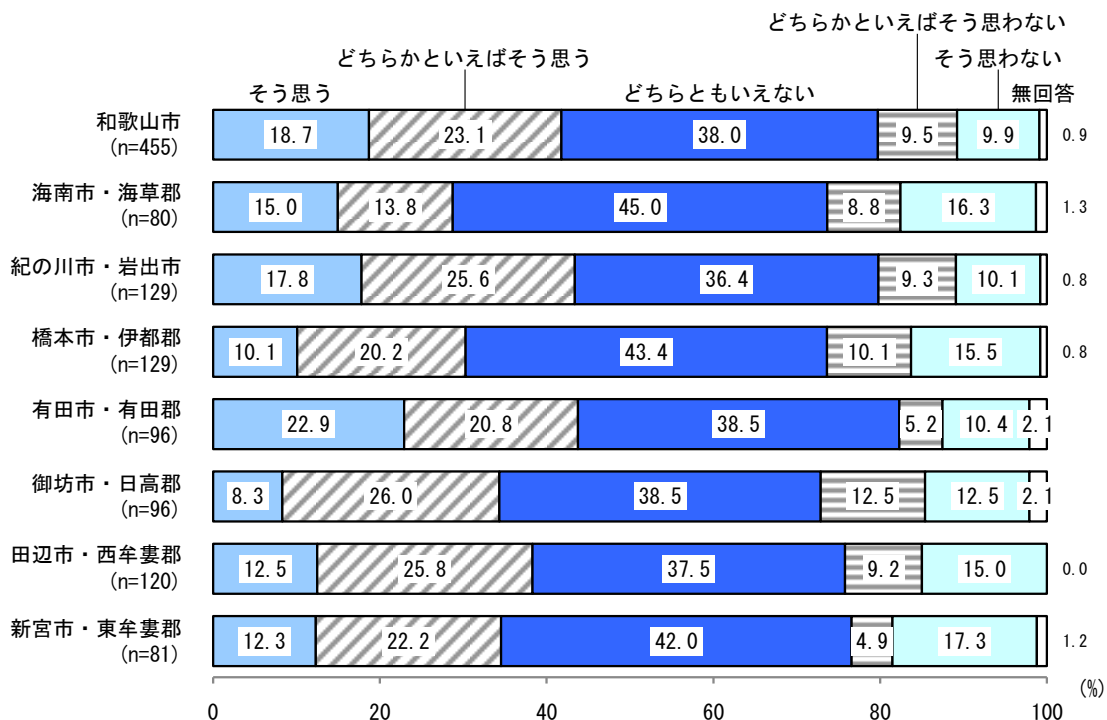
キ) 同和地区の人は、生活の様々な面で優遇されている】



居住地域別では、『そう思う』の割合は有田市・有田郡が43.7%で最も高く、次いで紀の川市・岩出市（43.4%）となっている。一方、『そう思わない』の割合は橋本市・伊都郡が25.6%で最も高くなっている。（図10-7-5）

【図10-7-5 居住地域別 同和問題に関する意見や考え方

キ) 同和地区の人は、生活の様々な面で優遇されている】

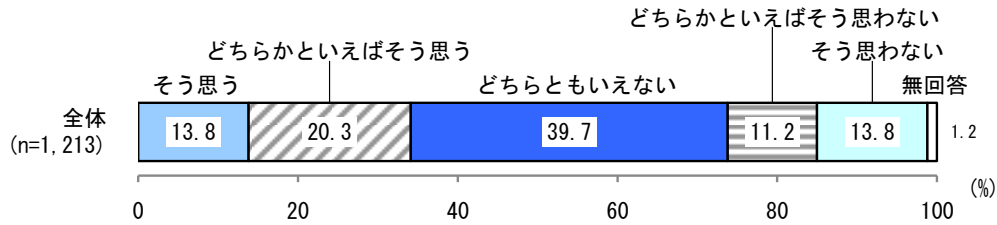


ク) 行政等が同和問題（部落差別）に取り組むことが、かえって問題の解決を難しくしている

◇全体

行政等が同和問題（部落差別）に取り組むことがかえって問題の解決を難しくしているという意見に対し、「どちらともいえない」が39.7%で最も多くなっている。（図10-8-1）

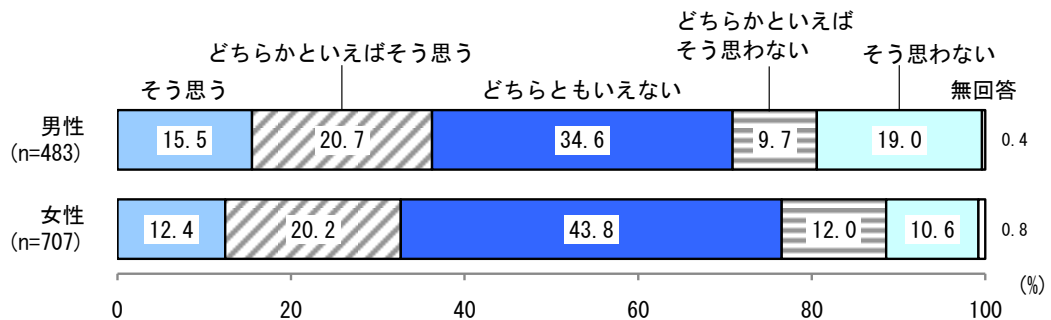
【図10-8-1 同和問題に関する意見や考え方 ク) 行政等が同和問題（部落差別）に取り組むことが、かえって問題の解決を難しくしている】



◇回答者の属性別

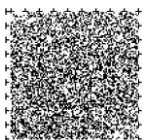
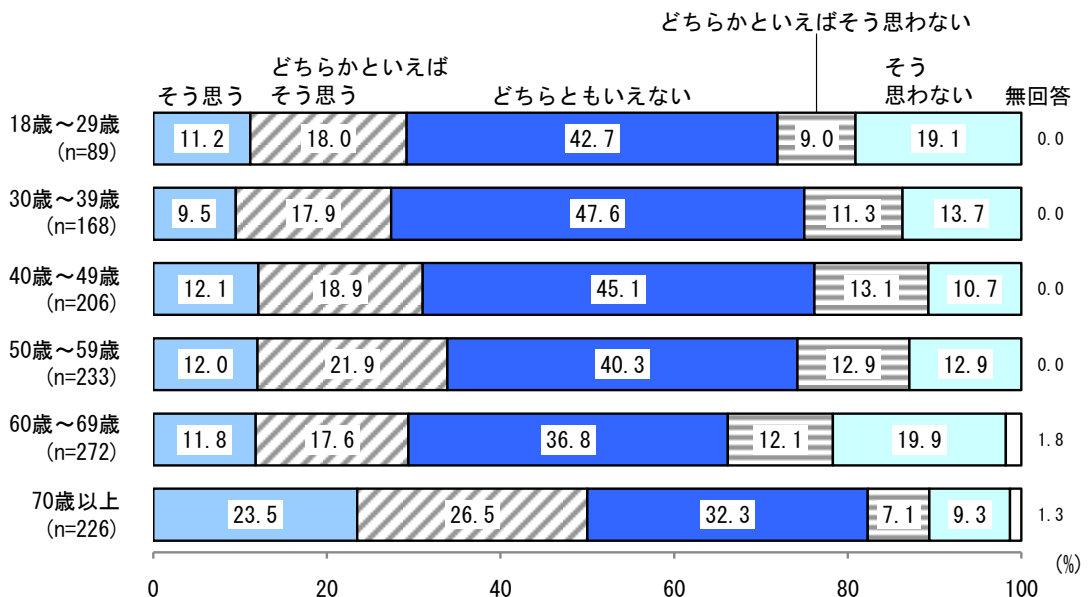
性別では、『そう思う』の割合は男性が36.2%、女性が32.6%で男性の方が3.6ポイント高くなっている。一方、『そう思わない』の割合は男性が28.7%、女性が22.6%で、男性の方が6.1ポイント高く、「どちらともいえない」の割合が女性の方が9.2ポイント高くなっている。（図10-8-2）

【図10-8-2 性別 同和問題に関する意見や考え方 ク) 行政等が同和問題（部落差別）に取り組むことが、かえって問題の解決を難しくしている】



年齢別では、『そう思う』の割合は70歳以上が50.0%で最も高く、次いで50歳～59歳が33.9%となっている。一方、『そう思わない』の割合は60歳～69歳が32.0%で最も高く、次いで18歳～29歳が28.1%となっている。（図10-8-3）

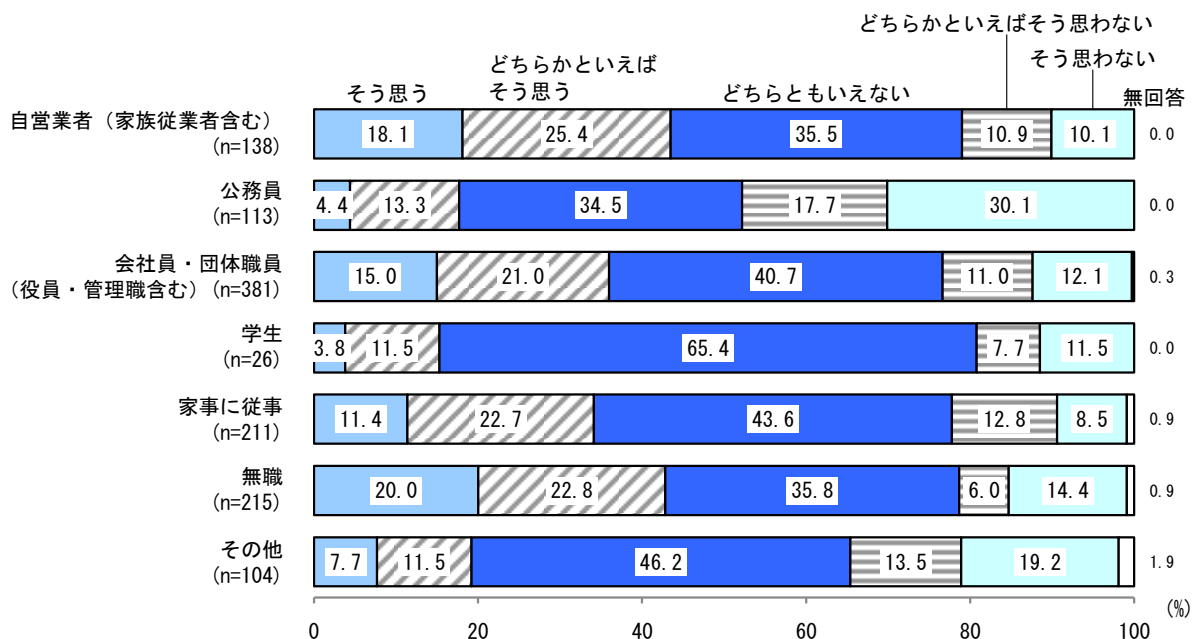
【図10-8-3 年齢別 同和問題に関する意見や考え方 ク) 行政等が同和問題（部落差別）に取り組むことが、かえって問題の解決を難しくしている】



職業別では、『そう思う』の割合は自営業者（家族従業者含む）が43.5%で最も高く、次いで無職が42.8%となっている。一方、『そう思わない』の割合は公務員が47.8%で最も高くなっている。（図10-8-4）

【図10-8-4 職業別 同和問題に関する意見や考え方

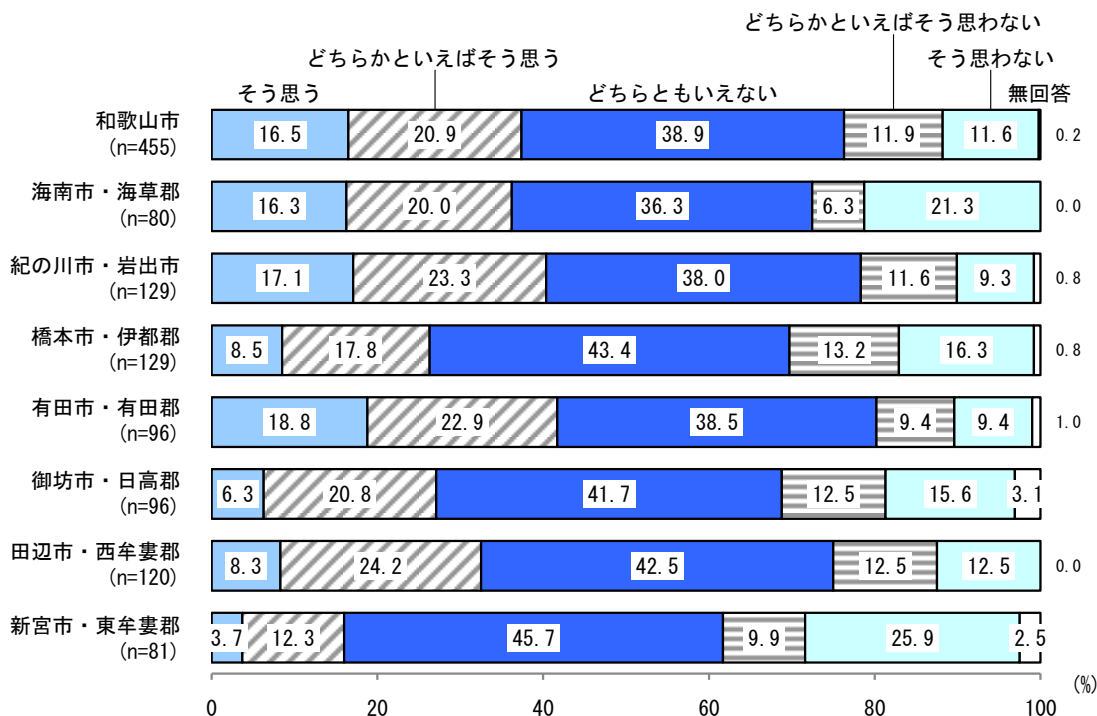
ク）行政等が同和問題（部落差別）に取り組むことが、かえって問題の解決を難しくしている】



居住地域別では、『そう思う』の割合は有田市・有田郡が41.7%で最も高く、次いで紀の川市・岩出市が40.4%となっている。一方、『そう思わない』の割合は新宮市・東牟婁郡が35.8%で最も高くなっている。（図10-8-5）

【図10-8-5 居住地域別 同和問題に関する意見や考え方

ク）行政等が同和問題（部落差別）に取り組むことが、かえって問題の解決を難しくしている】

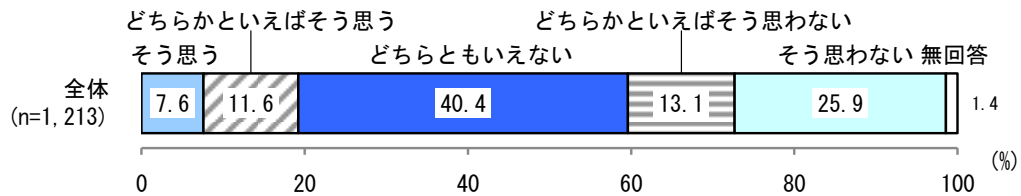


ケ) 差別されたくないなら同和地区外に引っ越せばよい

◇全体

差別されたくないなら同和地区外に引っ越せばよいという意見に対し、「どちらともいえない」が40.4%で最も多く、『そう思わない』の39.0%と同程度となっている。(図10-9-1)

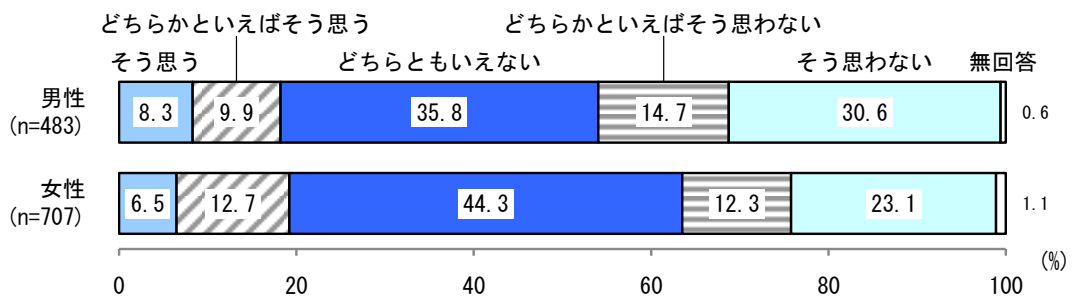
【図10-9-1 同和問題に関する意見や考え方 ケ) 差別されたくないなら同和地区外に引っ越せばよい】



◇回答者の属性別

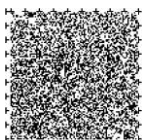
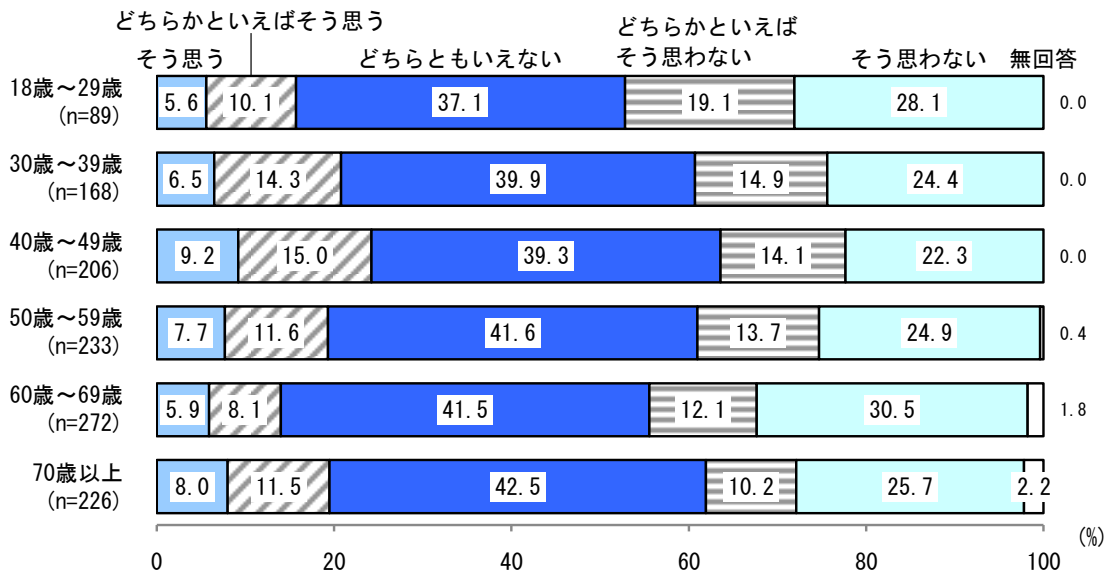
性別では、『そう思う』の割合は男性が18.2%、女性が19.2%で同程度となっている。一方、『そう思わない』の割合は男性が45.3%、女性が35.4%で、男性の方が9.9ポイント高く、「どちらともいえない」の割合は女性の方が8.5ポイント高くなっている。(図10-9-2)

【図10-9-2 性別 同和問題に関する意見や考え方 ケ) 差別されたくないなら同和地区外に引っ越せばよい】



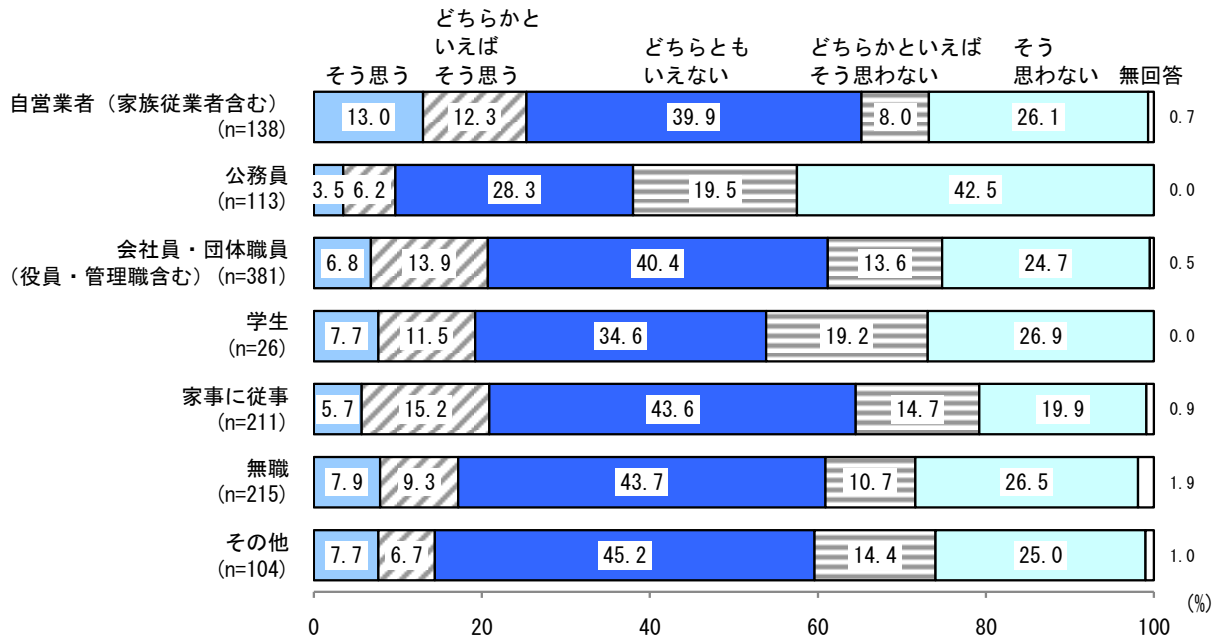
年齢別では、『そう思う』の割合は40歳～49歳が24.2%で最も高く、次いで30歳～39歳が20.8%となっている。一方、『そう思わない』の割合は18歳～29歳が47.2%で最も高く、次いで60歳～69歳が42.6%となっている。(図10-9-3)

【図10-9-3 年齢別 同和問題に関する意見や考え方 ケ) 差別されたくないなら同和地区外に引っ越せばよい】



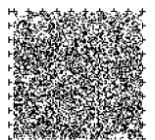
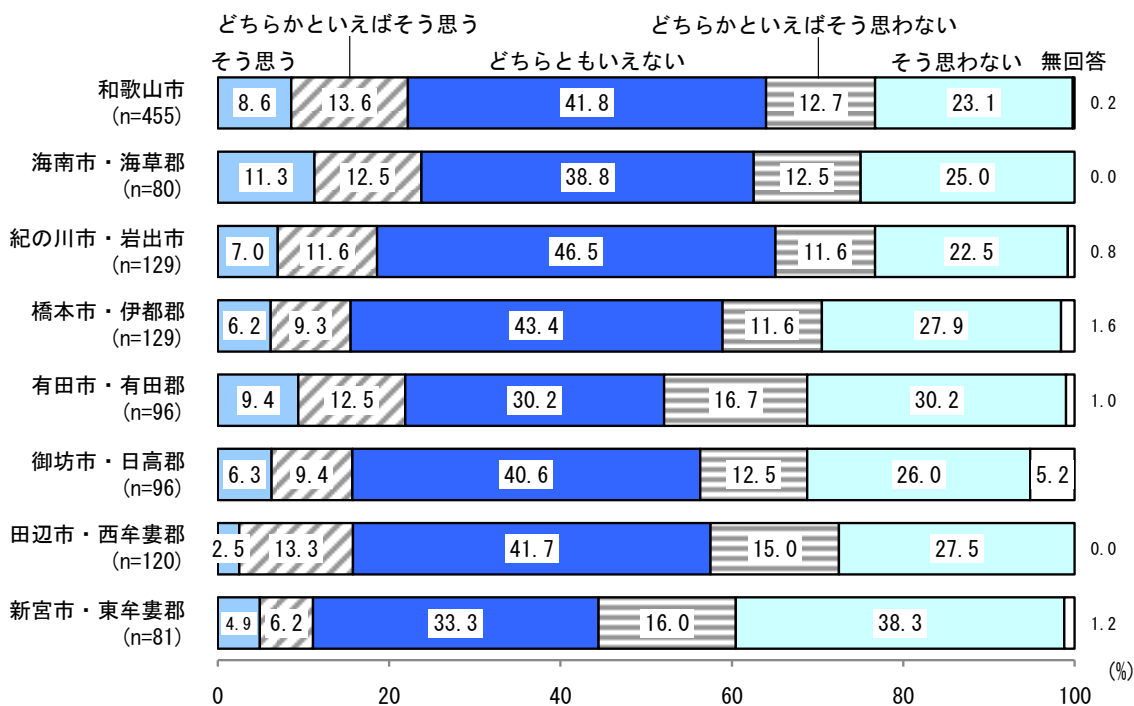
職業別では、『そう思う』の割合は自営業者（家族従業者含む）が25.3%で最も高く、次いで家事に従事が20.9%となっている。一方、『そう思わない』の割合は公務員が62.0%で最も高くなっている。（図10-9-4）

【図10-9-4 職業別 同和問題に関する意見や考え方 ケ）差別されたくないなら同和地区外に引っ越せばよい】



居住地域別では、『そう思う』の割合は海南市・海草郡が23.8%で最も高く、次いで和歌山市が22.2%となっている。一方、『そう思わない』の割合は新宮市・東牟婁郡が54.3%で最も高くなっている。（図10-9-5）

【図10-9-5 居住地域別 同和問題に関する意見や考え方 ケ）差別されたくないなら同和地区外に引っ越せばよい】

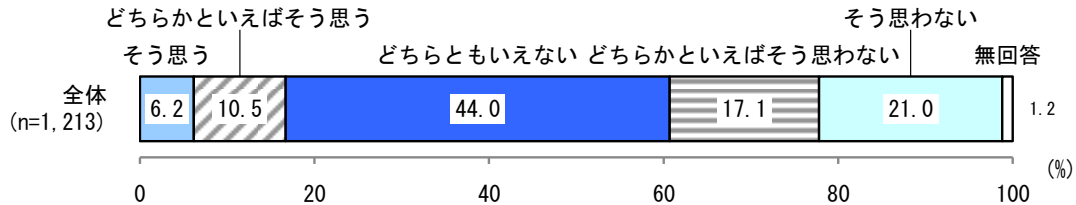


コ) マスコミはもっと同和問題（部落差別）について取り上げるべきだ

◇全体

マスコミはもっと同和問題（部落差別）について取り上げるべきだという意見に対し、「どちらともいえない」が44.0%で最も多く、『そう思わない』の38.1%に比べ5.9ポイント高くなっている。（図10-10-1）

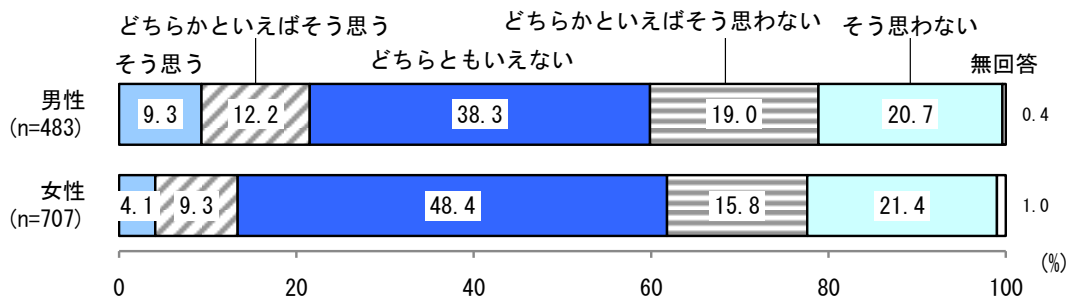
【図10-10-1 同和問題に関する意見や考え方 コ) マスコミはもっと同和問題（部落差別）について取り上げるべきだ】



◇回答者の属性別

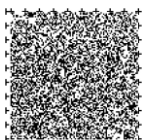
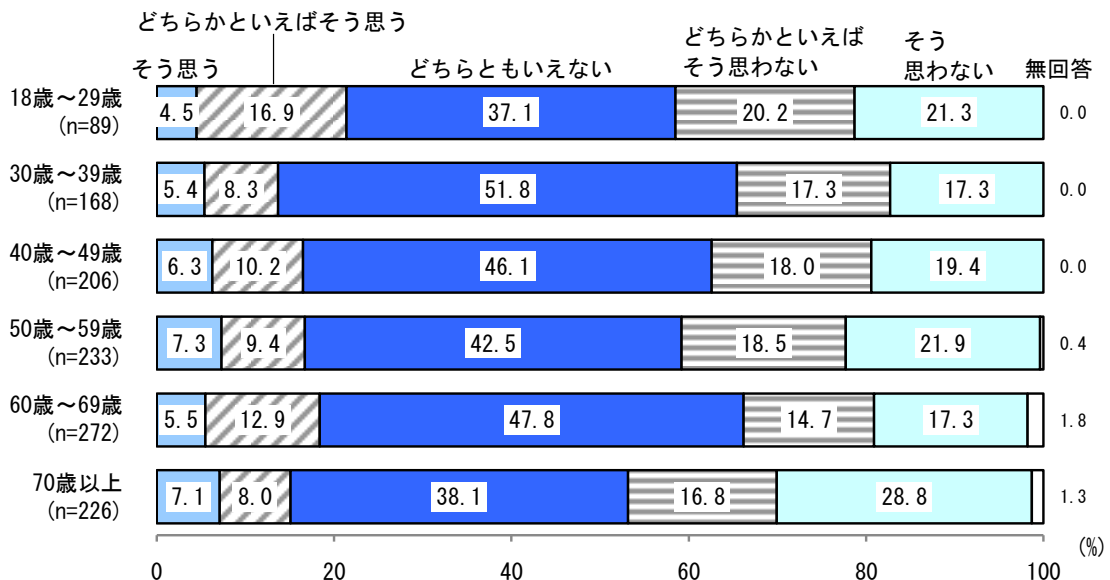
性別では、『そう思う』の割合は男性が21.5%、女性が13.4%で男性の方が8.1ポイント高くなっている。一方、『そう思わない』の割合は男性が39.7%、女性が37.2%で男性の方が2.5ポイント高く、「どちらともいえない」の割合は女性の方が10.1ポイント高くなっている。（図10-10-2）

【図10-10-2 性別 同和問題に関する意見や考え方 コ) マスコミはもっと同和問題（部落差別）について取り上げるべきだ】



年齢別では、『そう思う』の割合は18歳～29歳が21.4%で最も高くなっている。一方、『そう思わない』の割合は70歳以上が45.6%で最も高く、次いで18歳～29歳が41.5%となっている。（図10-10-3）

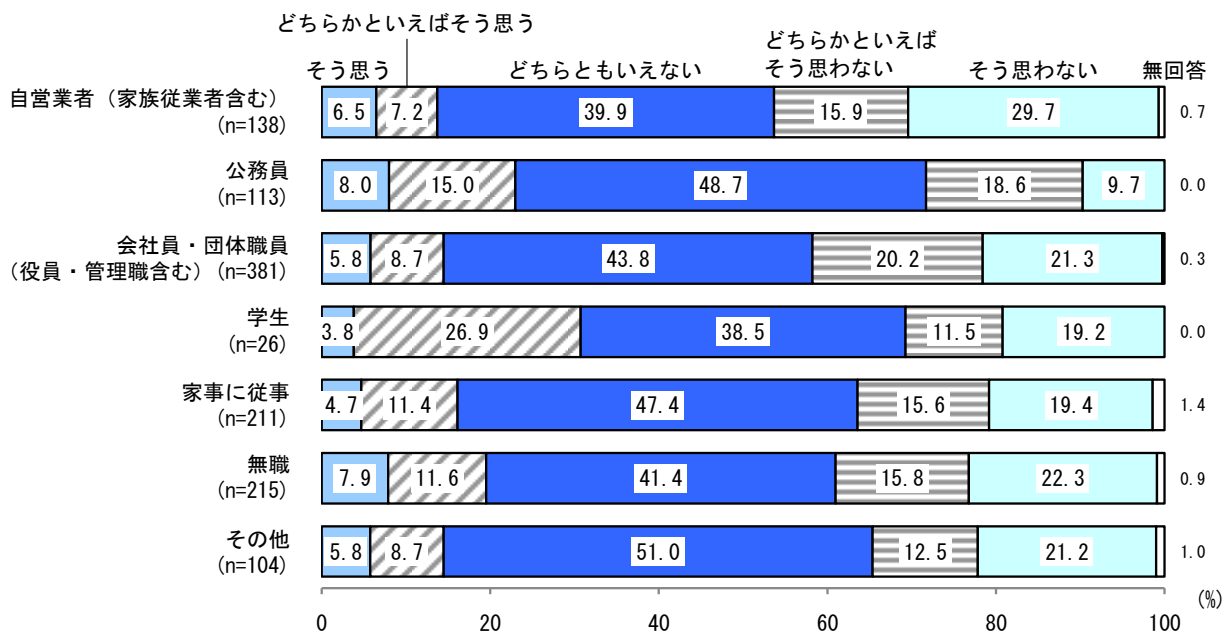
【図10-10-3 年齢別 同和問題に関する意見や考え方 コ) マスコミはもっと同和問題（部落差別）について取り上げるべきだ】



職業別では、『そう思う』の割合は学生が30.7%で最も高く、次いで公務員が23.0%となっている。一方、『そう思わない』の割合は自営業者（家族従業者含む）が45.6%で最も高く、次いで会社員・団体職員（役員・管理職含む）が41.5%となっている。（図10-10-4）

【図10-10-4 職業別 同和問題に関する意見や考え方

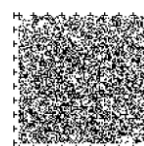
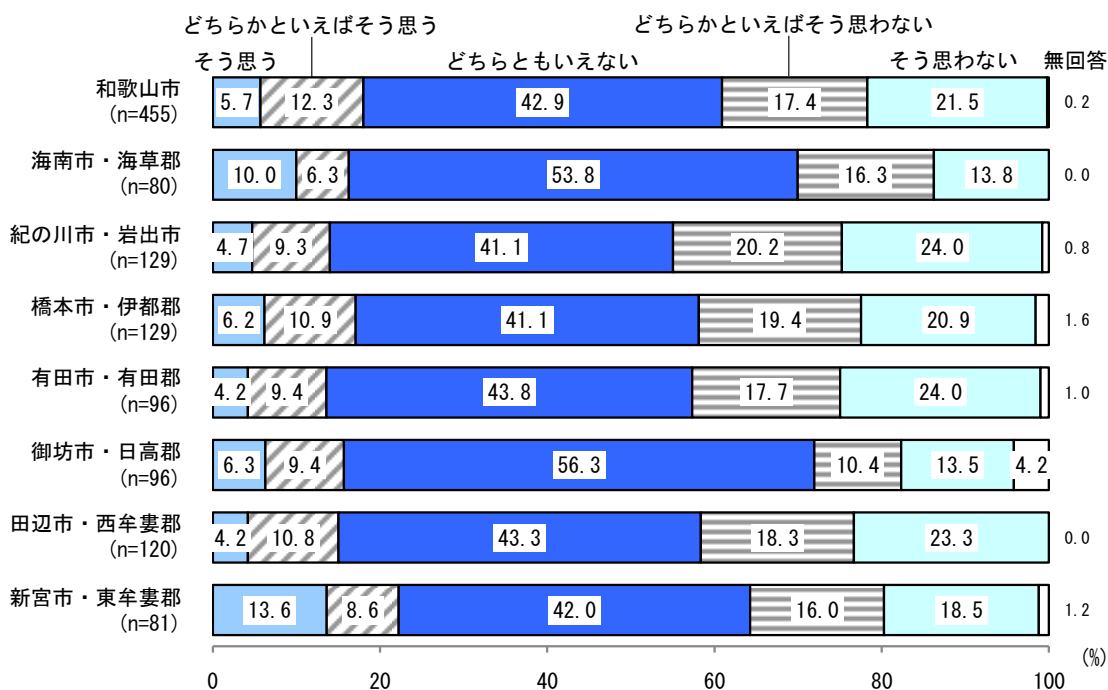
コ) マスコミはもっと同和問題（部落差別）について取り上げるべきだ】



居住地域別では、『そう思う』の割合は新宮市・東牟婁郡が22.2%で最も高く、次いで和歌山市が18.0%となっている。一方、『そう思わない』の割合は紀の川市・岩出市が44.2%で最も高くなっている。（図10-10-5）

【図10-10-5 居住地域別 同和問題に関する意見や考え方

コ) マスコミはもっと同和問題（部落差別）について取り上げるべきだ】

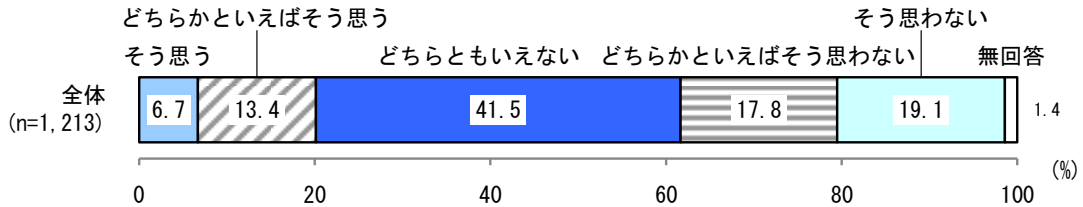


サ) 面倒なことになってはいけなくて、同和問題（部落差別）を話題にしない方がよい

◇全体

面倒なことになってはいけなくて同和問題（部落差別）を話題にしない方がよいという意見に対し、「どちらともいえない」が41.5%で最も多く、『そう思わない』の36.9%との差は小さくなっている。（図10-11-1）

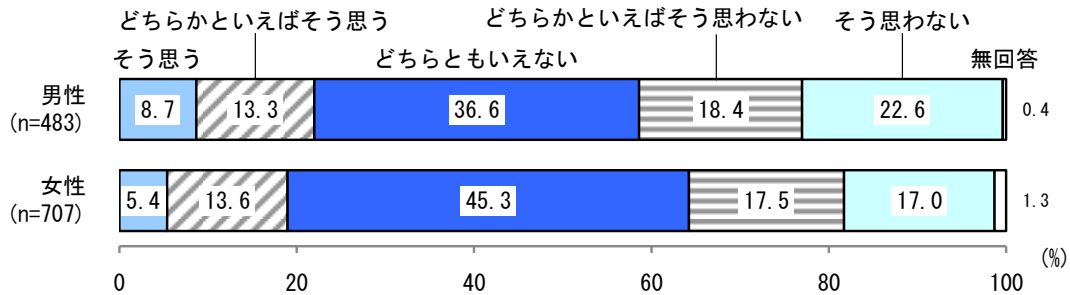
【図10-11-1 同和問題に関する意見や考え方 サ) 面倒なことになってはいけなくて、同和問題（部落差別）を話題にしない方がよい】



◇回答者の属性別

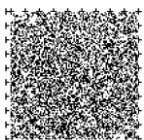
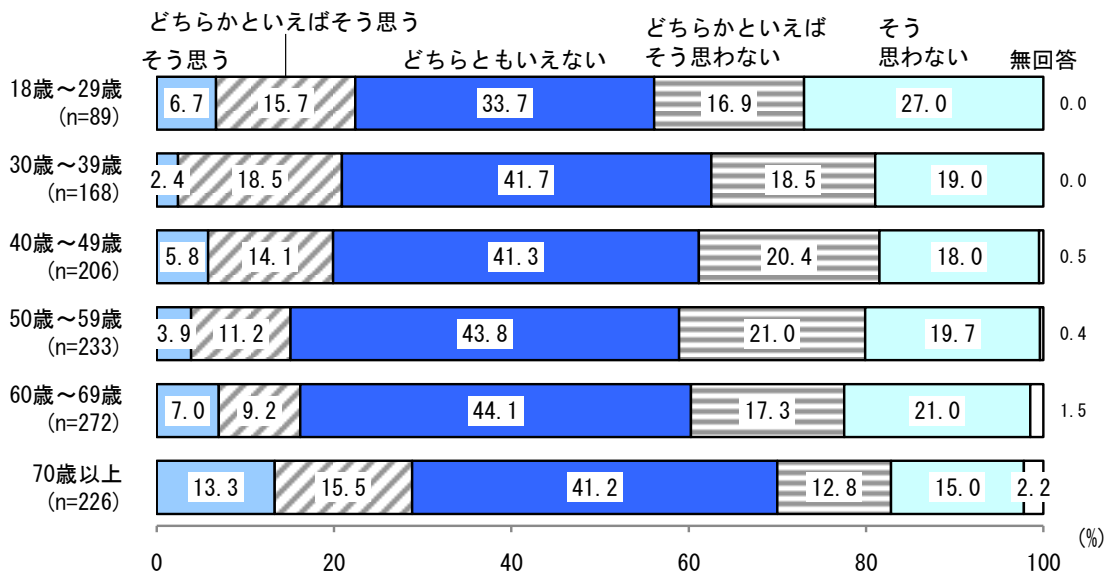
性別では、『そう思う』の割合は男性が22.0%、女性が19.0%で男性の方が3.0ポイント高くなっている。一方、『そう思わない』の割合は男性41.0%、女性34.5%で男性の方が6.5ポイント高く、「どちらともいえない」の割合は女性の方が8.7ポイント高くなっている。（図10-11-2）

【図10-11-2 性別 同和問題に関する意見や考え方 サ) 面倒なことになってはいけなくて、同和問題（部落差別）を話題にしない方がよい】



年齢別では、『そう思う』の割合は70歳以上が28.8%で最も高く、次いで18歳～29歳が22.4%となっている。一方、『そう思わない』の割合は18歳～29歳が43.9%で最も高く、次いで50歳～59歳が40.7%となっている。（図10-11-3）

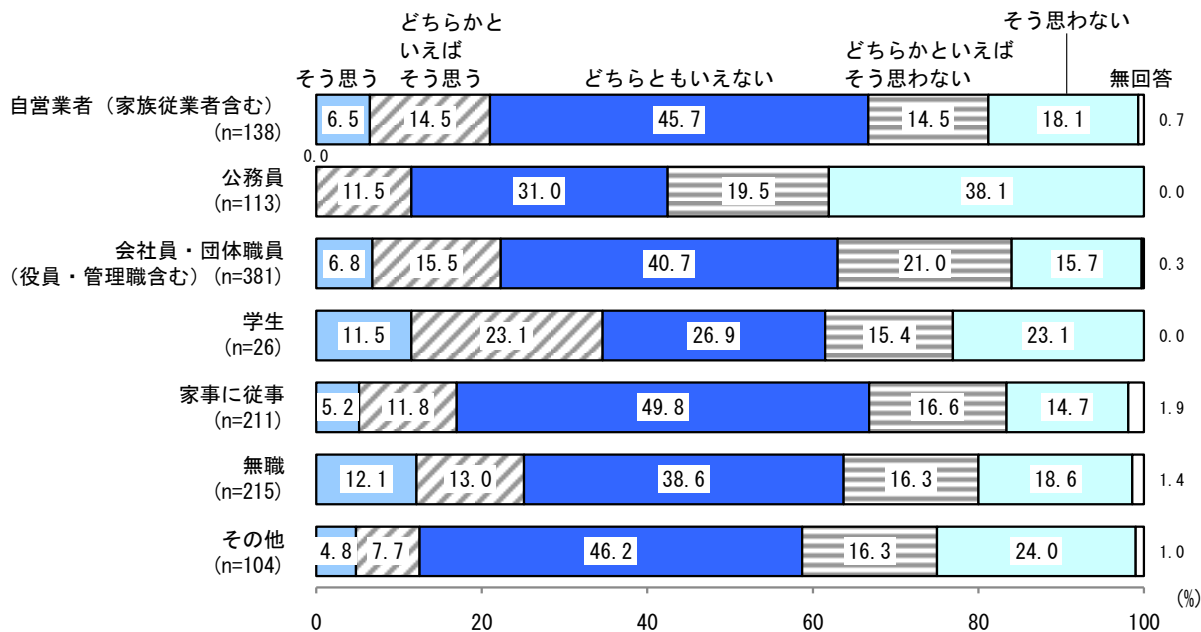
【図10-11-3 年齢別 同和問題に関する意見や考え方 サ) 面倒なことになってはいけなくて、同和問題（部落差別）を話題にしない方がよい】



職業別では、『そう思う』の割合は学生が34.6%で最も高く、次いで無職が25.1%となっている。一方、『そう思わない』の割合は公務員が57.6%で最も高くなっている。(図10-11-4)

【図10-11-4 職業別 同和問題に関する意見や考え方

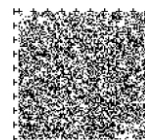
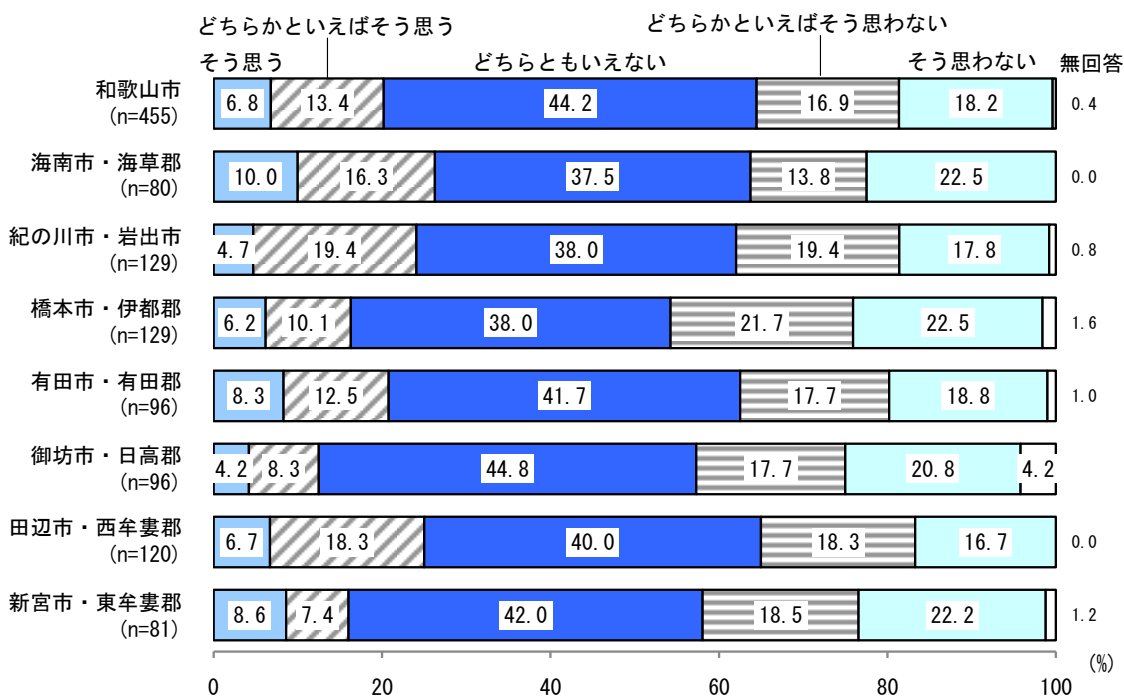
サ) 面倒なことになってはいけなないので、同和問題(部落差別)を話題にしない方がよい】



居住地域別では、『そう思う』の割合は海南市・海草郡が26.3%で最も高く、次いで田辺市・西牟婁郡が25.0%となっている。一方、『そう思わない』の割合は橋本市・伊都郡が44.2%で最も高くなっている。(図10-11-5)

【図10-11-5 居住地域別 同和問題に関する意見や考え方

サ) 面倒なことになってはいけなないので、同和問題(部落差別)を話題にしない方がよい】

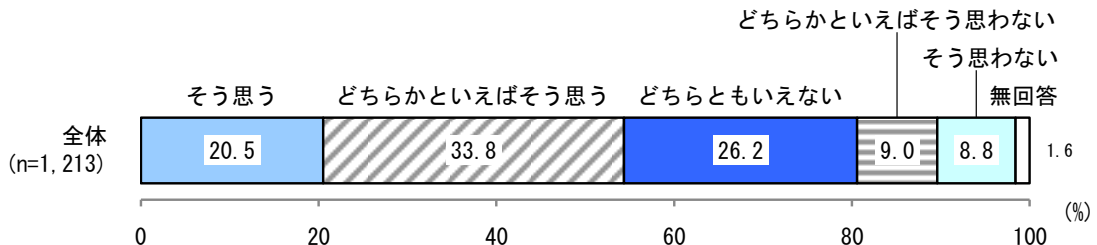


シ) 同和問題（部落差別）は、他の人権問題に比べて、わかりにくいと感じる

◇全体

同和問題（部落差別）は他の人権問題に比べてわかりにくいと感じるという意見に対し、『そう思う』が54.3%で最も多くなっている。（図10-12-1）

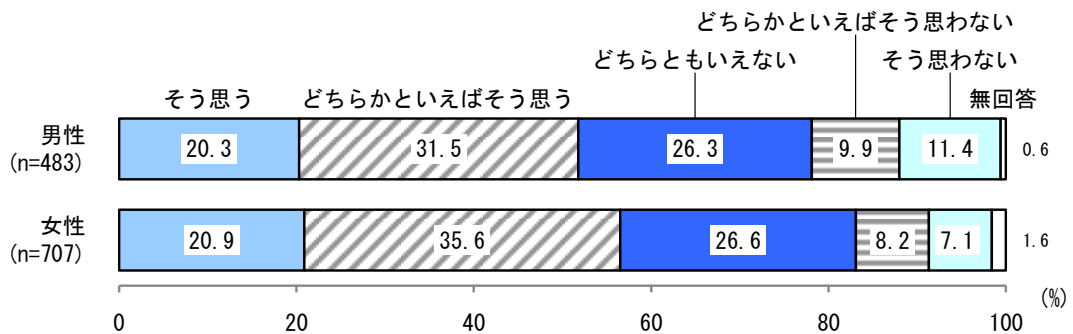
【図10-12-1 同和問題に関する意見や考え方 シ) 同和問題（部落差別）は、他の人権問題に比べて、わかりにくいと感じる】



◇回答者の属性別

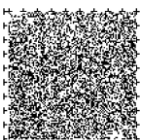
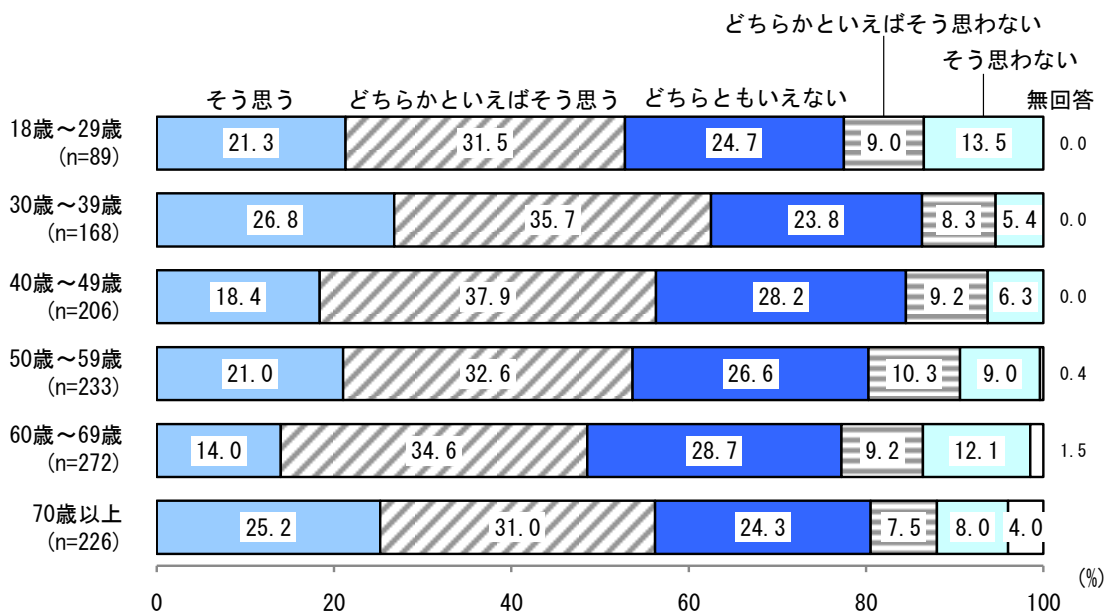
性別では、『そう思う』の割合は男性が51.8%、女性が56.5%で女性の方が4.7ポイント高くなっている。一方、『そう思わない』の割合は男性が21.3%、女性が15.3%で男性の方が6.0ポイント高くなっている。（図10-12-2）

【図10-12-2 性別 同和問題に関する意見や考え方 シ) 同和問題（部落差別）は、他の人権問題に比べて、わかりにくいと感じる】



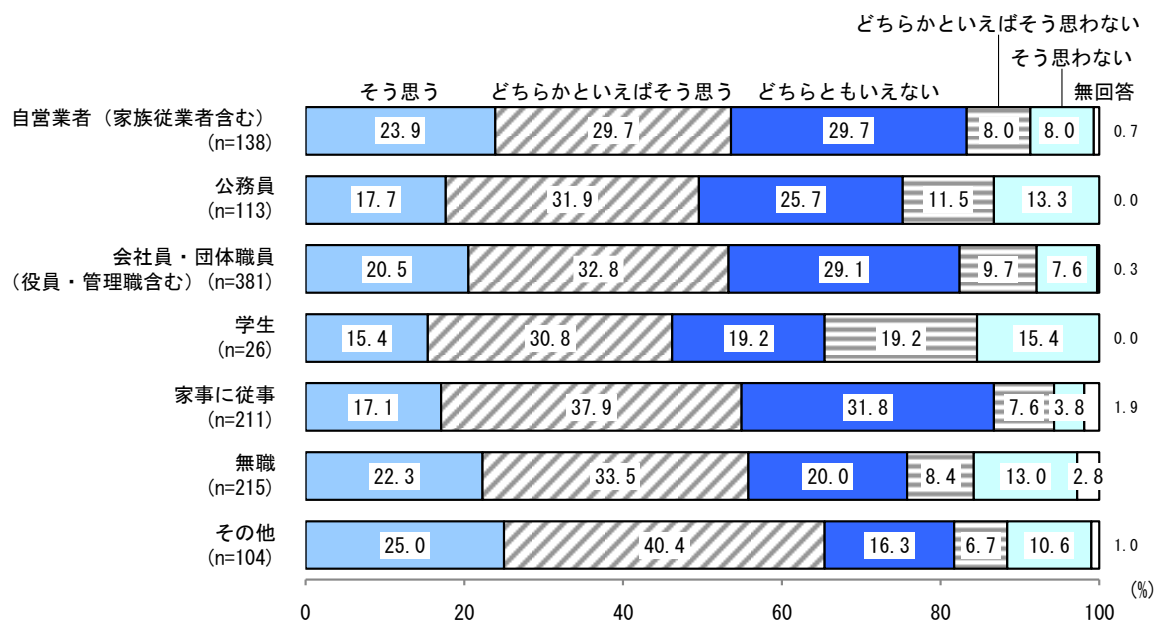
年齢別では、『そう思う』の割合は30歳～39歳が62.5%で最も高く、次いで40歳～49歳が56.3%となっており、60歳～69歳を除く年代で過半数を占めている。一方、『そう思わない』の割合は18歳～29歳が22.5%で最も高くなっている。（図10-12-3）

【図10-12-3 年齢別 同和問題に関する意見や考え方 シ) 同和問題（部落差別）は、他の人権問題に比べて、わかりにくいと感じる】



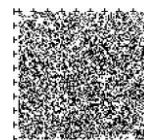
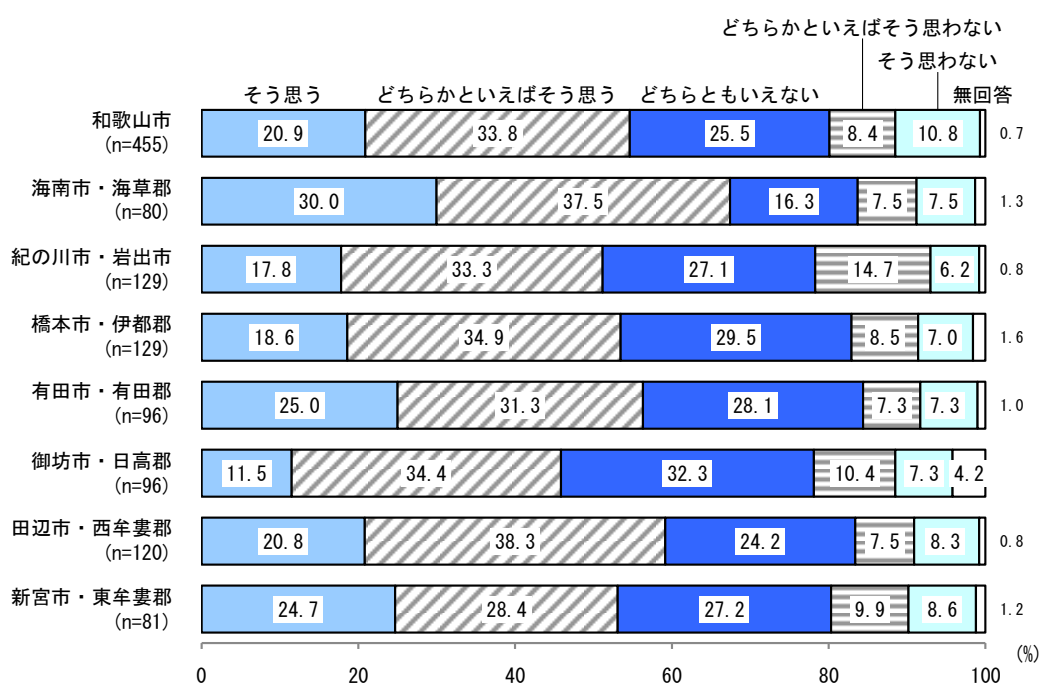
職業別では、『そう思う』の割合は無職が55.8%で最も高く、家事に従事が55.0%、自営業者（家族従業者含む）が53.6%、会社員・団体職員（役員・管理職含む）が53.3%で、それぞれ過半数を占めている。一方、『そう思わない』の割合は学生が34.6%で最も高い。（図10-12-4）

【図10-12-4 職業別 同和問題に関する意見や考え方
シ) 同和問題（部落差別）は、他の人権問題に比べて、わかりにくいと感じる】



居住地域別では、『そう思う』の割合は海南市・海草郡が67.5%で最も高く、次いで田辺市・西牟婁郡が59.1%となっている。一方、『そう思わない』の割合は紀の川市・岩出市が20.9%で最も高い。（図10-12-5）

【図10-12-5 居住地域別 同和問題に関する意見や考え方
シ) 同和問題（部落差別）は、他の人権問題に比べて、わかりにくいと感じる】



11. 同和問題（部落差別）に関する発言について

（1）この5年間で直接聞いたことがある同和問題（部落差別）に関する発言

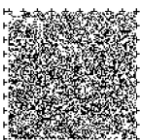
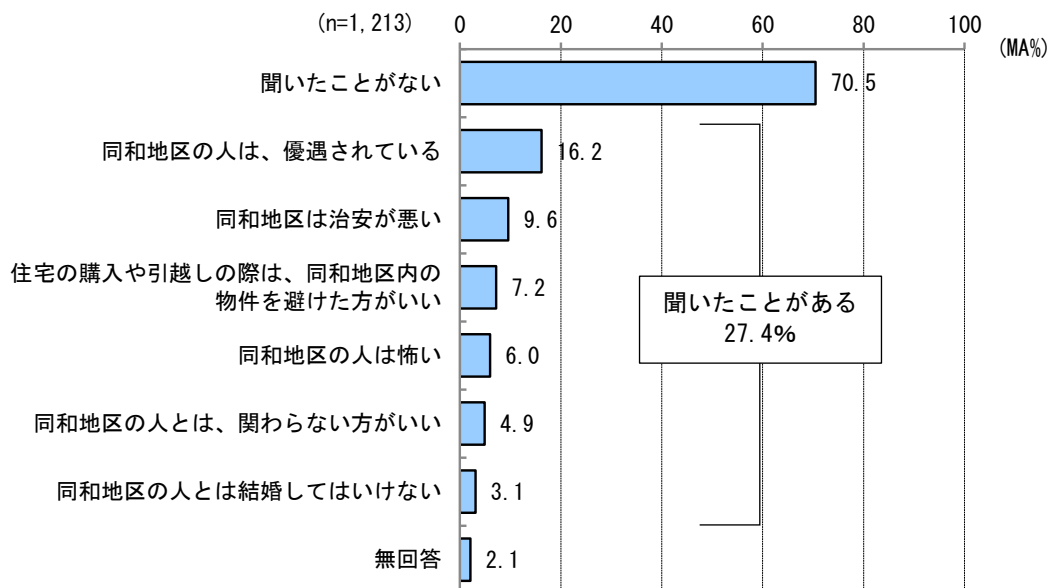
問11 あなたは、この5年間くらいの中に、同和問題（部落差別）に関して次のような発言を直接聞いたことがありますか、（○はいくつでも）

※SNSやブログ等を含むインターネット上の書き込みは除いてください。

◇全体

この5年間で直接聞いたことがある同和問題（部落差別）に関する発言については、「聞いたことがない」が70.5%で最も多い。一方、聞いたことがある人は27.4%で、その内容は「同和地区の人は、優遇されている」が16.2%で最も多く、次いで「同和地区は治安が悪い」が9.6%、「住宅の購入や引越しの際は、同和地区内の物件を避けた方がいい」が7.2%となっている。（図11-1）

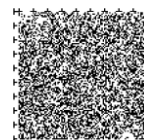
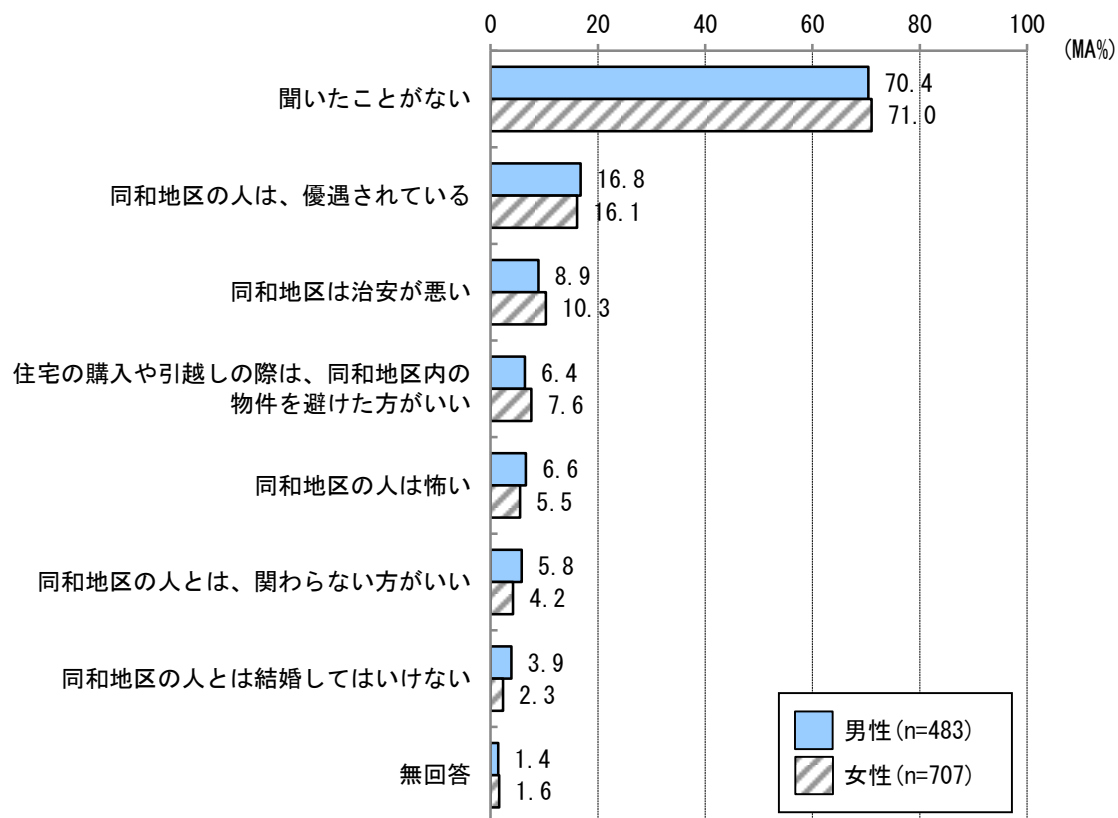
【図11-1 この5年間で直接聞いたことがある同和問題（部落差別）に関する発言】



◇回答者の属性別

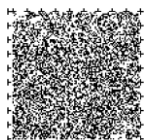
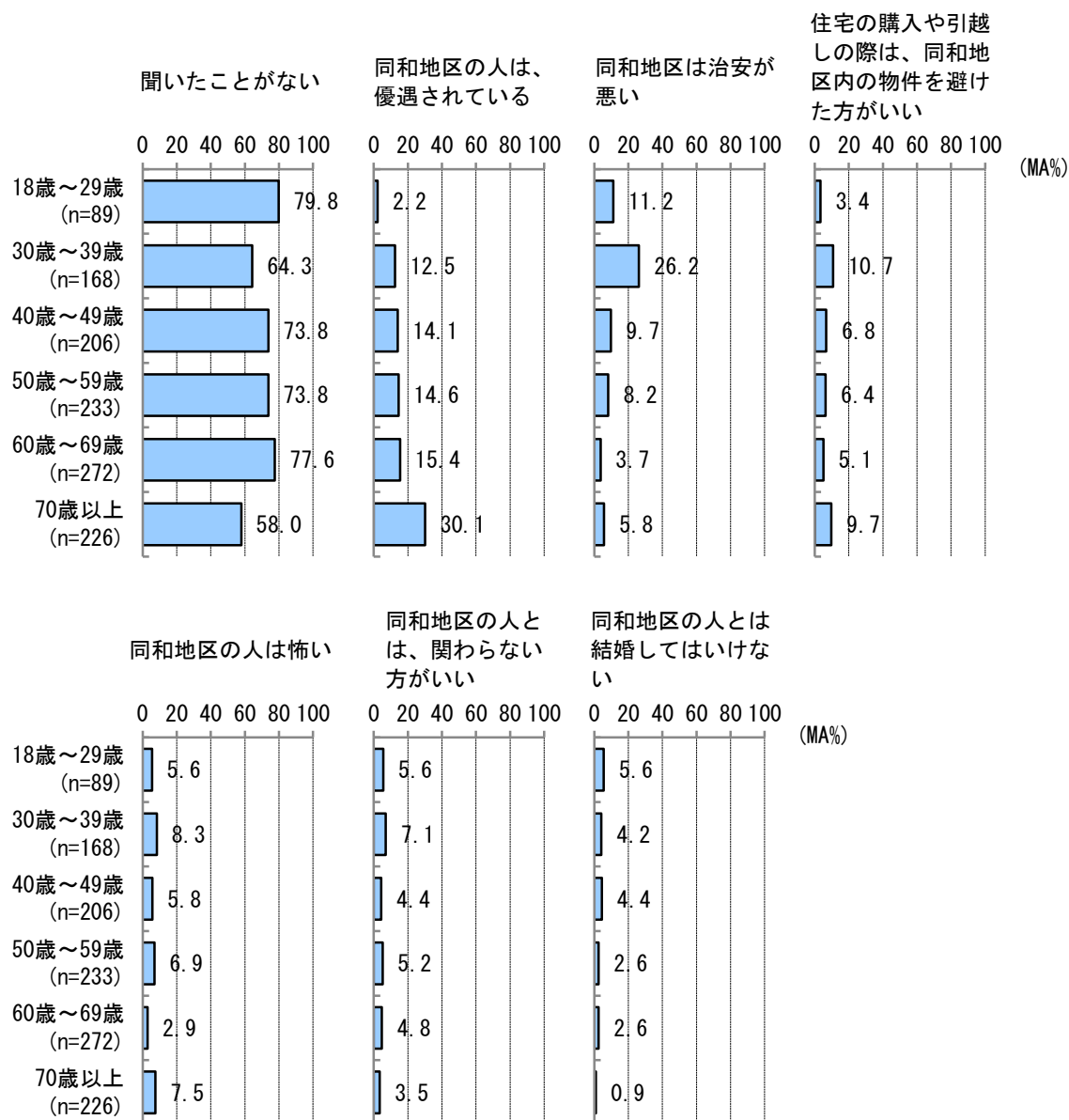
性別では、男女とも「聞いたことがない」が7割を占め最も多くなっている。聞いたことがある内容では、「同和地区の人は、優遇されている」「同和地区は治安が悪い」などが男女とも多くなっている。(図11-1-1)

【図11-1-1 性別 この5年間で直接聞いたことがある同和問題（部落差別）に関する発言】



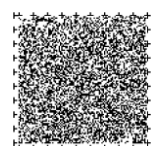
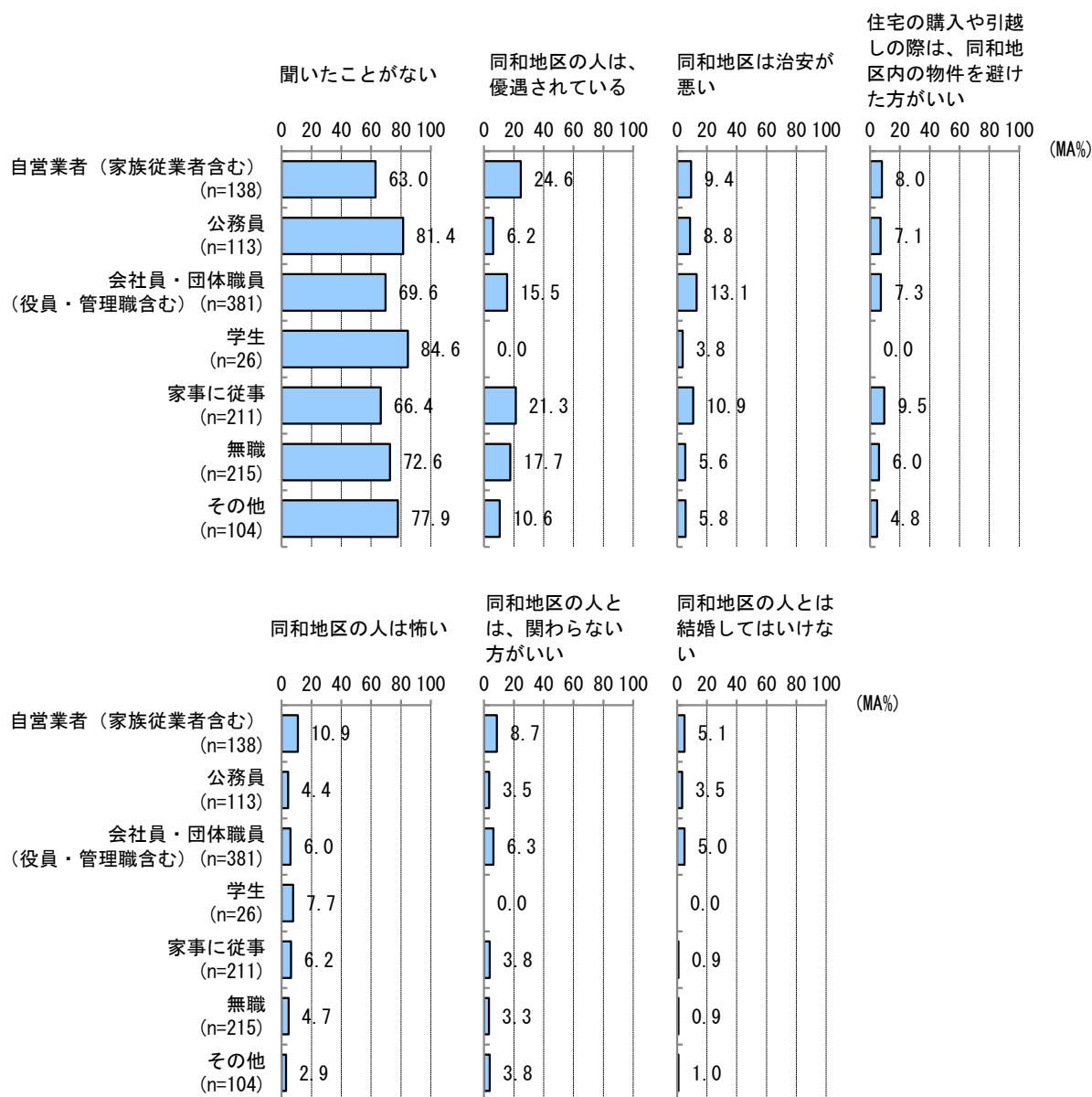
年齢別では、いずれの年代も「聞いたことがない」が過半数を占め、18歳～29歳が79.8%で最も高くなっている。聞いたことがある内容では、「同和地区の人は、優遇されている」は高齢になるほど割合が上昇し、70歳以上が30.1%で最も高くなっている。また、「同和地区は治安が悪い」の割合は30歳～39歳が26.2%で最も高くなっている。(図11-1-2)

【図11-1-2 年齢別 この5年間で直接聞いたことがある同和問題（部落差別）に関する発言】



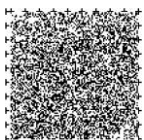
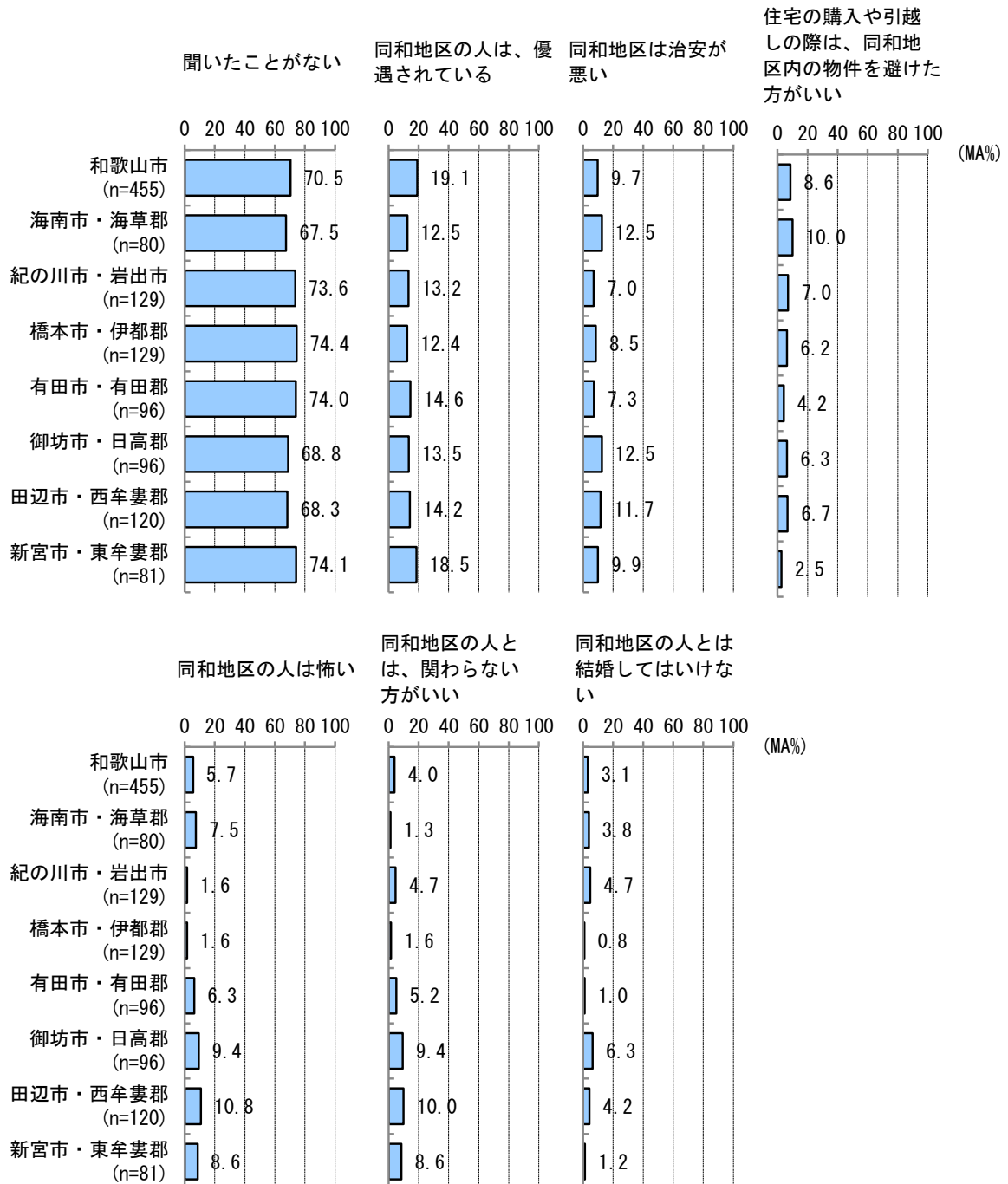
職業別では、いずれも「聞いたことがない」が過半数を占め、学生が84.6%で最も高くなっている。次いで公務員が81.4%となっている。聞いたことがある内容では、「同和地区の人は、優遇されている」の割合は自営業者（家族従業者含む）が24.6%で最も高くなっている。（図11-1-3）

【図11-1-3 職業別 この5年間で直接聞いたことがある同和問題（部落差別）に関する発言】



居住地域別では、いずれの地域も「聞いたことがない」が7割前後を占めている。聞いたことがある内容では、「同和地区の人は、優遇されている」の割合は和歌山市が19.1%で最も高く、次いで新宮市・東牟婁郡が18.5%となっている。(図11-1-4)

【図11-1-4 居住地域別 この5年間で直接聞いたことがある同和问题（部落差別）に関する発言】



(2) 同和問題（部落差別）に関する発言で最も印象に残っているもの

問11で「1」～「6」に○をされた方にお聞きします。

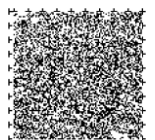
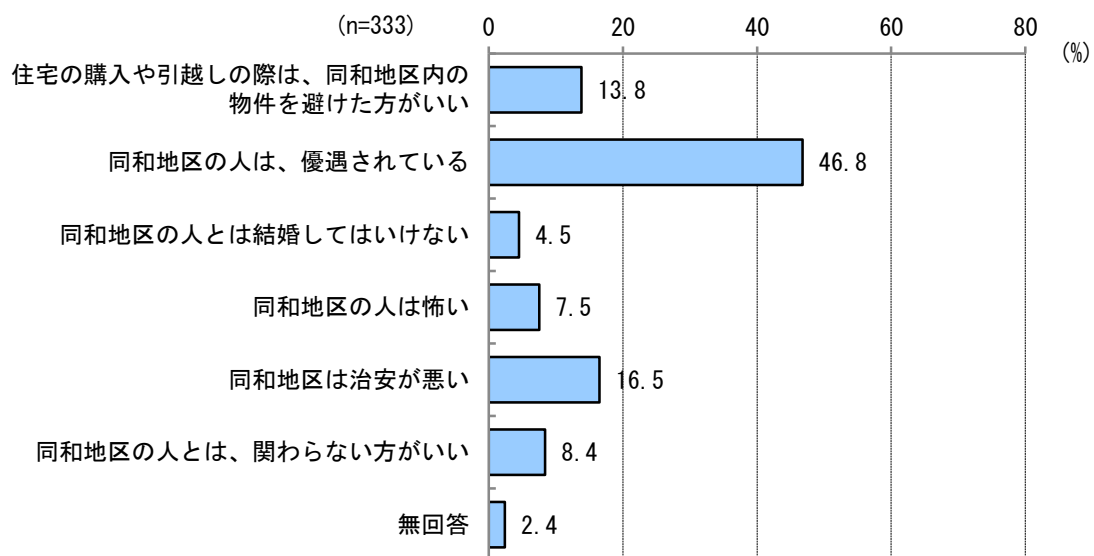
問11-1 ひとつだけ○をされた方は、同じものを選んでください。

いくつか○をされた方は、最も印象に残っているものを選んでください。(○はひとつ)

◇全体

この5年間で、同和問題（部落差別）に関して直接聞いた発言で、最も印象に残っている発言は、「同和地区の人は、優遇されている」が46.8%で最も多くなっている。これに次いで「同和地区は治安が悪い」が16.5%、「住宅の購入や引越しの際は、同和地区内の物件を避けた方がいい」が13.8%である。(図11-2)

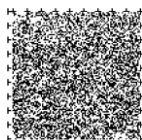
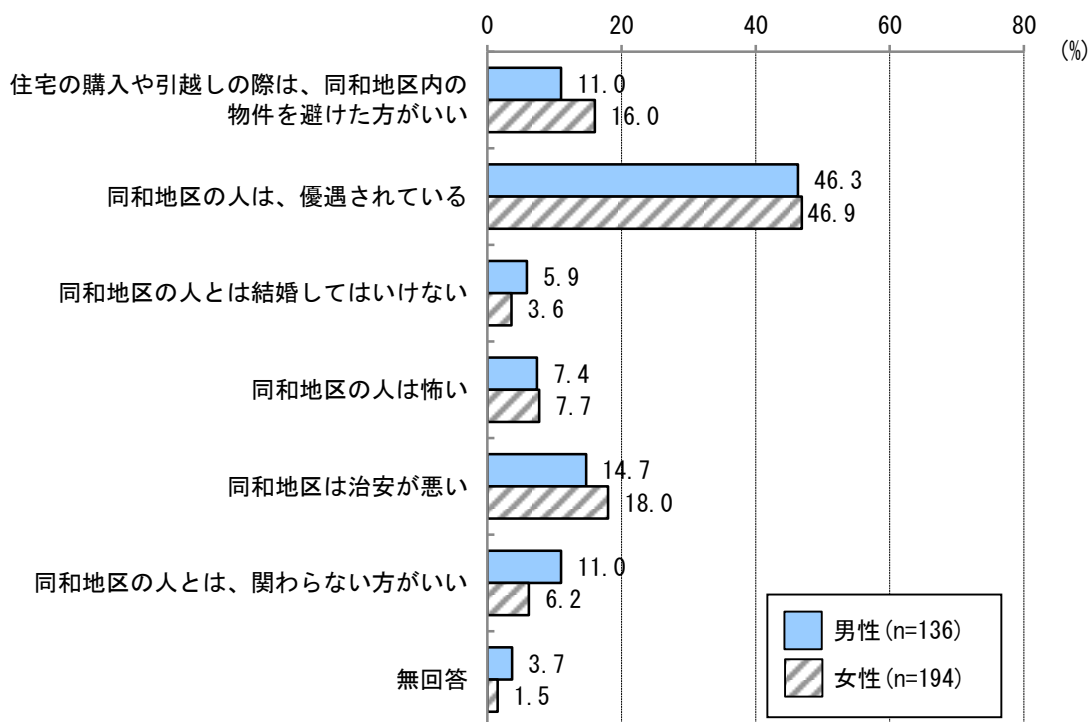
【図11-2 同和問題（部落差別）に関する発言で最も印象に残っているもの】



◇回答者の属性別

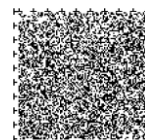
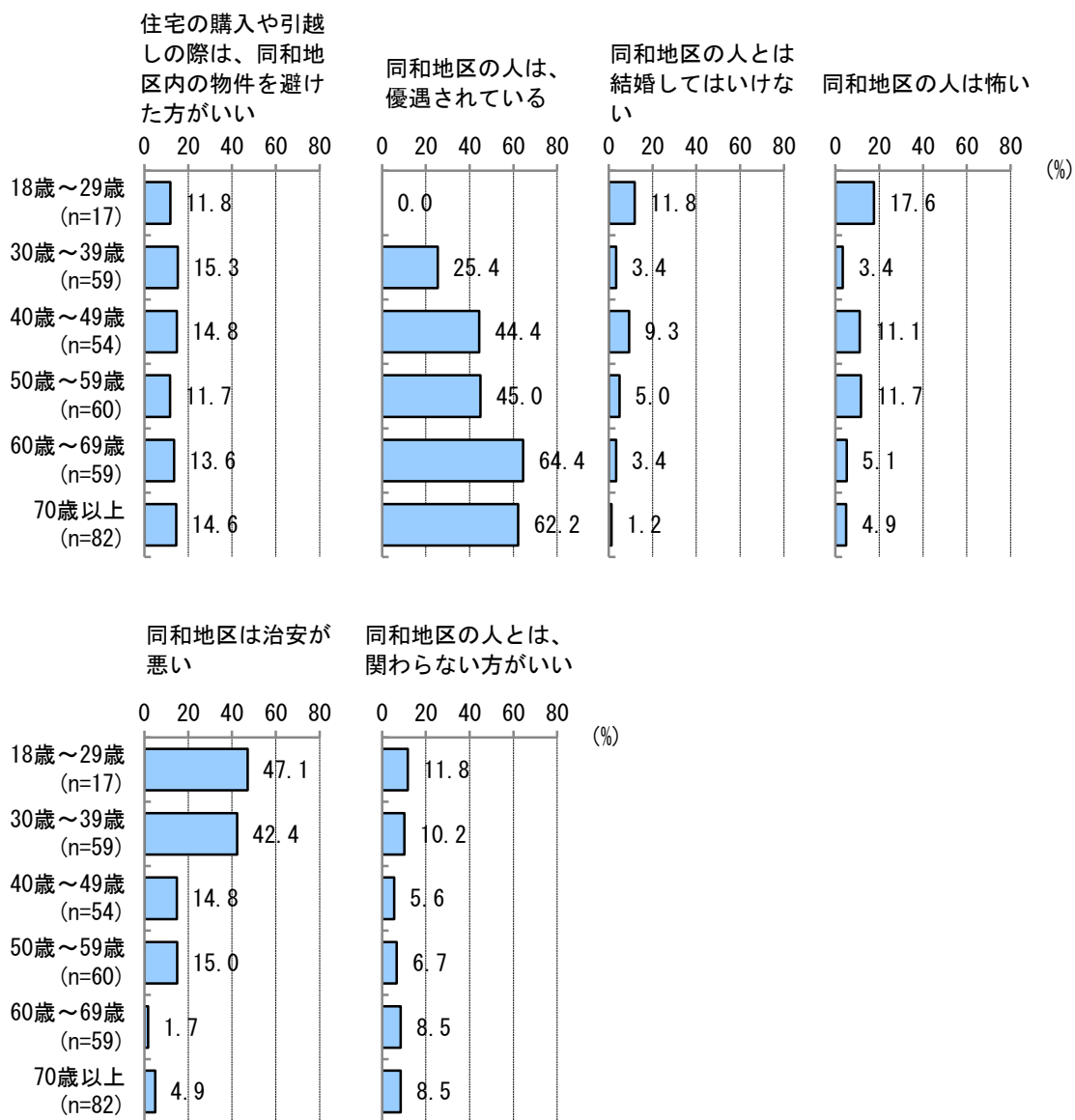
性別では、男女とも「同和地区の人は、優遇されている」が半数近くを占め最も多くなっている。「住宅の購入や引越しの際は、同和地区内の物件を避けた方がいい」の割合は、男性が11.0%、女性が16.0%で、女性の方が5.0ポイント高くなっている。「同和地区の人とは、関わらない方がいい」の割合は女性が6.2%、男性が11.0%で、男性の方が4.8ポイント高くなっている。(図11-2-1)

【図11-2-1 性別 同和問題（部落差別）に関する発言で最も印象に残っているもの】



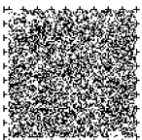
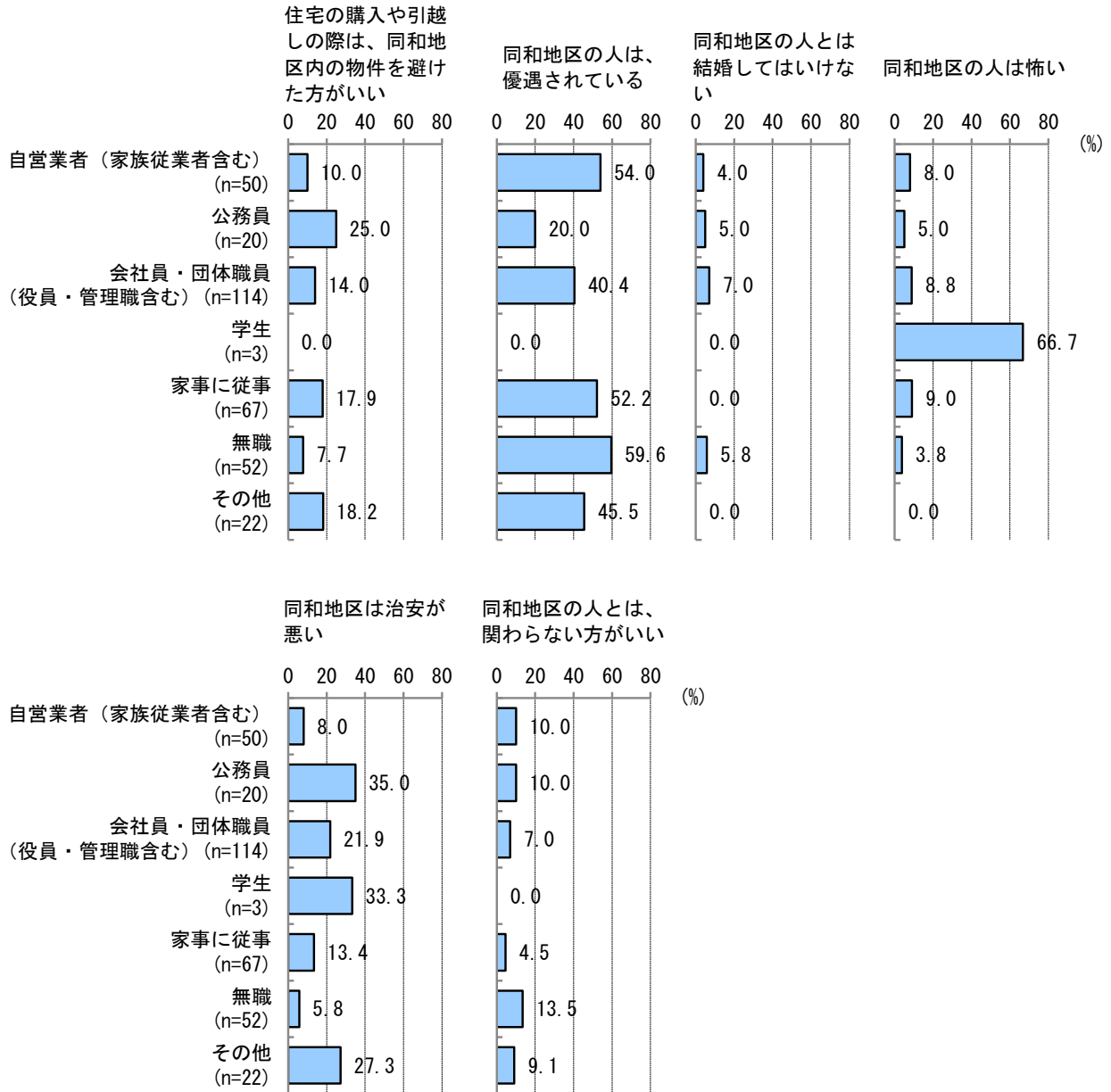
年齢別では、「同和地区の人は、優遇されている」の割合は、60歳以上の年代では過半数を占め、60歳～69歳が64.4%で最も高く、次いで70歳以上が62.2%となっている。「同和地区の人とは結婚してはいけない」や「同和地区の人は怖い」「同和地区は治安が悪い」は、18歳～29歳の割合が最も高くなっている。（図11-2-2）

【図11-2-2 年齢別 同和問題（部落差別）に関する発言で最も印象に残っているもの】



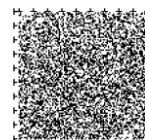
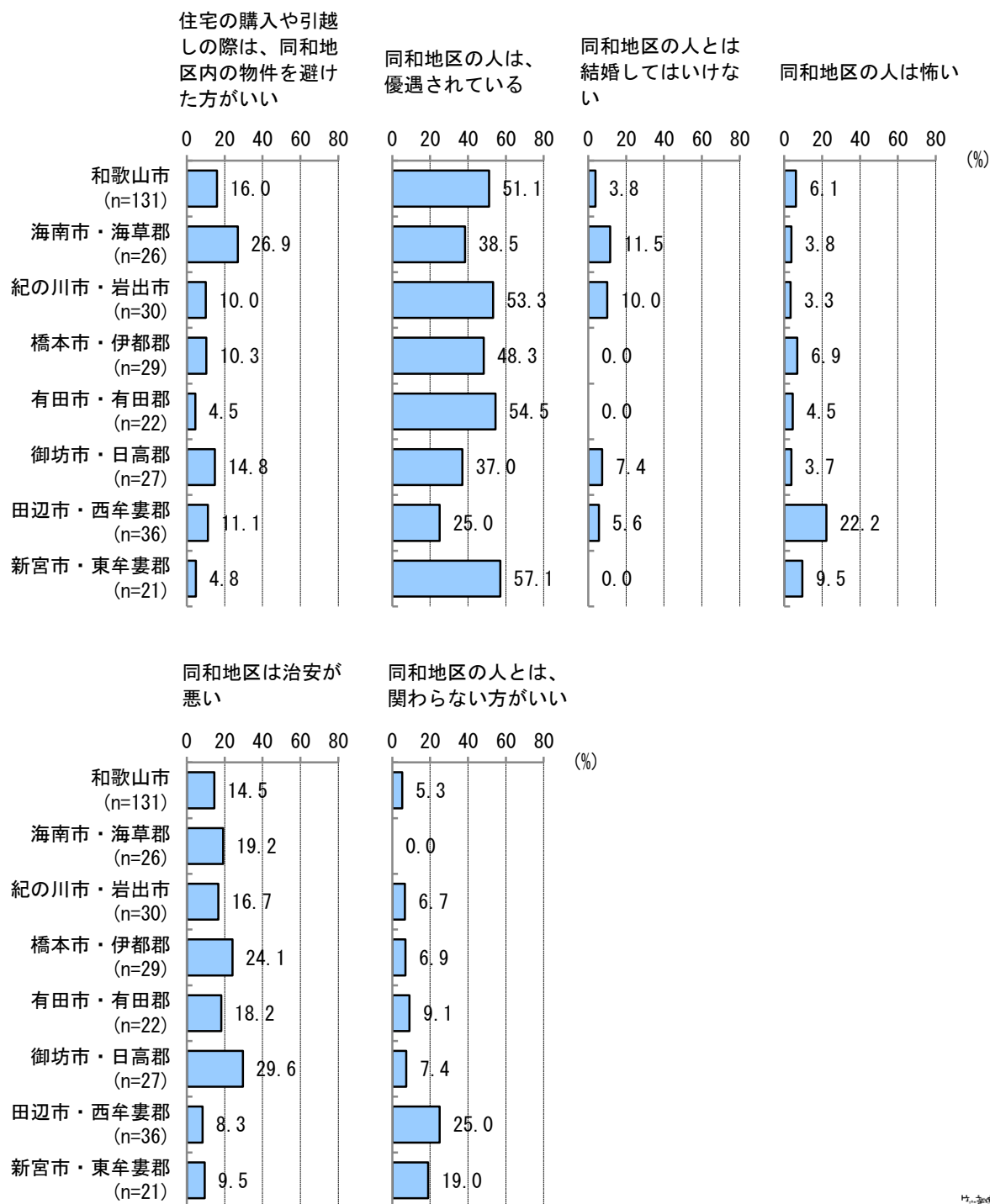
職業別では、「同和地区の人は、優遇されている」の割合は無職が59.6%で最も高く、次いで自営業者（家族従業者含む）が54.0%となっている。（図11-2-3）

【図11-2-3 職業別 同和問題（部落差別）に関する発言で最も印象に残っているもの】



居住地域別では、田辺市・西牟婁郡を除く地域では、「同和地区の人は、優遇されている」が最も多く、新宮市・東牟婁郡の割合が57.1%で最も高くなっている。田辺市・西牟婁郡では、「同和地区の人は、優遇されている」と「同和地区の人とは関わらない方がいい」の各割合が同率で25.0%となっている。また、「同和地区の人は怖い」の割合も田辺市・西牟婁郡が22.2%で最も高い。「住宅の購入や引越しの際は、同和地区内の物件を避けた方がいい」の割合は海南市・海草郡が26.9%で最も高くなっている。(図11-2-4)

【図11-2-4 居住地域別 同和問題（部落差別）に関する発言で最も印象に残っているもの】



(3) 最も印象に残っている同和問題（部落差別）に関する発言をした人

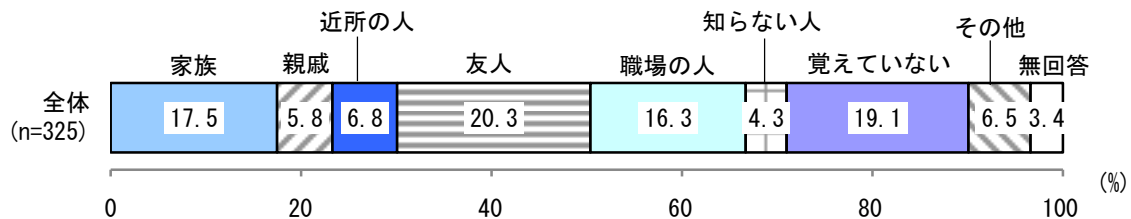
問11-1で○をされた発言についてお聞きします。

問11-2 それは誰から聞きましたか。(○はひとつ)

◇全体

最も印象に残っている同和問題（部落差別）に関する発言をした人は、「友人」が20.3%で最も多くなっている。「覚えていない」（19.1%）を除けば、これに次いで「家族」が17.5%、「職場の人」が16.3%となっている。（図11-3）

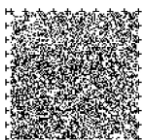
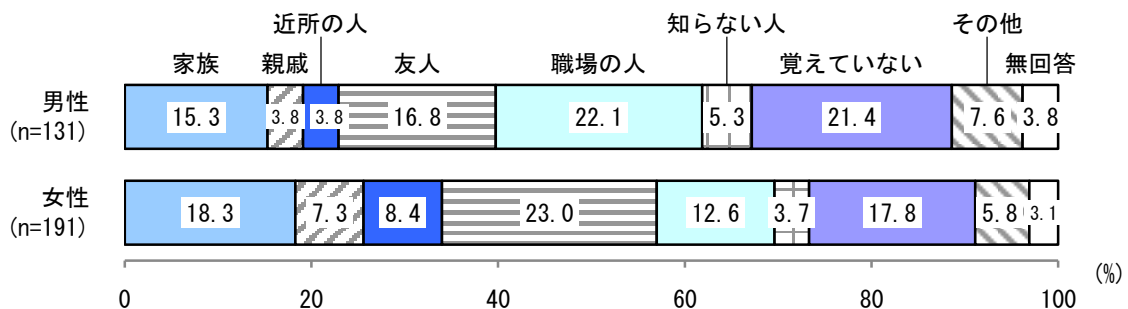
【図11-3 最も印象に残っている同和問題（部落差別）に関する発言をした人】



◇回答者の属性別

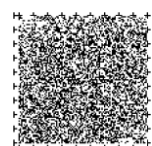
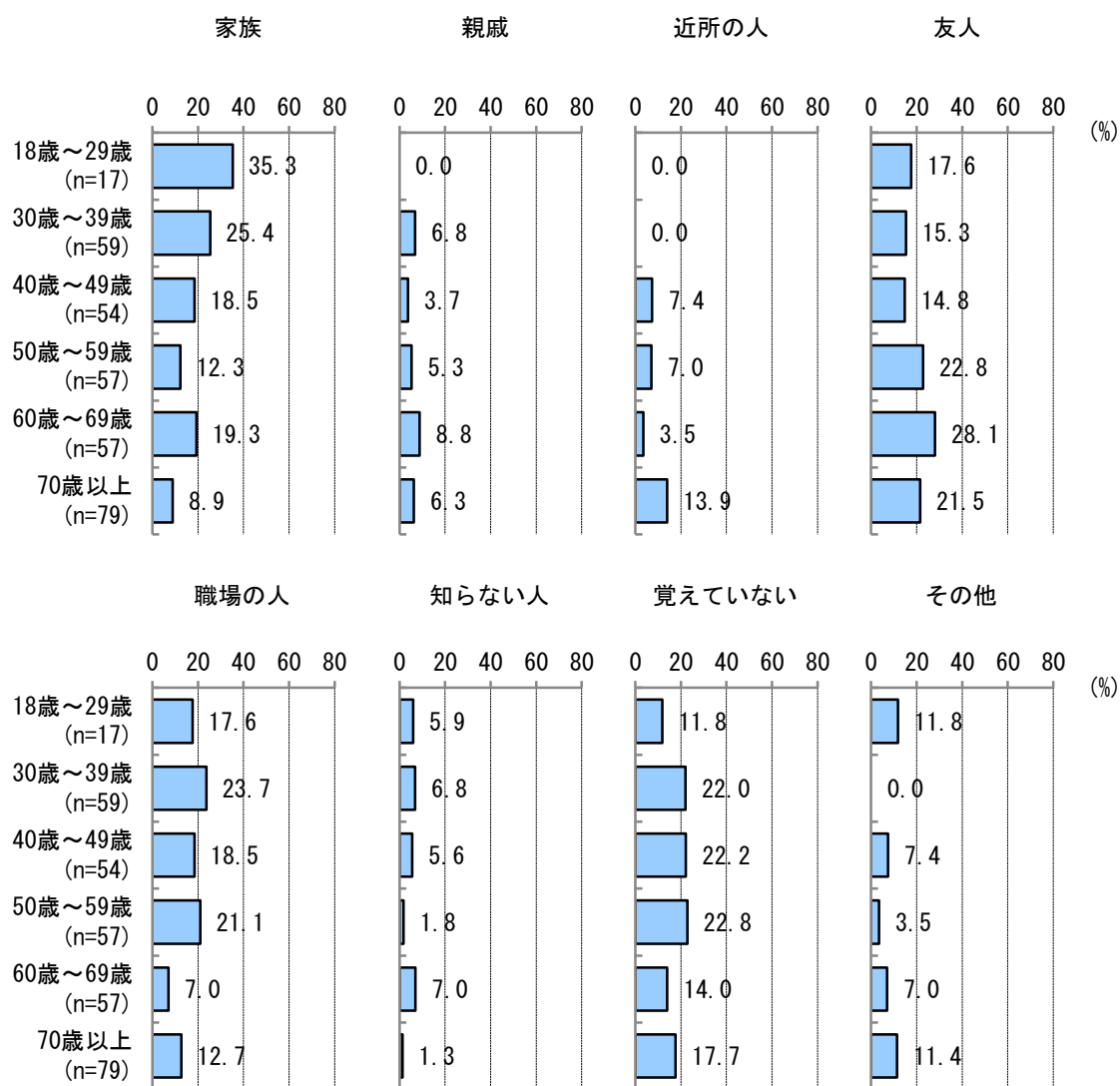
性別では、「家族」の割合は男性が15.3%、女性が18.3%で女性の方が3.0ポイント高くなっている。「友人」の割合は男性が16.8%、女性が23.0%で女性の方が6.2ポイント高く、「職場の人」の割合は女性が12.6%、男性が22.1%で男性の方が9.5ポイント高くなっている。（図11-3-1）

【図11-3-1 性別 最も印象に残っている同和問題（部落差別）に関する発言をした人】



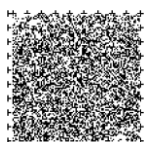
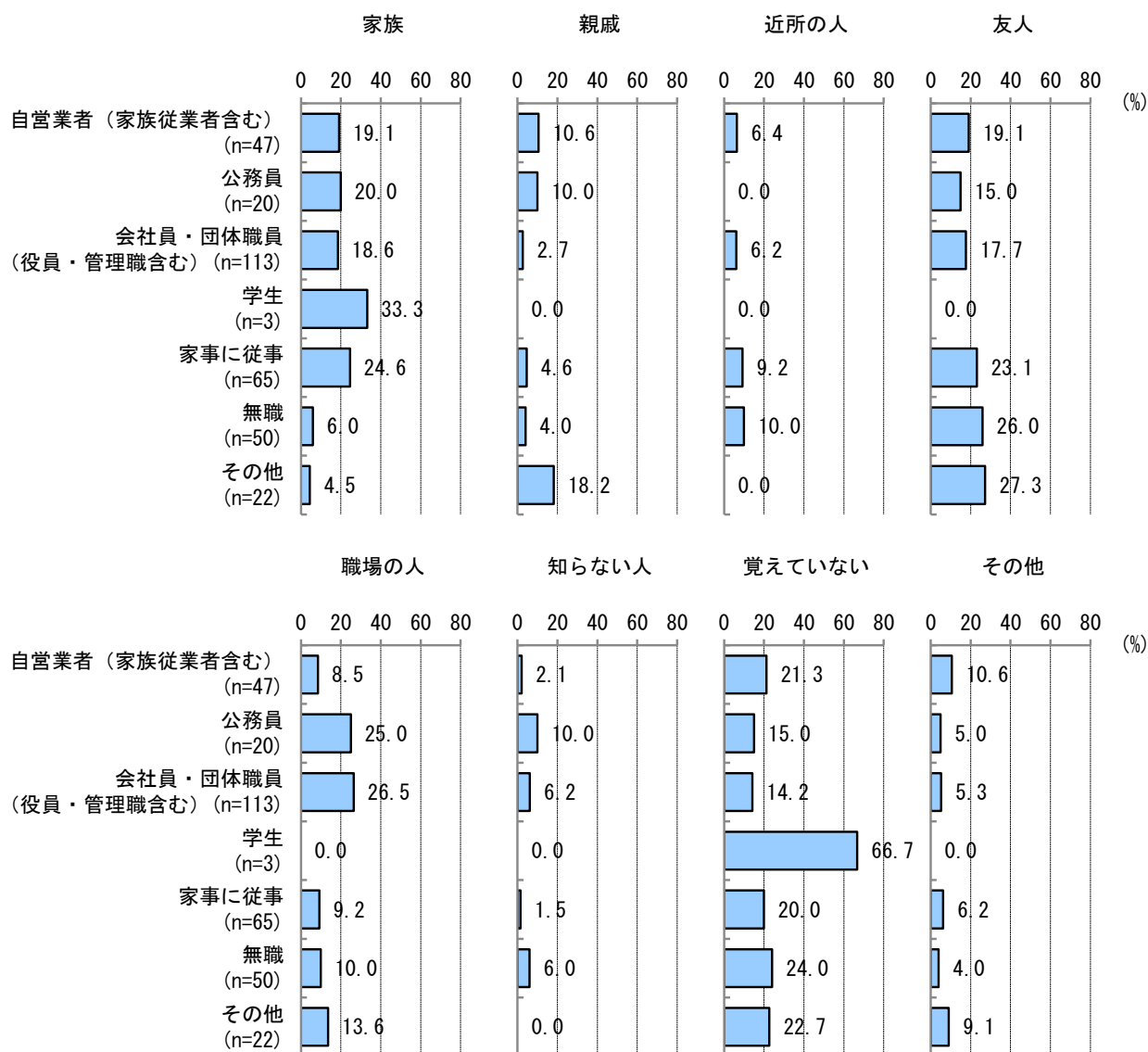
年齢別では、「家族」の割合は18歳～29歳が35.3%で最も高く、次いで30歳～39歳が25.4%と若い年代で高くなっている。「友人」は60歳代前後、「職場の人」は30歳～59歳までの年代の割合が高くなっている。(図11-3-2)

【図11-3-2 年齢別 最も印象に残っている同和問題（部落差別）に関する発言をした人】



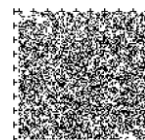
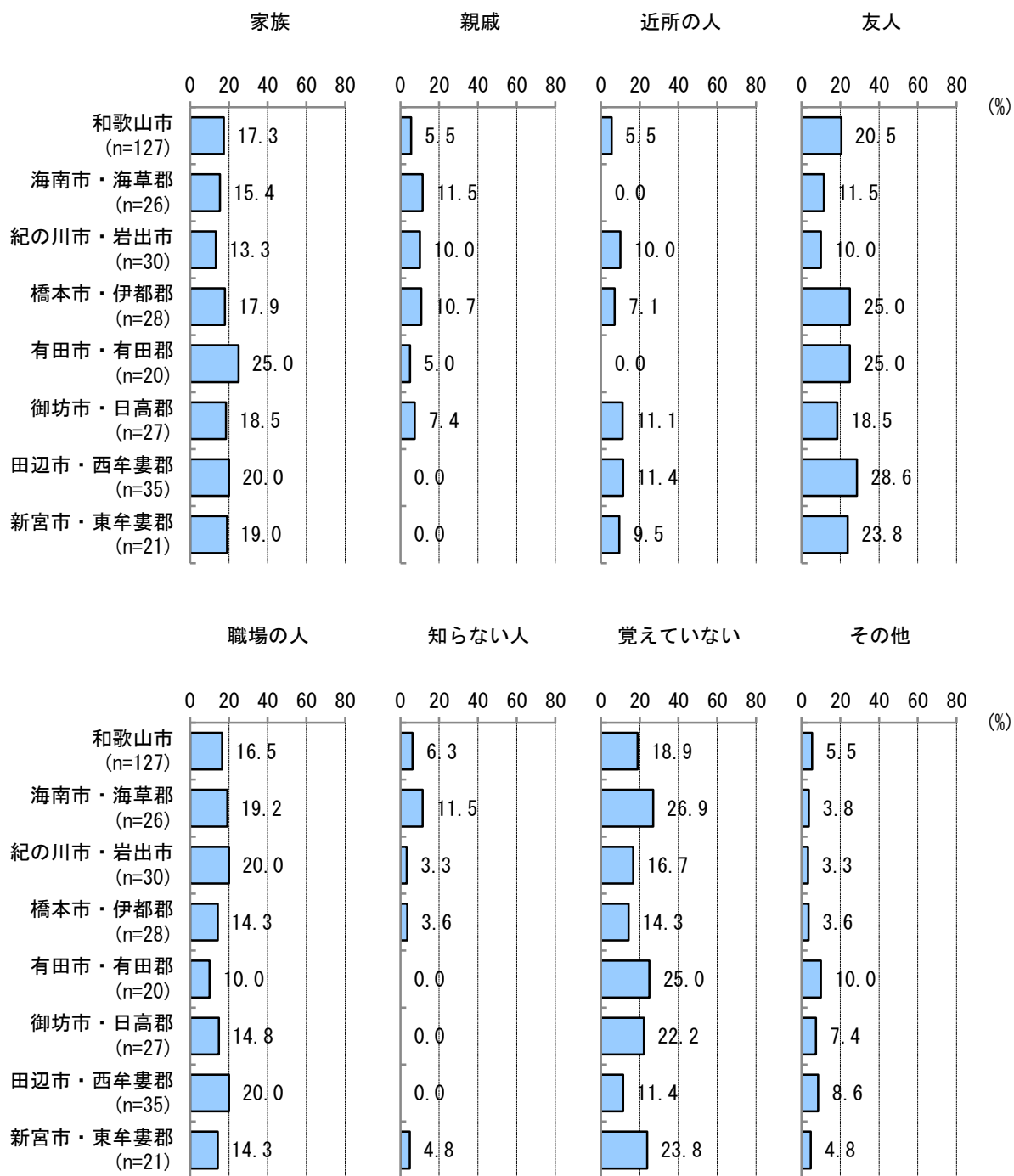
職業別では、「職場の人」の割合は公務員が25.0%、会社員・団体職員（役員・管理職含む）が26.5%で、他の職業に比べ高くなっている。（図11-3-3）

【図11-3-3 職業別 最も印象に残っている同和問題（部落差別）に関する発言をした人】



居住地域別では、「友人」の割合は、田辺市・西牟婁郡が28.6%で最も高くなっている。海南市・海草郡及び紀の川市・岩出市は「友人」の割合は他の地域の半分程度と低く、「職場の人」の割合が高くなっている。「家族」の割合は有田市・有田郡が25.0%で最も高くなっている。(図11-3-4)

【図11-3-4 居住地域別 最も印象に残っている同和問題（部落差別）に関する発言をした人】



(4) 最も印象に残っている同和問題（部落差別）に関する発言を聞いたときに感じたこと

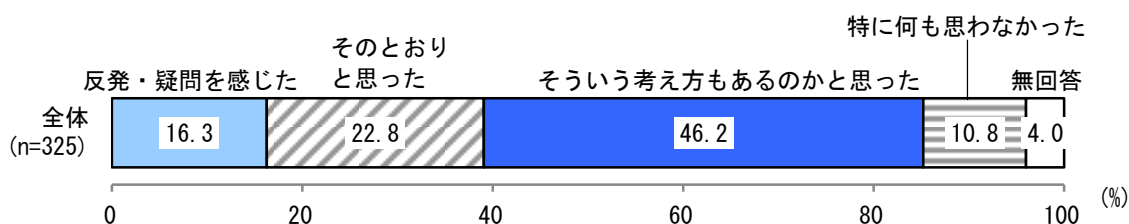
問11-1で○をされた発言についてお聞きします。

問11-3 それを聞いたとき、どう感じましたか。（○はひとつ）

◇全体

最も印象に残っている同和問題（部落差別）に関する発言を聞いたときに感じたことは、「そういう考え方もあるのかと思った」が46.2%で最も多く、これに次いで「そのとおりに思った」が22.8%となっている。一方、「反発・疑問を感じた」は16.3%である。（図11-4）

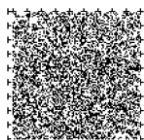
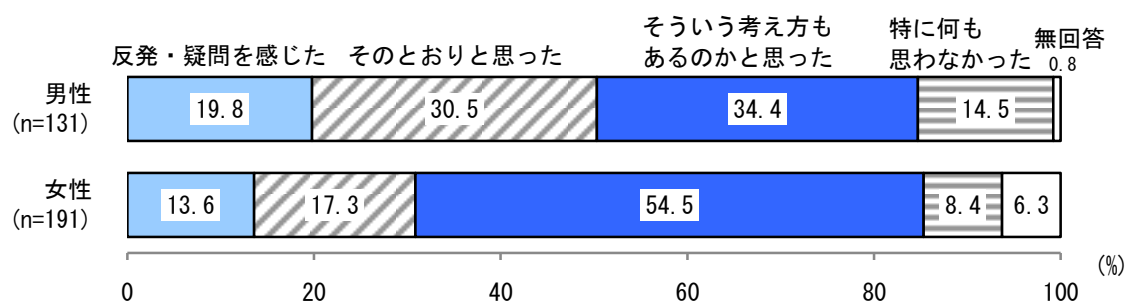
【図11-4 最も印象に残っている同和問題（部落差別）に関する発言を聞いたときに感じたこと】



◇回答者の属性別

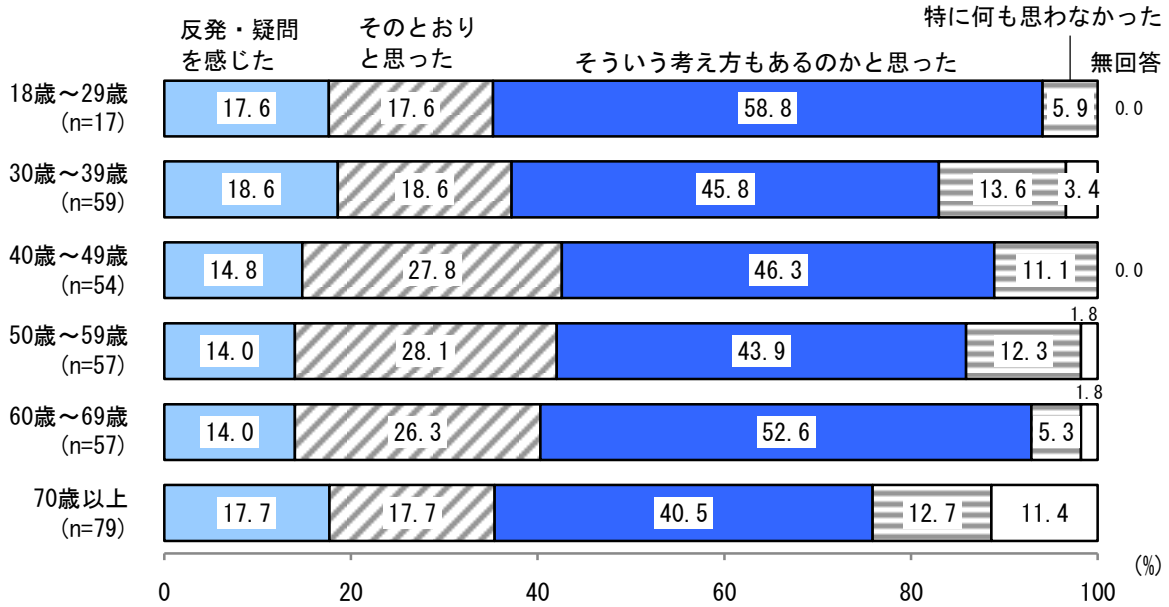
性別では、「そういう考え方もあるのかと思った」の割合は男性が34.4%、女性が54.5%で、女性の方が20.1ポイント高くなっている。一方、「反発・疑問を感じた」は女性が13.6%、男性が19.8%で、男性の方が6.2ポイント高いが、「そのとおりに思った」は女性が17.3%、男性が30.5%で、こちらも男性の方が13.2ポイント高くなっている。（図11-4-1）

【図11-4-1 性別 最も印象に残っている同和問題（部落差別）に関する発言を聞いたときに感じたこと】



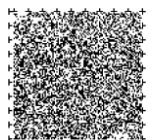
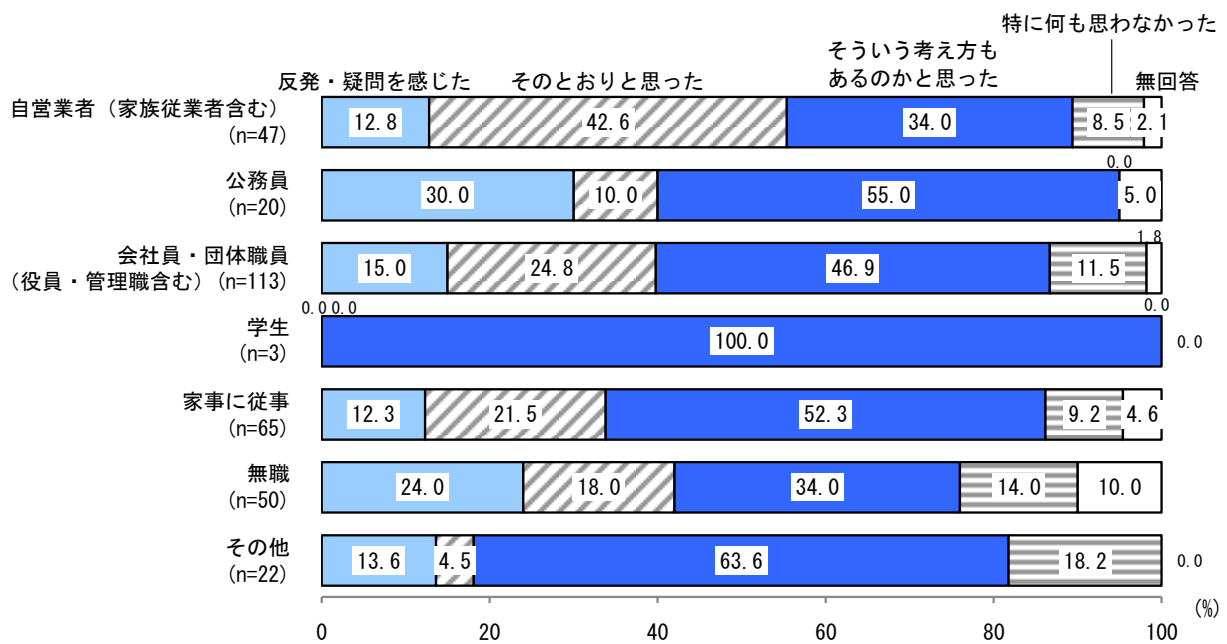
年齢別では、いずれの年代も「そういう考え方もあるのかと思った」が4割以上を占め最も多くなっている。一方、「そのとおりに思った」の割合は40～69歳の年代で高くなっている。(図11-4-2)

【図11-4-2 年齢別 最も印象に残っている同和問題（部落差別）に関する発言を聞いたときに感じたこと】



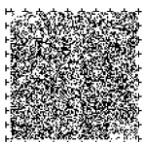
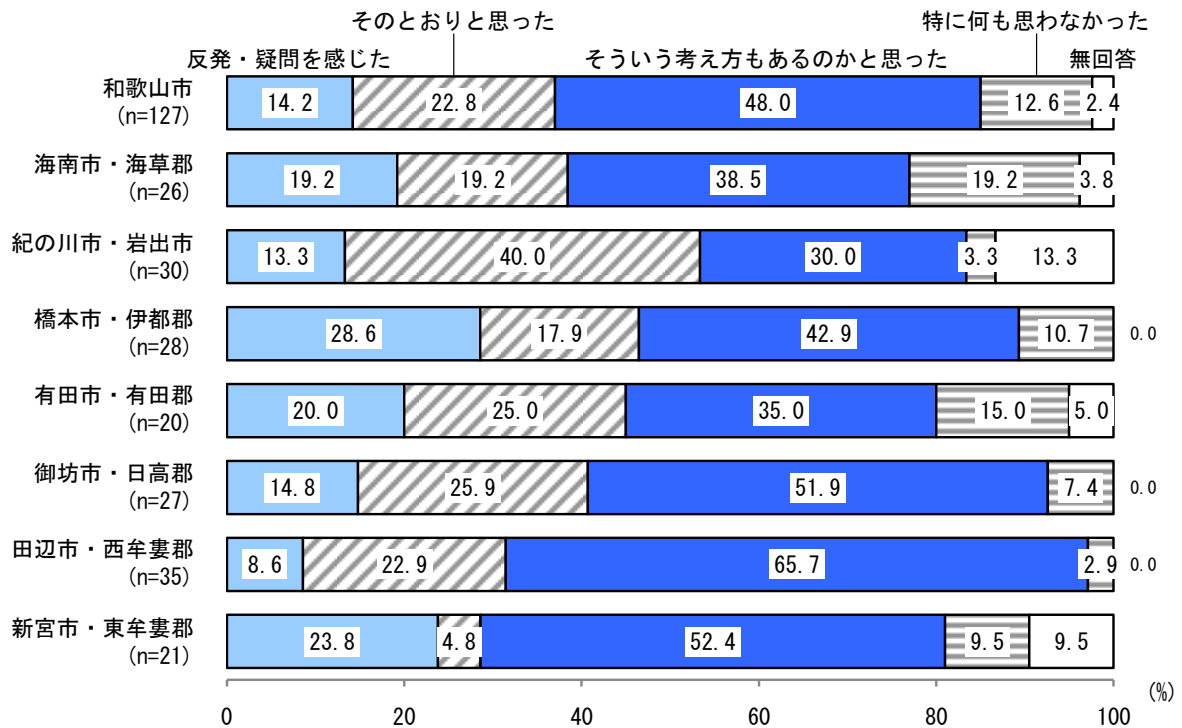
職業別では、「そのとおりに思った」の割合は自営業者（家族従業者含む）が42.6%で最も高くなっている。一方、「反発・疑問を感じた」は、公務員が30.0%で最も高くなっているが、「そういう考え方もあるのかと思った」（55.0%）の方が多くなっている。(図11-4-3)

【図11-4-3 職業別 最も印象に残っている同和問題（部落差別）に関する発言を聞いたときに感じたこと】



居住地域別では、「そのとおりと思った」の割合は紀の川市・岩出市が40.0%で最も高く、「そういう考え方もあるのかと思った」の割合は田辺市・西牟婁郡が65.7%で最も高くなっている。一方、「反発・疑問を感じた」の割合は橋本市・伊都郡が28.6%で最も高くなっているが、「そういう考え方もあるのかと思った」(42.9%)の方が多くなっている。(図11-4-4)

【図11-4-4 居住地域別 最も印象に残っている同和問題（部落差別）に関する発言を聞いたときに感じたこと】



(5) 同和問題（部落差別）に関する発言に反発・疑問を感じたときの行動

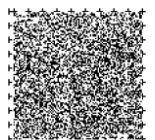
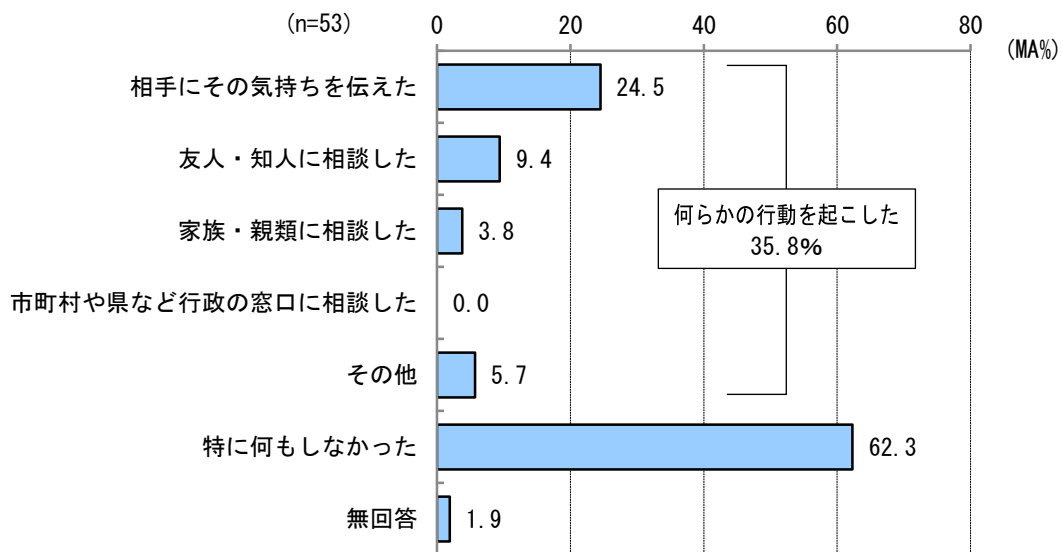
問11-3で、「1 反発・疑問を感じた」と回答された方にお聞きします。

問11-4 反発・疑問を感じて、どうされましたか。(〇はいくつでも)

◇全体

同和問題（部落差別）に関する発言に反発・疑問を感じたときの行動については、「特に何もしなかった」が62.3%で最も多くなっている。一方、何らかの行動を起こした人は35.8%で、その内容は「相手にその気持ちを伝えた」が24.5%、「友人・知人に相談した」が9.4%となっている。(図11-5)

【図11-5 同和問題（部落差別）に関する発言に反発・疑問を感じたときの行動】



12. インターネット上の同和問題（部落差別）について

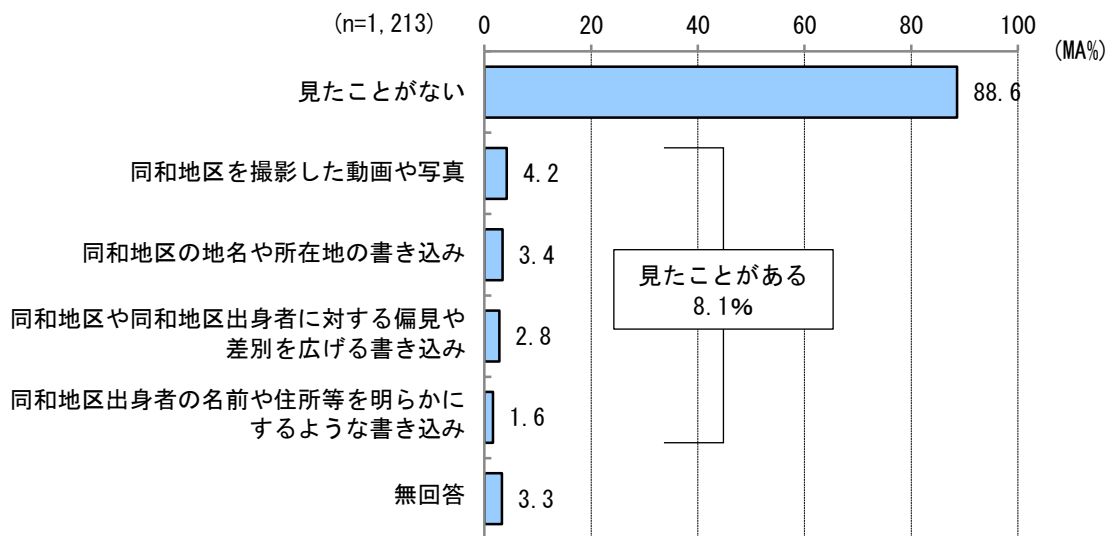
（1）この5年間にインターネット上で見たことがある同和問題（部落差別）の内容

問12 あなたは、この5年間くらいの中に、SNSやブログ等を含むインターネット上で、次のような内容を見たことがありますか。（○はい/□いいえ）

◇全体

この5年間にインターネット上で同和問題（部落差別）の書き込みを「見たことがない」が88.6%で最も多くなっている。一方、見たことがある人は8.1%で、その内容は「同和地区を撮影した動画や写真」が4.2%で最も多く、次いで「同和地区の地名や所在地の書き込み」が3.4%となっている。（図12-1）

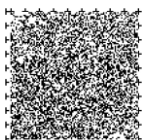
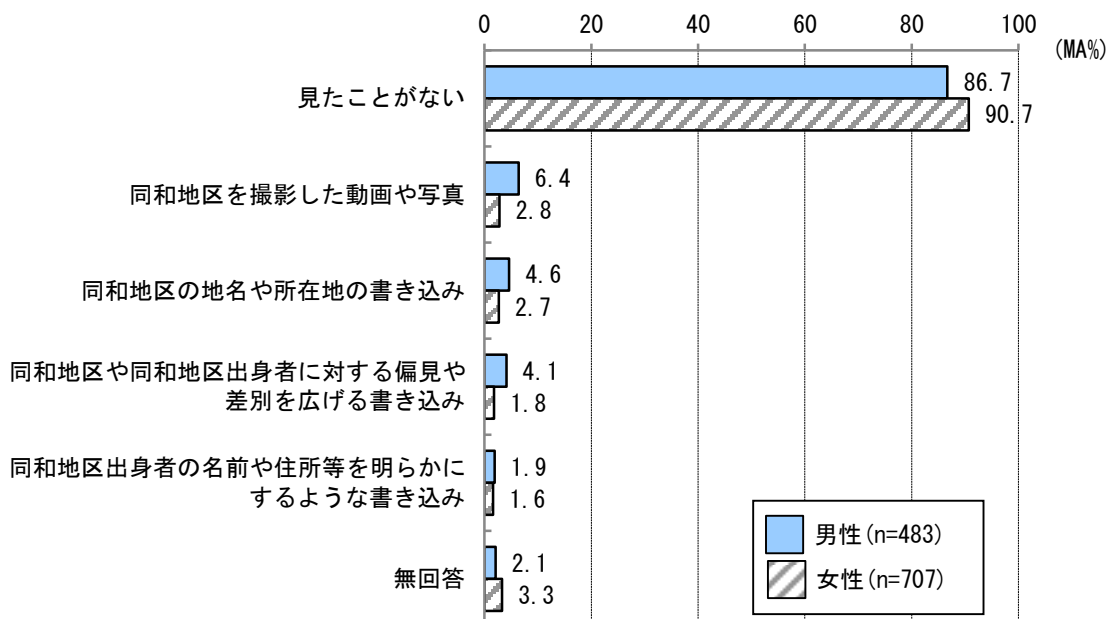
【図12-1 この5年間にインターネット上で見たことがある同和問題（部落差別）の内容】



◇回答者の属性別

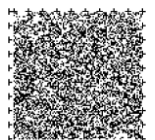
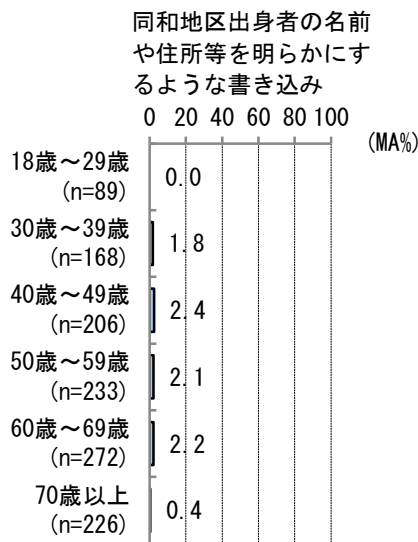
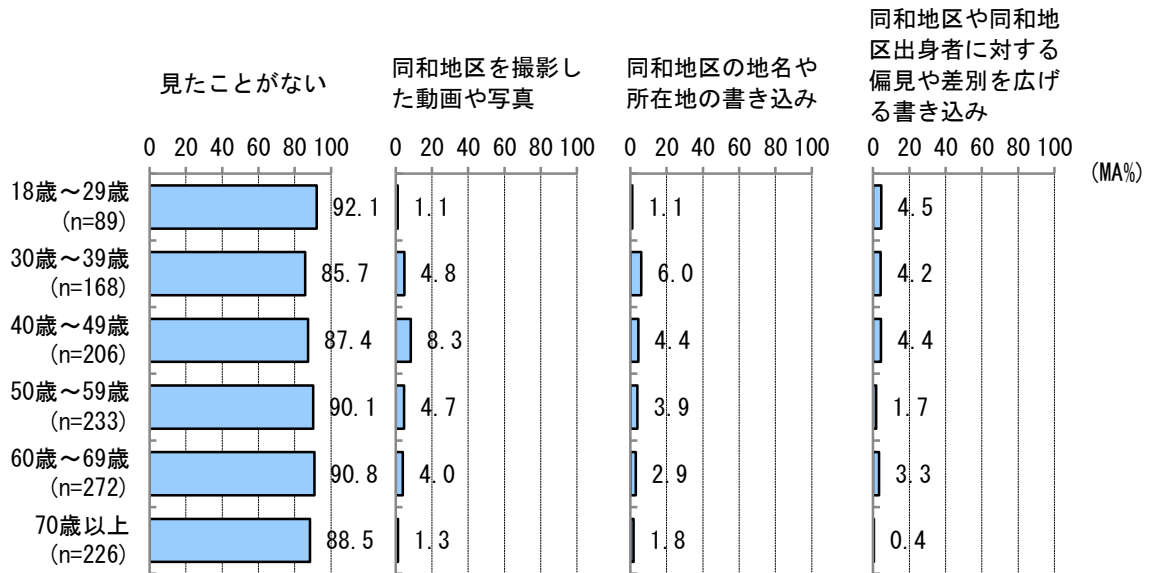
性別では、男女とも「見たことがない」が9割前後を占め最も多くなっている。見たことがある内容の割合は、いずれも男性で高くなっている。（図12-1-1）

【図12-1-1 性別 この5年間にインターネット上で見たことがある同和問題（部落差別）の内容】



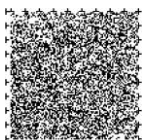
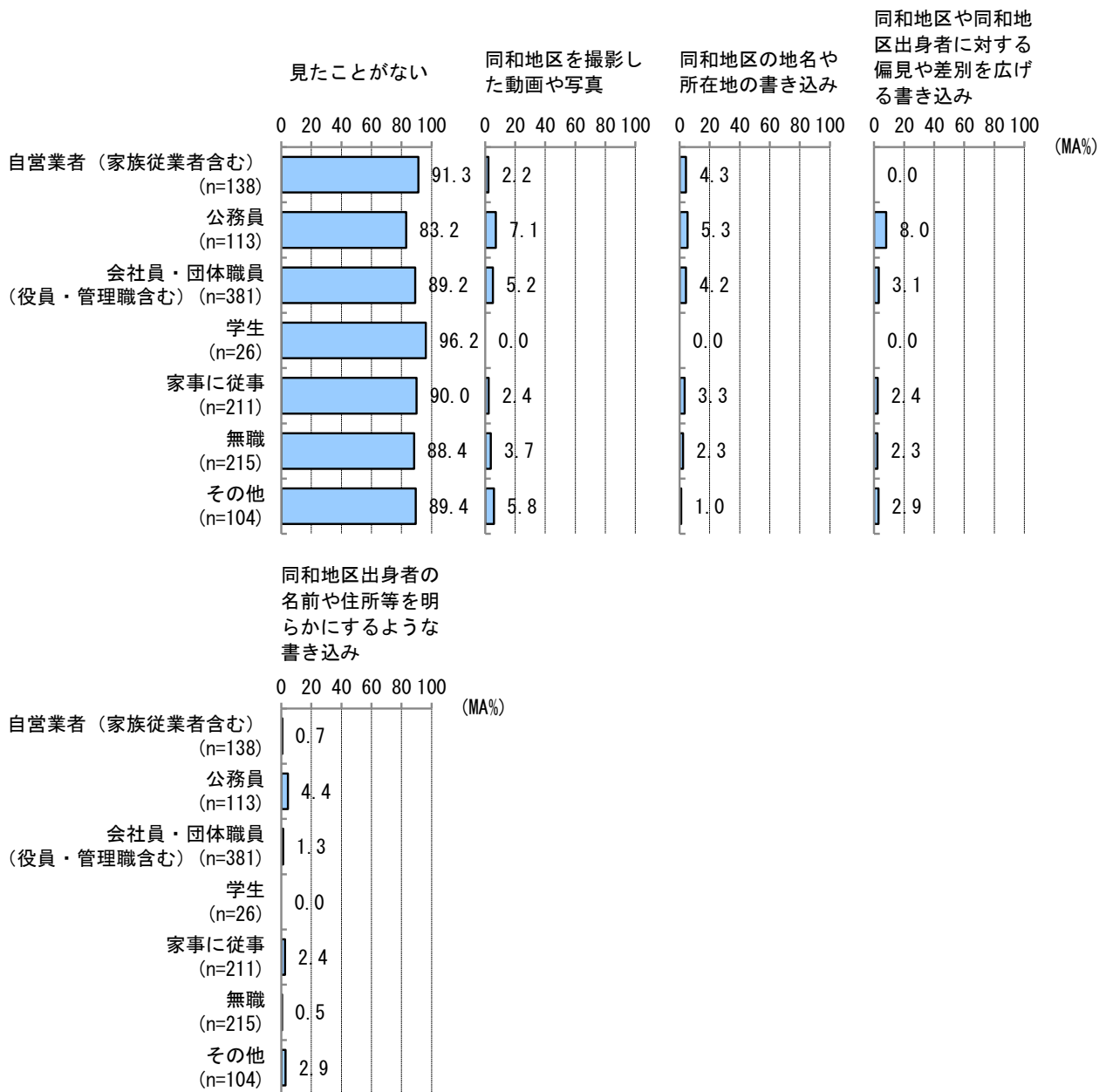
年齢別では、いずれも「見たことがない」が9割前後を占め最も多くなっている。「同和地区を撮影した動画や写真」の割合は40歳～49歳が8.3%で最も高くなっている。(図12-1-2)

【図12-1-2 年齢別 この5年間にインターネット上で見たことがある同和问题（部落差別）の内容】



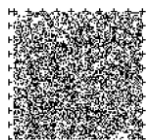
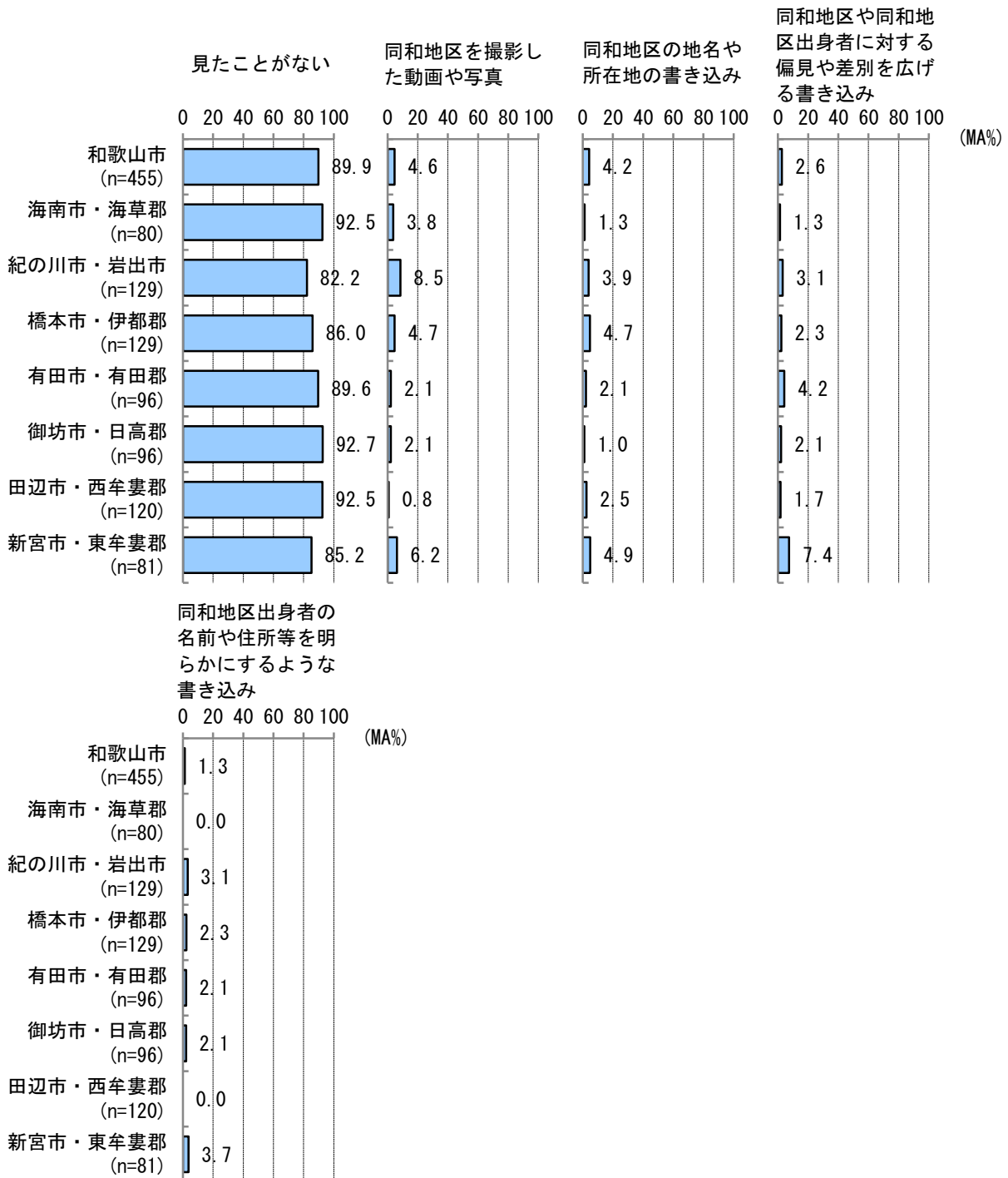
職業別では、いずれも「見たことがない」が9割前後を占め最も多くなっている。「同和地区や同和地区出身者に対する偏見や差別を広げる書き込み」の割合は公務員が8.0%で最も高くなっている。(図12-1-3)

【図12-1-3 職業別 この5年間にインターネット上で見たことがある同和問題（部落差別）の内容】



居住地域別では、いずれの地域も「見たことがない」が9割前後を占め最も多くなっている。「同和地区や同和地区出身者に対する偏見や差別を広げる書き込み」の割合は新宮市・東牟婁郡が7.4%で最も高くなっている。(図12-1-4)

【図12-1-4 居住地域別 この5年間にインターネット上で見たことがある同和问题（部落差別）の内容】



(2) インターネット上での同和問題（部落差別）を見たきっかけ

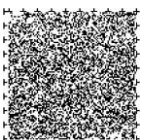
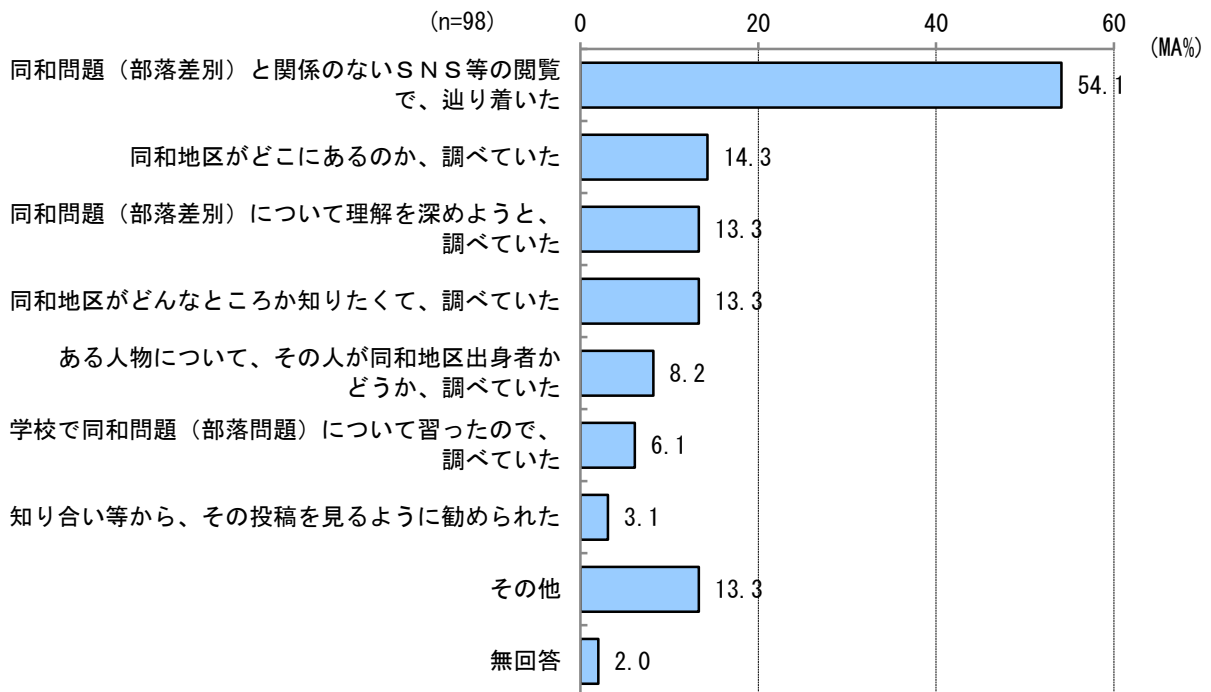
問12で、「1」～「4」に○をされた方にお聞きします。

問12-1 それ（それら）を見たきっかけは何ですか。（○はいくつでも）

◇全体

この5年間に同和問題（部落差別）の内容をインターネット上で見たことがあると回答した人のそれ（それら）を見たきっかけは、「同和問題（部落差別）と関係のないSNS等の閲覧で、辿り着いた」が54.1%で最も多くなっている。これに次いで「同和地区がどこにあるのか、調べていた」が14.3%、「同和問題（部落差別）について理解を深めようと、調べていた」と「同和地区がどんなところか知りたくて、調べていた」がそれぞれ13.3%となっている。（図12-2）

【図12-2 インターネット上での同和問題（部落差別）を見たきっかけ】



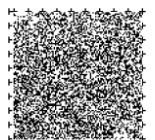
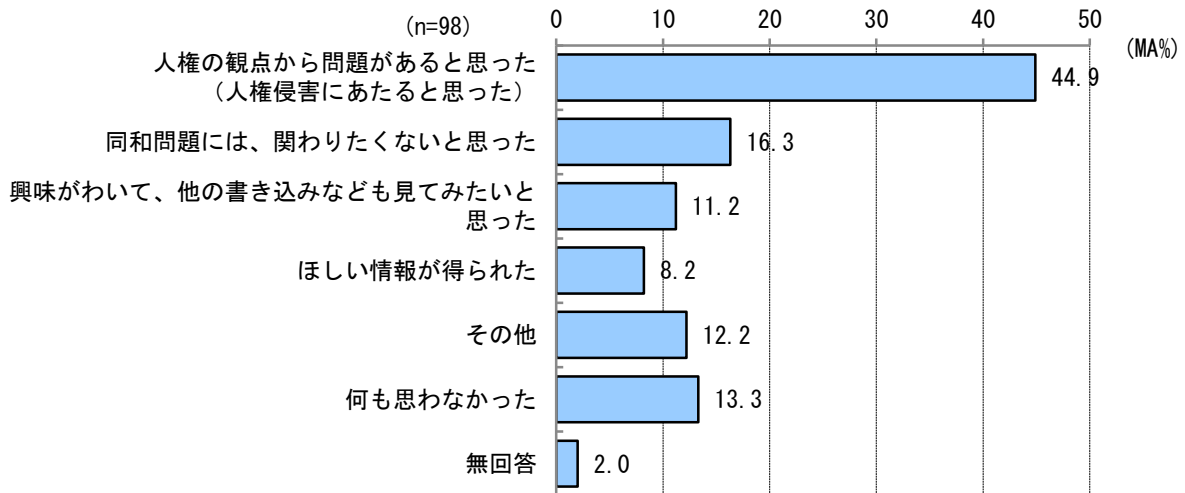
(3) インターネット上で同和問題（部落差別）を見た感想

問12-2 それ（それら）を見てどう思いましたか。（○はいくつでも）

◇全体

この5年間に同和問題（部落差別）の内容をインターネット上で見たことがあると回答した人のそれ（それら）を見た感想は、「人権の観点から問題があると思った（人権侵害にあたると思った）」が44.9%で最も多く、次いで「同和問題には、関わりたくないと思った」が16.3%、「何も思わなかった」が13.3%となっている。（図12-3）

【図12-3 インターネット上で同和問題（部落差別）を見た感想】



13. 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発について

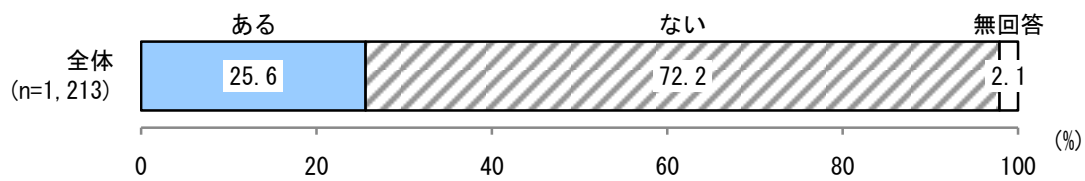
（１）この５年間に同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接した経験

問13 あなたは、この５年間くらいの中に、同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことがありますか。（○はひとつ）

◇全体

この５年間に同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことは「ない」が72.2%、「ある」が25.6%となっている。（図13-1）

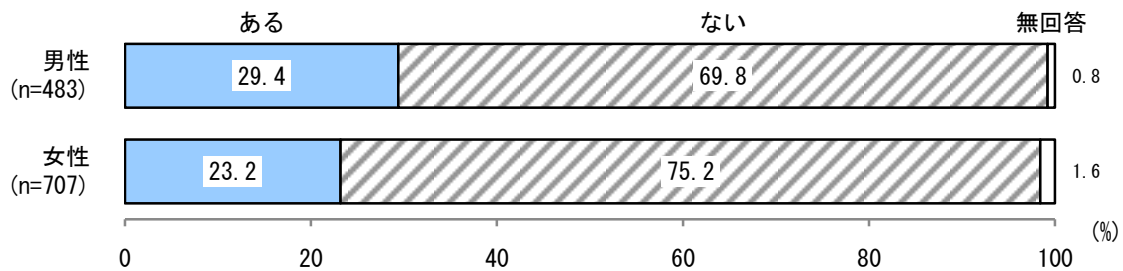
【図13-1 この５年間に同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接した経験】



◇回答者の属性別

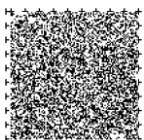
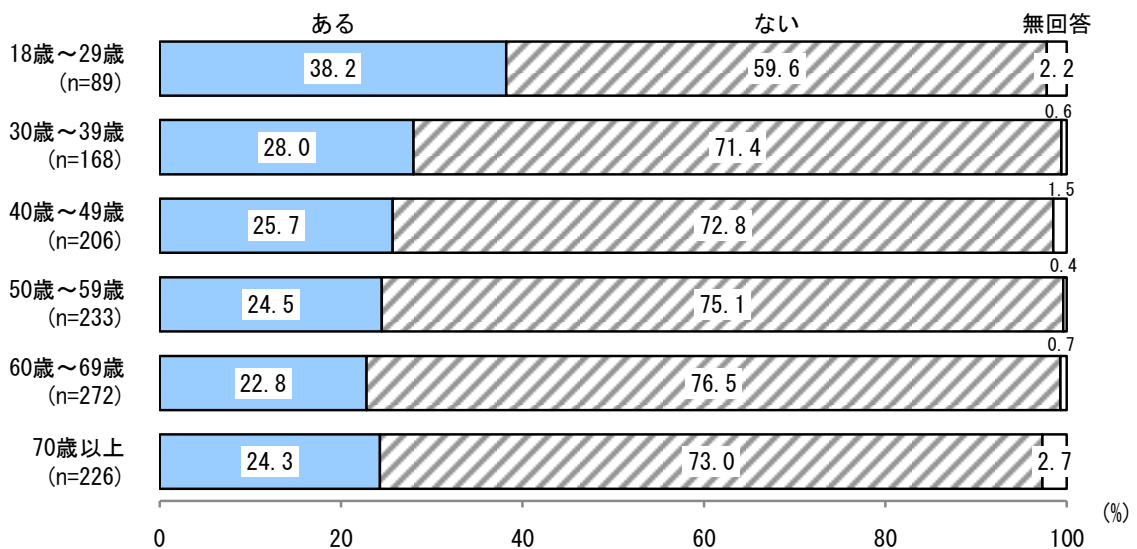
性別では、「ある」の割合は男性が29.4%、女性は23.2%で、男性の方が6.2ポイント高くなっている。（図13-1-1）

【図13-1-1 性別 この５年間に同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接した経験】



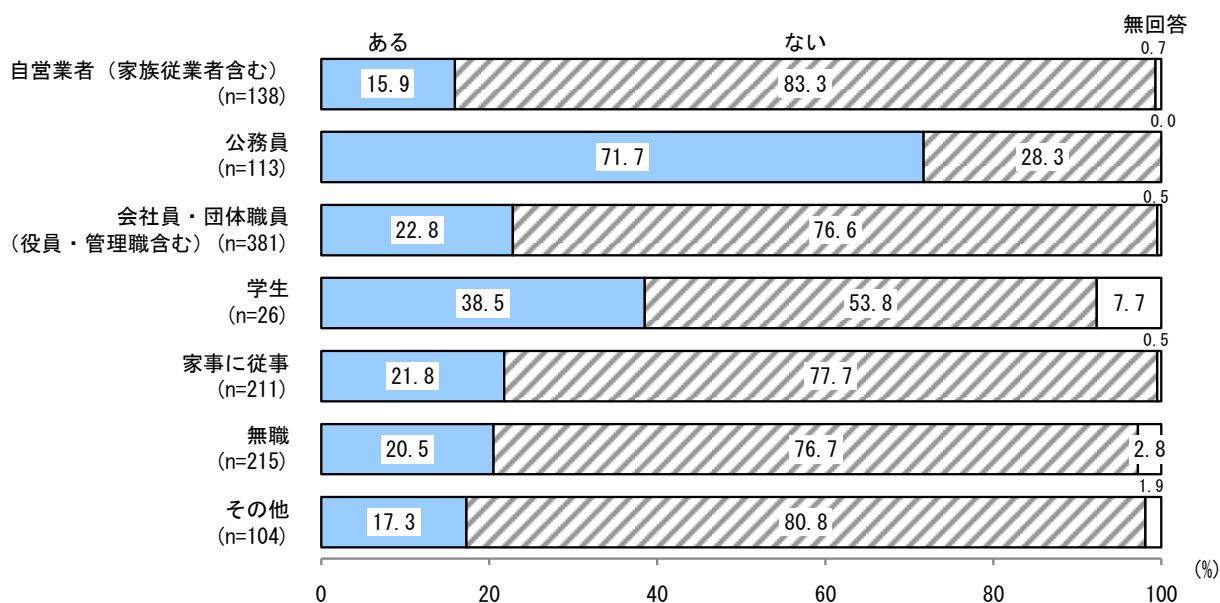
年齢別では、「ある」の割合は18歳～29歳が38.2%で最も高く、若い年代ほど高くなっている。（図13-1-2）

【図13-1-2 年齢別 この５年間に同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接した経験】



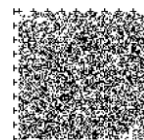
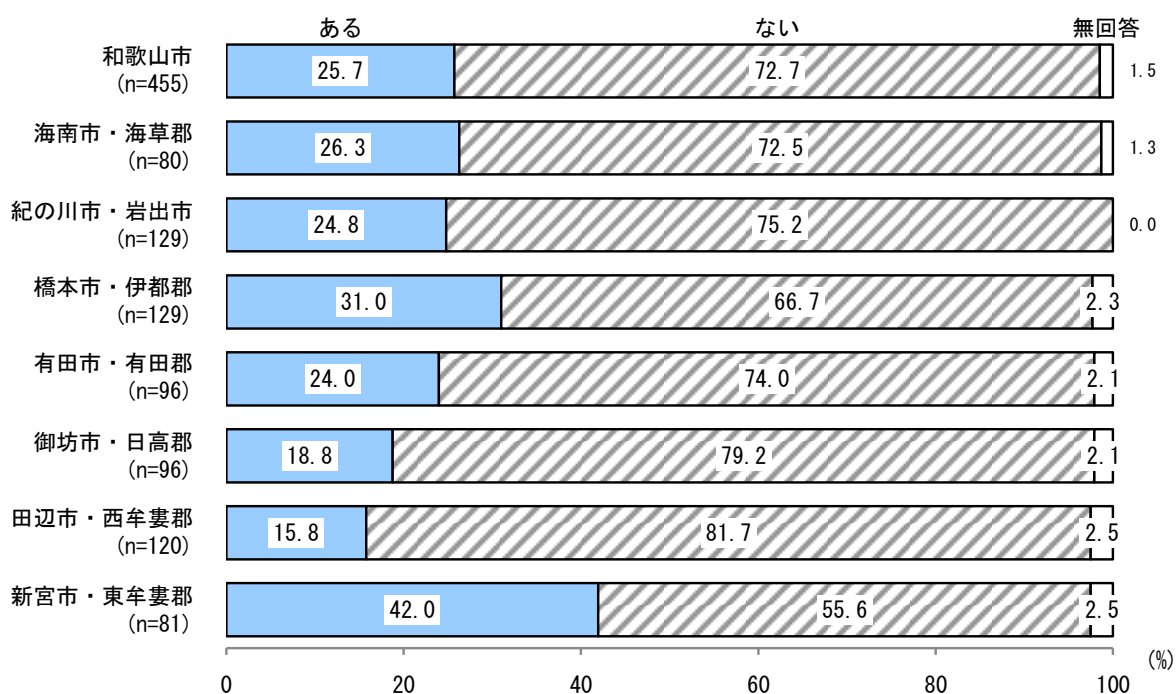
職業別では、「ある」の割合は公務員が71.7%で最も高く、それ以外の職業では「ある」より「ない」の割合の方が高くなっている。(図13-1-3)

【図13-1-3 職業別 この5年間に同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接した経験】



居住地域別では、「ある」の割合は新宮市・東牟婁郡が42.0%で最も高く、田辺市・西牟婁郡が15.8%で最も低くなっている。(図13-1-4)

【図13-1-4 居住地域別 この5年間に同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接した経験】



(2) 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発に接した場面

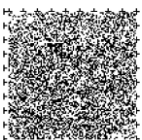
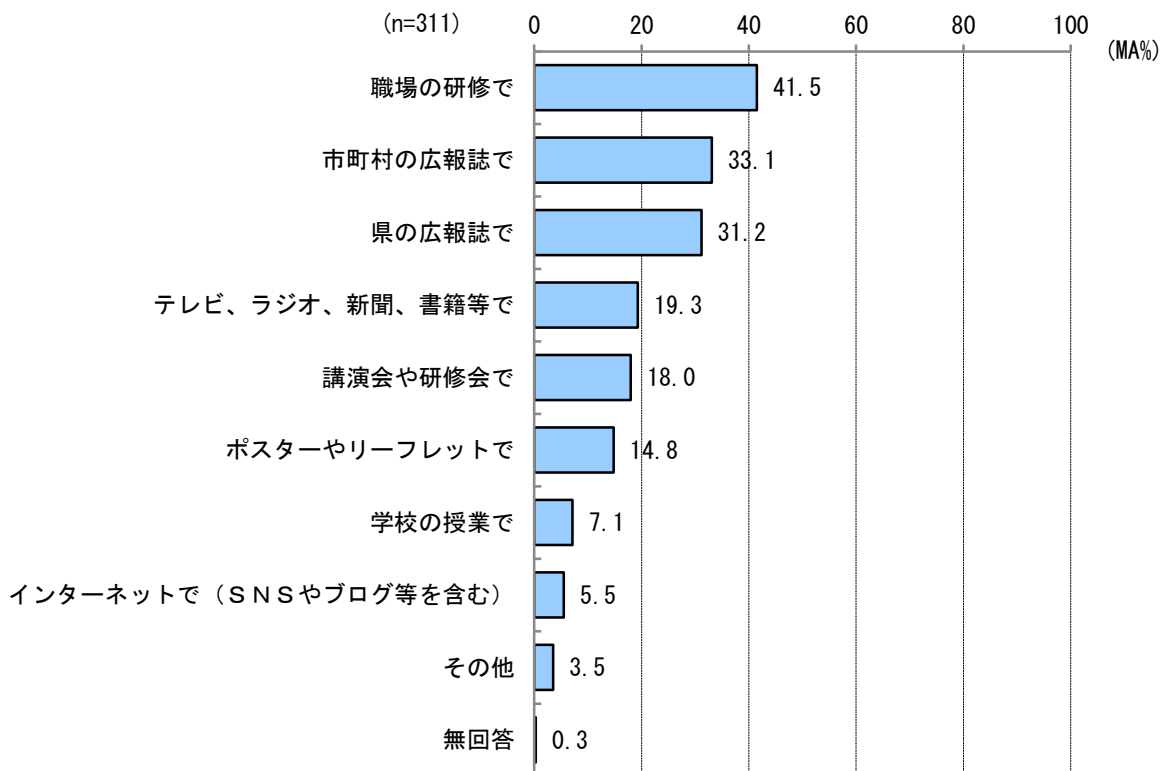
問13で、「1 ある」と回答された方にお聞きします。

問13-1 それはどのような場面でしたか。(〇はいくつでも)

◇全体

この5年間に同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことがあると回答した人に、それはどのような場面であったかをたずねると、「職場の研修で」が41.5%で最も多く、次いで「市町村の広報誌で」が33.1%、「県の広報誌で」が31.2%となっている。(図13-2)

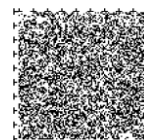
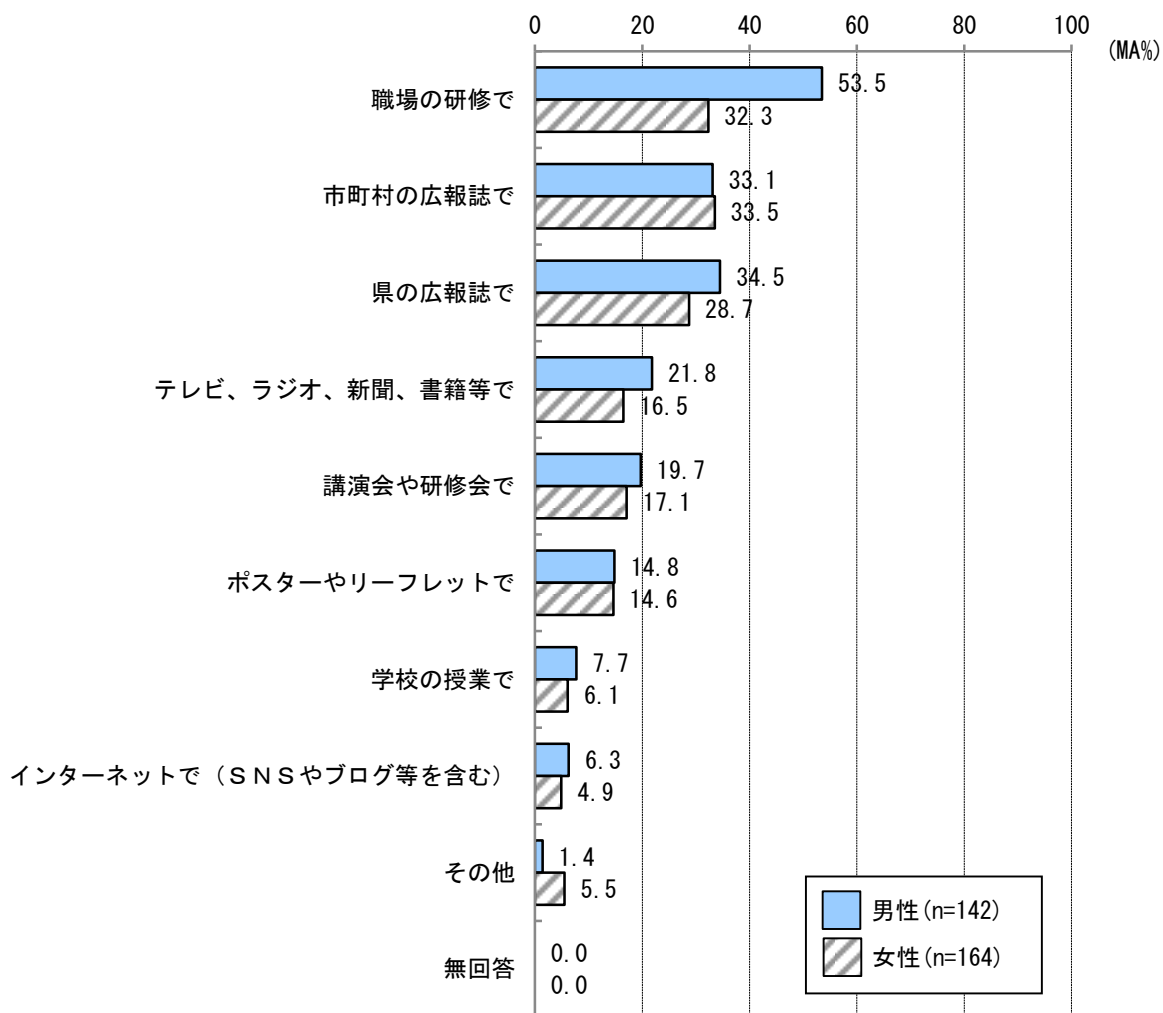
【図13-2 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発に接した場面】



◇回答者の属性別

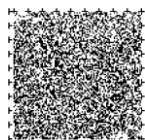
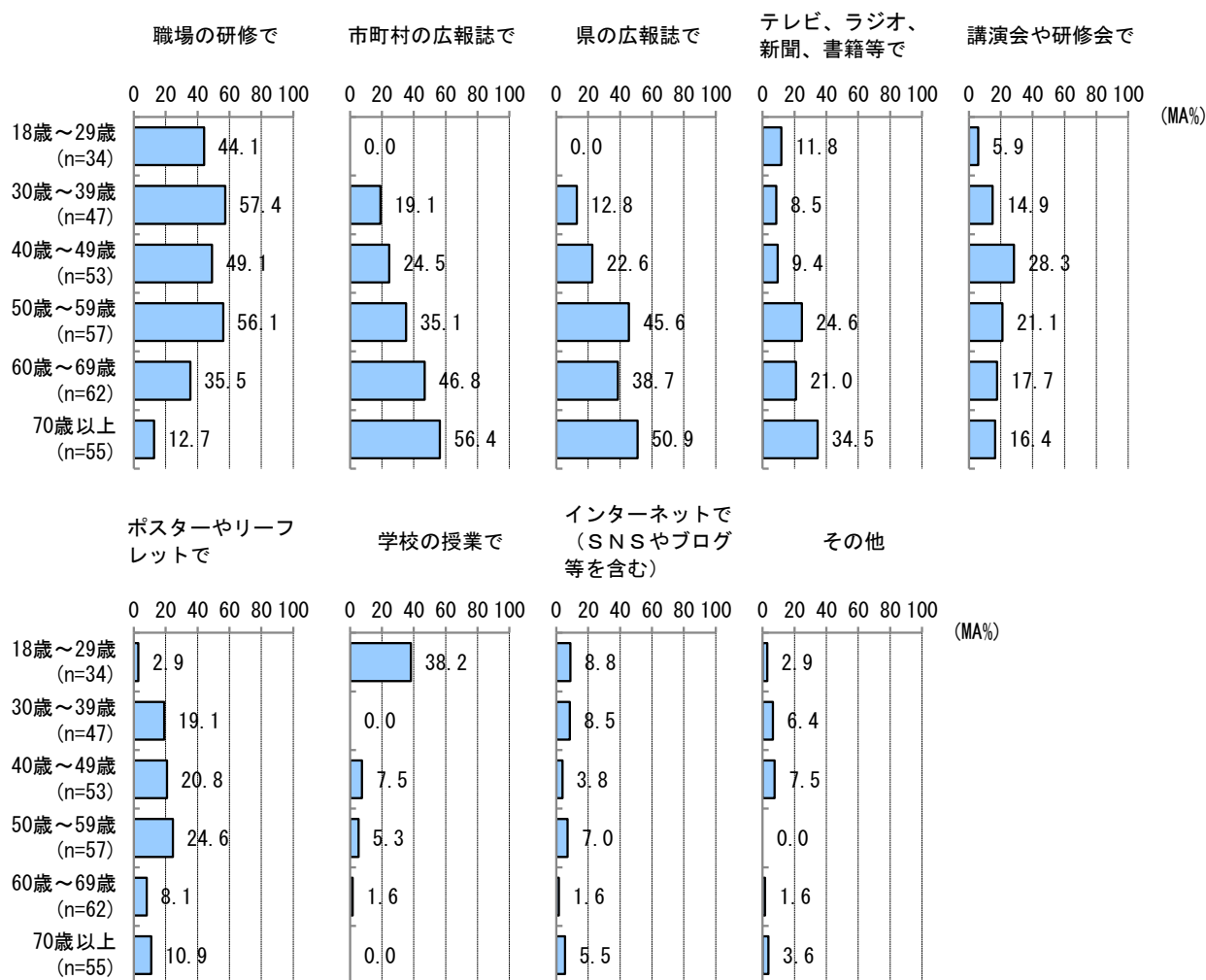
性別では、「職場の研修で」の割合は男性が53.5%、女性が32.3%で、男性の割合が女性を21.2ポイント上回っている。(図13-2-1)

【図13-2-1 性別 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発に接した場面】



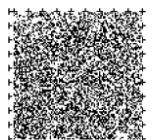
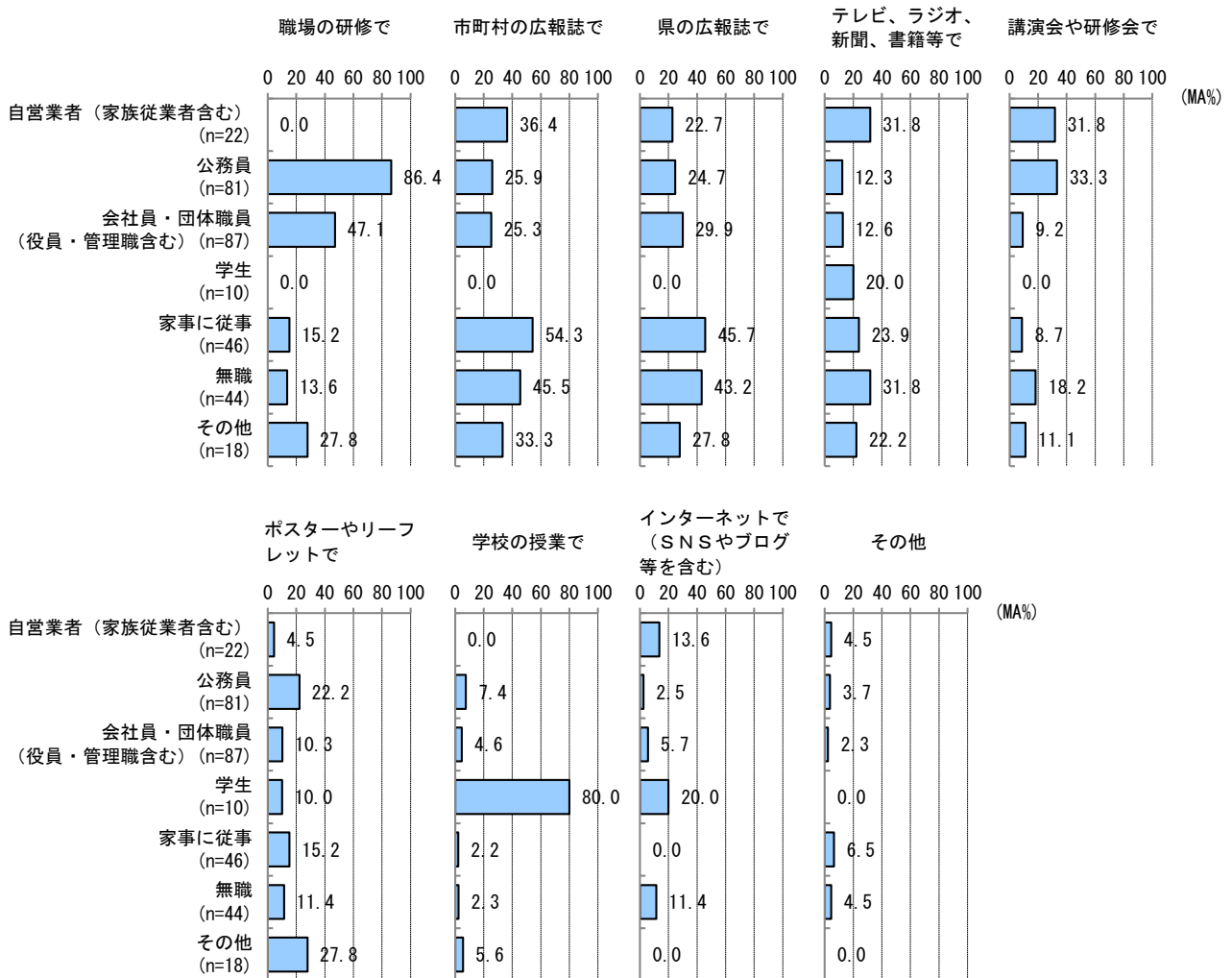
年齢別では、「職場の研修で」の割合は30歳～39歳が57.4%で最も高く、18歳～59歳までの年代では4割台から5割台を占めている。「市町村の広報誌で」は高齢になるほど割合が上昇しており、「市町村の広報誌で」と「県の広報誌で」「テレビ、ラジオ、新聞、書籍等で」は70歳以上の割合が最も高くなっている。(図13-2-2)

【図13-2-2 年齢別 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発に接した場面】



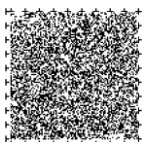
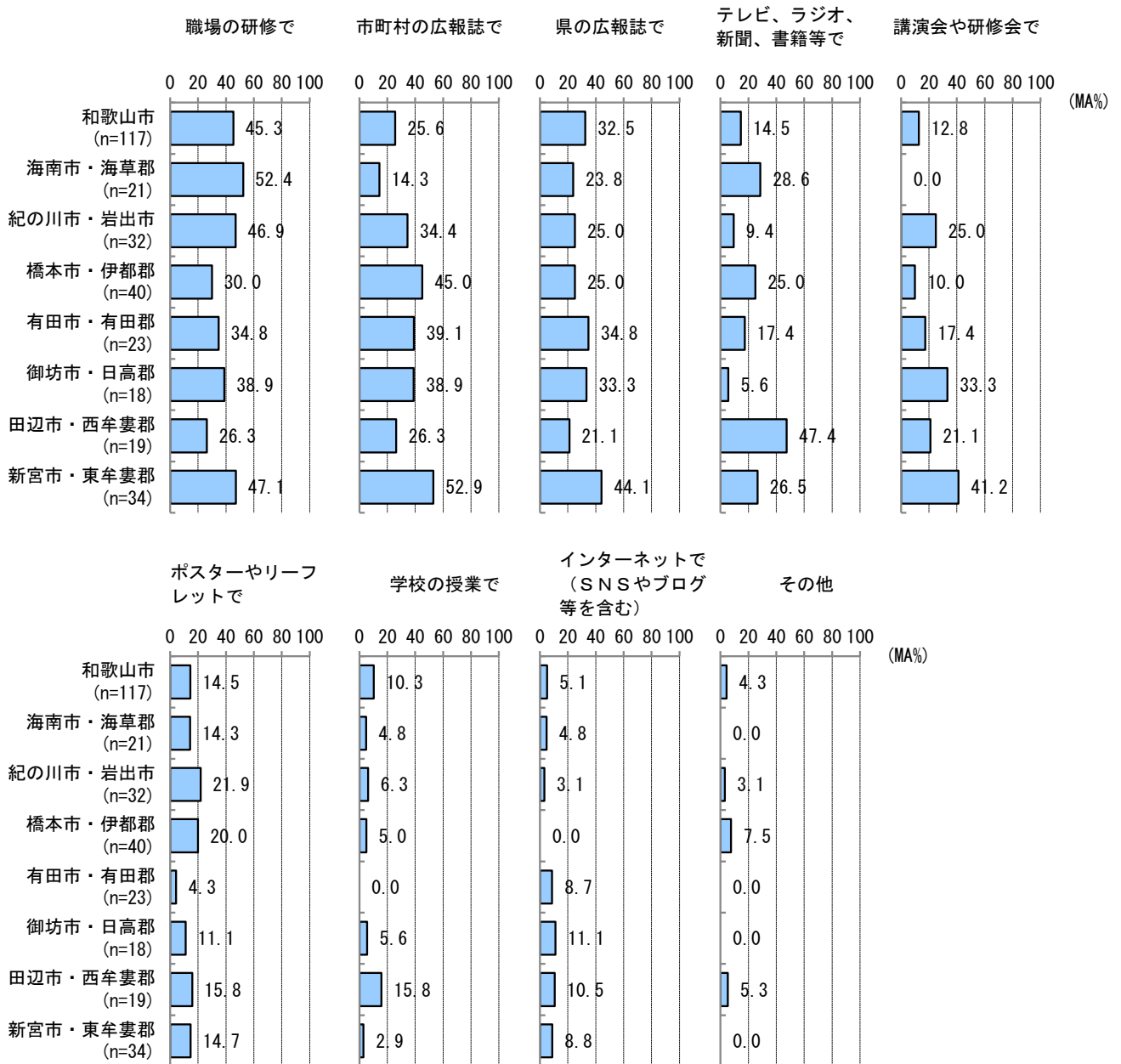
職業別では、「職場の研修で」の割合は公務員が86.4%で最も高く、「市町村の広報誌で」と「県の広報誌で」は、家事に従事（市町村54.3%、県45.7%）が最も高くなっている。（図13-2-3）

【図13-2-3 職業別 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発に接した場面】



居住地域別では、「職場の研修で」の割合は海南市・海草郡が52.4%で最も高く、次いで新宮市・東牟婁郡が47.1%となっている。「市町村の広報誌で」と「県の広報誌で」は新宮市・東牟婁郡が最も高くなっている。(図13-2-4)

【図13-2-4 居住地域別 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発に接した場面】



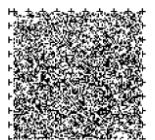
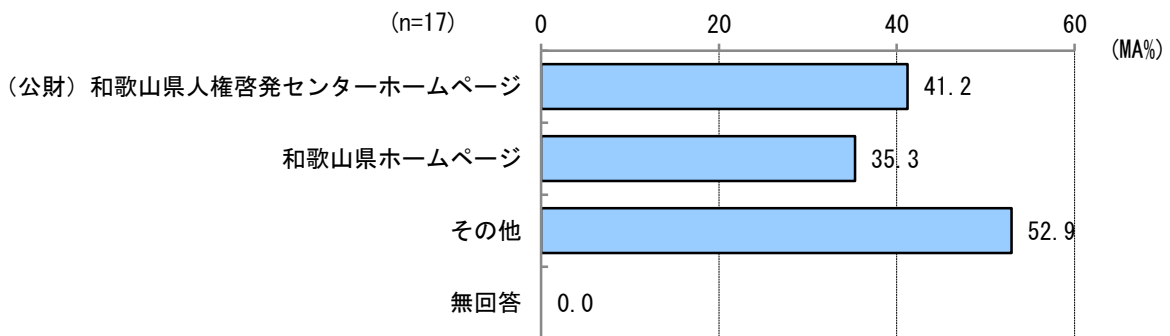
(3) 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発に接したホームページ

問13-1で、「1 インターネットで（SNSやブログ等を含む）」に○をされた方にお聞きします。
問13-2 それはどのようなものでしたか。見たことがあるものを選んでください。（○はいくつでも）

◇全体

インターネットで同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したと回答した人（17人）で、見たことがあるホームページは、「（公財）和歌山県人権啓発センターホームページ」が41.2%（7人）、「和歌山県ホームページ」が35.3%（6人）となっている。（図13-3）

【図13-3 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発に接したホームページ】



(4) 県ホームページや県人権啓発センターホームページを見た感想

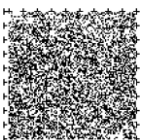
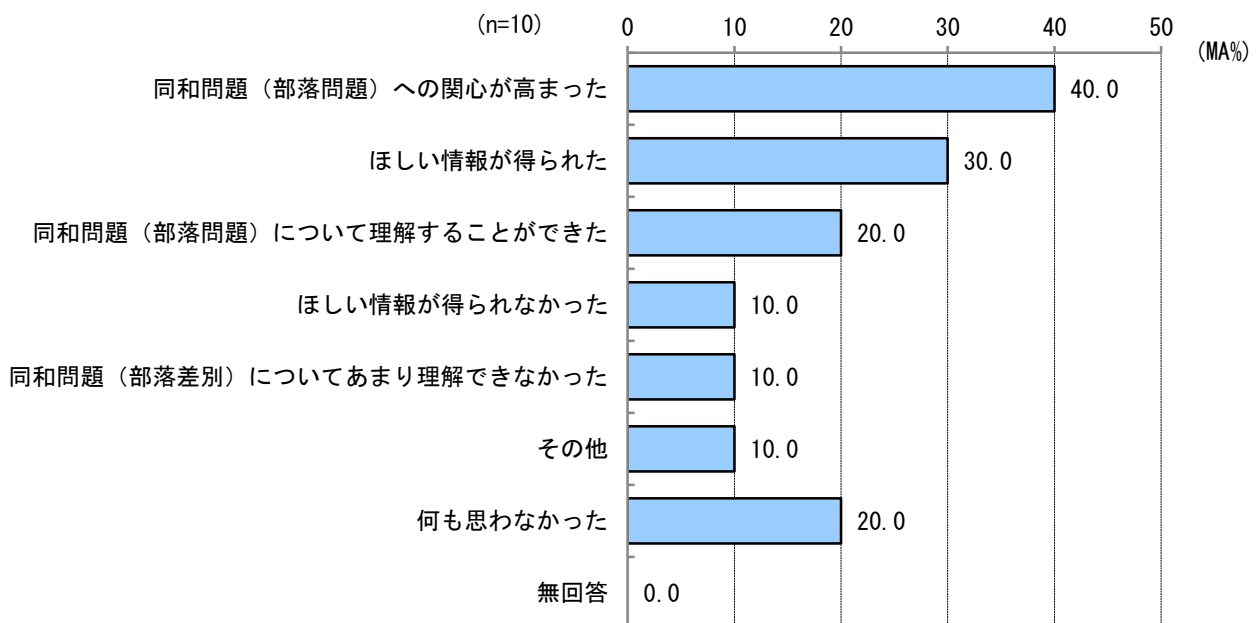
問13-2で、「1 和歌山県ホームページ」「2 (公財)和歌山県人権啓発センターホームページ」と回答された方にお聞きします。

問13-3 それを見てどう思いましたか。(○はいくつでも)

◇全体

和歌山県ホームページや和歌山県人権啓発センターホームページを見たと回答した人(10人)の感想は、「同和問題(部落問題)への関心が高まった」が40.0%(4人)で最も多く、次いで「ほしい情報が得られた」が30.0%(3人)、「同和問題(部落問題)について理解することができた」と「何も思わなかった」がそれぞれ20.0%(2人)となっている。(図13-4)

【図13-4 県ホームページや県人権啓発センターホームページを見た感想】



14. 同和問題（部落差別）に関する教育について

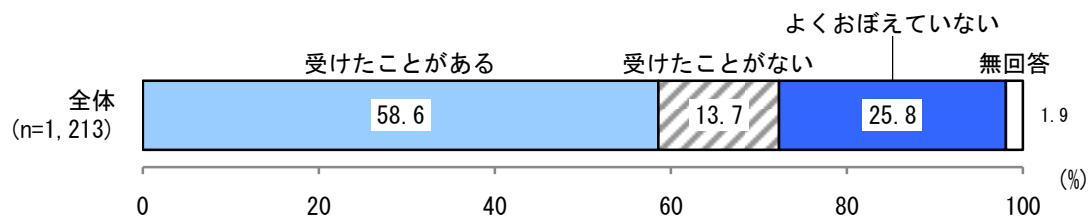
（１）同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験

問14 あなたは、小学校から高校のあいだに同和問題（部落差別）に関する教育を受けたことがありますか。（○はひとつ）

◇全体

同和教育を「受けたことがある」が58.6%、「受けたことがない」が13.7%となっている。また、「よくおぼえていない」が25.8%となっている。（図14-1）

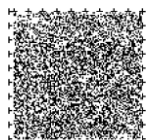
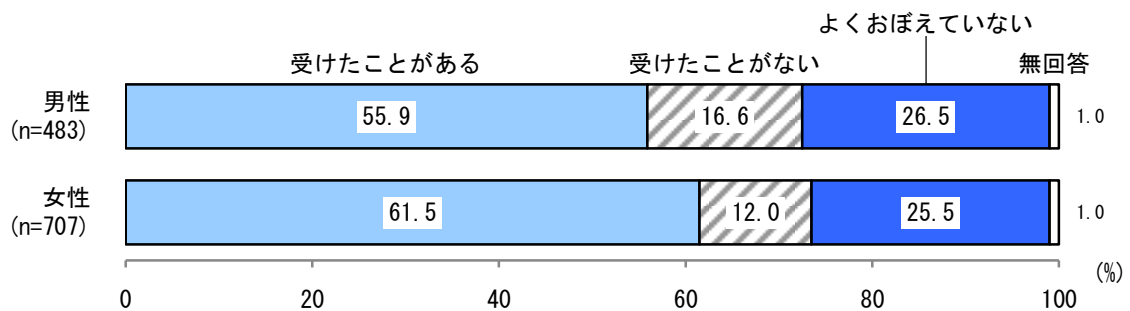
【図14-1 同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験】



◇回答者の属性別

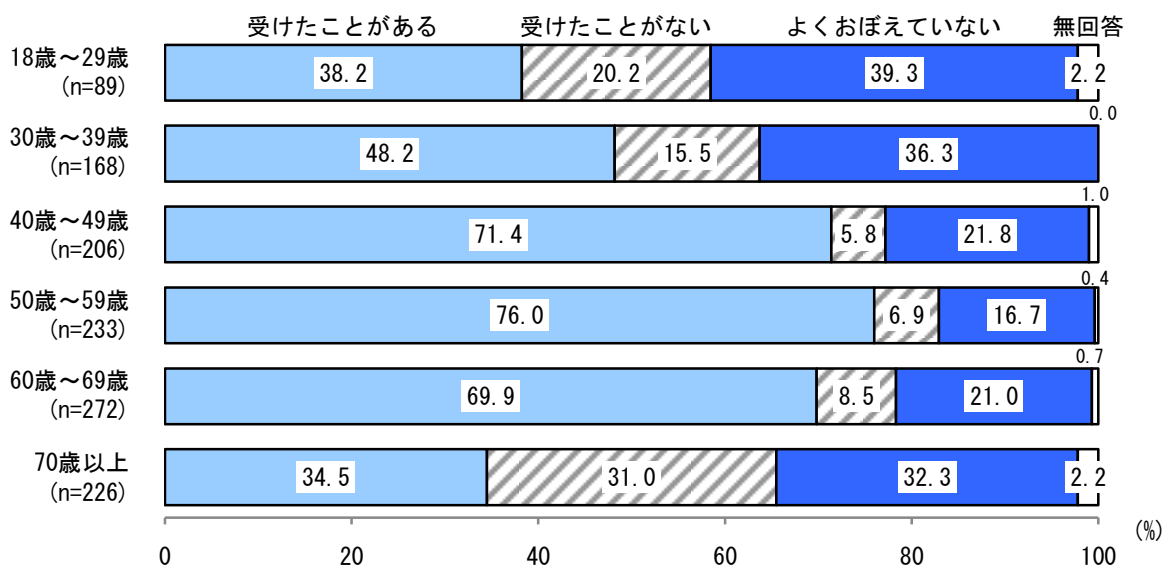
性別では、同和教育を「受けたことがある」の割合は男性が55.9%、女性が61.5%で、女性の方が5.6ポイント高くなっている。（図14-1-1）

【図14-1-1 性別 同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験】



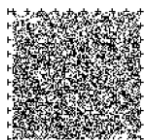
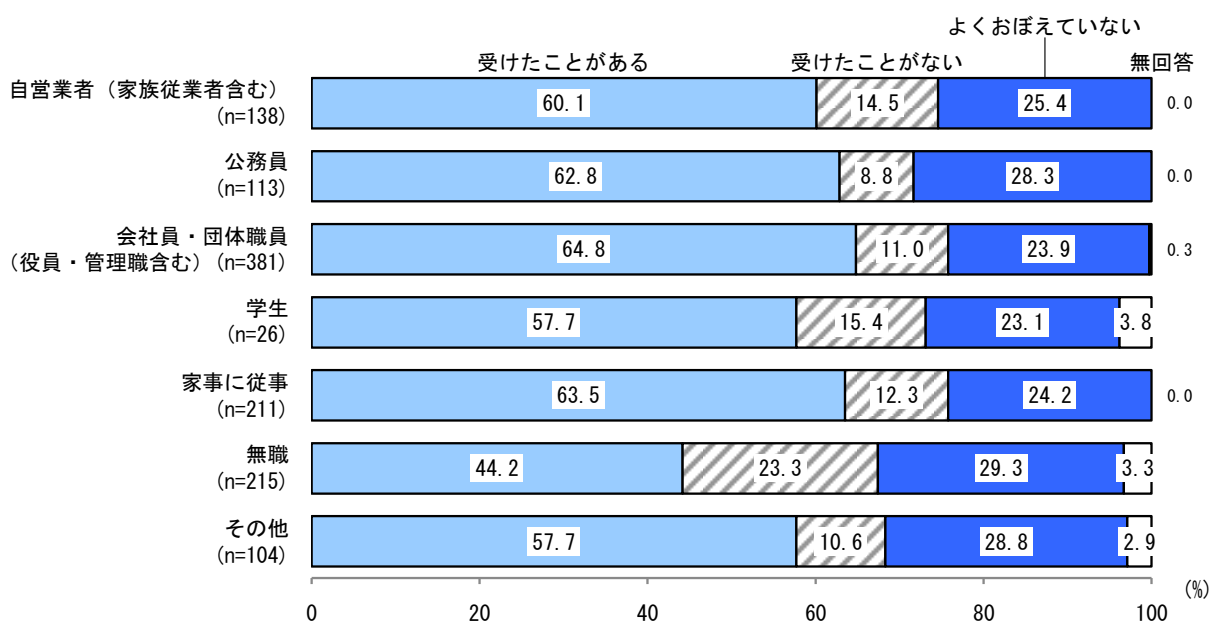
年齢別では、同和教育を「受けたことがある」の割合は50歳～59歳が76.0%で最も高く、次いで40歳～49歳が71.4%、60歳～69歳が69.9%で、40歳～69歳の年代で過半数を占めている。一方、「受けたことがない」は70歳以上が31.0%で最も高くなっている。(図14-1-2)

【図14-1-2 年齢別 同和问题（部落差別）に関する教育を受けた経験】



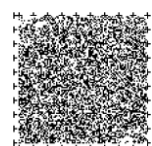
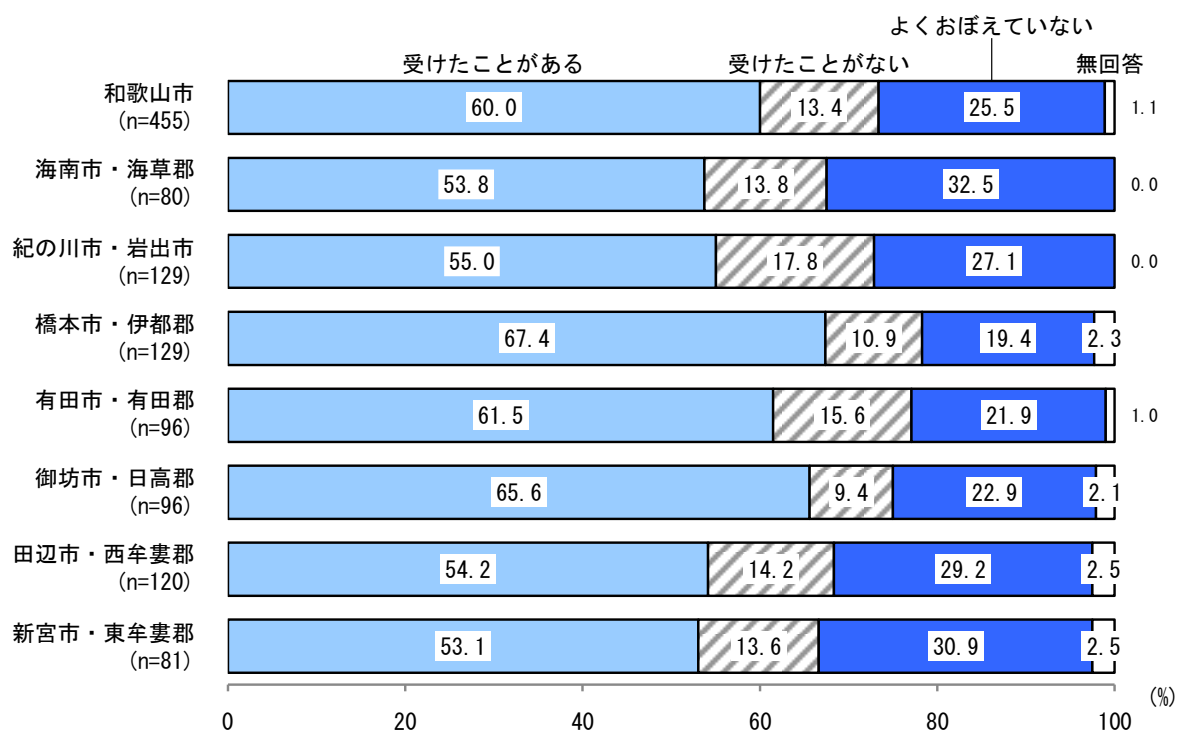
職業別では、同和教育を「受けたことがある」の割合は会社員・団体職員（役員・管理職含む）が64.8%で最も高く、無職を除く職業で過半数を占めている。(図14-1-3)

【図14-1-3 職業別 同和问题（部落差別）に関する教育を受けた経験】



居住地域別では、同和教育を「受けたことがある」の割合は橋本市・伊都郡が67.4%で最も高く、次いで御坊市・日高郡が65.6%となっている。(図14-1-4)

【図14-1-4 居住地域別 同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験】



(2) 同和問題（部落差別）に関する教育の理解度

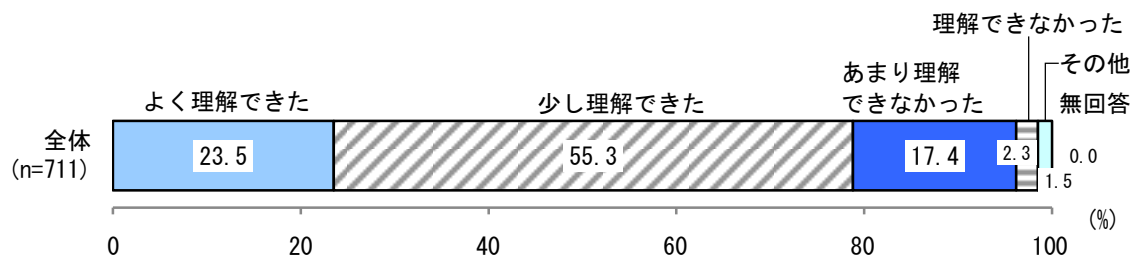
問14で、「1 受けたことがある」と回答された方にお聞きします。

問14-1 同和問題（部落差別）に関する教育を受けて、理解できましたか。

◇全体

同和教育を受けたことがあると回答した人に、その理解度をたずねると、「よく理解できた」が23.5%、「少し理解できた」が55.3%で、両者をあわせた『理解できた』は78.8%となっている。一方、「あまり理解できなかった」は17.4%、「理解できなかった」は2.3%で、両者をあわせた『理解できなかった』は19.7%となっている。（図14-2）

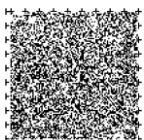
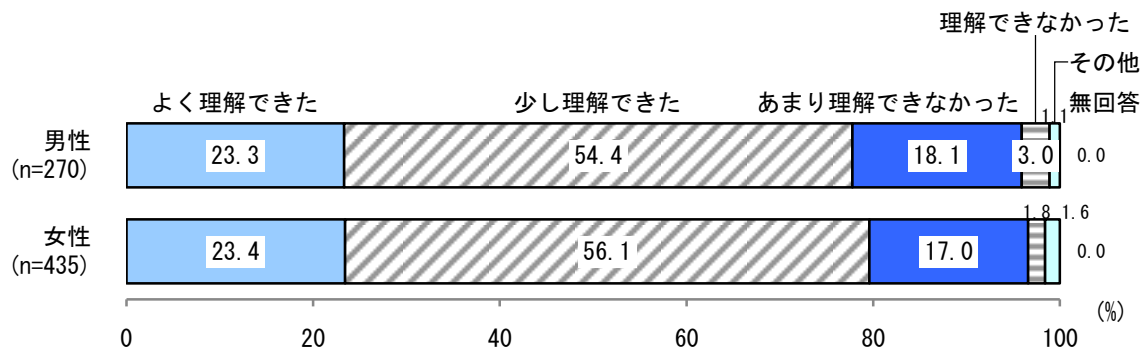
【図14-2 同和問題（部落差別）に関する教育の理解度】



◇回答者の属性別

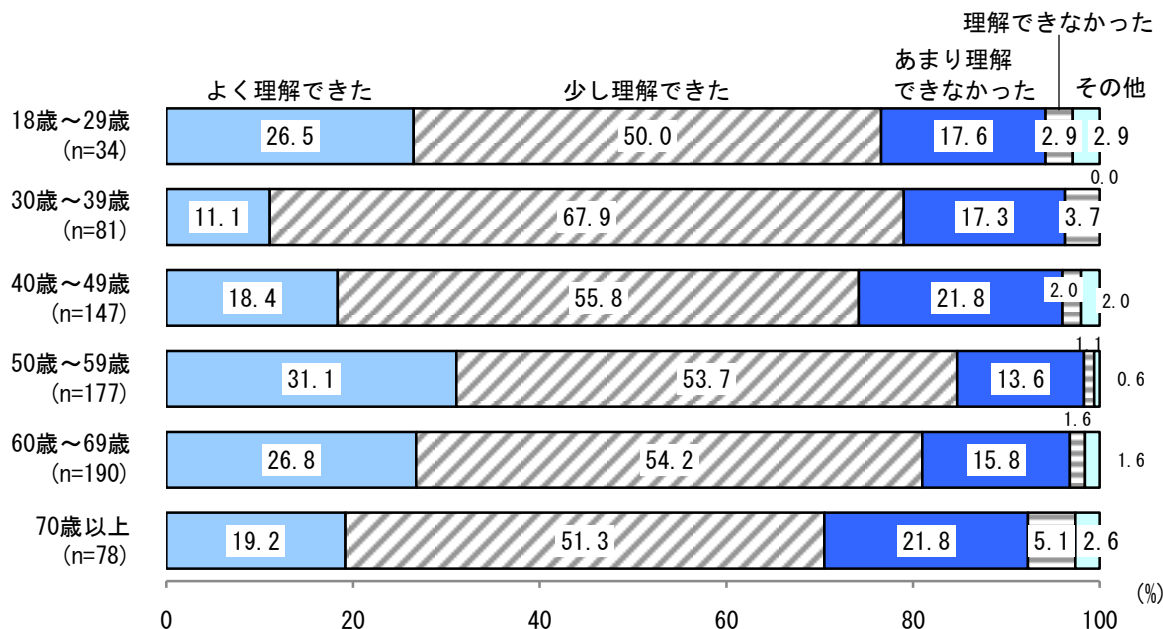
性別では、「よく理解できた」の割合は男性が77.7%、女性が79.5%で女性の方が1.8ポイント高い。（図14-2-1）

【図14-2-1 性別 同和問題（部落差別）に関する教育の理解度】



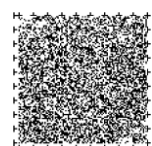
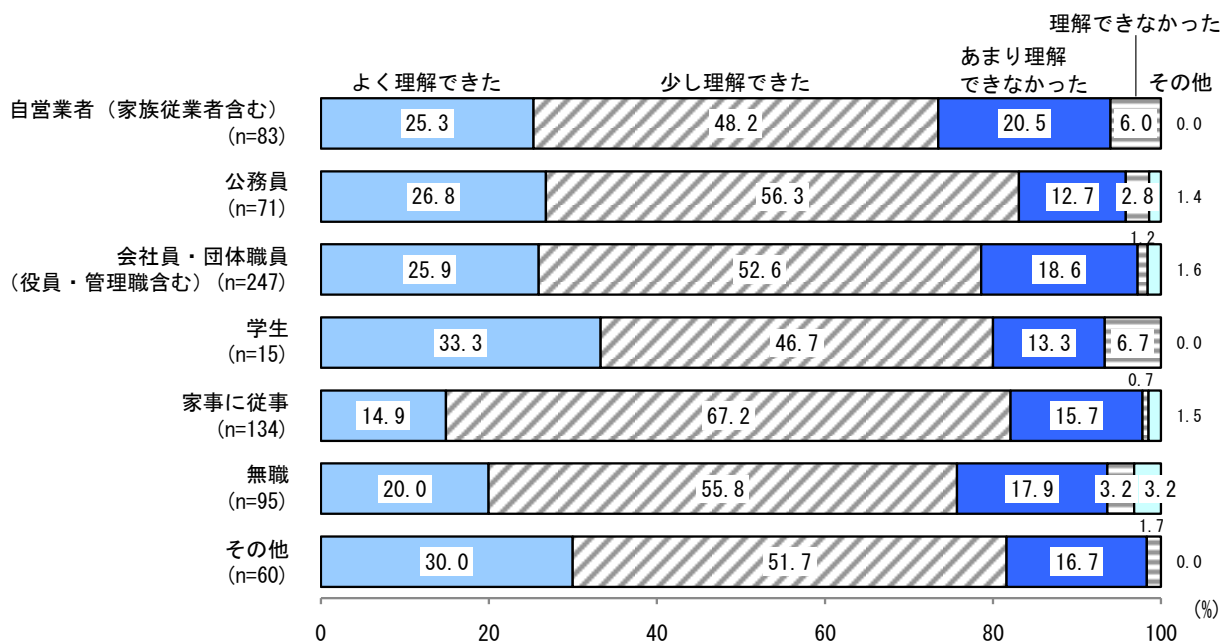
年齢別では、「よく理解できた」は50歳～59歳が31.1%で最も高く、『理解できた』も50歳～59歳が84.8%で最も高くなっている。一方、『理解できなかった』の割合は70歳以上が26.9%で最も高くなっている。(図14-2-2)

【図14-2-2 年齢別 同和問題（部落差別）に関する教育の理解度】



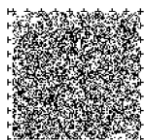
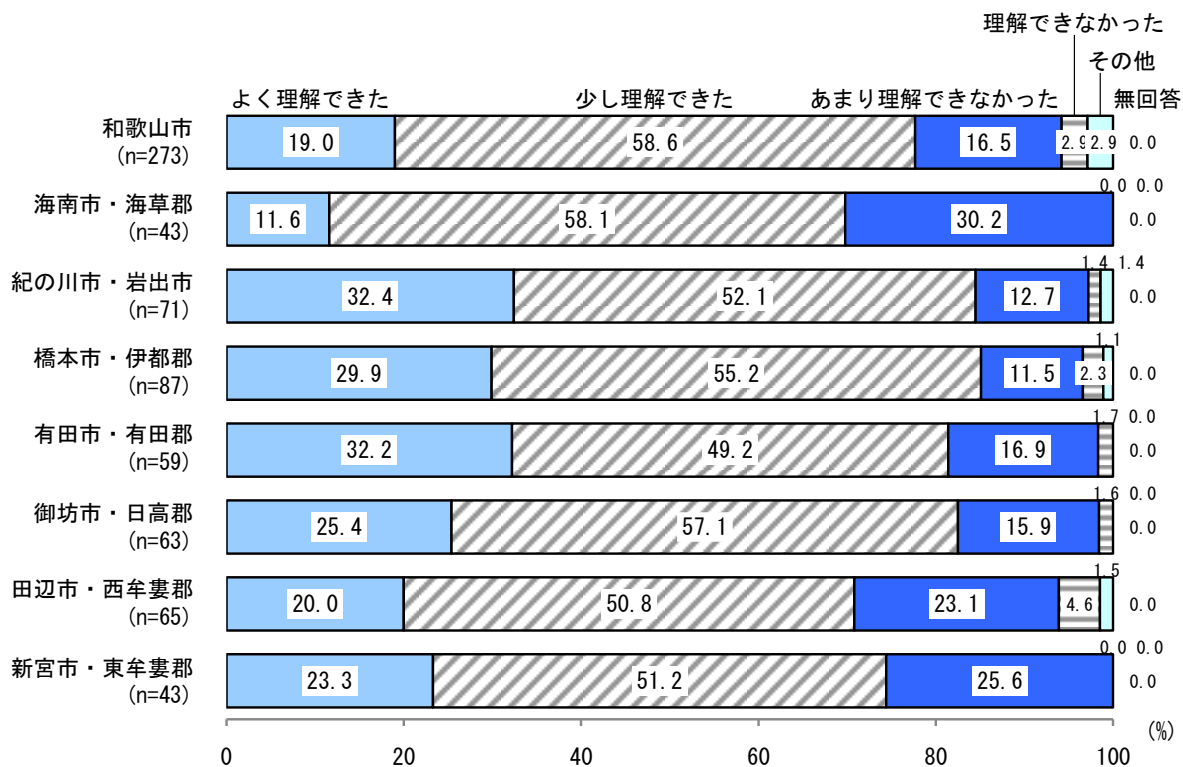
職業別では、『理解できた』の割合は、いずれの職業も7割以上を占め、その中でも公務員が83.1%で最も高く、次いで家事に従事が82.1%となっている。(図14-2-3)

【図14-2-3 職業別 同和問題（部落差別）に関する教育の理解度】



居住地域別では、『理解できた』の割合は、橋本市・伊都郡が85.1%で最も高く、次いで紀の川市・岩出市が84.5%となっている。一方、『理解できなかった』の割合は海南市・海草郡が30.2%で最も高くなっている。(図14-2-4)

【図14-2-4 居住地域別 同和問題（部落差別）に関する教育の理解度】



15. 同和問題（部落差別）に関する講演会や研修会等について

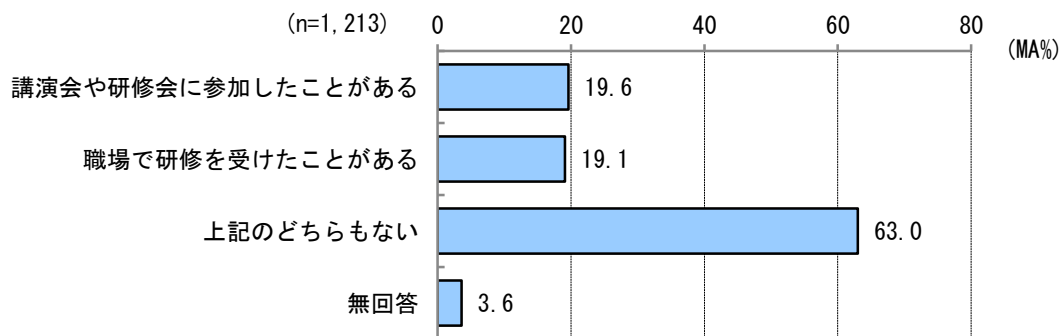
（１）同和問題（部落差別）に関する講演会や研修会等を受けた経験

問15 あなたは、これまでに同和問題（部落差別）に関する講演会や研修会に参加したり、職場で研修を受けたりしたことがありますか。（○はいくつでも）

◇全体

同和問題（部落差別）に関して、「講演会や研修会に参加したことがある」は19.6%、「職場で研修を受けたことがある」は19.1%となっている。一方、「上記のどちらもない（参加・受講した経験がない）」が63.0%を占めている。（図15-1）

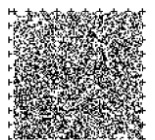
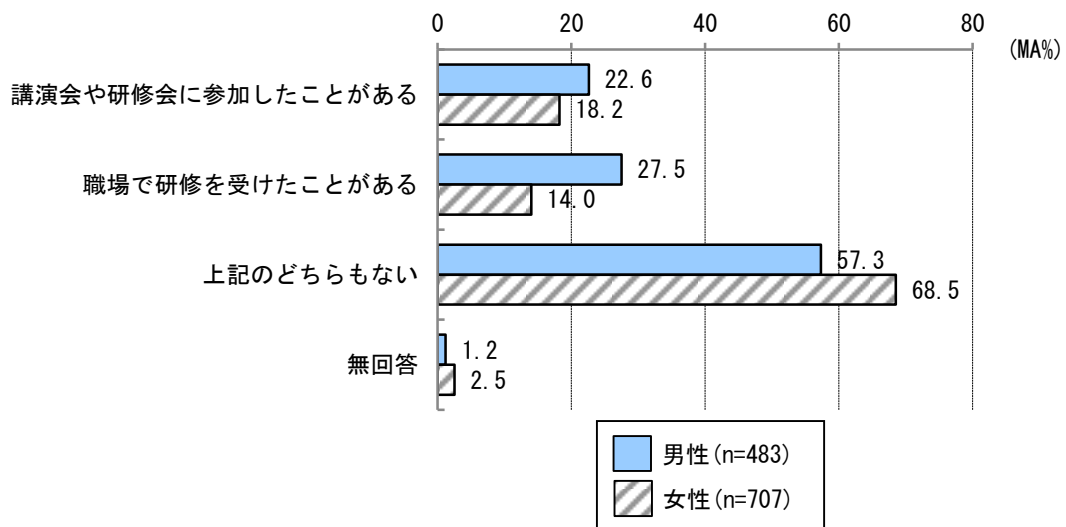
【図15-1 同和問題（部落差別）に関する講演会や研修会等を受けた経験】



◇回答者の属性別

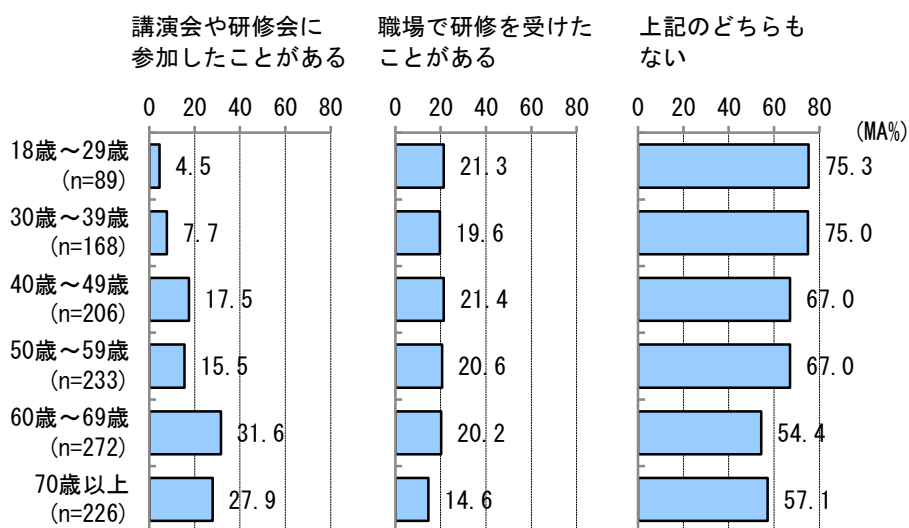
性別では、「職場で研修を受けたことがある」の割合は男性が27.5%、女性14.0%で、男性の方が13.5ポイント高くなっている。一方、「上記のどちらもない（参加・受講した経験がない）」の割合は女性の方が男性より11.2ポイント高い。（図15-1-1）

【図15-1-1 性別 同和問題（部落差別）に関する講演会や研修会等を受けた経験】



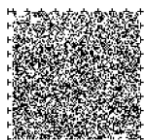
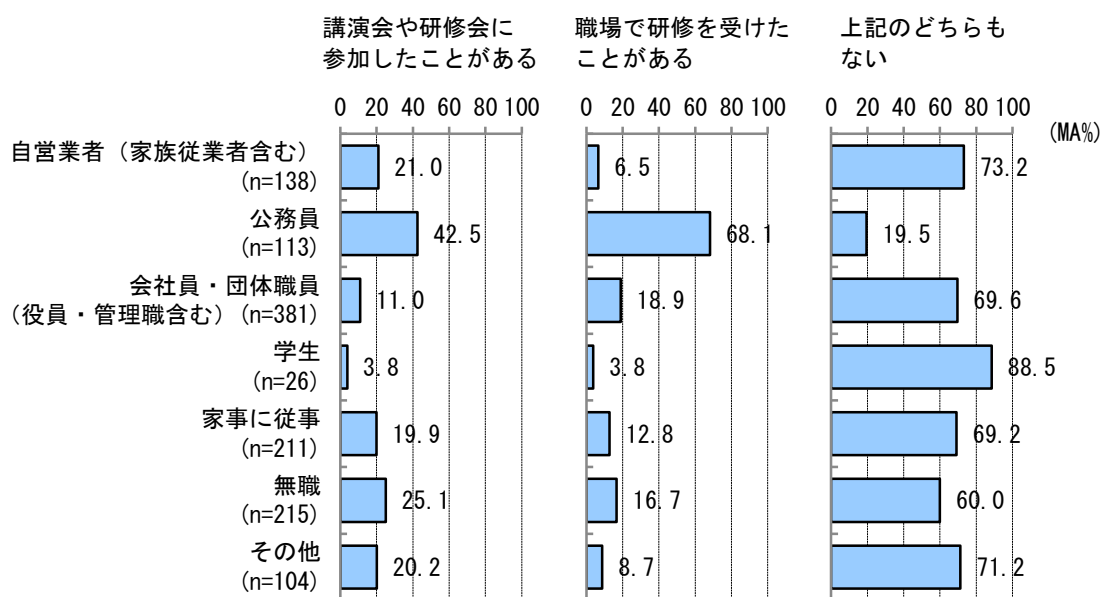
年齢別では、「講演会や研修会に参加したことがある」の割合は60歳～69歳が31.6%で最も高く、次いで70歳以上が27.9%となっている。一方、「上記のどちらもない（参加・受講した経験がない）」の割合は18～39歳の年代で高い。（図15-1-2）

【図15-1-2 年齢別 同和問題（部落差別）に関する講演会や研修会等を受けた経験】



職業別では、「講演会や研修会に参加したことがある」「職場で研修を受けたことがある」の各割合は公務員が最も高くなっている。一方、「上記のどちらもない（参加・受講した経験がない）」の割合は学生が高い。（図15-1-3）

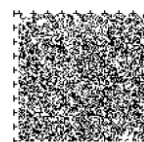
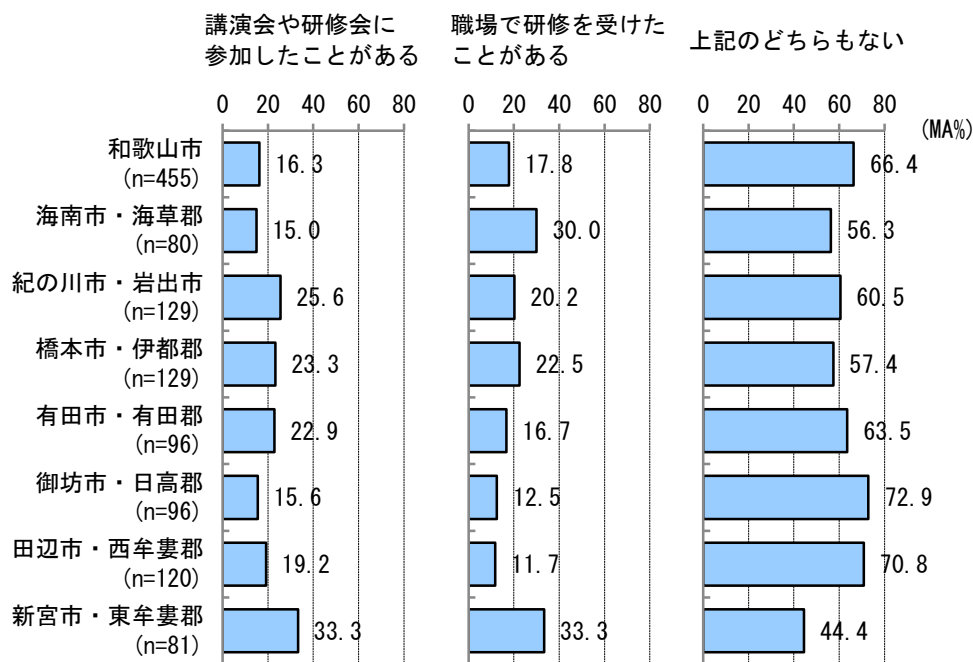
【図15-1-3 職業別 同和問題（部落差別）に関する講演会や研修会等を受けた経験】



居住地域別では、「講演会や研修会に参加したことがある」の割合は新宮市・東牟婁郡が33.3%で最も高くなっている。

一方、「上記のどちらもない(参加・受講した経験がない)」の割合は御坊市・日高郡が72.9%で最も高く、次いで田辺市・西牟婁郡が70.8%となっている。(図15-1-4)

【図15-1-4 居住地域別 同和問題（部落差別）に関する講演会や研修会等を受けた経験】



(2) 同和問題（部落差別）に関する講演会や研修会等の理解度

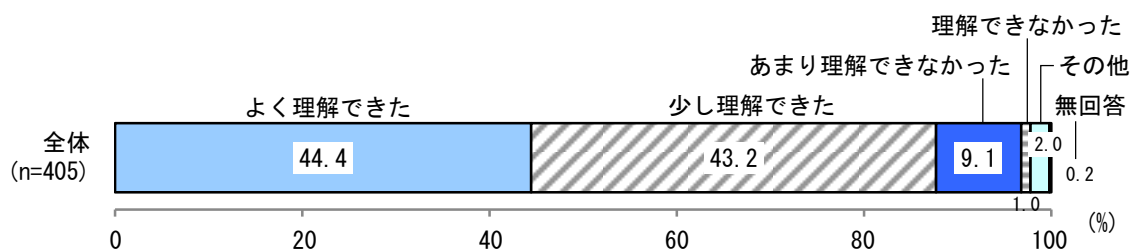
問15で、「1 講習会や研修会に参加したことがある」「2 職場で研修を受けたことがある」と回答された方にお聞きします。

問15-1 同和問題（部落差別）に関する講演会や研修会に参加したり、職場で研修を受けたりして、理解できましたか。（○はひとつ）

◇全体

同和問題（部落差別）に関する講演会や研修会等を受けたことがあると回答した人に、その理解度をたずねると、「よく理解できた」が44.4%、「少し理解できた」が43.2%で、両者をあわせた『理解できた』は87.6%となっている。一方、「あまり理解できなかった」は9.1%、「理解できなかった」は1.0%で、両者をあわせた『理解できなかった』は10.1%となっている。（図15-2）

【図15-2 同和問題（部落差別）に関する講演会や研修会等の理解度】

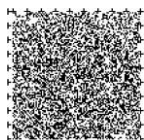
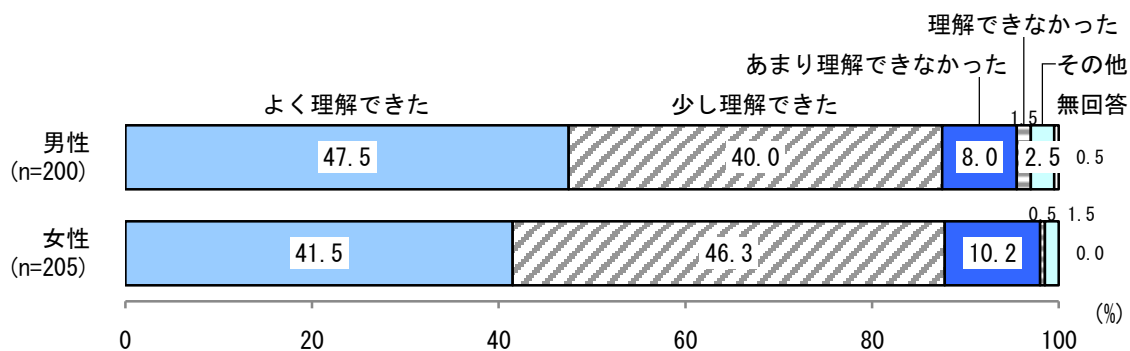


◇回答者の属性別

性別では、『理解できた』の割合は男性が87.5%、女性が87.8%で同程度となっている。

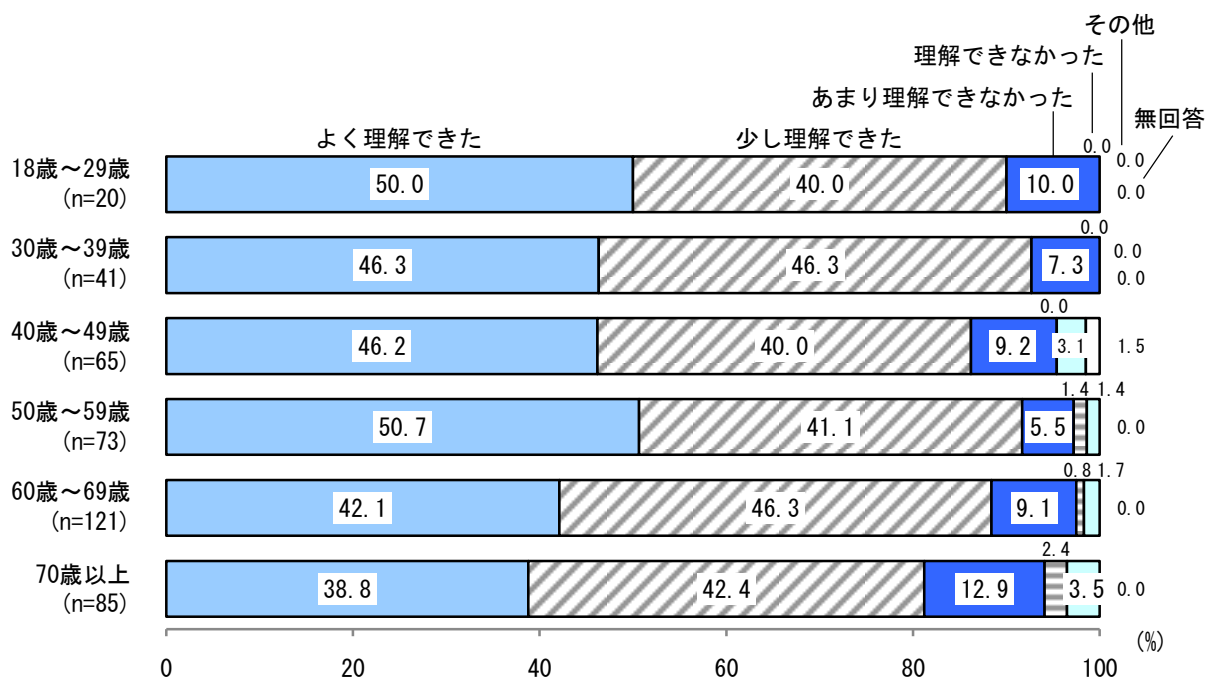
（図15-2-1）

【図15-2-1 性別 同和問題（部落差別）に関する講演会や研修会等の理解度】



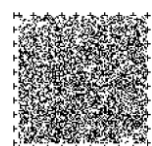
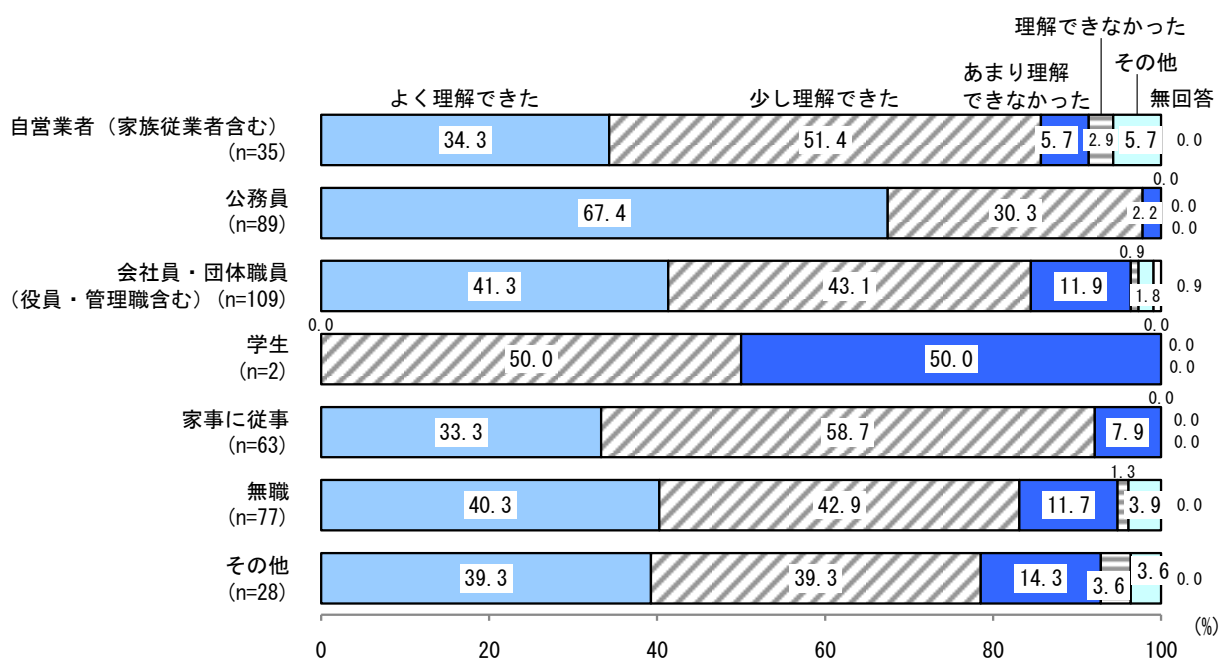
年齢別では、『理解できた』の割合はいずれの年代も8割以上を占め、なかでも30歳～39歳の割合が92.6%で最も高くなっている。(図15-2-2)

【図15-2-2 年齢別 同和問題（部落差別）に関する講演会や研修会等の理解度】



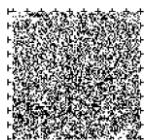
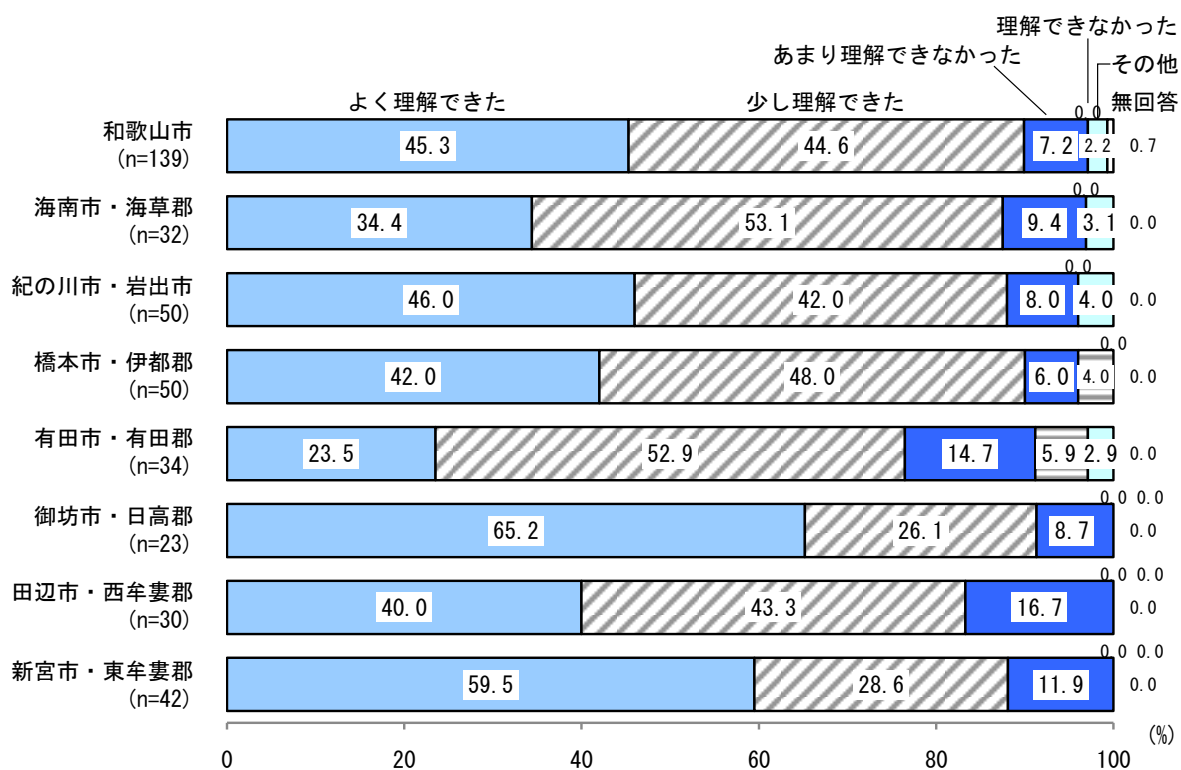
職業別では、『理解できた』の割合は公務員が97.7%で最も高く、次いで家事に従事が92.0%となっている。(図15-2-3)

【図15-2-3 職業別 同和問題（部落差別）に関する講演会や研修会等の理解度】



居住地域別では、『理解できた』の割合は御坊市・日高郡が91.3%で最も高く、次いで橋本市・伊都郡が90.0%となっている。(図15-2-4)

【図15-2-4 居住地域別 同和問題（部落差別）に関する講演会や研修会等の理解度】

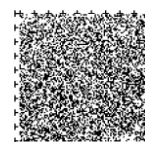


16. 自由意見

◎同和問題（部落差別）について知りたいこと、お考えのこと、お気づきのことがありましたら、お聞かせください。

回答者のうち、263人から要望や意見が寄せられ、延べ件数は307件であった。
延べ307件の意見を分類した結果が下記のとおりである。

意見	件数
知ること余計な偏見を生む。知らない人に教える必要はない（寝た子を起さずな）	37
正しい知識を持つこと・教育をすることが大切である	37
同和問題の風化が進んでいる。問題にするほど誰も考えていない	20
同和問題のアンケートに不快感・違和感を抱いた。こういうアンケートが差別につながる	15
同和地区への優遇が問題である	14
差別のない平和な世の中を願う	13
世代間の意識に差がある	12
同和地区の人たちの意識や態度・行動に問題がある	12
同和問題がわからない、知らなかった	11
部落など気にしていない。興味がない	10
同和問題の啓発が続くことで、この問題はなくなならない。行政が同和問題を取り上げすぎである	9
勉強していきたい・勉強不足と感じた	8
同和問題が未だにあることが驚き。根深い問題である	8
同和問題（部落差別）以外にも沢山の問題や差別がある	8
差別をする人の意識が問題である	7
差別すべきではない	7
同和地区出身者と結婚をして幸せに暮らしている。地区の人と仲良くしている	6
行政の取り組みに期待する	5
同和問題は難しい問題である	5
国・県・市が解決すべき問題。今まで放置してきた行政の問題である	5
お互いの意識を変えること、理解することが大切である	4
「同和問題」という言葉を変える、または失くすべき	4
和歌山県に引っ越して来て初めて知った	4
えせ同和行為を何とかしてほしい	4
同和問題に対して、みんなでもっと向き合う必要がある	3
問題発生の際根拠を解りやすく発信すればよい	2
アンケートが届いて同和問題を思い出した	2
同和地区を公園や公共施設等みんなが行きたくなる場所に変える	2
差別を受けておられる人には対処してあげてほしい	2
今はどんな教育、啓発を行っているのかが気になる	2
その他	29
合計	307



Ⅲ-2 質問間クロス分析結果

1. 「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ

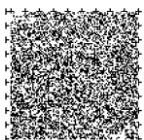
問7 あなたが、「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージはどのようなものですか。
 「同和地区」には、「やさしい」「明るい」というイメージがある一方、「こわい」「暗い」といったイメージで語られることもあります。あなたの感じやイメージに近い番号をお選びください。(○はそれぞれひとつ)

◇同和問題の情報の入手先別

同和問題の情報の入手先が家族・親族または近所の人・職場の人・友人と回答した人で、『こわい』『暗い』『閉鎖的』の各イメージの割合が高い傾向がみられる。(表a-1)

【表 a-1 同和問題の情報の入手先別 「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ】

	n	(%)				(%)				(%)			
		やさしい-こわい				明るい-暗い				開放的-閉鎖的			
		やさしい (非常に+やや)	どちらとも いえない	こわい (非常に+やや)	無回答	明るい (非常に+やや)	どちらとも いえない	暗い (非常に+やや)	無回答	開放的 (非常に+やや)	どちらとも いえない	閉鎖的 (非常に+やや)	無回答
家族・親族	262	6.1	53.4	35.5	5.0	5.3	53.4	35.1	6.1	5.7	46.9	40.1	7.3
近所の人・職場の人・友人	108	9.3	48.1	39.8	2.8	9.3	51.9	34.3	4.6	9.3	41.7	44.4	4.6
学校の授業	444	7.4	59.9	31.3	1.4	8.1	56.3	33.8	1.8	5.4	51.6	41.2	1.8
職場の研修、講演会や研修会	140	12.8	61.4	22.8	2.9	13.6	57.9	25.7	2.9	12.9	50.0	34.3	2.9
県・市町村の広報	35	11.4	65.7	20.0	2.9	8.6	65.7	22.9	2.9	8.6	57.1	31.5	2.9
マスメディア・インターネット・その他	108	11.1	58.3	29.7	0.9	11.1	52.8	31.5	4.6	10.2	49.1	36.1	4.6
※複数回答者	115	2.6	59.1	33.9	4.3	4.3	58.3	33.0	4.3	3.4	48.7	43.5	4.3



◇同和地区にある物件に対する忌避意識別

同和地区にある物件を避けると思う、またはどちらかといえば避けると思うと回答した人で、『こわい』『暗い』『閉鎖的』の各イメージの割合が高い。(表a-2)

【表 a-2 同和地区にある物件に対する忌避意識別 「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ】

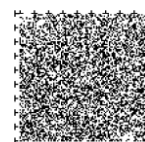
	n	やさしいーこわい (%)				明るいー暗い (%)				開放的ー閉鎖的 (%)			
		やさしい (非常に+やや)	どちらともいえない	こわい (非常に+やや)	無回答	明るい (非常に+やや)	どちらともいえない	暗い (非常に+やや)	無回答	開放的 (非常に+やや)	どちらともいえない	閉鎖的 (非常に+やや)	無回答
避けると思う	175	1.1	34.3	62.9	1.7	38.3	57.2	2.9	1.1	37.1	58.8	2.9	
どちらかといえば避けると思う	358	3.9	51.1	42.7	4.5	51.4	41.9	2.2	3.1	41.6	51.7	3.6	
どちらかといえば避けないと思う	168	17.9	56.0	23.2	12.5	58.3	25.6	3.6	10.1	54.2	32.2	3.6	
避けないと思う	158	16.5	69.0	12.7	17.7	62.7	17.1	2.5	16.5	54.4	26.6	2.5	
わからない	337	7.1	72.1	18.1	8.9	65.3	21.1	4.7	8.3	59.1	28.5	4.2	

◇同和地区の人との結婚に家族から反対されている親類に相談を受けた場合の態度別

同和地区出身者との結婚について、結婚は慎重に考えた方がいい、または結婚をあきらめるように言うという回答した人で、『こわい』『暗い』『閉鎖的』の各イメージの割合が高い。(表a-3)

【表 a-3 同和地区の人との結婚に家族から反対されている親類に相談を受けた場合の態度別 「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ】

	n	やさしいーこわい (%)				明るいー暗い (%)				開放的ー閉鎖的 (%)			
		やさしい (非常に+やや)	どちらともいえない	こわい (非常に+やや)	無回答	明るい (非常に+やや)	どちらともいえない	暗い (非常に+やや)	無回答	開放的 (非常に+やや)	どちらともいえない	閉鎖的 (非常に+やや)	無回答
結婚は慎重に考えた方がいいと言う	197	2.5	41.6	51.8	4.1	3.5	41.1	49.8	5.6	4.1	38.6	51.3	6.1
結婚をあきらめるように言う	14	0.0	35.7	64.3	-	7.1	42.9	50.0	-	0.0	42.9	50.0	7.1
反対する家族を説得するなど、力になろうと言う	251	11.6	62.2	24.3	2.0	10.8	55.0	32.3	2.0	8.0	51.0	39.1	2.0
自分の意思を貫いて結婚するよにと言う	346	12.7	63.0	21.7	2.6	13.3	61.0	22.6	3.2	11.6	53.5	32.1	2.9
わからない	331	3.6	60.1	34.7	1.5	4.2	60.4	32.0	3.3	4.2	53.8	38.7	3.3
その他	50	8.0	50.0	38.0	4.0	6.0	56.0	34.0	4.0	4.0	32.0	58.0	6.0



◇この5年間で直接聞いたことがある同和問題（部落差別）に関する発言内容別

この5年間で直接聞いたことがある同和問題（部落差別）に関する発言内容別では、発言内容に関係なく、聞いたことがないと回答した人に比べて、『こわい』『暗い』『閉鎖的』の各イメージの割合が高くなっているが、同和地区の人は優遇されていると回答した人の割合は、他の回答に比べ低くなっている。（表a-4）

【表 a-4 この5年間で直接聞いたことがある同和問題（部落差別）に関する発言内容別 「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ】

	n	やさしいーこわい (%)				明るいー暗い (%)				開放的ー閉鎖的 (%)			
		やさしい (非常に+やや)	どちらとも いえない	こわい (非常に+やや)	無回答	明るい (非常に+やや)	どちらとも いえない	暗い (非常に+やや)	無回答	開放的 (非常に+やや)	どちらとも いえない	閉鎖的 (非常に+やや)	無回答
住宅の購入や引越しの際は、同和地区内の物件を避けた方がいい	87	0.0	42.5	54.0	3.4	5.7	42.5	48.3	3.4	3.4	35.6	56.3	4.6
同和地区の人は、優遇されている	197	3.5	46.7	47.2	2.5	6.1	49.7	39.6	4.6	6.6	41.6	46.7	5.1
同和地区の人とは結婚してはいけない	37	2.7	32.4	64.8	-	5.4	35.1	59.4	-	2.7	29.7	67.5	-
同和地区の人は怖い	73	2.8	27.4	68.5	1.4	6.8	31.5	56.2	5.5	4.1	26.0	63.0	6.8
同和地区は治安が悪い	117	3.4	33.3	62.4	0.9	7.7	34.2	56.4	1.7	5.1	29.1	63.3	2.6
同和地区の人とは、関わらない方がいい	60	1.7	28.3	68.3	1.7	8.3	33.3	55.0	3.3	5.0	30.0	61.7	3.3
聞いたことがない	855	9.2	62.7	26.0	2.1	8.5	60.1	28.9	2.5	7.2	52.7	37.4	2.6

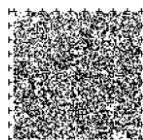
◇同和問題（部落差別）に関する教育、啓発の情報や教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別

・『やさしい』－『こわい』

この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無別では、教育や啓発の情報に接した経験の有無に関係なく、『こわい』の割合が高く、経験ありと経験なしとの間の差は小さくなっている。一方、『やさしい』の割合は、同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接した経験のある人で高くなっているが、教育や啓発の情報に接した経験のない人との差は小さくなっている。（表a-5上段）

小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験の有無別でも、同和教育を受けた経験の有無に関係なく、『こわい』の割合が高く、経験ありと経験なしとの間の差は小さくなっている。また『やさしい』の割合も教育を受けた経験あり・経験なしの間の差は小さい。（表a-5中段）

同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無別では、『こわい』の割合は、「上記のどちらもない（参加・受講した経験がない）」と回答した人で高くなっている。一方、『やさしい』の割合は、講演会や研修会に参加したことがあると回答した人で高くなっている。（表a-5下段）



・『明るい』－『暗い』

この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無別では、教育や啓発の情報に接した経験の有無に関係なく、『暗い』の割合が高く、経験ありと経験なしの割合は同程度となっている。一方、同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接した経験のある人で、『明るい』の割合が高くなっているが、教育や啓発の情報に接した経験のない人との差は小さくなっている。（表a-5上段）

小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験の有無別でも、同和教育を受けた経験の有無に関係なく、『暗い』の割合が高く、経験ありと経験なしとの間の差は小さくなっている。（表a-5中段）

同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無別では、「上記のどちらもない（参加・受講した経験がない）」と回答した人で、『暗い』の割合が高くなっている。一方、講演会や研修会に参加したことがあると回答した人で、『明るい』の割合が高くなっている。（表a-5下段）

・『開放的』－『閉鎖的』

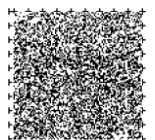
この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無別では、教育や啓発の情報に接した経験の有無に関係なく、『閉鎖的』の割合が高く、その割合は、教育や啓発の情報に接した経験があると回答した人でやや高くなっている。（表a-5上段）

小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験の有無別でも、同和教育を受けた経験の有無に関係なく、『閉鎖的』の割合が高く、同和教育を受けた経験ありと経験なしの割合は同程度となっている。（表a-5中段）

同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無別では、「職場で研修を受けたことがある」または「上記のどちらもない（参加・受講した経験がない）」と回答した人で、『閉鎖的』の割合が高くなっている。これに対し、『開放的』の割合は、講演会や研修会に参加したことがあると回答した人でやや高くなっている。（表a-5下段）

【表a-5 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報、教育を受けた経験の有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別 「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ】

	n	やさしい－こわい (%)				明るい－暗い (%)				開放的－閉鎖的 (%)			
		やさしい (非常に+やや)	どちらとも いえない	こわい (非常に+やや)	無回答	明るい (非常に+やや)	どちらとも いえない	暗い (非常に+やや)	無回答	開放的 (非常に+やや)	どちらとも いえない	閉鎖的 (非常に+やや)	無回答
この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無													
ある	311	11.3	55.9	31.5	1.3	10.9	54.3	32.8	1.9	8.7	45.3	44.4	1.6
ない	876	7.0	57.8	32.3	3.0	7.3	56.2	32.6	4.0	6.5	50.2	38.8	4.5
小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験【70歳未満】													
受けたことがある	629	6.5	59.9	32.4	1.1	7.5	56.1	34.9	1.4	5.4	49.1	43.9	1.6
『受けたことがない』	332	7.5	55.1	35.5	1.8	6.9	54.8	35.8	2.4	6.6	47.6	43.1	2.7
同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無													
講演会や研修会に参加したことがある	238	11.8	60.5	24.0	3.8	13.0	61.8	20.2	5.0	13.4	50.0	31.5	5.0
職場で研修を受けたことがある	232	6.5	62.5	29.3	1.7	6.5	60.3	31.4	1.7	6.0	48.7	43.5	1.7
上記のどちらもない	764	7.2	56.0	34.7	2.1	7.2	54.1	36.0	2.7	5.9	48.7	42.0	3.4



2. 同和地区にある物件に対する忌避意識

問8 引っ越しなどにあたって、新たに住まいを選ぶ際に、物件が同和地区にある場合、あなたはどのようにされますか。(〇はひとつ)

◇伝統や慣習、占いなどに関する考え方別

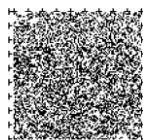
家柄や家の格を『尊重すべき』と回答した人で『避ける』(「避けると思う」と「どちらかといえば避けると思う」の合計)の割合が高い。これに対し、家柄や家の格を『気にしなくてもよい』と回答した人で『避けない』(「避けないと思う」と「どちらかといえば避けないと思う」の合計)の割合が高くなっている。(表b-1上段)

結婚式を仏滅の日に行うことを『やめた方がよい』と回答した人で『避ける』の割合が高い。これに対し、結婚式を仏滅の日に行うことは『かまわない』と回答した人で『避けない』の割合が高くなっている。(表b-1中段)

占いや方角を『参考にする』と回答した人で『避ける』の割合が高い。これに対し、占いや方角を『気にしない』と回答した人で『避けない』の割合が高くなっている。(表b-1下段)

【表 b-1 伝統や慣習、占いなどに関する考え方別 同和地区にある物件に対する忌避意識】

	n	避ける と思う	避 け ど ち ら か と 思 う	避 け な い か と 思 う	避 け な い と 思 う	わ か ら な い	無 回 答
(%)							
家柄や家の格についての考え							
『尊重すべき』	208	24.5	38.9	12.0	5.3	18.3	1.0
どちらともいえない	312	17.6	35.3	9.3	6.1	30.8	1.0
『気にしなくてもよい』	681	9.7	23.9	16.7	18.5	29.4	1.8
結婚式を仏滅の日に行うことについての考え							
『やめた方がよい』	431	20.0	37.6	13.0	7.2	21.1	1.2
どちらともいえない	235	10.2	29.4	12.3	8.5	38.7	0.9
『かまわない』	541	11.6	23.1	15.3	19.8	28.3	1.8
占いや方角についての考え							
『参考にする』	480	17.1	35.2	12.5	8.3	25.6	1.3
どちらともいえない	223	11.2	34.1	12.6	10.3	31.4	0.4
『気にしない』	505	13.1	22.0	15.8	18.8	28.3	2.0



◇外国人のアパートへの入居拒否と刑を終えて出所した人の就職困難についての回答別

外国人であることを理由にアパートへの入居を断られることを『やむを得ない』と回答した人で『避ける』の割合が高い。これに対し、入居を断られることを『問題あり』と回答した人で『避けない』の割合が高くなっている。(表b-2上段)

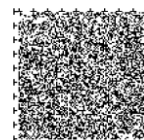
また、刑を終えて出所した人の就職が容易に決まらないことを『仕方がない』と回答した人で『避ける』の割合が高い。これに対し、就職が容易に決まらないことを『問題あり』と回答した人で『避けない』の割合が高くなっている。(表b-2下段)

【表 b-2 外国人のアパートへの入居拒否と刑を終えて出所した人の就職困難についての回答別

同和地区にある物件に対する忌避意識】

(%)

	n	避 け る と 思 う	避 ど ち ら か と 思 う え ば	避 ど ち ら な い か と 思 う え ば	避 け な い と 思 う	わ か ら な い	無 回 答
外国人であることを理由に、アパートへの入居を断られることについての考え							
『やむを得ない』	141	34.0	29.1	13.5	8.5	14.2	0.7
どちらともいえない	286	14.3	30.4	12.2	8.4	32.9	1.7
『問題あり』	780	10.8	29.2	14.6	15.6	28.5	1.3
刑を終えて出所した人の就職が容易に決まらないことについての考え							
『仕方がない』	429	26.1	34.0	9.1	9.1	20.7	0.9
どちらともいえない	369	9.5	30.6	14.6	10.6	33.3	1.4
『問題あり』	407	6.4	23.8	17.9	19.7	30.2	2.0



◇同和問題の情報の入手先別

同和問題の情報の入手先別では、職場の研修、講演会や研修会を除いて、いずれも『避ける』の割合が『避けない』の割合より高く、その中でも『避ける』の割合が高いのは、家族・親族（54.2%）、近所の人・職場の人・友人（50.0%）である。職場の研修、講演会や研修会では、『避ける』が23.6%、『避けない』が45.7%となっている。（表b-3）

【表 b-3 同和問題の情報の入手先別 同和地区にある物件に対する忌避意識】

	n	避けると思う	どちらかといえば避ける	どちらかといえば避けない	避けないと思う	わからない	無回答
家族・親族	262	20.6	33.6	14.5	9.9	20.6	0.8
近所の人・職場の人・友人	108	16.7	33.3	10.2	12.0	25.9	1.9
学校の授業	444	12.6	30.9	13.7	11.3	29.7	1.8
職場の研修、講演会や研修会	140	5.7	17.9	20.7	25.0	30.7	-
県・市町村の広報	35	2.9	28.6	8.6	11.4	42.9	5.7
マスメディア・インターネット・その他	108	14.8	23.1	11.1	15.7	34.3	0.9
※複数回答者	115	18.3	32.2	12.2	11.3	24.3	1.7

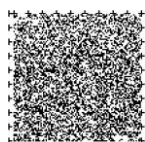
◇同和問題は自然となくなるから、教育や啓発はしない方がいいとの回答別

同和問題は自然となくなるから、教育や啓発はしない方がいいという意見に対し『そう思う』と回答した人で『避ける』の割合が高い。これに対し、同和問題は自然となくなるから、教育や啓発はしない方がいいという意見に対し『そう思わない』と回答した人で『避けない』の割合が高くなっている。（表b-4）

【表 b-4 同和問題は自然となくなるから、教育や啓発はしない方がいいとの回答別

同和地区にある物件に対する忌避意識】

	n	避けると思う	どちらかといえば避ける	どちらかといえば避けない	避けないと思う	わからない	無回答
自然となくなるから、教育や啓発はしない方がいい							
『そう思う』	375	15.5	34.7	12.5	9.9	25.3	2.1
どちらともいえない	293	14.3	30.7	11.6	8.2	34.1	1.0
『そう思わない』	524	14.3	25.4	16.6	17.7	25.2	0.8



◇同和問題（部落差別）に関する教育、啓発の情報や教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別

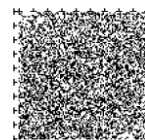
この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無別では、教育や啓発の情報に接した経験がある人で『避けない』の割合が高い。これに対し、教育や啓発の情報に接した経験がない人では『避ける』の割合が高くなっている。（表b-5上段）

小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験の有無別では、同和教育を受けた経験がある人と経験がない人の『避ける』の割合の差は小さくなっている。一方、『避けない』の割合は、同和教育を受けた経験がない人に比べ、受けた経験のある人で高くなっているが、経験がない人の割合との差は小さい。（表b-5中段）

同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無別では、『避ける』の割合は、「上記のどちらもない（参加・受講した経験がない）」という回答で高くなっている。一方、『避けない』の割合は、講演会や研修会に参加したことがあると回答した人で高くなっている。（表b-5下段）

【表 b-5 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報や教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別 同和地区にある物件に対する忌避意識】

	n	避けると思う	避けどちらかと思う （例えば）	避けどちらかと思う （例えば）	避けないと思う	わからない	無回答
(%)							
この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無							
ある	311	10.0	26.7	16.4	21.2	23.5	2.3
ない	876	16.1	30.6	13.0	10.2	29.3	0.8
小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験【70歳未満】							
受けたことがある	629	14.0	30.2	15.4	13.4	25.9	1.1
『受けたことがない』	332	17.2	26.5	10.5	14.2	31.0	0.6
同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無							
講演会や研修会に参加したことがある	238	7.6	24.4	17.6	26.1	22.7	1.7
職場で研修を受けたことがある	232	11.6	27.6	17.7	18.1	23.7	1.3
上記のどちらもない	764	16.6	31.2	11.8	9.7	30.0	0.8



3. 同和地区の人との結婚に家族から反対されている親類に相談を受けた場合の態度

問9 あなたの親類が結婚したいと思っている相手が同和地区の人で、そのことを理由に家族から結婚を反対されているとします。そのことについて相談を受けた場合、あなたはどのような態度をとると思いますか。(○はひとつ)

◇伝統や慣習、占いなどに関する考え方別

家柄や家の格を『尊重すべき』と回答した人で「結婚は慎重に考えた方がいいと言う」の割合が高い。これに対し、家柄や家の格を『気にしなくてもよい』と回答した人で「反対する家族を説得するなど、力になろうと言う」や「自分の意思を貫いて結婚するようと言う」の各割合が高くなっている。(表c-1上段)

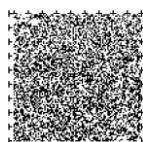
結婚式を仏滅の日に行うことを『やめた方がよい』と回答した人で「結婚は慎重に考えた方がいいと言う」の割合が高い。これに対し、結婚式を仏滅の日に行うことは『かまわない』と回答した人で「自分の意思を貫いて結婚するようと言う」の割合が高くなっている。(表c-1中段)

占いや方角を『参考にする』と回答した人では、「結婚は慎重に考えた方がいいと言う」と「自分の意思を貫いて結婚するようと言う」が同程度となっている。これに対し、占いや方角を『気にしない』と回答した人では「自分の意思を貫いて結婚するようと言う」の割合が高くなっている。(表c-1下段)

【表 c-1 伝統や慣習、占いなどに関する考え方別

同和地区の人との結婚に家族から反対されている親類に相談を受けた場合の態度】

(%)								
	n	結婚は慎重に言う考えた	結婚をきらめるよ	反対する、家族を説得	自分の意思を貫いて	わからない	その他	無回答
家柄や家の格についての考え								
『尊重すべき』	208	30.8	4.3	15.4	18.8	24.0	4.3	2.4
どちらともいえない	312	22.8	0.3	17.0	20.8	34.9	2.2	1.9
『気にしなくてもよい』	681	8.8	0.6	24.4	34.7	24.8	5.0	1.8
結婚式を仏滅の日に行うことについての考え								
『やめた方がよい』	431	26.0	2.1	20.0	21.1	26.0	3.5	1.4
どちらともいえない	235	14.5	0.9	16.2	25.5	37.9	1.7	3.4
『かまわない』	541	9.2	0.6	23.5	35.5	23.8	5.7	1.7
占いや方角についての考え								
『参考にする』	480	23.1	1.3	19.8	23.3	26.3	3.3	2.9
どちらともいえない	223	15.7	0.9	20.6	26.0	32.7	2.2	1.8
『気にしない』	505	9.9	1.2	21.8	34.3	25.9	5.7	1.2



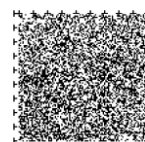
◇外国人のアパートへの入居拒否と刑を終えて出所した人の就職困難についての回答別

外国人であることを理由にアパートへの入居を断られることを『やむを得ない』と回答した人では、「自分の意思を貫いて結婚するよう」と言う」が多くなっているが、「結婚は慎重に考えた方がいいと言う」の割合との差は小さくなっている。これに対し、入居を断られることを『問題あり』と回答した人では、「反対する家族を説得するなど、力になろうと言う」や「自分の意思を貫いて結婚するよう」と言う」の各割合が高くなっているが、「自分の意思を貫いて結婚するよう」と言う」の割合は、入居を断られることを『やむを得ない』と回答した人と同程度となっている。(表c-2上段)

また、刑を終えて出所した人の就職が容易に決まらないことを『仕方がない』と回答した人では、「自分の意思を貫いて結婚するよう」と言う」が多くなっているが、「結婚は慎重に考えた方がいいと言う」の割合との差は小さくなっている。これに対し、就職が容易に決まらないことを『問題あり』と回答した人では、「反対する家族を説得するなど、力になろうと言う」「自分の意思を貫いて結婚するよう」と言う」の割合が最も高くなっている。(表c-2下段)

【表 c-2 外国人のアパートへの入居拒否と刑を終えて出所した人の就職困難についての回答別
同和地区の人との結婚に家族から反対されている親類に相談を受けた場合の態度】

		(%)							
	n	た結 方婚 がは い慎 い重 とに 言考 うえ	よ結 う婚 にを 言あ うき らめ る	な得 ろす うる とな ると 言、 う、 族を に説	と反 言対 うす うる すな る家 族を に説	とて 言結 う婚 すの す意 る思 をよ う貫 にい	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
外国人であることを理由に、アパートへの入居を断られることについての考え									
『やむを得ない』	141	27.0	5.7	11.3	29.1	21.3	4.3	1.4	
どちらともいえない	286	18.2	0.7	16.8	24.8	33.9	4.5	1.0	
『問題あり』	780	13.6	0.5	24.0	29.6	26.0	4.0	2.3	
刑を終えて出所した人の就職が容易に決まらないことについての考え									
『仕方がない』	429	25.2	2.1	17.9	26.1	23.1	4.2	1.4	
どちらともいえない	369	12.5	0.5	16.3	27.6	36.9	3.5	2.7	
『問題あり』	407	10.3	0.7	27.8	31.4	23.1	4.7	2.0	



◇同和問題（部落差別）に関する教育、啓発の情報や教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別

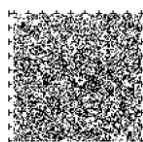
この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無別では、教育や啓発の情報に接した経験がある人で「反対する家族を説得するなど、力になろうと言う」や「自分の意思を貫いて結婚するよう」と言うの各割合が高くなっている。これに対し、教育や啓発の情報に接した経験がない人では「わからない」の割合が高くなっている。（表c-3上段）

小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験の有無別では、同和教育を受けた経験がある人で「反対する家族を説得するなど、力になろうと言う」や「自分の意思を貫いて結婚するよう」と言うの各割合が高くなっているが、同和教育を受けたことがないと回答した人の割合との差は小さい。（表c-3中段）

同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無別では、講演会や研修会に参加したことがあると回答した人で「自分の意思を貫いて結婚するよう」と言うの割合が高くなっている。（表c-3下段）

【表 c-3 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報や教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別 同和地区の人との結婚に家族から反対されている親類に相談を受けた場合の態度】

		(%)						
	n	方結 が婚 いは い慎 と重 言に う考 えた	う結 に婚 と言 うあ き らめ るよ	うす と反 対す るな 言う うど 、家 族を に説 得	う結 自 婚分 すの 意 思よ うを に貫 いて	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無								
ある	311	11.9	0.3	28.0	34.4	18.0	4.8	2.6
ない	876	17.8	1.5	18.3	26.4	30.8	3.8	1.5
小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験【70歳未満】								
受けたことがある	629	15.7	0.6	23.7	28.9	24.8	4.5	1.7
『受けたことがない』	332	15.4	1.5	21.1	25.3	32.2	3.6	0.9
同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無								
講演会や研修会に参加したことがある	238	13.0	0.4	26.5	37.0	16.0	5.5	1.7
職場で研修を受けたことがある	232	15.1	0.4	27.2	31.9	19.8	3.9	1.7
上記のどちらもない	764	17.0	1.6	17.8	26.3	31.5	4.3	1.4



4. 同和問題に関する意見や考え方

問10 あなたは、同和問題（部落差別）に関する次のような意見や考え方について、どう思いますか。あなたの意見に近いものを選んでください。（○はそれぞれひとつ）

ア) 自然となくなるから、教育や啓発はしない方がいい

◇同和問題（部落差別）に関する教育、啓発の情報や教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別

この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無別では、教育や啓発の情報に接した経験がない人で、自然となくなるから教育や啓発はしない方がいいという意見に対し『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）の割合が高く、教育や啓発の情報に接した経験のある人では、自然となくなるから教育や啓発はしない方がいいという意見に対し『そう思わない』（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計）の割合が高くなっている。（表d-1上段）

小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験の有無別では、同和教育を受けた経験がある人と経験がない人の、自然となくなるから教育や啓発はしない方がいいという意見に対する『そう思う』の割合の差は小さくなっている。また『そう思わない』の割合も同様で、同和教育を受けた経験の有無による意見の違いはみられない。（表d-1中段）

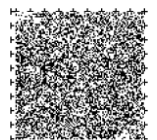
同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無別では、「上記のどちらもない（参加・受講した経験がない）」と回答した人で、自然となくなるから教育や啓発はしない方がいいという意見に対し『そう思う』の割合が高く、「講演会や研修会に参加したことがある」または「職場で研修を受けたことがある」と回答した人では、自然となくなるから教育や啓発はしない方がいいという意見に対し『そう思わない』の割合が高くなっている。（表d-1下段）

【表 d-1 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報、教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無 同和問題に関する意見や考え方

ア) 自然となくなるから、教育や啓発はしない方がいい

(%)

	n	そう 思う	そ ど ち ら か と い え ば	ど ち ら と も い え な い	そ ど ち ら か と い え ば	そ う 思 わ な い	無 回 答
この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無							
ある	311	7.7	12.5	13.8	27.0	37.3	1.6
ない	876	14.6	20.0	27.7	18.6	17.8	1.3
小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験【70歳未満】							
受けたことがある	629	10.7	17.3	23.2	21.9	25.8	1.1
『受けたことがない』	332	11.1	16.0	24.4	22.3	25.6	0.6
同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無							
講演会や研修会に参加したことがある	238	8.8	16.4	18.5	22.7	32.4	1.3
職場で研修を受けたことがある	232	6.0	14.7	15.5	23.3	39.2	1.3
上記のどちらもない	764	15.2	18.5	26.8	19.9	18.5	1.2



イ) 結婚に際して、相手の出身地が同和地区かどうかを調べることは、差別である

◇伝統や慣習、占いなどに関する考え方別

家柄や家の格を『気にしなくてよい』と回答した人で、結婚に際して相手の出身地が同和地区かどうかを調べることは差別であるという意見に対し『そう思う』の割合が高くなっている。(表d-2上段)

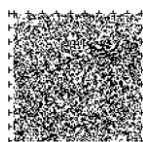
結婚式を仏滅の日に行うことを『かまわない』と回答した人で、結婚に際して相手の出身地が同和地区かどうかを調べることは差別であるという意見に対し『そう思う』の割合が高くなっている。(表d-2中段)

占いや方角を『気にしない』と回答した人で、結婚に際して相手の出身地が同和地区かどうかを調べることは差別であるという意見に対し『そう思う』の割合が高くなっている。(表d-2下段)

【表 d-2 伝統や慣習、占いなどに関する考え方別 同和問題に関する意見や考え方

イ) 結婚に際して、相手の出身地が同和地区かどうかを調べることは、差別である】

	n	そう 思う	そ ど ち ら か と い え ば	い ど ち ら と も い え な	そ ど ち ら か と い え ば	そ う 思 わ な い	無 回 答
(%)							
家柄や家の格についての考え							
『尊重すべき』	208	29.3	28.4	22.6	9.6	9.1	1.0
どちらともいえない	312	26.9	34.3	26.3	6.4	5.4	0.6
『気にしなくてもよい』	681	52.3	24.1	16.6	3.4	2.6	1.0
結婚式を仏滅の日に行うことについての考え							
『やめた方がよい』	431	37.4	29.2	21.1	7.0	4.6	0.7
どちらともいえない	235	36.2	26.8	24.7	6.4	4.3	1.7
『かまわない』	541	47.7	26.4	17.4	3.3	4.4	0.7
占いや方角についての考え							
『参考にする』	480	36.0	29.8	21.5	6.5	5.2	1.0
どちらともいえない	223	36.8	30.0	23.3	6.3	2.2	1.3
『気にしない』	505	49.5	24.2	17.4	3.6	4.8	0.6



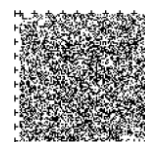
◇外国人のアパートへの入居拒否と刑を終えて出所した人の就職困難についての回答別

外国人のアパートへの入居拒否について『問題あり』と回答した人で、結婚の際に相手の出身地を調べることは差別であるという意見に対し『そう思う』の割合が74.5%で最も高くなっている。(表d-3上段)

また、刑を終えて出所した人の就職困難に『問題あり』と回答した人で、結婚の際に相手の出身地を調べることは差別であるという意見に対し『そう思う』の割合が80.3%で最も高くなっている。(表d-3下段)

【表 d-3 外国人のアパートへの入居拒否と刑を終えて出所した人の就職困難についての回答別 同和問題に関する意見や考え
イ) 結婚に際して、相手の出身地が同和地区かどうかを調べることは、差別である】

	n	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	無 回 答
(%)							
外国人であることを理由に、アパートへの入居を断られることについての考え							
『やむを得ない』	141	34.0	22.7	21.3	8.5	12.1	1.4
どちらともいえない	286	32.5	28.7	27.3	5.9	5.2	0.3
『問題あり』	780	46.7	27.8	17.3	4.4	2.8	1.0
刑を終えて出所した人の就職が容易に決まらないことについての考え							
『仕方がない』	429	35.2	28.4	20.3	7.9	7.2	0.9
どちらともいえない	369	34.4	29.0	27.9	4.3	3.3	1.1
『問題あり』	407	55.5	24.8	13.0	3.2	2.7	0.7



◇同和問題（部落差別）に関する教育、啓発の情報や教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別

この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無別では、教育や啓発の情報に接した経験がある人で、結婚に際して相手の出身地が同和地区かどうかを調べることは差別であるという意見に対し『そう思う』の割合が高く、接した経験がない人は「どちらともいえない」の割合がやや高くなっている。『そう思わない』の割合は、教育や啓発の情報に接した経験の有無での割合の差は小さくなっている。（表d-4上段）

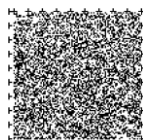
小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験の有無別では、同和教育を受けた経験がある人で、結婚に際して相手の出身地が同和地区かどうかを調べることは差別であるという意見に対し『そう思う』の割合が高く、受けた経験がない人は「どちらともいえない」の割合が高くなっている。『そう思わない』の割合は、同和教育を受けた経験の有無での差は小さくなっている。（表d-4中段）

同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無別では、「講演会や研修会に参加したことがある」または「職場で研修を受けたことがある」と回答した人で、結婚に際して相手の出身地が同和地区かどうかを調べることは差別であるという意見に対し『そう思う』の割合が高く、「上記のどちらもない（参加・受講した経験がない）」と回答した人では「どちらともいえない」の割合がやや高くなっている。『そう思わない』の割合は、講演会等の参加・職場研修の受講の有無での差は小さくなっている。（表d-4下段）

【表d-4 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報、教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無 同和問題に関する意見や考え方

イ) 結婚に際して、相手の出身地が同和地区かどうかを調べることは、差別である】

		(%)					
	n	そう 思う	そ ど ち ら か と い え ば	ど ち ら と も い え な い	そ ど ち ら か と い え ば	そ う 思 わ な い	無 回 答
この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無							
ある	311	54.7	22.8	15.1	4.2	2.9	0.3
ない	876	37.6	29.2	22.0	5.5	5.1	0.6
小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験【70歳未満】							
受けたことがある	629	44.2	28.5	16.7	5.7	4.5	0.5
『受けたことがない』	332	35.5	26.8	27.7	5.1	4.8	-
同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無							
講演会や研修会に参加したことがある	238	59.7	18.9	13.4	4.2	3.8	-
職場で研修を受けたことがある	232	51.7	25.0	15.9	3.4	3.0	0.9
上記のどちらもない	764	36.5	29.5	22.8	5.6	5.2	0.4



ウ) 差別される人の気持ちを聞くことが大事だ

◇同和問題（部落差別）に関する教育、啓発の情報や教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別

この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無別では、教育や啓発の情報に接した経験の有無に関わらず、差別される人の気持ちを聞くことが大事だという意見に対し『そう思う』の割合が7割を占め、教育や啓発の情報に接した経験がある人の割合がやや高い。（表d-5上段）

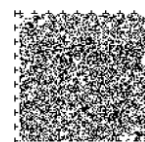
小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験の有無別では、同和教育を受けた経験の有無に関わらず、差別される人の気持ちを聞くことが大事だという意見に対し『そう思う』の割合が7割を占め、同和教育を受けた経験がある人の割合がやや高い。（表d-5中段）

同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無別では、参加・受講の有無に関係なく、差別される人の気持ちを聞くことが大事だという意見に対し『そう思う』の割合がいずれも7割を占め、その中でも「職場で研修を受けたことがある」と回答した人の割合が最も高くなっている。（表d-5下段）

【表 d-5 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報、教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別 同和問題に関する意見や考え方

ウ) 差別される人の気持ちを聞くことが大事だ】

	n	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら と も い え ば な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	無 回 答
(%)							
この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無							
ある	311	46.0	31.2	16.7	3.5	1.6	1.0
ない	876	37.4	34.1	22.4	1.9	2.7	1.4
小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験【70歳未満】							
受けたことがある	629	39.9	35.8	18.4	2.9	2.2	0.8
『受けたことがない』	332	41.0	32.5	23.8	0.6	1.8	0.3
同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無							
講演会や研修会に参加したことがある	238	47.1	26.1	22.3	1.7	1.7	1.3
職場で研修を受けたことがある	232	42.2	34.1	19.0	1.7	1.7	1.3
上記のどちらもない	764	38.1	34.2	21.3	2.5	2.9	1.0



エ) 子供時代に学校で正しく教育を行うべきだ

◇同和問題（部落差別）に関する教育、啓発の情報や教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別

この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無別では、教育や啓発の情報に接した経験がある人で、子供時代に学校で正しく教育を行うべきだという意見に対し『そう思う』の割合が高く、教育や啓発の情報に接した経験がない人は「どちらともいえない」の割合がやや高くなっている。（表d-6上段）

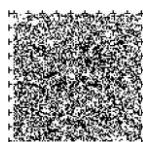
小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験の有無別では、同和教育を受けた経験がある人で、子供時代に学校で正しく教育を行うべきだという意見に対し『そう思う』の割合がやや高くなっている。（表d-6中段）

同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無別では、「講演会や研修会に参加したことがある」または「職場で研修を受けたことがある」と回答した人で、子供時代に学校で正しく教育を行うべきだという意見に対し『そう思う』の割合が高く、「上記のどちらもない（参加・受講した経験がない）」と回答した人では「どちらともいえない」の割合がやや高くなっている。（表d-6下段）

【表 d-6 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報、教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別 同和問題に関する意見や考え方

エ) 子供時代に学校で正しく教育を行うべきだ】

(%)							
	n	そう 思う	思 ど ち ら か と い え ば そ う	ど ち ら と も い え な い	思 ど ち ら か と い え ば そ う	そ う 思 わ な い	無 回 答
この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無							
ある	311	49.2	21.5	17.4	4.8	6.4	0.6
ない	876	37.3	24.4	24.8	4.3	8.1	1.0
小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験【70歳未満】							
受けたことがある	629	42.6	23.1	21.8	5.1	7.0	0.5
『受けたことがない』	332	34.3	27.4	26.2	3.9	7.8	0.3
同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無							
講演会や研修会に参加したことがある	238	50.8	21.4	16.8	3.8	6.7	0.4
職場で研修を受けたことがある	232	45.3	25.4	20.3	3.9	3.9	1.3
上記のどちらもない	764	37.3	23.2	25.3	4.5	8.9	0.9



オ) 差別の原因は、差別される側にもある

◇外国人のアパートへの入居拒否と刑を終えて出所した人の就職困難についての回答別

外国人のアパートへの入居拒否を『やむを得ない』と回答した人、及び刑を終えて出所した人の就職困難を『仕方がない』と回答した人で、差別の原因は差別される側にもあるという意見に対し『そう思う』の割合が高くなっている。(表d-7)

【表 d-7 外国人のアパートへの入居拒否と刑を終えて出所した人の就職困難についての回答別 同和問題に関する意見や考え方

オ) 差別の原因は、差別される側にもある】

	n	そう 思う	そど ちら か と い え ば	いど ち ら と も い え な	そど ち ら か と い え ば	そ う 思 わ な い	(%) 無 回 答
外国人であることを理由に、アパートへの入居を断られることについての考え							
『やむを得ない』	141	13.5	22.0	28.4	12.1	22.0	2.1
どちらともいえない	286	11.5	12.6	34.3	17.1	23.1	1.4
『問題あり』	780	6.2	9.4	31.4	15.9	35.8	1.4
刑を終えて出所した人の就職が容易に決まらないことについての考え							
『仕方がない』	429	12.8	15.9	27.0	16.1	26.3	1.9
どちらともいえない	369	5.7	11.4	40.7	15.7	24.9	1.6
『問題あり』	407	5.9	7.6	28.3	15.5	41.8	1.0

◇同和問題は自然となくなるから、教育や啓発はしない方がいいとの回答別

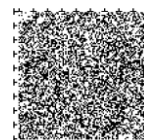
同和問題は自然となくなるから教育や啓発はしない方がいいという意見に対し『そう思う』と回答した人で、差別の原因は差別される側にもあるという意見に対し『そう思う』の割合が高くなっている。

一方、同和問題は自然となくなるから教育や啓発はしない方がいいという意見に対し『そう思わない』と回答した人で、差別の原因は差別される側にもあるという意見に対し『そう思わない』の割合が高くなっている。(表d-8)

【表 d-8 (同和問題は) 自然となくなるから、教育や啓発はしない方がいいとの回答別 同和問題に関する意見や考え方

オ) 差別の原因は、差別される側にもある】

	n	そう 思う	そど ち ら か と い え ば	いど ち ら と も い え な	そど ち ら か と い え ば	そ う 思 わ な い	(%) 無 回 答
自然となくなるから、教育や啓発はしない方がいい							
『そう思う』	375	15.2	16.0	29.3	12.5	25.9	1.1
どちらともいえない	293	7.8	9.2	43.3	18.8	20.5	0.3
『そう思わない』	524	4.2	10.3	27.5	17.0	40.8	0.2



◇同和問題（部落差別）に関する教育、啓発の情報や教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別

この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無別では、教育や啓発の情報に接した経験がない人で、差別の原因は差別される側にもあるという意見に対し『そう思う』の割合が高く、教育や啓発の情報に接した経験がある人では、差別の原因は差別される側にもあるという意見に対し『そう思わない』の割合が高い。（表d-9上段）

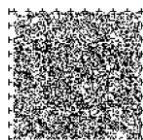
小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験の有無別では、同和教育を受けた経験がある人と経験がない人では、差別の原因は差別される側にもあるという意見に対し『そう思う』の割合の差は小さくなっている。同和教育を受けた経験がある人で、差別の原因は差別される側にもあるという意見に対し『そう思わない』の割合が高くなっているが、同和教育を受けた経験がない人の割合との差は小さくなっている。（表d-9中段）

同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無別では、「講演会や研修会に参加したことがある」「職場で研修を受けたことがある」と回答した人に比べ、「上記のどちらもない（参加・受講した経験がない）」と回答した人で、差別の原因は差別される側にもあるという意見に対し『そう思う』の割合がやや高くなっている。一方、「職場で研修を受けたことがある」と回答した人で、差別の原因は差別される側にもあるという意見に対し『そう思わない』の割合が「講演会や研修会に参加したことがある」と回答した人に比べやや高くなっている。（表d-9下段）

【表 d-9 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報、教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別 同和問題に関する意見や考え方

オ) 差別の原因は、差別される側にもある】

		(%)					
	n	そう 思う	そ ど ち ら か と い え ば	ど ち ら と も い え な い	そ ど ち ら か と い え ば	そ う 思 わ な い	無 回 答
この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無							
ある	311	5.1	8.4	29.6	16.1	40.2	0.6
ない	876	9.1	13.1	32.5	15.9	28.2	1.1
小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験【70歳未満】							
受けたことがある	629	5.7	11.6	31.0	16.5	34.7	0.5
『受けたことがない』	332	7.5	11.4	32.8	19.6	28.6	-
同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無							
講演会や研修会に参加したことがある	238	6.7	10.9	27.7	12.6	40.8	1.3
職場で研修を受けたことがある	232	3.9	10.8	28.4	18.5	37.5	0.9
上記のどちらもない	764	9.4	11.9	32.9	16.6	28.4	0.8



カ) 宅地の購入や引越しに際して、その場所が同和地区であるかどうかを調べることは、差別である

◇伝統や慣習、占いなどに関する考え方別

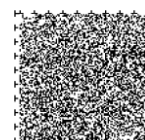
家柄や家の格を『気にしなくてもよい』と回答した人で、購入する宅地や転居先が同和地区であるか調べることは差別であるという意見に対し『そう思う』の割合が高くなっている。一方、家柄や家の格を『尊重すべき』または「どちらともいえない」と回答した人では、購入する宅地や転居先が同和地区であるか調べることは差別であるという意見に対し『そう思わない』の割合が高くなっている。(表d-10上段)

結婚式を仏滅の日に行うことに対して『やめた方がよい』と回答した人と『かまわない』と回答した人では、購入する宅地や転居先が同和地区であるか調べることは差別であるという意見に対し『そう思う』の割合が5割近くを占め、その差は小さくなっている。(表d-10中段)

占いや方角を『気にしない』と回答した人で、購入する宅地や転居先が同和地区であるか調べることは差別であるという意見に対し『そう思う』の割合が、占いや方角を『参考にする』と回答した人の割合に比べやや高い。(表d-10下段)

【表 d-10 伝統や慣習、占いなどに関する考え方別 同和問題に関する意見や考え方
カ) 宅地の購入や引越しに際して、その場所が同和地区であるかどうかを調べることは、差別である】

(%)							
	n	そう 思う	そ ど ち ら か と い え ば	い ど ち ら と も い え な	そ ど ち ら か と い え ば	そ う 思 わ な い	無 回 答
家柄や家の格についての考え							
『尊重すべき』	208	16.8	19.7	32.7	12.5	17.3	1.0
どちらともいえない	312	14.4	23.1	38.1	13.1	10.3	1.0
『気にしなくてもよい』	681	33.9	21.1	29.8	6.6	7.2	1.3
結婚式を仏滅の日に行うことについての考え							
『やめた方がよい』	431	23.9	24.1	29.7	10.2	10.9	1.2
どちらともいえない	235	20.9	20.0	40.0	10.6	6.8	1.7
『かまわない』	541	29.9	19.8	31.2	8.1	10.0	0.9
占いや方角についての考え							
『参考にする』	480	22.7	22.5	33.1	9.6	10.8	1.3
どちらともいえない	223	21.1	22.0	35.9	12.6	6.7	1.8
『気にしない』	505	31.5	20.0	30.1	7.7	9.9	0.8



◇同和問題（部落差別）に関する教育、啓発の情報や教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別

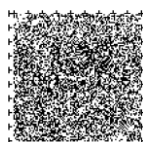
この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無別では、教育や啓発の情報に接した経験があると回答した人で、同和地区であるかどうかを調べることは差別であるという意見に対し『そう思う』の割合が高くなっている。（表d-11上段）

小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験の有無別では、同和教育を受けたことがあると回答した人で、同和地区であるかどうかを調べることは差別であるという意見に対し『そう思う』の割合がやや高くなっている。（表d-11中段）

同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無別では、「講演会や研修会に参加したことがある」と回答した人で、同和地区であるかどうかを調べることは差別であるという意見に対し『そう思う』の割合が最も高く、「上記のどちらもない（参加・受講した経験がない）」と回答した人では、同和地区であるかどうかを調べることは差別であるという意見に対し『そう思わない』の割合が他に比べ高くなっている。（表d-11下段）

【表 d-11 同和問題（部落差別）に関する教育、啓発の情報や教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無 同和問題に関する意見や考え方） 宅地の購入や引越しに際して、その場所が同和地区であるかどうかを調べることは、差別である】

(%)							
	n	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	無 回 答
この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無							
ある	311	37.3	20.9	27.0	8.0	6.1	0.6
ない	876	21.9	21.7	34.5	10.0	11.1	0.8
小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験【70歳未満】							
受けたことがある	629	26.4	20.8	32.8	8.7	10.8	0.5
『受けたことがない』	332	20.2	22.9	33.7	12.7	10.5	-
同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無							
講演会や研修会に参加したことがある	238	43.3	18.9	25.6	3.4	8.0	0.8
職場で研修を受けたことがある	232	39.2	16.8	28.0	8.2	6.9	0.9
上記のどちらもない	764	19.8	22.6	34.9	11.1	11.1	0.4



キ) 同和地区の人は、生活の様々な面で優遇されている

◇同和問題の情報の入手先別

同和問題の情報の入手先が家族・親族で、同和地区の人は生活の様々な面で優遇されているという意見に対し『そう思う』の割合が最も高くなっている。これに次いで、同和地区の人は生活の様々な面で優遇されているという意見に対し『そう思う』の割合が高いのは、近所の人・職場の人・友人(39.8%)で、以下、学校の授業(36.7%)、県・市町村の広報(34.3%)が続いている。(表d-12)

【表 d-12 同和問題の情報の入手先別 同和問題に関する意見や考え方

キ) 同和地区の人は、生活の様々な面で優遇されている】

	n	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	無 回 答
家族・親族	262	20.6	26.3	32.4	8.0	11.1	1.5
近所の人・職場の人・友人	108	19.4	20.4	37.0	6.5	14.8	1.9
学校の授業	444	12.6	24.1	39.9	10.8	11.5	1.1
職場の研修、講演会や研修会	140	9.3	22.1	32.1	12.9	21.4	2.1
県・市町村の広報	35	8.6	25.7	54.3	5.7	5.7	-
マスメディア・インターネット・その他	108	7.4	13.9	56.5	6.5	14.8	0.9
※複数回答者	115	34.8	17.4	38.3	5.2	2.6	1.7

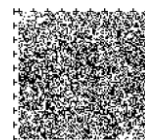
◇同和問題は自然となくなるから、教育や啓発はしない方がいいとの考え方別

同和問題は自然となくなるから教育や啓発はしない方がいいという意見に対し『そう思う』と回答した人で、同和地区の人は生活の様々な面で優遇されているという意見に対し『そう思う』の割合が高くなっている。一方、同和問題は自然となくなるから教育や啓発はしない方がいいという意見に対し『そう思わない』と回答した人で、同和地区の人は生活の様々な面で優遇されているという意見に対し『そう思わない』の割合が高くなっている。(表d-13)

【表 d-13 「(同和問題は)自然となくなるから、教育や啓発はしない方がいい」との考え方別 同和問題に関する意見や考え方

キ) 同和地区の人は、生活の様々な面で優遇されている】

	n	そ う 思 う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	い ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	無 回 答
自然となくなるから、教育や啓発はしない方がいい							
『そう思う』	375	28.0	26.9	32.5	4.0	7.5	1.1
どちらともいえない	293	14.3	25.3	47.1	7.2	5.8	0.3
『そう思わない』	524	9.4	18.5	39.1	13.7	19.1	0.2



◇同和問題（部落差別）に関する教育、啓発の情報や教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別

この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無別では、教育や啓発の情報に接した経験がない人で、同和地区の人は生活の様々な面で優遇されているという意見に対し『そう思う』の割合が高くなっている。一方、教育や啓発の情報に接した経験がある人では、同和地区の人は生活の様々な面で優遇されているという意見に対し『そう思わない』の割合がやや高くなっている。（表d-14上段）

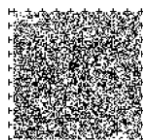
小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験の有無別では、同和教育を受けた経験がある人で、同和地区の人は生活の様々な面で優遇されているという意見に対し『そう思う』の割合が高くなっている。一方、同和教育を受けた経験がない人では、同和地区の人は生活の様々な面で優遇されているという意見に対し『そう思わない』の割合がやや高くなっている。（表d-14中段）

同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無別では、「講演会や研修会に参加したことがある」と回答した人で、同和地区の人は生活の様々な面で優遇されているという意見に対し『そう思う』の割合が高くなっているが、「職場で研修を受けたことがある」または「上記のどちらもない（参加・受講した経験がない）」と回答した人との差は小さくなっている。「講演会や研修会に参加したことがある」または「職場で研修を受けたことがある」と回答した人で、同和地区の人は生活の様々な面で優遇されているという意見に対し『そう思わない』の割合が「上記のどちらもない（参加・受講した経験がない）」と回答した人に比べ高くなっている。（表d-14下段）

【表 d-14 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報、教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別 同和問題に関する意見や考え方

キ) 同和地区の人は、生活の様々な面で優遇されている】

(%)							
	n	そう 思う	そ ど ち ら か と い え ば	ど ち ら と も い え な い	そ ど ち ら か な い い え ば	そ う 思 わ な い	無 回 答
この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無							
ある	311	12.2	19.6	40.8	10.3	16.4	0.6
ない	876	17.4	23.6	38.5	8.8	10.6	1.1
小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験【70歳未満】							
受けたことがある	629	16.9	23.7	37.0	9.5	12.2	0.6
『受けたことがない』	332	10.8	18.1	44.9	11.7	14.5	-
同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無							
講演会や研修会に参加したことがある	238	15.5	24.8	30.3	9.7	18.9	0.8
職場で研修を受けたことがある	232	12.5	23.7	33.6	11.2	18.1	0.9
上記のどちらもない	764	16.4	21.5	41.9	9.4	10.1	0.8



ク) 行政等が同和問題（部落差別）に取り組むことが、かえって問題の解決を難しくしている

◇同和問題（部落差別）に関する教育、啓発の情報や教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別

この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無別では、教育や啓発の情報に接した経験がない人で、行政等が同和問題（部落差別）に取り組むことがかえって問題の解決を難しくしているという意見に対し『そう思う』の割合がやや高くなっている。一方、教育や啓発の情報に接した経験がある人で、行政等が同和問題（部落差別）に取り組むことがかえって問題の解決を難しくしているという意見に対し『そう思わない』の割合が高くなっている。（表d-15上段）

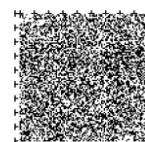
小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験の有無別では、同和教育を受けた経験がない人に比べ経験がある人の方が、行政等が同和問題（部落差別）に取り組むことがかえって問題の解決を難しくしているという意見に対し『そう思う』及び『そう思わない』の両割合ともやや高くなっている。（表d-15中段）

同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無別では、「上記のどちらもない（参加・受講した経験がない）」と回答した人で、行政等が同和問題（部落差別）に取り組むことがかえって問題の解決を難しくしているという意見に対し『そう思う』の割合が高くなっているが、「職場で研修を受けたことがある」と回答した人との差は小さくなっている。一方、「講演会や研修会に参加したことがある」または「職場で研修を受けたことがある」と回答した人で、行政等が同和問題（部落差別）に取り組むことがかえって問題の解決を難しくしているという意見に対し『そう思わない』の割合が、「上記のどちらもない（参加・受講した経験がない）」と回答した人に比べ高くなっている。（表d-15下段）

【表 d-15 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報、教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別 同和問題に関する意見や考え方

ク) 行政等が同和問題（部落差別）に取り組むことが、かえって問題の解決を難しくしている

	n	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら と も い え な い	思 ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	無 回 答
(%)							
この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無							
ある	311	8.4	20.9	32.2	15.4	22.8	0.3
ない	876	15.5	20.2	42.8	9.8	10.7	0.9
小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験【70歳未満】							
受けたことがある	629	11.4	19.6	39.7	13.8	14.8	0.6
『受けたことがない』	332	11.4	17.8	45.5	9.0	16.0	0.3
同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無							
講演会や研修会に参加したことがある	238	9.7	19.7	32.8	14.7	23.1	-
職場で研修を受けたことがある	232	11.2	20.3	28.9	12.9	25.9	0.9
上記のどちらもない	764	14.5	20.0	43.8	10.6	10.3	0.7



ケ) 差別されたくないなら同和地区外に引っ越せばよい

◇同和問題（部落差別）に関する教育、啓発の情報や教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別

この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無別では、教育や啓発の情報に接した経験がない人で、差別されたくないなら同和地区外に引っ越せばよいという意見に対し『そう思う』の割合が高くなっている。一方、教育や啓発の情報に接した経験がある人では、引っ越せばよいという意見に対し『そう思わない』の割合が高くなっている。（表d-16上段）

小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験の有無別では、同和教育を受けた経験がある人と経験がない人では、差別されたくないなら同和地区外に引っ越せばよいという意見に対し『そう思う』の割合の差は小さく、『そう思わない』の割合も、同和教育を受けた経験の有無での差は小さくなっている。（表d-16中段）

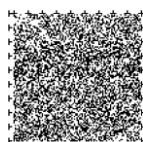
同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無別では、「上記のどちらもない（参加・受講した経験がない）」と回答した人で、差別されたくないなら同和地区外に引っ越せばよいという意見に対し『そう思う』の割合が高くなっている。一方、「講演会や研修会に参加したことがある」または「職場で研修を受けたことがある」と回答した人で、引っ越せばよいという意見に対し『そう思わない』の割合が、「上記のどちらもない（参加・受講した経験がない）」と回答した人に比べ高くなっている。（表d-16下段）

【表 d-16 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報、教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別 同和問題に関する意見や考え方

ケ) 差別されたくないなら同和地区外に引っ越せばよい

(%)

	n	そう 思う	そ ど ち ら か と い え ば	ど ち ら と も い え な い	そ ど ち ら も 思 わ な い え ば	そ う 思 わ な い	無 回 答
この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無							
ある	311	4.5	7.1	35.7	13.5	38.6	0.6
ない	876	8.8	13.4	42.0	13.1	21.6	1.1
小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験【70歳未満】							
受けたことがある	629	7.0	11.6	39.6	14.1	27.0	0.6
『受けたことがない』	332	7.5	11.7	41.6	13.9	24.7	0.6
同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無							
講演会や研修会に参加したことがある	238	6.3	7.6	35.3	12.6	37.4	0.8
職場で研修を受けたことがある	232	5.2	5.2	35.3	13.8	39.2	1.3
上記のどちらもない	764	7.9	13.7	42.4	13.4	21.9	0.8



コ) マスコミはもっと同和問題（部落差別）について取り上げるべきだ

◇同和問題（部落差別）に関する教育、啓発の情報や教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別

この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無別では、教育や啓発の情報に接した経験がある人で、マスコミはもっと同和問題（部落差別）について取り上げるべきだという意見に対し『そう思う』の割合が高くなっている。一方、教育や啓発の情報に接した経験がない人で、マスコミはもっと同和問題（部落差別）について取り上げるべきだという意見に対し『そう思わない』の割合が高くなっている。『そう思う』『そう思わない』のいずれも教育や啓発の情報に接した経験の有無での割合の差は小さくなっている。（表d-17上段）

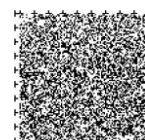
小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験の有無別では、同和教育を受けた経験がない人で、マスコミはもっと同和問題（部落差別）について取り上げるべきだという意見に対し『そう思う』の割合がやや高くなっている。一方、同和教育を受けた経験がある人で、マスコミはもっと同和問題（部落差別）について取り上げるべきだという意見に対し『そう思わない』の割合がやや高くなっている。（表d-17中段）

同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無別では、「職場で研修を受けたことがある」と回答した人で、マスコミはもっと同和問題（部落差別）について取り上げるべきだという意見に対し『そう思う』の割合がやや高くなっている。一方、「上記のどちらもない（参加・受講した経験がない）」と回答した人で、マスコミはもっと同和問題（部落差別）について取り上げるべきだという意見に対し『そう思わない』の割合がやや高くなっている。（表d-17下段）

【表 d-17 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報、教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別 同和問題に関する意見や考え方

コ) マスコミはもっと同和問題（部落差別）について取り上げるべきだ

	n	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば そ う	そ う 思 わ な い	無 回 答
(%)							
この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無							
ある	311	8.4	12.9	43.7	19.0	15.8	0.3
ない	876	5.4	9.6	45.0	16.7	22.4	1.0
小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験【70歳未満】							
受けたことがある	629	5.4	9.9	45.0	18.9	20.2	0.6
『受けたことがない』	332	7.2	13.6	47.9	13.9	16.9	0.6
同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無							
講演会や研修会に参加したことがある	238	8.0	9.7	45.0	16.8	20.2	0.4
職場で研修を受けたことがある	232	7.3	12.9	43.5	19.8	15.5	0.9
上記のどちらもない	764	5.5	10.1	44.5	17.1	22.1	0.7



サ) 面倒なことになってはいけないので、同和問題（部落差別）を話題にしない方がよい

◇同和問題（部落差別）に関する教育、啓発の情報や教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別

この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無別では、教育や啓発の情報に接した経験があると回答した人と経験がないと回答した人では、面倒なことになってはいけないので同和問題（部落差別）を話題にしない方がよいという意見に対し『そう思う』の割合の差は小さくなっている。教育や啓発の情報に接した経験がある人では、面倒なことになってはいけないので同和問題（部落差別）を話題にしない方がよいという意見に対し『そう思わない』の割合が高くなっている。（表d-18上段）

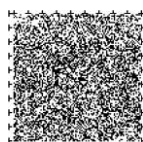
小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験の有無別では、同和教育を受けた経験がある人で、面倒なことになってはいけないので同和問題（部落差別）を話題にしない方がよいという意見に対し『そう思う』の割合がやや高くなっている。一方、同和教育を受けた経験がある人もない人も、面倒なことになってはいけないので同和問題（部落差別）を話題にしない方がよいという意見に対し『そう思わない』の割合は同程度となっている。（表d-18中段）

同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無別では、「上記のどちらもない（参加・受講した経験がない）」と回答した人で、面倒なことになってはいけないので同和問題（部落差別）を話題にしない方がよいという意見に対し『そう思う』の割合がやや高くなっている。一方、「講演会や研修会に参加したことがある」または「職場で研修を受けたことがある」と回答した人で、面倒なことになってはいけないので同和問題（部落差別）を話題にしない方がよいという意見に対し『そう思わない』の割合が5割を占め、「上記のどちらもない（参加・受講した経験がない）」と回答した人の割合に比べ高くなっている。（表d-18下段）

【表 d-18 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報、教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別 同和問題に関する意見や考え方

サ) 面倒なことになってはいけないので、同和問題（部落差別）を話題にしない方がよい

	n	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば そ う	そ う 思 わ な い	無 回 答
(%)							
この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無							
ある	311	5.1	12.9	31.2	21.5	28.6	0.6
ない	876	7.2	13.6	45.7	16.3	16.1	1.1
小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験【70歳未満】							
受けたことがある	629	5.1	13.5	41.7	19.7	19.6	0.5
『受けたことがない』	332	5.1	11.7	42.8	17.8	21.7	0.9
同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無							
講演会や研修会に参加したことがある	238	2.9	11.8	30.3	22.7	31.9	0.4
職場で研修を受けたことがある	232	4.3	15.1	28.9	23.3	27.2	1.3
上記のどちらもない	764	8.2	12.7	47.0	15.2	16.0	0.9



シ) 同和問題（部落差別）は、他の人権問題に比べて、わかりにくいと感じる

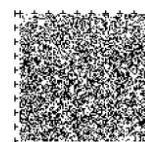
◇同和地区にある物件に対する忌避意識、同和地区の人との結婚に家族から反対されている親類の相談を受けた場合の態度についての回答別

新居選びの際の同和地区にある物件に対する忌避意識別では、同和地区の物件を避けると思うと回答した人は、同和問題（部落差別）は他の人権問題に比べて、わかりにくいと感じるという意見に対して57.2%が『そう思う』と回答している。また、同和地区の物件を避けないと思うと回答した人も50.0%が『そう思う』と回答している。（表d-19上段）

同和地区の人との結婚に家族から反対されている親類の相談を受けた場合の態度別では、結婚は慎重に考えた方がいいと言うと回答した人の57.9%が、同和問題（部落差別）は他の人権問題に比べて、わかりにくいと感じるという意見に対して『そう思う』であるが、反対する家族を説得するなど、力になろうと言うと回答した人でも、『そう思う』が53.4%、自分の意思を貫いて結婚するように言うると回答した人でも『そう思う』が58.4%となっている。（表d-19下段）

【表 d-19 同和地区にある物件に対する忌避意識、同和地区の人との結婚に家族から反対されている親類の相談を受けた場合の態度についての回答別 同和問題に関する意見や考え方 シ) 同和問題（部落差別）は、他の人権問題に比べて、わかりにくいと感じる】

(%)							
	n	そう 思う	そど ちらか とい え ば	いど ちら とも い え な	そど ちら か な い え ば	そう 思 わ な い	無 回 答
同和地区にある物件に対する忌避意識							
避けると思う	175	28.6	28.6	24.6	8.0	9.7	0.6
どちらかといえば避けると思う	358	19.3	39.9	23.2	10.9	5.3	1.4
どちらかといえば避けないと思う	168	13.1	36.9	29.2	8.9	11.9	-
避けないと思う	158	26.6	23.4	19.6	11.4	17.1	1.9
わからない	337	19.3	33.2	31.8	6.8	6.2	2.7
同和地区の人との結婚に家族から反対されている親類の相談を受けた場合の態度							
結婚は慎重に考えた方がいいと言う	197	27.4	30.5	26.4	8.6	4.6	2.5
結婚をあきらめるように言う	14	21.4	14.3	35.7	14.3	14.3	-
反対する家族を説得するなど、力になろうと言う	251	19.9	33.5	25.5	9.6	11.2	0.4
自分の意思を貫いて結婚するようにと言う	346	23.4	35.0	17.6	9.2	13.3	1.4
わからない	331	14.8	37.2	36.0	7.6	3.0	1.5
その他	50	22.0	24.0	18.0	14.0	20.0	2.0



◇同和問題（部落差別）に関する教育、啓発の情報や教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別

この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無別では、教育や啓発の情報に接した経験がないと回答した人で、同和問題（部落差別）は他の人権問題に比べてわかりにくいと感じるという意見に対し『そう思う』の割合がやや高くなっている。一方、教育や啓発の情報に接した経験がある人では、同和問題（部落差別）は他の人権問題に比べてわかりにくいと感じるという意見に対し『そう思わない』の割合がやや高くなっている。（表d-20上段）

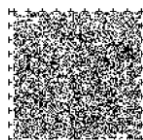
小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験の有無別では、同和問題（部落差別）は他の人権問題に比べてわかりにくいと感じるという意見に対し『そう思う』の割合がやや高くなっている。（表d-20中段）

同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無別では、「上記のどちらもない（参加・受講した経験がない）」と回答した人で、同和問題（部落差別）は他の人権問題に比べてわかりにくいと感じるという意見に対し『そう思う』の割合が高くなっている。一方、「講演会や研修会に参加したことがある」または「職場で研修を受けたことがある」と回答した人で、同和問題（部落差別）は他の人権問題に比べてわかりにくいと感じるという意見に対し『そう思わない』の割合が、「上記のどちらもない（参加・受講した経験がない）」と回答した人に比べ高くなっている。（表d-20下段）

【表 d-20 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報、教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別 同和問題に関する意見や考え方

シ) 同和問題（部落差別）は、他の人権問題に比べて、わかりにくいと感じる】

	n	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	無 回 答
(%)							
この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無							
ある	311	17.4	32.5	24.4	11.3	13.5	1.0
ない	876	21.5	34.9	27.1	8.1	7.2	1.3
小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験【70歳未満】							
受けたことがある	629	17.6	34.5	25.8	12.2	9.4	0.5
『受けたことがない』	332	22.9	35.2	29.2	3.6	8.4	0.6
同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無							
講演会や研修会に参加したことがある	238	16.0	29.8	27.3	11.8	13.4	1.7
職場で研修を受けたことがある	232	16.4	31.9	26.3	12.1	12.1	1.3
上記のどちらもない	764	22.3	35.2	25.9	8.0	7.9	0.8



5. 同和問題（部落差別）に関する発言を聞いたときに感じたこと

問11-3 この5年間くらいの中に、同和問題（部落差別）に関して直接聞いた発言を聞いたとき、どう感じましたか。（○はひとつ）

◇同和問題（部落差別）に関する教育、啓発の情報や教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別

この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無に関係なく、発言を聞いて「そういう考え方もあるのかと思った」が多く、その割合は、教育や啓発の情報に接した経験があると回答した人でやや高くなっている。教育や啓発の情報に接した経験がないと回答した人では、「そのとおりと思った」の割合がやや高くなっている。（表e-1上段）

小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験の有無別では、同和教育を受けたことがあると回答した人で、「そのとおりと思った」の割合がやや高くなっている。（表e-1中段）

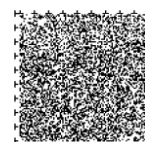
同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無別では、参加・受講の経験に関係なく、「そういう考え方もあるのかと思った」が多くなっている。「職場で研修を受けたことがある」と回答した人で、「反発・疑問を感じた」の割合がやや高くなっており、「そのとおりと思った」の割合は「上記のどちらもない（参加・受講した経験がない）」と回答した人の割合との差が小さくなっている。（表e-1下段）

【表 e-1 同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報、教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無 同和問題に関する意見や考え方

同和問題（部落差別）に関する発言を聞いたときに感じたこと】

(%)

	n	反発・疑問を感じた	そのとおりと思った	のそういう考え方もある	特に何も思わなかった	無回答
この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無						
ある	92	19.6	17.4	51.1	6.5	5.4
ない	229	14.8	25.3	44.5	12.2	3.1
小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験【70歳未満】						
受けたことがある	158	14.6	26.6	48.1	8.9	1.9
『受けたことがない』	86	17.4	20.9	47.7	12.8	1.2
同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無						
講演会や研修会に参加したことがある	53	13.2	20.8	49.1	9.4	7.5
職場で研修を受けたことがある	60	23.3	25.0	41.7	6.7	3.3
上記のどちらもない	211	15.2	24.2	46.0	12.3	2.4



6. インターネット上で同和問題（部落差別）を見た感想

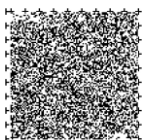
問12-2 あなたは、この5年間くらいの中に、SNSやブログ等を含むインターネット上で同和問題（部落差別）の書き込みを見てどう思いましたか。（〇はいくつでも）

◇インターネット上で同和問題（部落差別）の書き込みを見たきっかけ別

インターネット上で同和問題（部落差別）を見たきっかけ別では、同和問題（部落差別）について理解を深めようと調べていたと回答した人、同和問題（部落差別）と関係のないSNS等の閲覧で辿り着いたと回答した人で、「人権の観点から問題があると思った（人権侵害にあたると思った）」の割合が高くなっている。（表f-1）

【表f-1 インターネット上で同和問題（部落差別）の書き込みを見たきっかけ インターネット上で同和問題（部落差別）を見た感想】

	n	人権の観点から問題がある と思った（人権侵害にあたる と思った）	同和問題については、 関わりたく ない	ほしい情報 が得られ た	興味なども 見ている 、他の書 き込み	その他	何も思 わなかつ た	無回 答
学校で同和問題（部落問題）について習ったので、調べていた	6	16.7	33.3	33.3	33.3	-	16.7	-
同和問題（部落差別）について理解を深めようと、調べていた	13	53.8	7.7	-	15.4	23.1	-	-
同和地区がどこにあるのか、調べていた	14	28.6	28.6	42.9	21.4	-	7.1	-
同和地区がどんなところか知りたくて、調べていた	13	23.1	30.8	38.5	15.4	7.7	15.4	-
ある人物について、その人が同和地区出身者かどうか、調べていた	8	37.5	12.5	50.0	25.0	-	12.5	-
知り合い等から、その投稿を見るように勧められた	3	-	66.7	-	-	-	33.3	-
同和問題（部落差別）と関係のないSNS等の閲覧で、辿り着いた	53	43.4	17.0	5.7	13.2	13.2	17.0	-
その他	13	53.8	7.7	-	7.7	30.8	-	-



◇同和問題（部落差別）に関する教育、啓発の情報や教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別

この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無別では、教育や啓発の情報への接触の有無に関係なく、「人権の観点から問題があると思った（人権侵害にあたると思った）」が最も多く、教育や啓発の情報への接触があると回答した人の割合が高くなっている。一方、教育や啓発の情報への接触がないと回答した人では、「同和問題には、関わりたくないと思った」や「興味がわいて、他の書き込みなども見てみたいと思った」の割合が、教育や啓発の情報への接触があると回答した人に比べ高くなっている。（表f-2上段）

小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験の有無別でも、同和教育を受けた経験に関係なく、「人権の観点から問題があると思った（人権侵害にあたると思った）」が最も多く、同和教育を受けたことがあると回答した人の割合が高い。一方、同和教育を受けたことがないと回答した人では、「同和問題には、関わりたくないと思った」の割合が、同和教育を受けたことがあると回答した人に比べ高くなっている。また、同和教育を受けた経験に関係なく、10人に1人は「興味がわいて、他の書き込みなども見てみたいと思った」と回答している。（表f-2中段）

同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無別では、参加・受講に関係なく、「人権の観点から問題があると思った（人権侵害にあたると思った）」が最も多く、「講演会や研修会に参加したことがある」または「職場で研修を受けたことがある」では半数が回答している。一方、「ほしい情報が得られた」や「興味がわいて、他の書き込みなども見てみたいと思った」の割合は、「講演会や研修会に参加したことがある」と回答した人と、「上記のどちらもない（参加・受講した経験がない）」と回答した人との間の差は小さく、両者とも10人に1人が回答している。（表f-2下段）

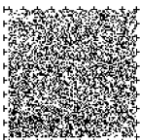
【表 f-2 ◇同和問題（部落差別）に関する教育、啓発の情報や教育を受けた経験有無、講演会等の参加・職場研修の受講の有無別

インターネット上で同和問題（部落差別）を見た感想】

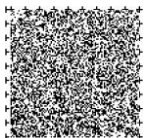
(%)

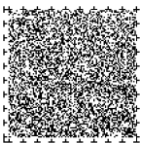
	n	害あ人 にる権 あとの た思観 るとつ 思つ点 つた(から 人問 権題 侵が)	た同 く和 な問 い題 とに 思は、 つた関 わり	ほ しい 情 報 が 得 ら れ た	い き 興 味 が つ な わ い た も と て、 見 て 他 の 書 き 込 み な ど も 見 て み た い と 思 っ た	そ の 他	何 も 思 わ な か っ た	無 回 答
この5年間で同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことの有無								
ある	47	55.3	10.6	6.4	8.5	12.8	10.6	-
ない	51	35.3	21.6	9.8	13.7	11.8	15.7	3.9
小学校から高校までに同和問題（部落差別）に関する教育を受けた経験【70歳未満】								
受けたことがある	50	50.0	10.0	6.0	12.0	14.0	12.0	2.0
『受けたことがない』	39	35.9	25.6	10.3	10.3	10.3	17.9	-
同和問題（部落差別）に関する講演会等の参加・職場研修の受講の有無								
講演会や研修会に参加したことがある	30	56.7	10.0	10.0	13.3	13.3	3.3	3.3
職場で研修を受けたことがある	30	53.3	16.7	3.3	3.3	6.7	20.0	-
上記のどちらもない	48	37.5	16.7	10.4	14.6	14.6	14.6	2.1





IV 考察と今後の課題





IV 考察と今後の課題

1. 伝統や慣習、人権侵害に関わる事柄に対する考え

家柄や家の格を『尊重すべき』と回答したのは、30歳未満で多く、60～69歳では少なかった（19ページ・図2-1-2）。

結婚式を仏滅の日に行うことを『やめた方がよい』と回答したのは、70歳以上が42.1%と最も多かったが、これに次いで多かったのが18～29歳（38.4%）である（22ページ・図2-2-2）。

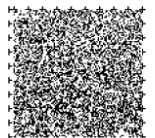
占いや方角を『参考にする』と回答したのは、40～49歳、50～59歳で多く、70歳以上は18～29歳よりも少なかった（25ページ・図2-3-2）。後述する、伝統や慣習、占いなどを肯定する人ほど、同和地区に対する忌避意識が強く、同和地区の人との結婚の相談に対して結婚に消極的な態度を取り、同和地区（出身者）であるかを調べることを差別だと思わないという傾向は、特定の年齢層の特徴が出ているのではなく、伝統や慣習、占いなどを肯定する人たちの特徴そのものであるとよい。

2. 「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ

同和地区にある物件に対し忌避意識をもったり、同和地区の人との結婚に家族から反対されている親類からの相談に対し結婚に消極的な態度（「結婚は慎重に考えた方がいい」「結婚をあきらめるように言う」）をとったりする人で、同和地区に対し「こわい」「暗い」「閉鎖的」といったイメージをもっている傾向が強い（155ページ・表a-2/表a-3）。

また、「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージを含め、これ以降の主要な設問については、教育・啓発の情報への接触や、小学校から高校のあいだに学校で行われている同和問題（部落差別）に関する教育（以下、「同和教育」という）を受けた経験、講演会等・職場研修への参加の経験別に分析、考察を行った。なお、学校で同和教育を「受けたことがある」の割合は、40～49歳と50～59歳で70%台と高く、18～29歳では38.2%、70歳以上では34.5%と、この2つの年齢層だけが40%を下回っている（142ページ・図14-1-2）。

同和教育を受けた経験の有無に関するクロス集計では、「受けたことがない」と「よくおぼえていない」を合わせて『受けたことがない』としたが、70歳以上で同和教育を受けた経験のある人が少なかった結果、『受けたことがない』（479人）に占める70歳以上の割合が29.9%となった。そのため、同和教育の経験の有無別にクロス集計を行うと、『受けたことがない』の回答結果に70歳以上の回答傾向が強く反映され、同和教育の経験の有無による回答結果の差が同和教育の効果によるものなのか、回答者の年齢の偏りによるものなのか、判断がむずかしくなる（70歳以上と同様に、同和教育を受けた割合が低かった18～29歳は、回答者数自体が少ないため、『受けたことがない』に占める18～29歳の割合は11.1%であった）。そこで、同和教育の経験の有無別クロス集計については、70歳以上を除いて考察を行うことにした。なお、問13（教育や啓発の情報に接したことの有無）と問15（講演会等の参加・職場研修の受講の有無）については、70歳以上の「経験なし」の割合は、他の年齢層に比べて、特に高いというわけではなかったため、70歳以上を含めた総数でクロス集計を行っている。



講演会等や職場研修に参加・受講した人としていない人について、抱くイメージをみると、参加・受講した人の方が「こわい」「暗い」「閉鎖的」といったイメージをもたない傾向が認められたが、教育や啓発の情報に接した経験のある人となない人、同和教育を受けた人と受けていない人については、大きな差はみられなかった（157 ページ・表 a-5）。

3. 同和地区に対する忌避意識

家柄や家の格を『尊重すべき』と回答した人、また、結婚式を仏滅の日に行くことを『やめた方がよい』と回答した人で、同和地区にある物件を『避ける』の割合が高くなっている。さらに、占いや方角を『参考にする』と回答した人でも『避ける』の割合が高い。このように、伝統や慣習、占いなどを肯定する人で、同和地区に対する忌避意識が強い傾向がみられる（158 ページ・表 b-1）。

外国人であることを理由にアパートへの入居を断られることをやむを得ないとみなすのは、差別を容認する見方だといえる。また、刑を終えて出所した人の就職が容易に決まらないことを仕方がないとみるのは、就職が決まらないのは本人の責任であるとみなす自己責任論に依拠した見方である。外国人であることを理由にアパートの入居を断られることを『やむを得ない』と回答した人は、それを『問題あり』と回答した人に比べ、住宅を選ぶ際に同和地区にある物件を避けるという回答が多くなっている（159 ページ・表 b-2）。これは、刑を終えて出所した人の就職が容易に決まらないことに対して『仕方がない』と回答した人についても同様で、同和地区の物件を「避けると思う」という回答は、『問題あり』と回答した人よりも多くなっている（159 ページ・表 b-2）。

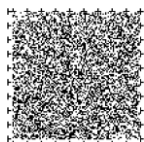
同和問題は自然となくなるから、教育や啓発はしない方がよいという、いわゆる「寝た子を起こすな」論を肯定する人と否定する人で「避けると思う」の割合には大きな差はみられないが、『避ける』の割合では、肯定する人の方が否定する人よりも 10.5 ポイント高くなっており、「寝た子を起こすな」論に立つ人に同和地区に対する忌避意識が強い傾向がみられる（160 ページ・表 b-4）。

さらに、同和問題（部落差別）に関する講演会等に参加した経験がなく、また職場研修の受講経験もないという人に同和地区に対する忌避意識が強い傾向がみられる（161 ページ・図 b-5）。

4. 同和地区の人との結婚について

同和地区の人との結婚について、「反対する家族を説得するなど、力になろうと言う」や「自分の意思を貫いて結婚するようと言う」といった積極的な態度をとる割合は、家柄や家の格を『気にしなくてもよい』と回答した人に比べ『尊重すべき』と回答した人で、また、結婚式を仏滅の日に行くことを『かまわない』と回答した人に比べ『やめた方がよい』と回答した人で低くなっている。また、占いや方角を『気にしない』と回答した人に比べ『参考にする』と回答した人でも低くなっている。このように、同和地区の人との結婚に関する相談に対し、「自分の意思を貫いて」や「反対する家族を説得」といった結婚に積極的な態度をとる人は、伝統や慣習、占いなどを肯定する人に少ないという傾向がみられる（162 ページ・表 c-1）。

また、外国人差別を容認したり、刑を終えて出所した人が被る不利益を自己責任とみなしたりする人ほど、同和地区の人との結婚に関する親類からの相談に対し、「結婚は慎重に」や



「結婚をあきらめるように言う」といった結婚に消極的な態度をとる傾向がみられる（163 ページ・表 c-2）。

同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したり、講演会等や職場研修に参加したりした経験がある人ほど、同和地区の人との結婚についての相談に対して結婚に積極的な態度をとる傾向がみられるが、同和教育を受けた経験があるという人には、このような傾向はみられない（164 ページ・表 c-3）。

5. 同和問題に関する意見や考え方

（自然となくなるから、教育や啓発はしない方がいい）

「同和問題は自然となくなるから、教育や啓発はしない方がいい」という意見は、いわゆる「寝た子を起こすな」論である。この5年間に同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したという人や講演会に参加したり、職場研修を受けたりしたことがあるという人に、「寝た子を起こすな」論を批判的にとらえる人が多い（165 ページ・表 d-1）。

（結婚に際して、相手の出身地が同和地区かどうかを調べることは、差別である）

結婚の際に身元調査を行うことが差別であるとみなす人は、同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したり、同和教育の受講や講演会等・職場研修への参加の経験があるという人に多くなっている。特に、この傾向は啓発・教育の情報への接触の有無と講演会等や職場研修の参加・受講の有無で顕著となっている（168 ページ・表 d-4）。また、伝統や慣習、占いなどを肯定する人の方がそうでない人に比べ、結婚相手の出身地が同和地区かどうかを調べることを差別であるとはみなしていない傾向がみられる（166 ページ・表 d-2）。

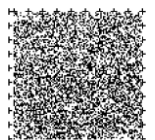
（差別の原因は、差別される側にもある）

「差別の原因は、差別される側にもある」という意見は、差別を社会の問題であるというより、個人の問題とみなす考え方だといえる。この意見を「そう思わない」と否定する回答が、同和問題（部落差別）に関する教育や啓発の情報に接したことがある人、同和教育を受けた経験がある人、講演会等や職場研修に参加したことがある人で、それぞれ多くなっている（172 ページ・表 d-9）。また、「寝た子を起こすな」論に立つ人に差別の原因を差別される当事者に求めるといった、差別を社会の問題ではなく、個人の問題に帰するという考えをもつ人が相対的に多い傾向がみられる（171 ページ・表 d-8）。

さらに、外国人差別を容認したり、刑を終えて出所した人が被る不利益を自己責任とみなしたりする人ほど、同和問題についても差別の原因を差別される当事者に求めるという自己責任論に立つ傾向がみられる（171 ページ・表 d-7）。

（宅地の購入や引越しに際して、その場所が同和地区であるかどうかを調べることは、差別である）

宅地の購入や引越しに際して同和地区かどうか調べることは差別であると思うの割合は、家柄や家の格を『気にしなくてもよい』と回答した人に比べ『尊重すべき』と回答した人で、また、結婚式を仏滅の日に行くことを『かまわない』と回答した人に比べ『やめた方がよい』と回答した人で低くなっている。また、占いや方角を『気にしない』と回答した人に比べ『参考にする』と回答した人でも低くなっている。このように、伝統や慣習、占いなどを肯定する人の方が、転居先が同和地区であるか調べることを差別であると思わず回答が少ない（173 ページ・表 d-10）。



(同和地区の人は、生活の様々な面で優遇されている)

昭和44(1969)～平成14(2002)年の間、国の法律にもとづき同和対策事業が行われてきたが、それが終了して20年になる。「同和地区の人は、生活の様々な面で優遇されている」という意見に対し「そう思わない」という回答が同和問題(部落差別)に関する教育や啓発の情報に接したという人、または講演会等・職場研修に参加した経験がある人の方に多かったとはいえ、経験の有無による差は、それほど大きくはない。また、同和教育を受けた経験の有無別で「受けたことがある」と回答した人の方が現在でも同和地区の人が優遇されていると誤解している(176ページ・表d-14)。

「寝た子を起すな」論に立つ人は、同和地区の人たちが優遇されていると考えている。(175ページ・表d-13)。たしかに、平成14(2002)年までの33年間にわたって国の法律にもとづき同和対策事業が行われたが、当時は、長く続いた差別により地区の生活実態は厳しく、また、そのことが差別意識を温存・助長している状況にあったため、緊急的かつ集中的に事業を実施し、地区の改善を図る必要があったということを理解する必要がある。

(差別されたくないなら同和地区外に引っ越せばよい)

「差別されたくないなら同和地区外に引っ越せばよい」という意見は、差別の原因を被差別当事者に求め、差別する側の問題を不問に付すことになる。このことに対し肯定的回答(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)の割合は30歳代・40歳代で高くなっている(100ページ・図10-9-3)。逆に、差別の原因を被差別当事者に求めるという意見を否定する回答は、同和問題(部落差別)に関する講演会や研修会に参加したり、職場研修を受けたりしたという人で多くみられる(178ページ・表d-16)。

(同和問題(部落差別)は、他の人権問題に比べて、わかりにくいと感じる)

肯定的回答(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)の割合は30歳代・40歳代で高くなっている(106ページ・表10-12-3)。

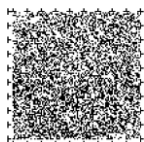
同和地区に対し忌避意識をもつ人ももたない人も、あるいは同和地区の人との結婚の相談に対し結婚に消極的態度をとる人も積極的態度をとる人も、同和問題は他の人権問題に比べてわかりにくいと感じている(181ページ・表d-19)。すなわち、今回の結果では、同和問題に対する理解が高い人も、同和問題をわかりにくいと感じているということであり、このことは教育・啓発の大きな課題であるといえる。

6. 同和問題(部落差別)に関する発言について

(この5年間で直接聞いたことがある同和問題(部落差別)に関する発言)

発言を「聞いたことがない」が70.5%に対し、聞いたことがある人は27.4%となっている。聞いたことがある発言内容は、「同和地区の人は、優遇されている」(16.2%)が最も多くなっている。これに次いで「同和地区は治安が悪い」(9.6%)、「住宅の購入や引越しの際は、同和地区内の物件を避けた方がいい」(7.2%)などが続いている(108ページ・図11-1)。

聞いた発言で最も印象に残っているものは、「同和地区の人は、優遇されている」(46.8%)が最も多く、特に60歳以上の年代で高くなっている。これに次ぐ「同和地区は治安が悪い」(16.5%)は、18～29歳で高い(113ページ・図11-2/115ページ・図11-2-2)。



(最も印象に残っている同和問題(部落差別)に関する発言を聞いたときに感じたこと)

「そういう考え方もあるのかと思った」(46.2%)が最も多く、これに次いで「そのとおりに思った」(22.8%)となっているのに対し、「反発・疑問を感じた」は16.3%と低く(122ページ・図11-4)、113ページ・図11-2に示した発言に同調する人は少なくない。同和問題に関する誤解や偏見にもとづく発言に対して、それを批判できる力をもたなければ、そのまま鵜呑みにしたり、迎合することになってしまう。そのため、同和問題の理解を高める教育・啓発が必要である。

7. 同和問題(部落差別)に関する教育について

(同和問題(部落差別)に関する教育を受けた経験)

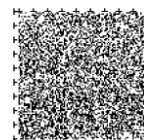
小学校から高校までの間で同和問題に関する教育を受けた経験をたずねると、「受けたことがある」は58.6%である。これを年齢別にみると、「受けたことがある」の割合は、40~49歳と50~59歳で70%台と高く、18~29歳では38.2%、70歳以上では34.5%と、この2つの年齢層だけが40%を下回っている(141ページ・図14-1/142ページ・図14-1-2)。70歳以上の場合は、同和教育が小中高校で広く取り組まれ始めるのが1970年代に入ってからのため、同和教育を学校で受けていない人が多いことが推察される。一方、10・20歳代で同和教育を受けたという回答割合が低いのは、平成14(2002)年に同和対策事業が終了したことも一因であると考えられる。それは30歳代で同和教育を受けたという回答が48.2%と5割に達していないことにもあらわれている。

8. 考察結果の総括

以上の調査結果から明らかになった点や課題などを総括すると、次のとおりである。

この5年間に同和問題に関する教育や啓発の情報に接した人の方が、接することがなかった人よりも同和地区に対する忌避意識が低く、同和地区の人との結婚の相談に対して、結婚に積極的な対応をとるという回答が多くなっている。そして同和問題に関する誤解にもとづく意見や差別を個人の問題に帰するような意見を否定し、人権の視点に立った意見を肯定する回答が多かった。したがって、教育や啓発の情報への接触がある人ほど人権意識が高いといえ、教育や啓発の効果があらわれているといえる。

この5年間に教育や啓発の情報に接したことがあると回答した人に、「それはどういう場面でしたか」と問うと(複数回答)、「職場の研修で」(41.5%)が最も多く、「市町村の広報誌で」(33.1%)と「県の広報誌で」(31.2%)がこれに続き、その他では、「テレビ、ラジオ、新聞、書籍で」(19.3%)、「講演会や研修会で」(18.0%)、「ポスターやリーフレットで」(14.8%)となっている(134ページ・図13-2)。職場研修で同和問題の情報に接したという場合、同和問題への関心の高低に関わりなく、その職場の構成員が研修を受けることになるが、行政の広報誌や講演会・研修会、テレビ、書籍などで同和問題の情報に接したという場合、もともと同和問題に関心があり、自ら進んで同和問題に関する情報を獲得しようとする人が多いといえる。つまり、広報誌を読んだり、講演会などに参加したりして同和問題の情報に接するという人は、その情報に接することにより同和問題の関心や理解が高まったというより、広報誌や講演会などによって情報に接する以前から同和問題の関心や理解が高かったと考えられる。



一方、同和教育を受けた経験の有無別について、「結婚に際して、相手の出身地が同和地区かどうか調べることは、差別である」という意見に「そう思う」と回答した割合は「受けたことがある」の方が『受けたことがない』を9ポイントほど上回っていたこと、「差別の原因は、差別される側にもある」という意見に「そう思わない」と回答した割合は「受けたことがある」の方が『受けたことがない』よりも6ポイントほど高かったこと、この2点を除けば、「受けたことがある」と『受けたことがない』の間に大きな差はみられない。そればかりか、「同和地区の人は、生活の様々な面で優遇されている」という意見に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答したのは、「受けたことがある」の方が多く、その回答割合は『受けたことがない』をそれぞれ6ポイントほど、上回っている。このように、同和問題に関する意見や考え方について、同和教育を受けた経験の有無による差はみられなかった。

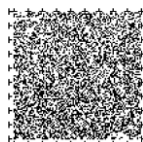
その理由は今回の調査結果からは明らかにできないが、今後、検討していくことが重要である。

講演会等への参加と職場研修の受講の有無別にみた場合、講演会等に参加したり、職場研修を受けたりしたことがあるという人の方が「上記のいずれもない（参加していない・受けていない）」と回答した人に比べて、同和地区に対する忌避意識が低く、同和地区の人との結婚の相談に対して結婚に積極的に対応し、同和問題に関する様々な意見や考え方に対しても、同和問題をよく理解していることをうかがわせる回答が多くみられた。「講演会や研修会に参加したことがある」と回答した人の同和問題への理解が高いのは、すでに述べたように、理解の高い人が講演会や研修会に参加するという傾向があるため、講演会等への参加経験のある人の同和問題への理解の高さが講演会等への参加によってもたらされたものであると断言はできない。しかし、講演会や研修会への参加が同和問題に対する理解をさらに高めることも多くあることから、講演会や研修会の効果も小さくはないといえる。

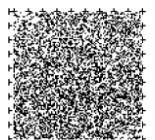
職場研修は、同和問題への関心の有無に関わらず、その職場の構成員が受講するのであるから、その点は同和教育と同じである。しかし、同和教育を受けた経験の有無による回答傾向の差はあまり大きくはなかったのに対して、職場研修の受講の有無による回答傾向の差は大きく、職場研修を受けた人の回答からは同和問題の理解の高さがうかがえた。このような同和教育と職場研修の効果の違いについて、今回の調査結果だけからは、その要因を明らかにすることはできないが、1970年代後半以降、企業において公正採用選考の徹底として始まった人権問題の取り組みがしだいに広がっていき、現在では企業が人権保障とダイバーシティの促進に取り組むことが社会的責任であるといわれるようになってきた。そうしたなかで、同和問題をテーマとした職場研修の意義への理解が高まってきたことが職場研修の効果を大きくしていると考えられる。

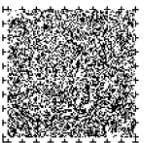
一方、「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージ（「やさしいーこわい」「明るいー暗い」「開放的ー閉鎖的」）については、「講演会や研修会に参加したことがある」と「上記のどちらもない」との間に差がみられるものの、「職場で研修を受けたことがある」と「上記のどちらもない」との間の差は小さく、教育や啓発の情報への接触の有無や同和教育を受けた経験の有無による差はほとんどなかった。

この点についても、今回の調査結果だけではその要因を明らかにできないが、同和地区に対する「こわい」「暗い」「閉鎖的」といったイメージの払拭は、今後の教育・啓発における大きな課題であるといえる。



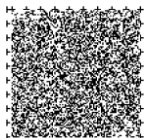
同和問題に関する教育や啓発をしなければ、現に今ある同和地区に対する忌避意識はなくなることはないであろう。また、108 ページ・図 11-1 にみたように、同和地区に対する誤解や偏見にもとづく発言に出会う可能性がある以上、その発言を批判する力をもたなければ、その影響を受けて同和地区に対する偏見をもってしまうであろう。「寝た子を起すな」論に限らず、同和問題に関しては、さまざまな誤解がみられる。それゆえ、これらを解消していく教育や啓発が必要である。





V 資料（調査票）

※このページ以降も音声コードが入っていることを示す切り込みは入っていますが、音声コードはここまでとなります。



問 1

次のア～カの各設問について、あなたはどのようなようにお考えですか。
(○はそれぞれひとつ)

記入例 和歌山県の自然について

1	豊かだと思 う	2 どちらか いえば豊 かだと思 う	3 どちらとも いえない	4 どちらか いえば豊 かではない と思	5 豊かだと思 わない
---	------------	--------------------------------	--------------------	----------------------------------	-------------------

ア 家柄や家の格について

1	尊重すべき と思う	2 どちらか というど 尊重すべ きと思う	3 どちらとも いえない	4 どちらか というど 気にしな くてよい と思	5 気にしな くてよい と思
---	--------------	-----------------------------------	--------------------	---	-------------------------

イ 結婚式を仏滅の日に行うことについて

1	やめた方が よいと思 う	2 どちらか というど やめた方 がよいと 思う	3 どちらとも いえない	4 どちらか というど かまわな いと思	5 かまわな いと思
---	--------------------	---	--------------------	----------------------------------	------------------

エ 占いや方角について

1	参考にする ほうだ	2 どちらか というど 参考する ほうだ	3 どちらとも いえない	4 どちらか というど 気にしな い	5 気にしな い
---	--------------	----------------------------------	--------------------	--------------------------------	----------------

オ 会社等において、性別で昇進に差がつくことについて

1	問題ない と思	2 どちらか というど 問題ない と思	3 どちらとも いえない	4 どちらか というど 問題だと思	5 問題だと思
---	------------	---------------------------------	--------------------	----------------------------	------------

カ 外国人であることを理由に、アパートへの入居を断られることについて

1	やむを得 ないと思 う	2 どちらか というど やむを得 ないと思	3 どちらとも いえない	4 どちらか というど 問題だと思	5 問題だと思
---	-------------------	-----------------------------------	--------------------	----------------------------	------------

ク 刑を終えて出所した人の就職が容易に決まらないことについて

1	仕方がない と思	2 どちらか というど 仕方がな いと思	3 どちらとも いえない	4 どちらか というど 問題だと思	5 問題だと思
---	-------------	----------------------------------	--------------------	----------------------------	------------

問 2

あなたは、次の法律や条例を知っていますか。ア～エすべてについてお答えください。
(○はそれぞれひとつ)

	内容も 知っている	法律・条例がある ことは知っているが、 内容は知らない	知らない
ア 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律 (平成12年12月6日施行)	1	2	3
イ 部落差別の解消の推進に関する法律 (平成28年12月16日施行)	1	2	3
エ 和歌山県人権尊重の社会づくり条例 (平成14年4月1日施行)	1	2	3
ク 和歌山県部落差別の解消の推進に関する条例 (令和2年3月24日施行)	1	2	3

1

令和4年6月

和同問題(部落差別)に関する
県民意識調査

— 部落差別のない社会をめざして —

ご記入にあたってのお願い

1 調査の結果は、すべて統計的に処理し、あなた自身のことやご回答の内容が、外部に公表されたり、調査目的以外に使用されることは絶対にありませんので、日頃お考えになられていることや感じていることを、ありのままご回答ください。

2 回答は、**あて名のご本人がお答えくださるようお願いいたします**(記入後、名前を書く必要はありません)。ご本人での回答が困難な方は、ご家族などのご協力により回答してください。

3 回答は各質問の指示にしたがい、番号を○で囲んでください。また、「その他」にあてはまる場合は、() 内にその内容を具体的に記入してください。

4 質問は番号順にご回答ください。質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、質問文の指示にしたがってご回答ください。

※ご記入後は、**無記名のまま**、同封の返信用封筒(切手は必要ありません)に入れ、**6月30日(木)まで**にご返送ください。

調査に関するお問い合わせ先
和歌山県企画部人権局 人権政策課
電話：073-441-2560(直通)
FAX：073-433-4540
E-mail：e0214001@pref.wakayama.lg.jp



和歌山県

問 3 あなたは、同和問題（部落差別）といわれるものがどういふものか知っていますか。（○はひとつ）

1. 知っている	2. 何となく知っている	3. 知らない
----------	--------------	---------



以降の質問（問4～問5）は、問3で、「1. 知っている」「2. 何となく知っている」と回答された方にお聞きします。

問 4 同和問題（部落差別）について、誰からもしくは何かからお知りになりましたか。
最も記憶に残っているものをひとつお選びください。

1. 家族	8. 講演会や研修会
2. 親戚	9. 県の広報（広報紙、広報番組、リーフレット、ホームページ等）
3. 近所の人	10. 市町村の広報（広報紙、広報番組、リーフレット、ホームページ等）
4. 職場の人	11. テレビ、ラジオ、新聞、書籍等
5. 友人	12. インターネット（SNS やブログ等含む）
6. 学校の授業	13. その他
7. 職場の研修	(具体的に：)

問 5 あなたは、部落差別の現状についてどう思いますか。（○はひとつ）

1. 以前とあまり変わらないと思う	4. もうないと思う
2. 以前より増えていると思う	5. わからない
3. なくなりましたと思う	

問 6 部落差別を受けた人が相談する窓口として、あなたが知っているものはどれですか。（○はいくつでも）

1. 法務局または人権擁護委員	5. (公財) 和歌山県人権啓発センター
2. 県庁（県振興局含む）	6. その他
3. 市町村役場（支所含む）	(具体的に：)
4. 隣保館や総合センター、文化会館など (地域で福祉の向上や人権啓発の住民 交流の拠点となる施設)	7. 知らない

2

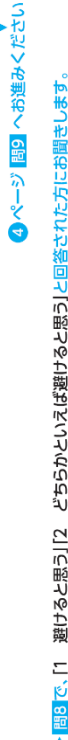
問 7

あなたが、「同和地区」という言葉を聞いたときのイメージはどのようなものですか。「同和地区」には、「やさしい」「明るい」「明るい」「明るい」「明るい」といったイメージで語られることもあります。あなたの感じやイメージに近い番号をお選びください。
(○はそれぞれひとつ)

A	非常に Aに近い	ややAに近い	どちらとも いえない	ややBに近い	非常に Bに近い	B
やさしい	1	2	3	4	5	こわい
明るい	1	2	3	4	5	暗い
開放的	1	2	3	4	5	閉鎖的

問 8 引越などにあたって、新たに住まいを選ぶ際に、物件が同和地区にある場合、あなたはどうかされますか。（○はひとつ）

1. 避けると思う	3. どちらかといえば避けないと思う
2. どちらかといえば避けると思う	4. 避けないと思う
	5. わからない



問8-1 それ、なぜですか。（○はいくつでも）

1. 同和地区に住むことで、自分や家族が差別されるかもしれないから
2. 同和地区の人とはつきあいたくないから
3. 同和地区の物件は価格上昇を見込めないから（転売が難しいと思うから）
4. 同和地区には住まない方がいいと聞いたことがあるから
5. その他（具体的に：)

3

問 9

あなたの親類が結婚したいと思っている相手が同和地区の人で、そのことを理由に家族から結婚を反対されているとします。そのことについて相談を受けた場合、あなたはどのような態度をとると思いますか。(○はひとつ)

1. 結婚は慎重に考えた方がいいと思う
2. 結婚をあきらめるように言う
3. 反対する家族を説得するなど、力になろうと言う
4. 自分の意思を貫いて結婚するようと言う
5. わからない
6. その他 (具体的に：)

図9で、[1] 結婚は慎重に考えた方がいいと言う[2] 結婚をあきらめるように言う」と回答された方にお聞きします。

問9-1

それは、なぜですか。(○はいくつでも)

1. 家族が反対しているなら、それに従うべきだから
2. 同和地区の人と親戚になりたくないから
3. 将来、本人やその子供が差別を受けるかもしれないから
4. 自分や自分の家族が差別されるかもしれないから
5. その他 (具体的に：)

問 10

あなたは、同和問題(部落差別)に関する次のような意見や考え方について、どう思いますか。あなたの意見に近いものを選んでください。(○はそれぞれひとつ)

	そう思う	どちらかといえはそう思う	どちらともいえない	どちらかといえはそう思わない	そう思わない
⑦ 自然となくなるから、教育や啓発はしない方がいい	1	2	3	4	5
⑧ 結婚に際して、相手の出身地が同和地区かどうかを調べることは、差別である	1	2	3	4	5
⑨ 差別される人の気持ちを聞くことが大事だ	1	2	3	4	5
⑩ 子供時代に学校で正しく教育を行うべきだ	1	2	3	4	5
⑪ 差別の原因は、差別される側にもある	1	2	3	4	5
⑫ 宅地の購入や引越しに際して、その場所が同和地区であるかどうかを調べることは、差別である	1	2	3	4	5
⑬ 同和地区の人は、生活の様々な面で優遇されている	1	2	3	4	5
⑭ 行政等が同和問題(部落差別)に取り組むことが、かえって問題の解決を難しくしている	1	2	3	4	5
⑮ 差別されたくないなら同和地区外に引っ越せばよい	1	2	3	4	5
⑯ マスコミはもっと同和問題(部落差別)について取り上げるべきだ	1	2	3	4	5
⑰ 面倒なことになってはいけいないので、同和問題(部落差別)を話題にしない方がいい	1	2	3	4	5
⑱ 同和問題(部落差別)は、他の人権問題に比べて、わかりにくいと感じる	1	2	3	4	5

問 11

あなたは、この5年間くらいの間に、同和問題(部落差別)に関して次のような発言を直接聞いたことがありますか。(○はいくつでも)
※SNSやブログ等を含むインターネット上の書き込みは除いてください。

1. 住宅を購入したり引越したりする際は、同和地区内の物件を選けた方がいい
2. 同和地区の人は、優遇されている
3. 同和地区の人とは結婚してはいけない
4. 同和地区の人は怖い
5. 同和地区は治安が悪い
6. 同和地区の人とは、関わらない方がいい
7. 聞いたことがない

問11で、「1」～「6」に○をされた方にお聞きします。

問11-1 ひとつだけ○をされた方は、同じものを選んでください。(○はひとつ)
いくつか○をされた方は、最も印象に残っているものを選んでください。(○はひとつ)

1. 住宅を購入したり引越したりする際は、同和地区内の物件を選けた方がいい
2. 同和地区の人は、優遇されている
3. 同和地区の人とは結婚してはいけない
4. 同和地区の人は怖い
5. 同和地区は治安が悪い
6. 同和地区の人とは、関わらない方がいい

問11-1で○をされた発言についてお聞きします。

問11-2 それは誰から聞きましたか。(○はひとつ)

1. 家族
2. 親戚
3. 近所の人
4. 友人
5. 職場の人
6. 知らない人
7. 覚えていない
8. その他(具体的に：)

6

問11-1で○をされた発言についてお聞きします。

問11-3 それを聞いたとき、どう感じましたか。(○はひとつ)

1. 反発・疑問を感じた
2. そのとおりと思った
3. そういう考え方もあるのかと思った
4. 特に何も思わなかった

問11-3で、「1 反発・疑問を感じた」と回答された方にお聞きします。

問11-4 反発・疑問を感じて、どうされましたか。(○はいくつでも)

1. 相手にその気持ちや伝えたいことを伝えた
2. 家族・親類に相談した
3. 友人・知人に相談した
4. 市町村や県など行政の窓口で相談した
5. その他(具体的に：)
6. 特に何もしなかった

7

問 12 あなたは、この5年間くらいの間に、SNSやブログ等を含むインターネット上で、次のような内容を見たことがありますか。(〇はいくつでも)

1. 同和地区や同和地区出身者に対する偏見や差別を広げる書き込み
2. 同和地区出身者の名前や住所等を明らかにするような書き込み
3. 同和地区の地名や所在地の書き込み
4. 同和地区を撮影した動画や写真
5. 見たことがない

9 ページ 問13 へお進みください

問12で、「1」～「4」に〇をされた方にお聞きます。

問12-1 それ(それら)を見たきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)

1. 学校で同和問題(部落差別)について習ったので、同和問題(部落差別)について調べていた
2. 同和問題(部落差別)について理解を深めようと、同和問題(部落差別)について調べていた
3. 同和地区がどこにあるのか、調べていた
4. 同和地区がどんなところか知りたくて、調べていた
5. ある人物について、その人が同和地区出身者かどうか、調べていた
6. 知り合い等から、その投稿を見るように勧められた
7. 同和問題(部落差別)と関係のないSNSやWEBサイトを閲覧しているうちに、たどり着いた
8. その他 (具体的に：)

問12-2 それ(それら)を見てどう思いましたか。(〇はいくつでも)

1. 人権の観点から、問題があると思った (人権侵害にあたると思った)
2. 同和問題には、関わりたくないと思った
3. ほしい情報が得られた
4. 興味がわいて、他の書き込みなども見てもいいと思った
5. その他 (具体的に：)
6. 何も思わなかった

問 13 あなたは、この5年間くらいの間に、同和問題(部落差別)に関する教育や啓発の情報に接したことがありますか。(〇はいくつ)

1. ある
2. ない

問13で、「1 ある」と回答された方にお聞きます。

問13-1 それはどのような場面でしたか。(〇はいくつでも)

1. インターネットで (SNS やブログ等を含む)
2. 学校の授業で
3. 職場の研修で
4. 講演会や研修会で
5. 県の広報誌で
6. 市町村の広報誌で
7. ポスターやリーフレットで
8. テレビ、ラジオ、新聞、書籍等で
9. その他 (具体的に：)

10 ページ 問14 へお進みください

問13-1で、「1 インターネットで(SNSやブログ等を含む)」に〇をされた方にお聞きます。

問13-2 それはどのようなものでしたか。見たことがあるものを選んでください。(〇はいくつでも)

1. 和歌山県ホームページ
2. (公財) 和歌山県人権啓発センターホームページ
3. その他 (具体的に：)

10 ページ 問13-3 へお進みください

10 ページ 問14 へお進みください

問13-2 で、「1 和歌山県ホームページ」2 (公財)和歌山県人権啓発センターホームページ」と回答された方にお聞きします。

問13-3 それを見てどう思いましたか。(○はいくつでも)

1. ほしい情報が得られた
2. 同和問題 (部落差別) への関心が高まった
3. 同和問題 (部落差別) について理解することができた
4. ほしい情報が得られなかった
5. 同和問題 (部落差別) についてあまり理解できなかった
6. その他 (具体的に:)
7. 何も思わなかった

問 14 あなたは、小学校から高校のあいだに同和問題 (部落差別) に関する教育を受けたことがありますか。(○はひとつ)

1. 受けたことがある
2. 受けたことがない
3. よくおぼえていない

問14 で、「1 受けたことがある」と回答された方にお聞きします。
問14-1 同和問題 (部落差別) に関する教育を受けて、理解できましたか。

1. よく理解できた
2. 少し理解できた
3. あまり理解できなかった
4. 理解できなかった
5. その他 (具体的に:)

10

問 15 あなたは、これまでに同和問題 (部落差別) に関する講演会や研修会に参加したり、職場で研修を受けたことがありますか。(○はいくつでも)

1. 講演会や研修会に参加したことがある
2. 職場で研修を受けたことがある
3. 上記のどちらもない

問15 で、「1 講演会や研修会に参加したことがある」2 職場で研修を受けたことがある」と回答された方にお聞きします。

問15-1 同和問題 (部落差別) に関する講演会や研修会に参加したり、職場で研修を受けたらして、理解できましたか。(○はひとつ)

1. よく理解できた
2. 少し理解できた
3. あまり理解できなかった
4. 理解できなかった
5. その他 (具体的に:)

11

ここまでおたずねした結果を統計的に分析するため、最後にあなた自身のことについておたずねします。

1 あなたの性別を教えてください。

1. 男 性
2. 女 性
3. その他

※この調査では、性別による意識や行動の違いを把握したいため、性別をおたずねしています。「どちらでもない」「わからない」という方々を「その他」と表記していることについて、ご理解願います。

2 あなたの年齢を教えてください。

1. 18歳～19歳
2. 20歳～29歳
3. 30歳～39歳
4. 40歳～49歳
5. 50歳～59歳
6. 60歳～69歳
7. 70歳以上

3 あなたの職業を教えてください。
(主なものだけに○)

1. 自営業者(家族従業者含む)
2. 公務員
3. 会社員・団体職員
4. 会社や団体の役員・管理職
5. 学 生
6. 家事に従事
7. 無 職
8. その他 [具体的に:]

12

4 あなたがお住まいの市町村が含まれている地域の番号に○をつけてください。

1. 和歌山市
2. 海南市・海草郡
3. 紀の川市・岩出市
4. 橋本市・伊都郡
5. 有田市・有田郡
6. 御坊市・日高郡
7. 田辺市・西牟婁郡
8. 新宮市・東牟婁郡

5 あなたのインターネット(SNSやブログ等を含む)の利用頻度について教えてください。

1. 毎日利用
2. 2～3日に1回は利用
3. 週に1回は利用
4. あまり利用しない
5. 利用しない

6 あなたは、日ごろ、ニュースなどの情報を何から入手することが多いですか。
(○はひとつ)

1. 新聞、テレビ、ラジオ
2. インターネット上のニュースサイト等
3. その他 [具体的に:]

13

和歌山県同和問題（部落差別）に関する県民意識調査
報 告 書

令和5年3月

発 行 和歌山県企画部人権局人権政策課
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
電話(073)441-2560 FAX (073)433-4540